平成28年度

学生便覧 神田外語大学

■英 米 語 学 科
■アジア言語学科
■イベロアメリカ言語学科
■国際コミュニケーション学科

注意事項

◆掲示板の確認について

学生に対する通知・連絡は、特別な場合を除いてすべて掲示によって行います。確認しないでいると不都合が生じることがありますので、必ずKUIS Campus Webや学内の各種掲示板を見る習慣をつけてください。掲示した事柄は、周知されたものとして扱われるので注意してください。

◆提出期限の厳守について

履修登録表等の提出期限、取り扱い時間は厳守してください。

◆電話による問い合わせについて

履修、休講、試験、学年暦等に関する事柄は、掲示板か関係窓口で直接確認してください。電話による問い合わせは、間違いの原因となるため一切応じられません。

◆呼び出し

大学では原則として、掲示により学生に連絡を取ることになっています。授業等に支障をきたすことから、直接電話口への取次ぎや放送連絡には応じられませんので、あらかじめよく了解し、家族や知人などに周知しておいてください。

◆事務の取り扱い時間・開室時間

窓口の受付時間などは次の通りです。受付時間外の申し出には一切応じられませんので注意してください。
※に関しては試験期間中､長期休業期間中などは､開室時間が変更になることがあります。

	総務部 （学費・施設に関する事等） １号館２階	教務部（教務課、国際交流課、学生課） （授業、留学、奨学金などに関する事） １号館１階	キャリア教育センター （就職・進路に関する事） ミレニアムハウス２階
平日	8：30～17：15	9：00～11：10 12：10～17：15	9：00～17：15
土曜	8：30～11：30	9：00～11：30	9：00～11：30

	図書館※ （図書館の利用に関する事） ７号館１階	メディアプラザ※ （メディア利用に関する事） SACLA１階	SALC※ （英語と自立学習に関すること） SACLA２階	MULC※ （MULCの利用に関する事） ７号館２階
平日	9：00～19：50	8：45～19：00	8：45～19：00	9：00～19：00
土曜	9：00～17：00	9：00～17：00	9：00～17：00	

	メディカルセンター （健康に関する事、心や身体の悩み相談） ミレニアムハウス１階	体育・スポーツセンター （スポーツに関する事） 体育館
平日	9：00～11：10 12：10～17：15	9：00～17：15 授業期間以外は17：00まで
土曜	9：00～11：30 午後緊急時のみ17：15まで対応	取り扱いなし

目　　次

Ⅰ　学籍について …… 1
1．修業年限と在学年限
2．休　学
3．復　学
4．退　学
5．除　籍
6．留　学
7．転籍（転科・転専攻）
8．再入学
Ⅱ　授業について …… 3
1．授業期間
2．授業時間
3．休　講
4．補　講
5．出席基準について
6．遅刻／早退の取り扱い
7．欠席の取り扱い
Ⅲ　卒業の要件 …… 7
1．外国語学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）
2．卒業要件
3．学　位
4．卒業発表
5．９月卒業
6．国際コミュニケーション学科国際コミュニケーション専攻留学生の卒業要件
Ⅳ　単位と時間数 ……11
Ⅴ　履修登録単位数の上限・「卒業見込証明書」の発行 ……12
1．各学年における履修登録単位数の上限について
2．「卒業見込証明書」の発行について
Ⅵ　授業科目について
【学科・専攻別カリキュラム表】 ……13
1．外国語学部のカリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針） ……25
2．履修上の注意 ……25
3．科目ナンバリングについて ……26
4．授業科目の紹介 ……26
⑴　外国語科目 ……26
⑵　選択外国語科目 ……28
⑶　特別演習科目（国際コミュニケーション学科のみ） ……31
⑷　基礎科目 ……32
⑸　研究科目 ……34

(6) 研究演習 ……42
(7) 卒業研究（国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻を除く） ……42
(8) 教職科目 ……42
(9) 自由選択科目 ……43
Ⅶ 試験及び学力評価について ……49
1．試　験
2．学力の評価
3．GPA
4．成績確認制度
5．２年次、３年次への進級再試験（アジア言語学科・イベロアメリカ言語学科）
6．卒業再試験
7．教職科目再試験
8．選択外国語科目再試験
Ⅷ 研究プログラム履修要項 ……55
A 研究プログラム制の概要 ……56
B 各研究プログラムの概要 ……58
1 言語研究プログラム ……58
2 コミュニケーション研究プログラム ……60
3 「人間と文化」研究プログラム ……62
4 日本研究プログラム ……64
5 国際関係研究プログラム ……66
6 国際ビジネス研究プログラム ……68
7 国際協力研究プログラム ……70
8 現代社会研究プログラム ……72
9 アメリカ研究プログラム ……74
10 中国研究プログラム ……76
11 イベロアメリカ研究プログラム ……78
12 韓国研究プログラム ……81
13 東南アジア研究プログラム ……83
Ⅸ 他大学及び他機関で修得した単位の認定等について ……85
1．単位の認定
2．必修単位の履修免除制度
3．千葉県内の他大学の授業科目の認定について
4．入学前修得単位の認定について
Ⅹ 海外留学について ……86
1．認定留学制度について
2．海外短期研修について
3．国外留学に関する情報について
Ⅺ 国内留学について ……88
Ⅻ 転籍（転科・転専攻）について ……89
ⅩⅢ 学内ネットワーク、コンピュータの利用について ……92
1．学内IT設備について

2．学内システムの利用
3．大学ネットワーク利用にあたっての注意点
4．その他
XIV　教職課程履修要項 ……97
XV　小学校教諭免許取得支援課程履修要項 ……118
XVI　日本語教員養成課程履修要項 ……119
XVII　児童英語教員養成課程履修要項 ……122
XVIII　英米語学科通訳・翻訳課程履修要項 ……123
XIX　Certificate Program in Japan Studies履修要項 ……124
XX　大学院言語科学研究科の概要 ……125
XXI　学生生活案内 ……127

白紙

Ⅰ　学籍について

1．修業年限と在学年限

1）修業年限

4年間

本学の教育課程を修了するために必要な期間です。

ただし、3年次編入生の場合は2年間、2年次編入生の場合は3年間です。

2）在学年限

8年間

本学において学生の身分を有している期間で、休学・停学の期間を除きます。

ただし、1年次及び2年次の在学はそれぞれ2年を越えることができません。また、3年次編入生の場合は4年間、2年次編入生の場合は6年間在学することができます。

2．休　学

病気その他やむを得ない理由で1学期間（半年）以上に渡り修学することができない者は休学することができます。

1）休学期間

① 1学期間（半年）あるいは全学期間（1年）

② 特別な理由がある場合は、改めて許可を得た上でさらに2年を限度として延長可

③ 通算して3年を超えることはできない

2）学費一部免除

① 対象：学年の1学期間あるいは全学期間を通じて休学する者

② 免除額：授業料及び施設設備費

但し、1学期間につき、5万円の在籍料、及び学友会費を納入

（全学期間休学の場合、10万円の在籍料と学友会費5千円・同窓会費1万円を納入）

③ 手続き締切：前期は3月末日、後期は8月末日（これを過ぎると免除は認められない）

3）必要なもの

① 休学願

② 誓約書

③ （病気の場合）診断書

④ （休学をして留学する場合）海外渡航計画表

⑤ その他

4）休学願提出期限

速やかに提出のこと（学生課）

前期は3月末日、後期は8月末日（これを過ぎると学費減免は認められない）

3．復　学

休学していた者で復学する者は、復学の手続きが必要です。

1）必要なもの

① 復学願

② 復学年度の学費の納入（分納もしくは全納）

③ （休学理由が病気の場合）診断書

2）復学願提出期限

復学の１ヶ月前（学生課）

4．退　学

病気その他やむを得ない理由によって退学を希望する場合は、保証人と十分相談のうえ、申し出てください。

1）必要なもの

① 退学願

保証人連署・捺印

② 学生証

③ 副学生証

2）退学願提出期限

速やかに提出のこと（学生課）

5．除　籍

次のいずれかに該当する者は、除籍される場合があります。

① 在学年限を越える者

② 休学期間を越えても、なお復学もしくは退学しない者

③ 学費納入の義務を怠った者

※除籍された場合、本学での在籍の証明が一切できません。（在籍期間証明書・成績証明書等の発行はできません）

※学則第３条の定めにより、留年は１年次、２年次についてはそれぞれ１回限りとします。２回目の留年をすると除籍となるので、注意してください。

6．留　学

本学留学制度を利用し「在学」扱いで留学する場合、その留学期間を修業年限および在学年限に算入します。（国際交流課）

（X「海外留学について」、XI「国内留学について」、およびKUIS Campus Web国際交流情報を参照のこと。

7．転籍（転科・転専攻）

転籍（転科・転専攻）を希望する者は、所定の期日までに手続きをしてください。（教務課）

（XII「転籍（転科・転専攻）について」を参照のこと）

8．再入学

1）対象者

本学を退学した者で、退学年度を含めて３学年度以内の者（出願時）

2）再入学先

退学時に在籍していた学科

3）入学年次

原則として退学時の年次としますが、既修得単位が進級基準を充たしている場合は、進級年次に再入学できることもあります。

Ⅱ　授業について

1．授業期間

本学での授業は、原則として前期15週、後期15週の２学期制をとっています。

2．授業時間

本学における授業時間は次の通りです。

１限目	9 ：00～10：30
２限目	10：40～12：10
昼休み　60分	
３限目	13：10～14：40
４限目	14：50～16：20
５限目	16：30～18：00

3．休　講

１）授業が教員の都合や大学の行事などにより休講になる場合

教務課掲示板・KUIS Campus Webに掲示します。

２）全学休講になる場合

次のいずれかに該当する場合、授業を全学休講とします。

A．交通機関が運休した場合

B．暴風警報または暴風雪警報が発令された場合

C．自然災害や大規模な事故の発生などで学長が必要と判断した場合

A．交通機関が運休した場合

判断基準とする路線及び区間（遅延・間引き運転を除く）

・JR総武線（秋葉原～千葉）

・JR京葉線（東京～蘇我）

上記の両路線が運休した場合は休講とします。ただし、いずれかの路線が運行している場合は、その限りではありません。

また、両路線のうち、１路線でも運行を開始した場合は、次の通りとします。

・午前６時00分までに運行開始の場合は、１限から平常通り

・午前10時00分までに運行開始の場合は、３限から平常通り

・午前10時00分を過ぎても不通の場合は、全時限休講とします。

B．暴風警報または暴風雪警報が発令された場合

千葉県全域もしくは千葉県**北西部**に出された場合は、休講とします。なお、対象となる警報は上記の２つに限り、大雨警報等は含まないので注意して下さい。ただし、警報が解除された場合の授業の取り扱いは、次の通りとします。

・午前６時00分までに解除の場合１限から平常通り

・午前10時00分までに解除の場合は、３限から平常通り

・午前10時00分を過ぎても解除されなかった場合は、全時限休講とします。

上記AまたはBの場合、大学の電話回線は緊急対応専用としますので、学生諸君は大学へ電話で問い合わせはせず、以下の本学ホームページで確認してください。
http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/

C．自然災害や大規模な事故の発生などで学長が必要と判断した場合

上記AまたはBに該当しない場合でも、大規模な自然災害や事故等が発生した場合、これらの取り決めに関わらず、学長が休講を必要と判断した場合には、休講措置をとることがあります。

【注意】

・授業最終週に上記の措置が講じられた場合は、定期試験の取り扱いについては別途掲示等で連絡します。
・上記交通機関または地域以外で不通・暴風警報等の影響を受けた学生は、科目担当教員に、遅延証明等を提示した上で、その旨を申し出て下さい。

4．補　講

授業が休講になった場合、補講を行う場合があります。掲示等で連絡するので注意してください。

5．出席基準について

2015年度より、成績評価の前提となる出席の回数について、参照基準が明示されました。

神田外語大学が開講するすべての科目について、授業回数の３分の１以上の欠席で、「不合格」とします（例：週１コマの授業＝５回欠席で不合格、週２コマの授業＝10回欠席で不合格）。ただし、理由のある欠席と認められた者については、例外的に授業回数の５分の２以下の欠席であれば、単位の認定対象となる場合があります。

なお、各教員または、各学科の運営方針が上記と異なる基準を設け、遅刻・欠席回数の成績への反映について規定し学生に伝える場合は、それに従うこととします。

※この参照基準は３分の１に達するまで欠席して良いということではありません。

6．遅刻／早退の取り扱い

授業開始後／終了前20分以内に出席／退席した場合は、遅刻／早退として取り扱います。

なお、遅刻／早退３回で欠席１回とカウントします。

7．欠席の取り扱い

授業においては毎回の出席が要求されますが、授業を欠席する（した）場合は、すみやかに授業時に直接担当教員に欠席理由等を連絡してください。ただし欠席の理由によっては「公欠」、「理由のある欠席」として取り扱われることがあります。

公欠：次の場合に限って、所定の手続きを経ることで欠席回数から除外します。

⑴　学校感染症による出席停止
⑵　裁判員制度による欠席

学校感染症の種類と出席停止の基準（学校保健安全法施行規則第18条、第19条による）

<table>
<tr><th>種別</th><th colspan="2">疾　　患　　名</th><th>出席停止の基準</th></tr>
<tr><td rowspan="2">第１種</td><td colspan="2">エボラ出血熱
クリミア・コンゴ出血熱
痘そう
南米出血熱
ペスト
マールブルグ病
ラッサ熱
急性灰白髄炎（ポリオ）
ジフテリア
重症急性呼吸器症候群（ＳＡＲＳコロナウイルス）
鳥インフルエンザ（Ｈ５Ｎ１）</td><td rowspan="2">治癒するまで</td></tr>
<tr><td colspan="2">新型インフルエンザ等感染症
指定感染症
新感染症</td></tr>
<tr><td rowspan="10">第２種</td><td colspan="2">インフルエンザ
（鳥インフルエンザ（Ｈ５Ｎ１）除く）</td><td>発症後５日を経過し、かつ、解熱後２日を経過するまで</td></tr>
<tr><td colspan="2">百日咳</td><td>特有の咳が消失するまで又は５日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで</td></tr>
<tr><td colspan="2">麻疹（はしか）</td><td>解熱後３日を経過するまで</td></tr>
<tr><td colspan="2">流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）</td><td>耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹発現後５日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで</td></tr>
<tr><td colspan="2">風疹</td><td>発しんが消失するまで</td></tr>
<tr><td colspan="2">水痘（水ぼうそう）</td><td>すべての発しんが痂皮化するまで</td></tr>
<tr><td colspan="2">咽頭結膜熱（プール熱）</td><td>主要症状消退後２日を経過するまで</td></tr>
<tr><td colspan="2">結核</td><td>医師が感染のおそれがないと認めるまで</td></tr>
<tr><td colspan="2">髄膜炎菌性髄膜炎</td><td>医師が感染のおそれがないと認めるまで</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第３種</td><td colspan="2">コレラ
細菌性赤痢
腸管出血性大腸菌感染症
腸チフス
パラチフス
流行性角結膜炎
急性出血性結膜炎</td><td rowspan="2">医師が感染のおそれがないと認めるまで</td></tr>
<tr><td>【その他の感染症】
・溶連菌感染症
・ウイルス性肝炎
・マイコプラズマ感染症
・流行性嘔吐下痢症（感染性胃腸炎）
　など</td><td>条件によっては出席停止となる</td></tr>
</table>

1）「公欠」 学校感染症に罹患した場合

医療機関で、学校感染症と診断された場合は、その時点で**「出席停止」**となります。診断後速やかにメディカルセンターへ電話連絡し、治療に専念してください。（学校感染症の種類は、前ページの表を参照）

登校の際には、医師が記載した**「登校許可書」**をメディカルセンターへ提出してください。以上の手続きを行った場合に限り、欠席扱いとはなりません。

※　**KUIS登校許可書**は、以下よりダウンロードできます。

KUIS Campus Web→キャビネット→各部署情報→メディカルセンター→KUIS登校許可書

KUIS HP→施設案内→５号館（ミレニアムハウス）→メディカルセンター→KUIS登校許可書

2）「公欠」 裁判員制度による欠席

必要となる証明書	出頭命令書
証明書の発行者	裁判所
証明書の教員への提出時期	裁判員候補者として選任手続きの期日に出頭した場合：選任手続き期日後１週間以内 裁判員、補充裁判員として職務に従事した場合：公判終了後１週間以内

理由のある欠席：以下の場合に限って、証明書等（注１）を各授業の担当教員に提出し、教員が認めた場合には、理由のある欠席として認められます。

⑴　学校感染症以外の病気や怪我（自宅療養は含まない）
⑵　忌引き（三親等以内の通夜と葬儀。法事は含まない）
⑶　災害（台風・火災・水害・地震）
⑷　交通機関の遅延
⑸　交通事故
⑹　体育スポーツセンターが認定する公式戦への出場
⑺　教育実習（注２）、介護等体験実習

※就職活動による欠席は理由のある欠席とはならないので注意すること。

注１）証明書類についてはp.49期末試験の追試験に関する証明書を参照してください。
注２）科目の性質により理由のある欠席とならない場合があります。

Ⅲ　卒 業 の 要 件

1．外国語学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

神田外語大学では、高度の外国語運用能力と広い一般知識及び深い専門知識を身につけさせると共に、我が国の伝統文化を究明し、諸外国の文化を理解し、国際社会の一員として世界に貢献し得る人材の育成を大学全体の目的としています。

また、各学科においても、前述の目的と関連させた学科教育・研究目的を、以下のとおり設定しています。

上述の目的を達成するために編成された教育課程において、定められた卒業要件単位を修得し、且つ研究プログラムを修了した場合に、卒業を認定し、学位を授与します。

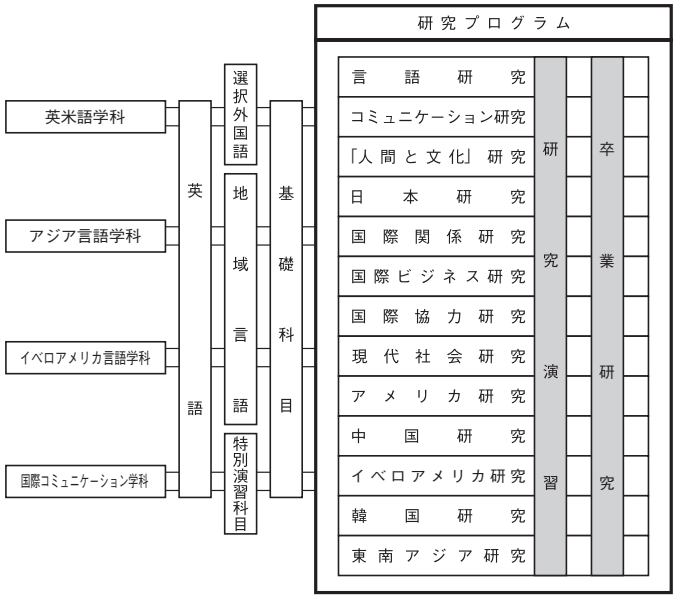
英米語学科	多文化共生が求められる社会情勢のなかで、高度の英語運用能力を身につけさせると共に言語としての英語及び英語圏の様々な事柄に対する知識を教授することにより、豊かな教養を有し国際社会に貢献しうる自立した人材を養成する。
アジア言語学科	多文化共生が求められる社会情勢のなかで、高度の専攻地域言語（中国語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語、タイ語）の運用能力を身につけさせると共に英語運用能力養成にも力を注ぎ、また、言語としての専攻地域言語及び同言語圏の様々な事柄に対する知識を教授することにより、豊かな教養を有し国際社会に貢献しうる自立した人材を養成する。
イベロアメリカ言語学科	多文化共生が求められる社会情勢のなかで、高度の専攻地域言語（スペイン語、ポルトガル語）の運用能力を身につけさせると共に英語運用能力養成にも力を注ぎ、また、言語としての専攻地域言語及び同言語圏の様々な事柄に対する知識を教授することにより、豊かな教養を有し国際社会に貢献しうる自立した人材を養成する。
国際コミュニケーション学科	多文化共生が求められる社会情勢のなかで、高度の英語運用能力を身につけさせると共にIT関連の運用能力養成にも努め、豊かな教養を有し真のコミュニケーション能力を身につけた国際社会に貢献しうる自立した人材を養成する。

2．卒業要件

本学を卒業するためには、４年以上在学し、学科及び各科目群で定めた授業科目・単位数を充たし、かつ自分の所属する研究プログラムを修了しなければなりません。

平成17年度以降入学者の場合、本学での卒業に要する単位数は、124単位です。

卒業するための要件＝１）学科及び各科目群で定めた授業科目・単位数を充たすこと。
２）研究プログラムを修了すること。



1）学科及び各科目群で定めた授業科目・単位数

科目群名＼学科名		英米語	アジア言語		イベロアメリカ言語				国際コミュニケーション	
			中国語・韓国語専攻	インドネシア語・ベトナム語・タイ語専攻	スペイン語専攻		ブラジル・ポルトガル語専攻		国際コミュニケーション専攻	国際ビジネスキャリア専攻
外国語科目										
	英語科目	52	16	26	12	4（＊）	20	8（＊）	40	32
	地域言語科目	—	40	30	36		24		—	—
	選択外国語科目	4	—	—	—		—		—	—
特別演習科目		—	—	—	—		—		12	14
基礎科目		12								
研究科目　合計		48	40							48
内訳	研究科目（うち学科・専攻指定）	(24)	(16)	(10)	32～40 (16)		(10)		(16)	32 (16)
	研究演習	4 or 0								16☆
	卒業研究	4 or 0								—
自由選択科目		8	16	16	20		20		20	18
合計		124								

（＊）英語、スペイン語又はブラジル・ポルトガル語の中から履修。

・研究演習を２つ以上修得すると、２つ目以降の単位は自由選択科目となります。
・卒業研究は必ず研究演習と共に履修します。（卒業研究のみの履修はできません。）

☆国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻の研究演習は、ビジネス研究演習Ⅰ (a) (b)・Ⅱ (a) (b) 12単位、ポートフォリオ研究演習 (a) (b) 4単位を履修します（すべて必修）。

2）研究プログラム修了要件

自分の所属する研究プログラム内の科目（研究科目）を24単位以上修得してください。

⑴　研究演習及び卒業研究を修得した場合は、修得した単位のうち合計８単位までが研究プログラム修了要件単位として加算されます。

研究演習と卒業研究、研究プログラムの加算単位数

	研究科目（他）	自由選択科目	研究プログラム
卒業研究を履修する場合			
卒業研究	4		4
研究演習１個目	4		4
研究演習２個目以降		4	
卒業研究を履修しない場合			
研究演習１個目	4		4
研究演習２個目		4	4
研究演習３個目以降		4	

⑵　国際コミュニケーション学科国際ビジネス専攻の学生は、任意の研究プログラム指定科目の中から16単位を修得してください。（２～４年次の研究演習が必修のため、他学科・他専攻と異なります。）

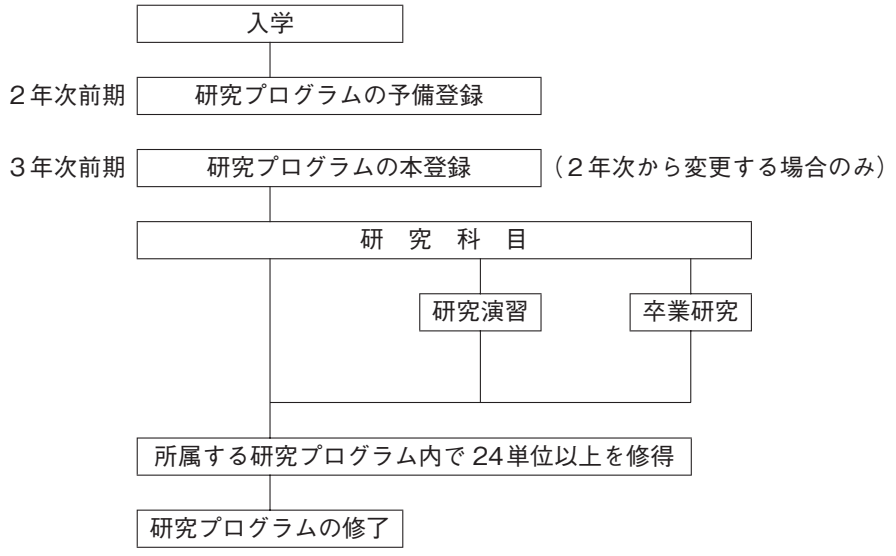
＜研究プログラム登録の流れ＞

⑴　２年次前期の指定期間（＊１）に、研究プログラムの予備登録を行います。各自の興味・関心に合わせて13の研究プログラム（＊２）から必ず１つを登録してください。

＊１　履修登録期間よりも前（例年３月下旬～４月上旬）。日程はCampus Webおよび掲示でお知らせします。

＊２　各研究プログラムの詳細は、Ⅷ　研究プログラム履修要項を参照してください。

⑵　３年次前期の指定期間（上記（＊１）に同じ）に研究プログラムの本登録を行います。予備登録した研究プログラムの変更を希望する場合はこの時にできますが、卒業要件（研究プログラムの修得済単位数）を、よく理解し、慎重に決めてください。



3．学　位

4年以上在学し、卒業要件を充たした学生は、その学科を卒業したものとして、学位が与えられます。

4．卒業発表

学期末に掲示をもって行います。定められた期間内に必ず本人が確認してください。

5．9月卒業

イ．4年次生として1年以上在学し、卒業要件単位を取得できなかった学生を対象に、9月（前期終了時）卒業制度が適用されます。

ロ．前期終了時点で卒業要件を充たした場合、9月15日付で卒業となります。

ハ．3月卒業希望者は、前期履修登録時に「3月卒業申請書」を提出して手続を行ってください。（手続きを行わない場合は、前期終了時に卒業要件を充たしていれば自動的に9月卒業となります。）

6．国際コミュニケーション学科　国際コミュニケーション専攻留学生の卒業要件

留学生は、外国語科目のカリキュラムとして基本的に留学生用英語科目と日本語科目を履修してください。留学生用英語科目の履修については、入学後に実施されるプレースメントテストの結果に基づき、国際コミュニケーション専攻留学生カリキュラム表のA～Cのいずれかが指定されます。

但し、プレースメントテストの結果、留学生用英語科目を免除され、一般学生と同じ英語科目（EIC：English for International Communication）を履修する場合は、卒業要件も一般学生と同じになります。

Ⅳ　単位と時間数

1．単位制度

単位とは、個々の科目の学修量を示す基準であり、大学での学修はすべて単位制となっています。全ての授業科目には一定の単位が定められており、その科目の履修登録を行い、授業を受け、かつ試験その他の方法により合格と判定された場合、単位が与えられます。

それぞれの授業科目に与えられている単位を一定の基準に従って修得し、修得単位の合計が学則に定められた卒業要件単位数を充たせば卒業の資格が与えられます。

2．単位と時間数

イ．１学年は前期・後期の２半期に分かれています。各学期は原則として15週で１学期、30週で１学年としています。

ロ．１単位は原則として、教室の内外合わせて45時間の学修に対して与えられます（教室内の授業時間＋自学自習の時間）。したがって、１週につき教室内外３時間･15週をもって１単位とします。ただし、本学においては授業時間割の１/２時限（45分）を１時間とみなし、１時限は２時間とみなします。

ハ．単位は科目の性質によって次のように分類されます。

授業科目	学修時間	内訳	
		授業（教室内）	自学自習（教室外）
外国語科目 特別演習科目 基礎科目 研究科目 研究演習	45時間 （毎週３時間15週）	15時間 （毎週１時間15週）	30時間 （毎週２時間15週）
外国語科目 （☆トレーニング科目） 選択外国語科目 体育・スポーツ	45時間 （毎週３時間15週）	30時間 （毎週２時間15週）	15時間 （毎週１時間15週）

※　時間数と単位数の計算について本学の外国語科目の中には講義科目の扱いをうけるものがあります。

☆　トレーニング科目とは語学の訓練や実技を中心に行う科目を言います。

Ⅴ　履修登録単位数の上限・「卒業見込証明書」の発行

1．各学年における履修登録単位数の上限について

（全学科平成24年度〈2012年度〉以降入学者より適用）

１～３年次は前期･後期にそれぞれ履修登録できる単位数を24単位までとします。また、４年次は前期･後期にそれぞれ履修登録できる単位数を30単位までとします。これは少数の授業科目をより深く実質的に学習してもらうことをねらいとするものです。但し、例外等については下記の【履修登録上限単位数に関する注意点】を参照して下さい。

	前期履修登録	後期履修登録
１～３年次	24単位	24単位
４年次以降	30単位	30単位

【履修登録上限単位数に関する注意点】

① 「教職に関する科目（32単位）※」の履修は履修登録上限単位数から除外します。
※学生便覧XIV教職課程履修要項中、「B　教職課程の履修について」⑴教職に関する科目参照

② 夏期集中講義科目の履修登録は、前期登録単位数に数えるものとします。

③ 春期集中講義科目の履修登録は、後期登録単位数に数えるものとします。

④ 通年科目の履修登録は、前期登録単位数と後期登録単位数に２分割して数えるものとします。

⑤ 入学前及び、留学先で修得した科目の認定単位は履修登録上限単位数から除外します。

⑥ 検定試験、海外実地研究、国際ボランティア体験は履修登録上限単位数から除外します。

⑦ 前学期のGPA得点が3.4以上の成績優秀者は、履修登録時に履修登録上限単位数を超えて履修登録できるものとします。
（夏期集中講義科目のGPAは前期分として加算されますが、成績評価が記載されるのは後期成績通知表であるため上限単位数免除の計算外とします。

⑧ 教職課程履修者で考慮すべき事由を有しているものに限り、履修登録上限単位数を超えて履修できる場合があります。但し、事前に教務課に申し出て、教職課程担当教員と面談を行い次の条件を充たしていると認められたものに限ります。
１）履修上限単位数により、４年間での教職課程履修が困難であることが明らかな者。
２）履修上限単位数を超えて登録するに足る学力を有している者。

2．「卒業見込証明書」の発行について

３年次終了までに80単位以上を修得していない者に対しては、「卒業見込証明書」（就職活動等で必要とされる）が発行できないので、十分注意して履修計画を立ててください。

英米語学科		1年次 前期 授業科目	単位	1年次 後期 授業科目	単位	2年次 前期 授業科目	単位	2年次 後期 授業科目	単位	3年次 前期 授業科目	単位	3年次 後期 授業科目	単位	4年次 前期 授業科目	単位	4年次 後期 授業科目	単位	卒業要件単位数	
英語科目	必修	英語総合講座Ⅰ				英語総合講座Ⅱ				英語専門講読 (各2単位) 履修条件:TOEFL C基準(ITP480, iBT54)以上 ＊3、4年の各年次に1科目(2単位)ずつ履修すること ＊4年次前期において4単位(2科目)を履修し終えた学生は、4年次後期においても自由選択科目として追加履修可(上限は設けない) ＊「英語専門講読」は留学時の単位振替対象科目とはならない							4	50単位	52
		Freshman English (a)	4	Freshman English (b)	4	Media English (a)	2	Media English (b)	2										
		Foundational Literacies: Reading & Writing (a)	2	Foundational Literacies: Reading & Writing (b)	2	Academic Literacies: Reading (a)	2	Academic Literacies: Reading (b)	2	英語総合講座Ⅲ (各4単位) 履修条件:TOEFL C基準(ITP480, iBT54)以上 ＊3年次は16単位(4科目)まで履修可 ＊1年次終了までにTOEFL520点以上取得した場合、申請により2年次に4単位(1科目)履修することができる ＊20単位(5科目)すべて履修し終えた学生は、自由選択科目として追加履修可(上限は設けない)							20		
		英語基礎演習 (a)	1	英語基礎演習 (b)	1	Academic Literacies: Writing (a)	2	Academic Literacies: Writing (b)	2										
		2年への進級基準:14単位のうち10単位以上修得																	
		3年への進級基準:26単位のうち22単位以上修得																	
		Accelerated English for Freshmen (a)	4	Accelerated English for Freshmen (b)	4													取得単位は「英語総合講座Ⅲ」20単位の一部として充当される	
		履修条件:入学時プレースメントテストで一定点数を取得すること																	
	選択必修	下表から2単位以上を修得すること (下記参照)																2単位 (*1を1科目以上含む)	
	選択	商業英語Ⅰ															2	履修した場合自由選択科目となる	
		商業英語Ⅱ															2		
選択外国語科目	選択必修	選択外国語Ⅰ(a)/(b)を同じ言語で4単位以上																4単位	4
基礎科目	必修	基礎演習	2															2単位	12
	選択	うち講義系科目から少なくとも4科目8単位以上																10単位	
研究科目	学科指定 必修	英語学概論 ＊早い学年での履修を推奨する															4	4単位 (学科指定計 24単位)	48
	学科指定 選択必修	下表から4単位を修得すること (下記参照)																4単位	
	学科指定 選択	選択科目 ※うち12単位は英語で行われる研究科目(英米語学科指定研究科目一覧で科目名に網かけされているもの)で修得すること																16単位	
	その他の研究科目	研究科目								研究演習(ゼミ)＊4単位を超えて修得した場合は自由選択科目とする							4	24単位	
														卒業研究			4		
自由選択科目		自由選択科目																8単位	8

英語科目 選択必修:下表から2単位以上を修得すること

授業科目	単位	備考
英語能力試験演習(TOEFL)Ⅰ(*1)(*2)	1 単位	履修条件:TOEFL C基準(ITP480, iBT54)未満
英語能力試験演習(TOEFL)Ⅱ(*1)	1 単位	履修条件:TOEFL C基準(ITP480, iBT54)以上B基準(ITP520, iBT68)未満
英語能力試験演習(TOEFL)Ⅲ(*1)(*3)	1 単位	履修条件:TOEFL B基準(ITP520, iBT68)以上A基準(ITP550, iBT79)未満
英語能力試験演習(TOEFL)iBT (*1)	2 単位	履修条件:TOEFL ITP520以上
時事英語Ⅰ(*4)	2 単位	
時事英語Ⅱ(*4)	2 単位 (*5)	履修条件:時事英語Ⅰまたは C基準以上取得済みであること
Business English Ⅰ	2 単位	
Business English Ⅱ	2 単位	
Effective Language Learning Course1 (*6)	1 単位	
Effective Language Learning Course2 (*7)	1 単位	履修条件:Effective Language Learning Course1もしくは同等のmodule

*1 4科目の中から1科目を選択すること
*2 ITPコースとiBTコース有
*3 TOEFL A基準(ITP550)以上を取得済の場合、申請により単位認定することができる(評価「P」)。卒業要件の残り1単位(以上)は左表の英語能力試験演習(TOEFL)iBT以下の科目で満たすこと
*4 全学科共通開講科目
*5 4単位まで履修可
*6 SALC Language Learning Courseを修得済の学生は履修不可
*7 重複履修可

研究科目 学科指定 選択必修:下表から4単位を修得すること

授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
英国研究入門Ⅰ	2 単位	米国研究入門Ⅰ	2 単位	オセアニア研究入門Ⅰ	2 単位	カナダ研究入門Ⅰ	2 単位
英国研究入門Ⅱ	2 単位	米国研究入門Ⅱ	2 単位	オセアニア研究入門Ⅱ	2 単位	カナダ研究入門Ⅱ	2 単位

合計 124単位

■進級について

進級発表は、学年末に掲示をもって行う。定められた期間内に、必ず本人が確認すること。

V

アジア言語学科 中国語専攻

		1年次 前期 授業科目	単位	1年次 後期 授業科目	単位	2年次 前期 授業科目	単位	2年次 後期 授業科目	単位	3年次 前期 授業科目	単位	3年次 後期 授業科目	単位	4年次 前期 授業科目	単位	4年次 後期 授業科目	単位	卒業要件単位数	
英語科目	必修	Freshman English (a)(CSK)	2	Freshman English (b)(CSK)	2	Sophomore English (a)(CSK)	2	Sophomore English (b)(CSK)	2	Advanced English (a)(CSK)	2	Advanced English (b)(CSK)	2					12単位 ＊履修詳細はP.26を参照	16
	選択必修	下表から4単位を修得すること																4単位	

時事英語Ⅰ(*1)	2 単位	
時事英語Ⅱ(*1)	2 単位	(*2) 履修条件：時事英語ⅠまたはC基準(*3)
英語資格基礎Ⅰ	1 単位	
英語資格基礎Ⅱ	1 単位	
英語能力試験演習(TOEIC)Ⅰ	2 単位	履修条件：TOEIC500-645 または英語資格基礎Ⅰ・Ⅱ履修済みでTOEIC650未満
英語能力試験演習(TOEIC)Ⅱ	2 単位	履修条件：TOEIC650-725
英語能力試験演習(TOEIC)Ⅲ	2 単位	履修条件：TOEIC730-855
Business EnglishⅠ	2 単位	
Business EnglishⅡ	2 単位	
商業英語Ⅰ	2 単位	
商業英語Ⅱ	2 単位	
Effective Language Learning Course1(*4)	1 単位	
Effective Language Learning Course2	1 単位	履修条件：Effective Language Learning Course1もしくは同等のmodule
検定試験（英語）	2～6 単位	(*5)

＊1 全学科共通開講科目
＊2 4単位まで履修可
＊3 基準についてはP.25を参照
＊4 SALC Language Learning Courseを修得済の学生は履修不可
＊5 単位についてはP. を参照

		1年次 前期 授業科目	単位	1年次 後期 授業科目	単位	2年次 前期 授業科目	単位	2年次 後期 授業科目	単位	卒業要件単位数	
地域言語科目	必修	中国語総合Ⅰ(a)	3	中国語総合Ⅰ(b)	3	中国語総合Ⅱ-1(a)	2	中国語総合Ⅱ-1(b)	2	24単位	40
		中国語作文Ⅰ(a)	1	中国語作文Ⅰ(b)	1	中国語総合Ⅱ-2(a)	1	中国語総合Ⅱ-2(b)	1		
		中国語会話Ⅰ(a)	2	中国語会話Ⅰ(b)	2	中国語作文Ⅱ(a)	1	中国語作文Ⅱ(b)	1		
		2年への進級基準：12単位すべて修得				中国語会話Ⅱ(a)	1	中国語会話Ⅱ(b)	1		
						LL中国語(a)	1	LL中国語(b)	1		
		3年への進級基準：24単位すべて修得									
	選択必修	5分野のうち4分野以上を選択すること								16単位	

中国文学講読	時事中国語	中国語翻訳法	中国語討論・スピーチ	中国語表現法
中国文学講読Ⅰ(a)	時事中国語Ⅰ(a)	中国語翻訳法Ⅰ(a)	中国語討論・スピーチⅠ(a)	中国語表現法Ⅰ(a)
中国文学講読Ⅰ(b)	時事中国語Ⅰ(b)	中国語翻訳法Ⅰ(b)	中国語討論・スピーチⅠ(b)	中国語表現法Ⅰ(b)
中国文学講読Ⅱ(a)	時事中国語Ⅱ(a)	中国語翻訳法Ⅱ(a)	中国語討論・スピーチⅡ(a)	中国語表現法Ⅱ(a)
中国文学講読Ⅱ(b)	時事中国語Ⅱ(b)	中国語翻訳法Ⅱ(b)	中国語討論・スピーチⅡ(b)	中国語表現法Ⅱ(b)
各2単位	各2単位	各2単位	各2単位	各2単位

＊ 3年次の選択必修科目は12単位を履修上限とする
＊ 1分野4単位までを選択必修科目の単位とし、それを超える修得単位は自由選択科目の単位とする

基礎科目	必修	基礎演習	2	2単位	12
	選択	うち講義系科目から少なくとも4科目8単位以上		10単位	
研究科目	専攻指定 必修	アジア研究入門 ＊早い学年での履修を推奨する	2	2単位	40
	専攻指定 選択必修	選択必修科目から2単位以上		2単位	
	専攻指定 選択	選択科目		12単位	
	その他の研究科目	研究科目		24単位	

研究演習（ゼミ）＊4単位を超えて修得した場合は自由選択科目とする	4
卒業研究	4

自由選択科目	自由選択科目	16単位	16

合計124単位

■進級について

進級発表は、学年末に掲示をもって行う。定められた期間内に、必ず本人が確認すること。

アジア言語学科 韓国語専攻

		1年次 前期 授業科目	単位	1年次 後期 授業科目	単位	2年次 前期 授業科目	単位	2年次 後期 授業科目	単位	3年次 前期 授業科目	単位	3年次 後期 授業科目	単位	4年次 前期 授業科目	単位	4年次 後期 授業科目	単位	卒業要件単位数	
英語科目	必修	Freshman English (a)(CSK)	2	Freshman English (b)(CSK)	2	Sophomore English (a)(CSK)	2	Sophomore English (b)(CSK)	2	Advanced English (a)(CSK)	2	Advanced English (b)(CSK)	2					12単位 ＊履修詳細はP.26を参照	16
	選択必修	下表から4単位を修得すること																4単位	

時事英語Ⅰ(*1)	2 単位		
時事英語Ⅱ(*1)	2 単位 (*2)	履修条件：時事英語ⅠまたはC基準(*3)	
英語資格基礎Ⅰ	1 単位		
英語資格基礎Ⅱ	1 単位		
英語能力試験演習(TOEIC)Ⅰ	2 単位	履修条件：TOEIC500-645 または英語資格基礎Ⅰ・Ⅱ履修済みでTOEIC650未満	
英語能力試験演習(TOEIC)Ⅱ	2 単位	履修条件：TOEIC650-725	
英語能力試験演習(TOEIC)Ⅲ	2 単位	履修条件：TOEIC730-855	
Business EnglishⅠ	2 単位		
Business EnglishⅡ	2 単位		
商業英語Ⅰ	2 単位		
商業英語Ⅱ	2 単位		
Effective Language Learning Course1 (*4)	1 単位		
Effective Language Learning Course2	1 単位	履修条件：Effective Language Learning Course1もしくは同等のmodule	
検定試験（英語）	2〜6 単位 (*5)		

*1 全学科共通開講科目
*2 4単位まで履修可
*3 基準についてはP.25を参照
*4 SALC Language Learning Courseを修得済の学生は履修不可
*5 単位についてはP.44〜45を参照

地域言語科目	必修	韓国語基礎Ⅰ	6	韓国語基礎Ⅱ	6	韓国語基礎Ⅲ	6	韓国語基礎Ⅳ	6									24単位	40
		2年への進級基準：12単位すべて修得																	
		3年への進級基準：24単位すべて修得																	
	選択必修									韓国語口頭表現Ⅰ	2							16単位	
										韓国語口頭表現Ⅱ	2								
										韓日通訳法	2								
										日韓通訳法	2								
										日韓翻訳法	2								
										韓日翻訳法	2								
										時事韓国語Ⅰ	2								
										時事韓国語Ⅱ	2								
										韓国語講読Ⅰ	2								
										韓国語講読Ⅱ	2								
										韓国語対話文Ⅰ	2								
										韓国語対話文Ⅱ	2								
										韓国語上級会話Ⅰ	2								
										韓国語上級会話Ⅱ	2								
										＊3年次の選択必修科目は12単位を履修上限とする									
基礎科目	必修	基礎演習	2															2単位	12
	選択	うち講義系科目から少なくとも4科目8単位以上																10単位	
研究科目	専攻指定 必修	アジア研究入門 ＊早い学年での履修を推奨する																2単位	40
	専攻指定 選択必修	選択必修科目から2単位以上																2単位	16単位
	専攻指定 選択	選択科目																12単位	
	その他の研究科目	研究科目								研究演習（ゼミ）＊4単位を超えて修得した場合は自由選択科目とする	4							24単位	
														卒業研究	4				
自由選択科目		自由選択科目																16単位	16

■進級について
進級発表は、学年末に掲示をもって行う。定められた期間内に、必ず本人が確認すること。

合計124単位

アジア言語学科 インドネシア語専攻			1年次 前期 授業科目	単位	1年次 後期 授業科目	単位	2年次 前期 授業科目	単位	2年次 後期 授業科目	単位	3年次 前期 授業科目	単位	3年次 後期 授業科目	単位	4年次 前期 授業科目	単位	4年次 後期 授業科目	単位	卒業要件 単位数	
英語科目	必修		Freshman English Ⅰ(ML)	4	Freshman English Ⅱ(ML)	4	Sophomore English Ⅰ(ML)	2	Sophomore English Ⅱ(ML)	2	英語総合講座(ML) 履修条件:Sophomore English Ⅰ,Ⅱ(ML)の4単位およびMedia English Ⅰ,Ⅱ(ML)のうち2単位以上(合計6単位以上修得) ＊英語科目必修科目4単位の他に12単位まで履修可 ＊4単位を超えて修得した場合は、英語科目選択必修科目または自由選択科目となる	4				20単位	26
			＊Freshman Ⅰ,Ⅱのうち未修得科目がある場合は、翌年度に修得すること。年度を空けて修得することは認めない				Media English Ⅰ(ML)	2	Media English Ⅱ(ML)	2										
							履修条件:FreshmanEnglish Ⅰ,Ⅱ(ML)													
	選択必修		下表から6単位を修得すること 英語総合講座(ML) 4～12 単位 (＊1) 履修条件:Sophomore English Ⅰ,Ⅱ(ML)の4単位およびMedia English Ⅰ,Ⅱ(ML)のうち2単位以上(合計6単位以上修得) Effective Language Learning Course1(＊2) 1 単位 Effective Language Learning Course2 1 単位 履修条件:Effective Language Learning Course1もしくは同等のmodule Basic Writing Ⅰ(ML) 1 単位 Basic Writing Ⅱ(ML) 1 単位 Business English Ⅰ(ML) 2 単位 Business English Ⅱ(ML) 2 単位 Language Lab(ML) 1 単位 時事英語Ⅰ(＊3) 2 単位 時事英語Ⅱ(＊3) 2 単位 (＊4) 履修条件:時事英語ⅠまたはC基準(＊5) Oral Communication 1 単位 Communicative Grammar 1 単位 ＊1 英語総合講座(ML)は自由選択科目として12単位まで履修可 ＊2 SALC Language Learning Courseを修得済の学生は履修不可 ＊3 全学科共通開講科目 ＊4 4単位まで履修可 ＊5 基準についてはP.25を参照																	6単位	
地域言語科目	必修		インドネシア語 基礎Ⅰ(a)(b)(c)(d)(e)	5 (各1)	インドネシア語 基礎Ⅱ(a)(b)(c)(d)(e)	5 (各1)	インドネシア語 基礎Ⅲ(a)(b)(c)(d)	4 (各1)	インドネシア語 基礎Ⅳ(a)(b)(c)(d)	4 (各1)	インドネシア語 応用Ⅰ	2	インドネシア語 応用Ⅱ	2					30単位	30
			2年への進級基準:10単位のうち8単位修得																	
			3年への進級基準:インドネシア語基礎Ⅰ,Ⅱ(10単位)およびインドネシア語基礎Ⅲ,Ⅳのうち6単位修得(合計16単位)								インドネシア語総合 ＊3年・4年の各年次に4単位を超えて修得した場合は、自由選択科目とする	8							
基礎科目	必修		基礎演習	2															2単位	12
	選択		うち講義系科目から少なくとも4科目8単位以上																10単位	
研究科目	専攻指定	必修	アジア研究入門 ＊早い学年での履修を推奨する	2															4単位	40
			インドネシア研究入門 ＊早い学年での履修を推奨する	2																
		選択必修					インドネシアの民族・地理	2											6単位	
							インドネシアの歴史	2												
							インドネシアの文化・芸術	2												
							インドネシアの宗教・社会	2												
							インドネシアの政治・経済Ⅰ	2												
							インドネシアの政治・経済Ⅱ	2												
	その他の研究科目		研究科目								研究演習(ゼミ)＊4単位を超えて修得した場合は自由選択科目とする	4							30単位	
															卒業研究	4				
自由選択科目			自由選択科目																16単位	16

■留年した場合の英語科目の履修について

1年次で留年した学生:英語科目の履修条件を充たした場合、
翌年度にSophmore English Ⅰ, Ⅱ(ML)およびMedia English Ⅰ, Ⅱ(ML)を履修すること。

2年次で留年した学生:1年次、2年次の英語科目の履修条件を充たした場合、
翌年度に英語総合講座(ML)を履修することができる。

■進級について

進級発表は、学年末に掲示をもって行う。定められた期間内に、必ず本人が確認すること。

合計124単位

アジア言語学科 ベトナム語専攻

		1年次 前期 授業科目	単位	1年次 後期 授業科目	単位	2年次 前期 授業科目	単位	2年次 後期 授業科目	単位	3年次 前期 授業科目	単位	3年次 後期 授業科目	単位	4年次 前期 授業科目	単位	4年次 後期 授業科目	単位	卒業要件単位数	
英語科目	必修	Freshman English Ⅰ(ML)	4	Freshman English Ⅱ(ML)	4	Sophomore English Ⅰ(ML)	2	Sophomore English Ⅱ(ML)	2	英語総合講座(ML) 履修条件:Sophomore English Ⅰ,Ⅱ(ML)の4単位およびMedia English Ⅰ,Ⅱ(ML)のうち2単位以上(合計6単位以上修得) ＊英語科目必修科目4単位の他に12単位まで履修可 ＊4単位を超えて修得した場合は、英語科目選択必修科目または自由選択科目となる							4	20単位	26
		*Freshman EnglishⅠ,Ⅱのうち未修得科目がある場合は、翌年度に修得すること。年度を空けて修得することは認めない				Media English Ⅰ(ML)	2	Media English Ⅱ(ML)	2										
						履修条件:FreshmanEnglish Ⅰ,Ⅱ(ML)													
	選択必修	下表から6単位を修得すること 英語総合講座(ML) 4～12 単位 (*1) 履修条件:Sophomore English Ⅰ,Ⅱ(ML)の4単位および Media English Ⅰ,Ⅱ(ML)のうち2単位以上(合計6単位以上修得) Effective Language Learning Course1(*2) 1 単位 Effective Language Learning Course2 1 単位 履修条件:Effective Language Learning Course1もしくは同等のmodule Basic Writing Ⅰ(ML) 1 単位 Basic Writing Ⅱ(ML) 1 単位 Business English Ⅰ(ML) 2 単位 Business English Ⅱ(ML) 2 単位 Language Lab(ML) 1 単位 時事英語Ⅰ(*3) 2 単位 時事英語Ⅱ(*3) 2 単位 (*4) 履修条件:時事英語ⅠまたはC基準(*5) Oral Communication 1 単位 Communicative Grammar 1 単位 *1 英語総合講座(ML)は自由選択科目として12単位まで履修可 *2 SALC Language Learning Courseを修得済の学生は履修不可 *3 全学科共通開講科目 *4 4単位まで履修可 *5 基準についてはP.25を参照																6単位	
地域言語科目	必修	ベトナム語 基礎Ⅰ(a)(b)(c)(d)(e)	5 (各1)	ベトナム語 基礎Ⅱ(a)(b)(c)(d)(e)	5 (各1)	ベトナム語 基礎Ⅲ(a)(b)(c)(d)	4 (各1)	ベトナム語 基礎Ⅳ(a)(b)(c)(d)	4 (各1)	ベトナム語 応用Ⅰ	2	ベトナム語 応用Ⅱ	2					30単位	30
		2年への進級基準:10単位のうち8単位修得																	
		3年への進級基準:ベトナム語基礎Ⅰ,Ⅱ(10単位)およびベトナム語基礎Ⅲ,Ⅳのうち6単位修得(合計16単位)								ベトナム語総合(各2単位) *3年・4年各年次に4単位を超えて修得した場合は、自由選択科目とする							8		
基礎科目	必修	基礎演習	2															2単位	12
	選択	うち講義系科目から少なくとも4科目8単位以上																10単位	
研究科目	専攻指定 必修	アジア研究入門 *早い学年での履修を推奨する															2	4単位	40
		ベトナム研究入門 *早い学年での履修を推奨する															2		
	専攻指定 選択必修					ベトナムの民族・地理											2	6単位	
						ベトナムの歴史											2		
						ベトナムの文化・芸術											2		
						ベトナムの宗教・社会											2		
						ベトナムの政治・経済Ⅰ											2		
						ベトナムの政治・経済Ⅱ											2		
	専攻指定 選択必修																	10単位	
	その他の研究科目	研究科目								研究演習(ゼミ)*4単位を超えて修得した場合は自由選択科目とする							4	30単位	
														卒業研究			4		
自由選択科目		自由選択科目																16単位	16

合計124単位

■留年した場合の英語科目の履修について

1年次で留年した学生:英語科目の履修条件を充たした場合、
翌年度にSophmore English Ⅰ, Ⅱ(ML)およびMedia English Ⅰ, Ⅱ(ML)を履修すること。

2年次で留年した学生:1年次、2年次の英語科目の履修条件を充たした場合、
翌年度に英語総合講座(ML)を履修することができる。

■進級について

進級発表は、学年末に掲示をもって行う。定められた期間内に、必ず本人が確認すること。

アジア言語学科 タイ語専攻

		1年次 前期 授業科目	単位	1年次 後期 授業科目	単位	2年次 前期 授業科目	単位	2年次 後期 授業科目	単位	3年次 前期 授業科目	単位	3年次 後期 授業科目	単位	4年次 前期 授業科目	単位	4年次 後期 授業科目	単位	卒業要件単位数	
英語科目	必修	Freshman English Ⅰ(ML)	4	Freshman English Ⅱ(ML)	4	Sophomore English Ⅰ(ML)	2	Sophomore English Ⅱ(ML)	2	英語総合講座(ML) 履修条件:Sophomore English Ⅰ,Ⅱ(ML)の4単位およびMedia English Ⅰ,Ⅱ(ML)のうち2単位以上(合計6単位以上修得) ＊英語科目必修科目4単位の他に12単位まで履修可 ＊4単位を超えて修得した場合は、英語科目選択必修科目または自由選択科目となる							4	20単位	26
		＊Freshman Ⅰ,Ⅱのうち未修得科目がある場合は、翌年度に修得すること。年度を空けて修得することは認めない				Media English Ⅰ(ML)	2	Media English Ⅱ(ML)	2										
						履修条件:FreshmanEnglish Ⅰ,Ⅱ(ML)													
	選択必修	下表から6単位を修得すること																6単位	
地域言語科目	必修	タイ語 基礎Ⅰ(a)(b)(c)(d)(e)	5 (各1)	タイ語 基礎Ⅱ(a)(b)(c)(d)(e)	5 (各1)	タイ語 基礎Ⅲ(a)(b)(c)(d)	4 (各1)	タイ語 基礎Ⅳ(a)(b)(c)(d)	4 (各1)	タイ語 応用Ⅰ	2	タイ語 応用Ⅱ	2					30単位	30
		2年への進級基準:10単位のうち8単位修得								タイ語総合(各2単位) ＊3年・4年各年次に4単位を超えて修得した場合は、自由選択科目とする							8		
		3年への進級基準:タイ語基礎Ⅰ,Ⅱ(10単位)およびタイ語基礎Ⅲ,Ⅳのうち6単位修得(合計16単位)																	
基礎科目	必修	基礎演習	2															2単位	12
	選択	うち講義系科目から少なくとも4科目8単位以上																10単位	
研究科目	専攻指定 必修	アジア研究入門 ＊早い学年での履修を推奨する															2	4単位	40
		タイ研究入門 ＊早い学年での履修を推奨する															2		
	専攻指定 選択必修					タイの民族・地理											2	6単位	10単位
						タイの歴史											2		
						タイの文化・芸術											2		
						タイの宗教・社会											2		
						タイの政治・経済Ⅰ											2		
						タイの政治・経済Ⅱ											2		
	その他の研究科目	研究科目								研究演習(ゼミ)＊4単位を超えて修得した場合は自由選択科目とする							4	30単位	
																卒業研究	4		
自由選択科目		自由選択科目																16単位	16
																		合計124単位	

■留年した場合の英語科目の履修について

1年次で留年した学生:英語科目の履修条件を充たした場合、
翌年度にSophmore English Ⅰ, Ⅱ(ML)およびMedia English Ⅰ, Ⅱ(ML)を履修すること。

2年次で留年した学生:1年次、2年次の英語科目の履修条件を充たした場合、
翌年度に英語総合講座(ML)を履修することができる。

■進級について

進級発表は、学年末に掲示をもって行う。定められた期間内に、必ず本人が確認すること。

＊1 英語総合講座(ML)は自由選択科目として12単位まで履修可
＊2 SALC Language Learning Courseを修得済の学生は履修不可
＊3 全学科共通開講科目
＊4 4単位まで履修可
＊5 基準についてはP.25を参照

イベロアメリカ言語学科 スペイン語専攻		1年次 前期 授業科目	単位	1年次 後期 授業科目	単位	2年次 前期 授業科目	単位	2年次 後期 授業科目	単位	3年次 前期 授業科目	単位	3年次 後期 授業科目	単位	4年次 前期 授業科目	単位	4年次 後期 授業科目	単位	卒業要件単位数	
英語科目	必修	Freshman English (a)(CSK)	2	Freshman English (b)(CSK)	2	Sophomore English (a)(CSK)	2	Sophomore English (b)(CSK)	2	Advanced English (a)(CSK)	2	Advanced English (b)(CSK)	2					12単位 ＊履修詳細はP.26を参照	12
地域言語科目	必修	スペイン語基礎Ⅰ(a)	6	スペイン語基礎Ⅰ(b)	6	スペイン語基礎Ⅱ(a)	6	スペイン語基礎Ⅱ(b)	6									24単位	36
		2年への進級基準：12単位すべて修得																	
		3年への進級基準：24単位すべて修得																	
	選択必修									5分野のうち3分野でそれぞれ4単位以上修得すること スペイン語研究Ⅰ：スペイン語研究Ⅰ-1/Ⅰ-2/Ⅰ-3/Ⅰ-4 各2単位 スペイン語研究Ⅱ：スペイン語研究Ⅱ-1/Ⅱ-2/Ⅱ-3/Ⅱ-4 各2単位 スペイン語研究Ⅲ：スペイン語研究Ⅲ-1/Ⅲ-2/Ⅲ-3/Ⅲ-4 各2単位 スペイン語研究Ⅳ：スペイン語研究Ⅳ-1/Ⅳ-2/Ⅳ-3/Ⅳ-4 各2単位 スペイン語研究Ⅴ：スペイン語研究Ⅴ-1/Ⅴ-2/Ⅴ-3/Ⅴ-4 各2単位 ＊ 3年次のスペイン語選択必修科目は10単位を履修上限とする ＊ 1分野につき4単位までを選択必修科目の単位とし、それを超える修得単位は外国語科目選択必修科目の単位とする							12単位	
外国語科目	選択必修	下表から4単位を修得すること 【標準履修年次1～2】 時事英語Ⅰ(＊1) 2単位 時事英語Ⅱ(＊1) 2単位 (＊2) 履修条件：時事英語ⅠまたはC基準(＊3) 英語資格基礎Ⅰ 1単位 英語資格基礎Ⅱ 1単位 英語能力試験演習(TOEIC)Ⅰ 2単位 履修条件：TOEIC500-645 または英語資格基礎Ⅰ・Ⅱ履修済みでTOEIC650未満 英語能力試験演習(TOEIC)Ⅱ 2単位 履修条件：TOEIC650-725 英語能力試験演習(TOEIC)Ⅲ 2単位 履修条件：TOEIC730-855 Business EnglishⅠ 2単位 Business EnglishⅡ 2単位 商業英語Ⅰ 2単位 商業英語Ⅱ 2単位 Effective Language Learning Course1(＊4) 1単位 Effective Language Learning Course2 1単位 履修条件：Effective Language Learning Course1もしくは同等のmodule 検定試験（英語） 2～6単位 (＊5) 【標準履修年次3～4】 スペイン語研究Ⅰ-1/2/3/4 各2単位 スペイン語研究Ⅱ-1/2/3/4 各2単位 スペイン語研究Ⅲ-1/2/3/4 各2単位 スペイン語研究Ⅳ-1/2/3/4 各2単位 スペイン語研究Ⅴ-1/2/3/4 各2単位 （地域言語科目3分野12単位を超えた分を算入する） ポルトガル語特講(a)(スペイン語専攻) 2単位 ポルトガル語特講(b)(スペイン語専攻) 2単位 履修条件：ポルトガル語特講(a)(スペイン語専攻)を修得済みまたはこれに相当するポルトガル語能力を有すること ポルトガル語総合 2単位 (＊6) 履修条件：ポルトガル語特講(a)(b)(スペイン語専攻)を履修済みであること ＊1 全学科共通開講科目 ＊2 4単位まで履修可 ＊3 基準についてはP.25を参照 ＊4 SALC Language Learning Courseを修得済の学生は履修不可 ＊5 単位についてはP.44～45を参照 ＊6 複数クラス履修可									4単位	4
基礎科目	必修	基礎演習	2															2単位	12
	選択	うち講義系科目から少なくとも4科目8単位以上																10単位	
研究科目	専攻指定 必修	イベロアメリカ研究入門 ＊早い学年での履修を推奨する														2		2単位	40
	専攻指定 選択必修	選択必修科目から2単位以上																2単位	
	専攻指定 選択	選択科目																12単位	
	その他の研究科目	研究科目												研究演習（ゼミ）＊4単位を超えて修得した場合は自由選択科目とする		4		24単位	
														卒業研究		4			
自由選択科目		自由選択科目																20単位	20

■進級について

進級発表は、学年末に掲示をもって行う。定められた期間内に、必ず本人が確認すること。

合計124単位

イベロアメリカ言語学科 ブラジル・ポルトガル語専攻		1年次 前期 授業科目	単位	1年次 後期 授業科目	単位	2年次 前期 授業科目	単位	2年次 後期 授業科目	単位	3年次 前期 授業科目	単位	3年次 後期 授業科目	単位	4年次 前期 授業科目	単位	4年次 後期 授業科目	単位	卒業要件単位数	
英語科目	必修	Freshman English Ⅰ(ML)	4	Freshman English Ⅱ(ML)	4	Sophomore English Ⅰ(ML)	2	Sophomore English Ⅱ(ML)	2	英語総合講座(ML) 履修条件:Sophomore English Ⅰ,Ⅱ(ML)の4単位およびMedia English Ⅰ,Ⅱのうち2単位以上(合計6単位以上修得) ＊英語科目必修科目4単位の他に12単位まで履修可 ＊4単位を超えて修得した場合は、外国語科目選択必修科目または自由選択科目となる	4						20単位	20
		*Freshman Ⅰ,Ⅱのうち未修得科目がある場合は、翌年度に修得すること。年度を空けて修得することは認めない				Media English Ⅰ(ML)	2	Media English Ⅱ(ML)	2										
						履修条件:Freshman English Ⅰ,Ⅱ(ML)													
	選択	Effective Language Learning Course1(*1) 1 単位 Effective Language Learning Course2 1 単位 履修条件:Effective Language Learning Course1もしくは同等のmodule Basic Writing Ⅰ(ML) 1 単位 Basic Writing Ⅱ(ML) 1 単位 Business English Ⅰ(ML) 2 単位 Business English Ⅱ(ML) 2 単位 Language Lab(ML) 1 単位 時事英語Ⅰ(*2) 2 単位 時事英語Ⅱ(*2) 2 単位 (*3) 履修条件:時事英語ⅠまたはC基準(*4) Oral Communication 1 単位 Communicative Grammar 1 単位																	履修した場合自由選択科目となる	
地域言語科目	必修	ポルトガル語基礎会話Ⅰ	2	ポルトガル語基礎会話Ⅱ	2	ポルトガル語基礎会話Ⅲ	2	ポルトガル語基礎会話Ⅳ	2	ポルトガル語応用Ⅰ	2	ポルトガル語応用Ⅱ	2					24単位	24
		ポルトガル語基礎文法Ⅰ	2	ポルトガル語基礎文法Ⅱ	2	ポルトガル語基礎文法Ⅲ	1	ポルトガル語基礎文法Ⅳ	1										
		ポルトガル語基礎講読Ⅰ	1	ポルトガル語基礎講読Ⅱ	1	ポルトガル語基礎講読Ⅲ	1	ポルトガル語基礎講読Ⅳ	1	ポルトガル語総合 ＊地域言語科目必修科目の2単位の他に複数クラス8単位まで履修可 ＊2単位を超えて修得した場合は、外国語科目選択必修科目となる	2								
		2年への進級基準:10単位のうち8単位修得																	
		3年への進級基準:1年次の10単位すべてと2年次の8単位のうち6単位修得(合計16単位)																	
外国語科目	選択必修	下表から8単位を修得すること 英語総合講座(ML) 4～12 単位 履修条件:英語科目必修科目と同じ スペイン語特講(a)(ブラジル・ポルトガル語専攻) 2 単位 スペイン語特講(b)(ブラジル・ポルトガル語専攻) 2 単位 履修条件:スペイン語特講(a)(ブラジル・ポルトガル語専攻)を修得済みまたはこれに相当するスペイン語能力を有すること スペイン語研究Ⅰ-1/2/3/4 各2 単位 スペイン語研究Ⅱ-1/2/3/4 各2 単位 スペイン語研究Ⅲ-1/2/3/4 各2 単位 スペイン語研究Ⅳ-1/2/3/4 各2 単位 スペイン語研究Ⅴ-1/2/3/4 各2 単位 履修条件:スペイン語特講(a)(b)(ブラジル・ポルトガル語専攻)を履修済であること。 ポルトガル語総合 2～8 単位																	8単位	8
基礎科目	必修	基礎演習	2															2単位	12
	選択	うち講義系科目から少なくとも4科目8単位以上																10単位	
研究科目	専攻指定 必修	イベロアメリカ研究入門 ＊早い学年での履修を推奨する															2	4単位	10単位 40
		ブラジル研究入門 ＊早い学年での履修を推奨する															2		
	専攻指定 選択必修	ブラジルの民族・地理															2	6単位	
		ブラジルの歴史															2		
		ブラジルの文化・芸術															2		
		ブラジルの宗教・社会															2		
		ブラジルの政治・経済Ⅰ															2		
		ブラジルの政治・経済Ⅱ															2		
	その他の研究科目	研究科目								研究演習(ゼミ)＊4単位を超えて修得した場合は自由選択科目とする							4	30単位	
														卒業研究			4		
自由選択科目		自由選択科目																20単位	20
																			合計124単位

■留年した場合の英語科目の履修について

1年次で留年した学生:英語科目の履修条件を充たした場合、
翌年度にSophmore English Ⅰ, Ⅱ(ML)およびMedia English Ⅰ, Ⅱ(ML)を履修すること。

2年次で留年した学生:1年次、2年次の英語科目の履修条件を充たした場合、
翌年度に英語総合講座(ML)を履修することができる。

■進級について

進級発表は、学年末に掲示をもって行う。定められた期間内に、必ず本人が確認すること。

*1 SALC Language Learning Courseを修得済の学生は履修不可
*2 全学科共通開講科目
*3 4単位まで履修可
*4 基準についてはP25を参照

IC学科 国際コミュニケーション専攻		1年次 前期 授業科目	単位	1年次 後期 授業科目	単位	2年次 前期 授業科目	単位	2年次 後期 授業科目	単位	3年次 前期 授業科目	単位	3年次 後期 授業科目	単位	4年次 前期 授業科目	単位	4年次 後期 授業科目	単位	卒業要件 単位数	
英語科目	必修	English for International Communication Ⅰ(a)	4	English for International Communication Ⅰ(b)	4	English for International Communication Ⅱ(a)	2	English for International Communication Ⅱ(b)	2	English for International Communication Ⅲ（各4単位）(*1) *3年次は、前期4単位、後期4単位を履修上限とする （ただし前期未修得の場合のみ、8単位履修可） *16単位まで履修可	12							36単位	40
		Reading Ⅰ	2	Reading Ⅱ	2	Media English Ⅰ	2	Media English Ⅱ	2										
		Writing Ⅰ	2	Writing Ⅱ	2														
		2年への進級基準：16単位のうち12単位以上修得																	
		3年への進級基準：24単位のうち20単位以上修得																	
		(*1) 下記科目を履修免除された留学生は1・2年次でも履修可能 1年次生：English for International Communication Ⅰ・Ⅱ、Reading Ⅰ・Ⅱ、Writing Ⅰ・Ⅱ、Media English Ⅰ・Ⅱ 2年次生：C基準(*4)を充たしていること																		
	選択必修	下表から4単位を修得すること 時事英語Ⅰ(*2) 2 単位 時事英語Ⅱ(*2) 2 単位 (*3) 履修条件：時事英語ⅠまたはC基準(*4) Business English Ⅰ 2 単位 Business EnglishⅡ 2 単位 商業英語Ⅰ 2 単位 商業英語Ⅱ 2 単位 Effective Language Learning Course1(*5) 1 単位 Effective Language Learning Course2 1 単位 履修条件：Effective Language Learning Course1もしくは同等のmodule *2 全学科共通開講科目 *3 4単位まで履修可 *4 基準についてはP.25を参照 *5 SALC Language Learning Courseを修得済の学生は履修不可																4単位	
	選択	English for Business Career (EBC) Ⅱ (*6) 2 単位 English for Business Career (EBC) Ⅲ (*6) 2 単位 English for Business Career (EBC) Ⅳ (*6) 2 単位 企業英語Ⅲ-1, -2, -3, -4, -5, -6 (*7) 2 単位 *6 各期2単位まで履修可 （3・4年合計4単位まで） *7 3・4年 内容の異なる2クラス 4単位まで履修可																	履修した場合自由選択科目となる	
特別演習科目	必修	情報基礎Ⅰ	1	情報基礎Ⅱ	1	英語資格特別演習*	2											12単位	12
		情報リテラシー演習Ⅰ	2	情報リテラシー演習Ⅱ	2	*履修対象：1年次TOEICスコアが650点未満の者 *履修免除：TOEIC650点以上の者は履修免除、他の科目で2単位充当すること													
		英語資格基礎Ⅰ	1	英語資格基礎Ⅱ	1														
		国際コミュニケーション入門	2																
基礎科目	必修	基礎演習	2															2単位	12
	選択	うち講義系科目から少なくとも4科目8単位以上																10単位	
研究科目	学科指定 選択	コミュニケーション研究から8単位、国際研究・日本研究から8単位以上																16単位	40
	その他の研究科目	研究科目								研究演習（ゼミ）*4単位を超えて修得した場合は自由選択科目とする	4							24単位	
														卒業研究	4				
自由選択科目		自由選択科目 ＊EIC(English for International Communication)を履修する留学生が、 留学生対象の日本語科目（IC専攻留学生のカリキュラム表を参照）を履修した場合は、自由選択科目となる																20単位	20

■進級について

進級発表は、学年末に掲示をもって行う。定められた期間内に、必ず本人が確認すること。

合計124単位

※EIC(English for International Communication)を履修する留学生は、
IC学科国際コミュニケーション専攻のカリキュラム表(p.21)を参照すること。

IC 専攻留学生					1年次 前期 授業科目	単位	1年次 後期 授業科目	単位	2年次 前期 授業科目	単位	2年次 後期 授業科目	単位	3年次 前期 授業科目	単位	3年次 後期 授業科目	単位	4年次 前期 授業科目	単位	4年次 後期 授業科目	単位	卒業要件 単位数	
外国語科目	留学生用英語科目	英語能力判定試験結果に応じる	A	必修	Guided Independent Study Ⅰ	1	Guided Independent Study Ⅱ	1					Intermediate English Ⅰ A/B	2	Intermediate English Ⅱ A/B	2					22単位	40 (*6)
				選択	Beginners English Ⅰ(☆)	4	Beginners English Ⅱ(☆)	4	Basic English Ⅰ(☆)	4	Basic English Ⅱ(☆)	4										
									Guided Independent Study Ⅲ(*3)	1	Guided Independent Study Ⅳ(*3)	1	Intermediate English Ⅰ C (*1)	2	Intermediate English Ⅱ C (*1)	2	Intermediate English Ⅲ A/B/C/D（各2単位） *2〜8単位まで履修可(*2)					
			B	必修	Guided Independent Study Ⅰ	1	Guided Independent Study Ⅱ	1	Intermediate English Ⅰ A/B	2	Intermediate English Ⅱ A/B	2									14単位	
				選択	Basic English Ⅰ(☆)	4	Basic English Ⅱ(☆)	4	Intermediate English Ⅰ C (*1)	2	Intermediate English Ⅱ C (*1)	2	Intermediate English Ⅲ A/B/C/D（各2単位） *2〜8単位まで履修可(*2)									
									Guided Independent Study Ⅲ(*3)	1	Guided Independent Study Ⅳ(*3)	1										
			C	必修	Intermediate English Ⅰ A/B	2	Intermediate English Ⅱ A/B	2													6単位	
					Guided Independent Study Ⅰ	1	Guided Independent Study Ⅱ	1														
				選択	Intermediate English Ⅰ C (*1)	2	Intermediate English Ⅱ C (*1)	2	Intermediate English Ⅲ A/B/C/D（各2単位）				*2〜8単位まで履修可(*2)								
									Guided Independent Study Ⅲ(*3)	1	Guided Independent Study Ⅳ(*3)	1										
	日本語科目	必修			日本語特別演習Ⅰ	2														2	10単位	
		選択必修			日本語総合講座Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳ *必修6単位の他に2単位履修可															6		
													ビジネス日本語Ⅰ/Ⅱ *必修2単位の他に2単位まで履修可							2		
		選択					日本語特別演習Ⅱ													2		
					日本語Ⅰ	2	日本語Ⅱ	2														
	一般英語科目	選択			時事英語Ⅰ 2単位 1〜4年次 履修条件:Intermediate English Ⅰ、Ⅱ 時事英語Ⅱ 2単位 1〜4年次 履修条件:時事英語ⅠまたはC基準(*4) 商業英語Ⅰ 2単位 1〜4年次 履修条件:Intermediate English Ⅰ、Ⅱ 商業英語Ⅱ 2単位 1〜4年次 履修条件:Intermediate English Ⅰ、Ⅱ Business English Ⅰ 2単位 1〜4年次 履修条件:Intermediate English Ⅰ、Ⅱ Business English Ⅱ 2単位 1〜4年次 履修条件:Intermediate English Ⅰ、Ⅱ English for International CommunicationⅢ 4単位 3〜4年次 履修条件:Intermediate English Ⅰ、Ⅱ並びにC基準(*4) Effective Language Learning Course1(*5) 1単位 1〜4年次 Effective Language Learning Course2 1単位 1〜4年次 履修条件:Effective Language Learning Course1もしくは同等のmodule																			履修した場合 自由選択科目となる	
特別演習科目		必修			国際コミュニケーション入門	2															8単位	8
					情報基礎Ⅰ	1	情報基礎Ⅱ	1														
					情報リテラシー演習Ⅰ	2	情報リテラシー演習Ⅱ	2														
基礎科目		必修			基礎演習	2															2単位	12
		選択			うち講義系科目から少なくとも4科目8単位以上																10単位	
研究科目		専攻指定	選択		コミュニケーション研究科目から8単位、国際研究・日本研究科目から8単位																16単位	40
		その他の研究科目			研究科目										研究演習(ゼミ)*4単位を超えて修得した場合は自由選択科目とする	4						24単位	
																	卒業研究	4				
自由選択科目					自由選択科目																20単位	20

*4 基準についてはP.25参照
*5 SALC Language Learning Courseを修得済の学生は履修不可

(☆) 指定された学生のみ必修
(*1) 必修科目2単位と同時履修の場合に限り、選択科目2単位も履修可
(*2) 履修条件:Intermediate English Ⅰ及びⅡ
(*3) 履修条件:Guided Independent Study Ⅰ及びⅡ。3〜4年次も履修可。

(*6) 履修免除を受けたために不足する単位については、その他の科目の単位で充当し、卒業要件単位合計124単位を充たすこと。

合計124単位

■進級について
進級発表は、学年末に掲示をもって行う。定められた期間内に、必ず本人が確認すること。

IC学科 国際ビジネスキャリア 専攻		1年次 前期 授業科目	単位	1年次 後期 授業科目	単位	2年次 前期 授業科目	単位	2年次 後期 授業科目	単位	3年次 前期 授業科目	単位	3年次 後期 授業科目	単位	4年次 前期 授業科目	単位	4年次 後期 授業科目	単位	卒業要件単位数	
英語科目	必修	English for International Communication Ⅰ(a)	4	English for International Communication Ⅰ(b)	4	企業英語Ⅰ	2	企業英語Ⅱ	2	企業英語Ⅲ（各2単位） ＊前期、後期それぞれ2単位（1クラス）のみ履修可 ＊内容の異なる3クラス6単位まで履修可							4	26	32単位
		Reading Ⅰ	2	Reading Ⅱ	2			English for Business Career Ⅰ	2										
		Writing Ⅰ	2	Writing Ⅱ	2														
		2年への進級基準：16単位のうち12単位以上修得				＊1 「24単位」には学科指定研究科目1年次必修「キャリア研究Ⅰ」「キャリア研究Ⅱ」（各2単位）を含む ＊2 「24単位」には「企業英語Ⅱ」は含まない													
		3年への進級基準：24単位（＊1, ＊2）のうち20単位以上修得																	
	選択必修	下表から6単位を修得すること 【履修年次1～4】 Effective Language Learning Course1(*3) 1 単位 Effective Language Learning Course2 1 単位 履修条件：Effective Language Learning Course1もしくは同等のmodule *3 SALC Language Learning Courseを修得済の学生は履修不可 【履修年次3～4】 English for Business CareerⅡ(*4) 2 単位 前期、後期のそれぞれで2単位のみ履修可 English for Business CareerⅢ(*4) 2 単位 前期、後期のそれぞれで2単位のみ履修可 English for Business CareerⅣ(*4) 2 単位 前期、後期のそれぞれで2単位のみ履修可 English for International CommunicationⅢ(*5) 4 単位 前期、後期それぞれ4単位（合計8単位）まで履修可 *4 English for Business CareerⅡ／Ⅲ／Ⅳのうち少なくとも2科目4単位を修得すること *5 外国語科目分野自由選択科目として8単位まで履修可																6	
	選択	【履修年次 1～4】 Business English Ⅰ 2 単位 Business EnglishⅡ 2 単位 商業英語Ⅰ 2 単位 商業英語Ⅱ 2 単位 時事英語Ⅰ 2 単位(*6) 時事英語Ⅱ 2 単位(*6) 履修条件：時事英語ⅠまたはC基準				【履修年次 2年次のみ （*7）】 English for International Communication Ⅱ(a) 2 単位 English for International Communication Ⅱ(b) 2 単位 Media English Ⅰ 2 単位 Media English Ⅱ 2 単位				*6 全学科共通開講科目 *7 前後期各2単位まで、合計4単位まで履修可								履修した場合自由選択科目となる	
特別演習科目	必修	情報基礎Ⅰ＊	1	情報基礎Ⅱ＊	1	ビジネスリサーチⅠ	2	ビジネスリサーチⅡ	2	企業インターンシップⅡ *2年春期または3年夏期実習 (2週間)、報告書提出	2							14単位	
		*H24年度以前入学者は情報リテラシー演習Ⅰ／Ⅱが1年次必修 再履修の学生は国際コミュニケーション専攻の同名科目を履修すること				企業インターンシップⅠ *2年夏期実習(2週間)、 報告書提出	2			ビジネスリサーチⅢ-1/2/3/4 *内容の異なる2クラスより1クラス以上を履修すること ＊留学をする場合、帰国後学期初めに履修すること ＊履修登録者が4名未満の場合閉講する							2		
						英語資格特別演習☆	2												
						☆履修対象：1年次TOEICスコアが650点未満の者 ☆履修免除：TOEIC650点以上の者は履修免除、他の科目で2単位充当すること												
基礎科目	必修	基礎演習	2															2	12単位
	選択	うち講義系科目から少なくとも4科目8単位以上																10	
研究科目	学科指定 必修	キャリア研究Ⅰ	2	キャリア研究Ⅱ	2	企業研究Ⅰ	2	企業研究Ⅱ	2	キャリア研究Ⅲ	2							16	32単位
						財務会計Ⅰ	2	財務会計Ⅱ	2	企業研究Ⅲ *内容の異なる2クラスより1クラス以上を履修すること	2								
	その他の研究科目	研究科目から16単位																16	
研究演習	ビジネス研究演習					ビジネス研究演習Ⅰ(a)	2	ビジネス研究演習Ⅰ (b)	2	ビジネス研究演習Ⅱ(a)	4	ビジネス研究演習Ⅱ(b)	4					12	16単位
	ポートフォリオ研究演習													ポートフォリオ研究演習(a)	2	ポートフォリオ研究演習(b)	2	4	
自由選択科目		自由選択科目																18単位	

合計124単位

■進級について

進級発表は、学年末に掲示をもって行う。定められた期間内に、必ず本人が確認すること。

白紙

Ⅵ　授業科目について

1．外国語学部のカリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）

神田外語大学では、建学の理念に基づき、高度の外国語運用能力を涵養すると共に、専攻言語圏の様々な事柄に対する知識を教授することで、豊かな教養を有し国際社会に貢献しうる人材の育成を教育の目標としています。

・授業科目は、外国語科目、特別演習科目、基礎科目、研究科目、研究演習、卒業研究及び自由選択科目に区分され、これらを適切な年次に配当することによって、「言葉」と「文化」の両面について、バランス良く、また体系的に学習できるカリキュラムを構成しています。

・外国語教育に関しては、各専攻言語に具体的な到達目標を設定し、「読む・書く・話す・聞く」の技能を総合的に駆使することのできる言語運用能力の養成を目指しています。これに加え、通訳・翻訳・討論・スピーチやプレゼンテーションの訓練を取り入れる等、高度で実践的な専攻言語の運用能力を養成するための教育課程を編成しています。

・今日の国際社会における使用言語としての英語の役割を重視し、英語以外の言語を専攻している学生に対し、英語科目を必修とし、あわせて具体的な到達目標を設定しています。これにより、専攻言語に加え、英語の実践的な運用能力の養成も図ります。

・言語の背景にある歴史・文化・社会・経済等の教育については、研究科目や研究演習の他、体系的かつ学際的に学習できるように、研究プログラムを設置しています。様々な知識を系統立って修得させ、より豊かな教養を身につけさせるために、同プログラムの修了を卒業要件の一つとしています。

2．履修上の注意

イ．授業科目の履修にあたっては、履修年次に注意してください。
「履修年次」欄の「１～４」という表記は、１年次から４年次までの間にいつでも履修できるということを示しています。「１～２」「２～４」「３～４」についても同様です。

ロ．必修・選択必修について十分注意してください。

ハ．履修条件を設けている授業科目があるので、科目表及び講義概要で確認してください。なお語学検定試験のスコアを用いた履修基準については、以下の表を参照して下さい。

	TOEIC® ※1	TOEFL® (iBT) ※2	TOEFL® ITP	IELTS	実用英語技能検定
A基準	730	79	550	6.0	準１級１次試験合格
B基準	650	68	520	5.5	
C基準	600	54	480	4.5	

※１　TOEIC IPを含みます。

※２　学内実施のComplete Practice Testを含みます。

前ページまでの折り込み表は、各学科・専攻別のカリキュラムをまとめたものです。履修にあたっては、自身の学科・専攻のカリキュラム表と、４．授業科目の紹介を参照してください。

3．科目ナンバリングについて

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付して分類し、学習段階や順序を整理し、教育課程をより体系的に理解するためのツールです。履修科目を選択する際などに活用してください。

⑴ 科目ナンバリングの付番原則

例）英語基礎演習（ａ）－１　ＥＮＧ11301

ＥＮＧ	１	１３	０１
↑	↑	↑	↑
科目区分	授業レベル	科目コード	クラス番号

⑵ コードの詳細

⑵－１．科目区分コード

科　目　群	科　目　区　分　コ　ー　ド
英　語　科　目	ＥＮＧ
地 域 言 語 科 目	各言語の国コード３桁（JISコード）
選 択 外 国 語 科 目	ElectiveのE＋各言語の国コード２桁（JISコード）
基　礎　科　目	研究分野により付与
研　究　科　目	
研　究　演　習	ＳＥＭ
卒　業　研　究	ＧＲＲ

⑵－２．授業レベル

コード	レ ベ ル	受講に必要な能力	身に付く能力	科　目　群
0	設定　なし			
1	入門	予備知識を必要としない科目群	各科目や大学としての学びの第一段階としての力がつく	概論系の科目
2	初級	基礎的な素養を持っていることを前提とする科目群	専門知識の習得に必要となる基礎的な力がつく	総論系、概論系の科目
3	中級	各分野での基礎的な知識を必要とする科目群	専門知識を習得することができる	各論系、特論系の科目
4	上級	各分野での専門的な知識が必要な科目群	高い専門性や応用力を養い、発信力が身につく	専門的、応用的な科目

4．授業科目の紹介

⑴ 外国語科目

外国語科目（英米語学科の英語科目、国際コミュニケーション学科の英語科目、アジア言語学科・イベロアメリカ言語学科の英語科目及び地域言語科目）は、他学科の学生は履修できません。

【アジア言語学科　中国語専攻・韓国語専攻／イベロアメリカ言語学科　スペイン語専攻　英語科目】

必修英語科目の履修についての注意

イ．基本的には、以下の順番で履修をしてください。

1年前期…Freshman English (a) (CSK)

↓

1年後期…Freshman English (b) (CSK)

↓

2年前期…Sophomore English (a) (CSK)

↓

2年後期…Sophomore English (b) (CSK)

↓

3年前期…Advanced English (a) (CSK)

↓

3年後期…Advanced English (b) (CSK)

ただし、もし前期(a) が修得できなかった場合でも、後期(b) を履修することができます。

その場合は、未修得単位を必ず卒業までに修得しなければなりません。

ロ．必修の英語科目は年次に関わらず、あらかじめクラスが設定されています。自分がどのクラスに属するかは、後期の分も含め年度始めにCampus Web、学内掲示等で確認してください。

ハ．1・2年生は、次年度前期・後期に必修英語科目を履修するためには、1月のTOEICを受験することが必要です。Campus Webの掲示に注意し、決められた期間内に所定の手続きをとって、必ず受験してください。

留学などでやむを得ず受験できない場合には、必ず事前に教務課まで相談に来てください。

ニ．2・3年次に下位学年の未修得科目がある場合、時間割上履修が可能であれば、下記の要領で同年次に履修することができます。その場合もすべての科目であらかじめクラスが設定されていますので、指定されたクラスで履修して下さい。

ⅰ）Freshman English (a) (CSK) またはFreshman English (b) (CSK) どちらかを修得済みの場合

→前期：Freshman English (a) (CSK) とSophomore English (a) (CSK)
　後期：Freshman English (b) (CSK) とSophomore English (b) (CSK) } の同時履修が可能

ⅱ）Sophomore English (a) (CSK) またはSophomore English (b) (CSK) どちらかを修得済みの場合

→前期：Sophomore English (a) (CSK) とAdvanced English (a) (CSK)
　後期：Sophomore English (b) (CSK) とAdvanced English (b) (CSK) } の同時履修が可能

ホ．（例1）Sophomore English (b) (CSK) の先行履修について

1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期
不合格	不合格	FE (a)	FE (b)	**SE (a)**	AE (b)
			SE (b)	AE (a)	

イ．では、FE (a) →FE (b) → SE (a) → SE (b) → AE (a) → AE (b) の順番で履修することとありますが、上表のように1年次にFreshman English (a) (CSK)、Freshman English (b) (CSK) の両方修得できなかったが、2年前期にFreshman English (a) (CSK)を修得したことによって、ニ．ⅰ）にあるように後期Freshman English (b) (CSK) とSophomore English (b) (CSK) の同時履修をする場合はSophomore English (a) (CSK) に先がけてSophomore English (b) (CSK) を履修することができます。

ヘ．（例2）留年し、2度目の1年生になった場合のSophomore English (CSK)・Advanced English (CSK) の履修について

1年前期	1年後期	2度目の1年前期	2度目の1年後期	2年前期	2年後期
FE (a)	FE (b)	**SE (a)**	**SE (b)**	**AE (a)**	**AE (b)**

イ．では、Sophomore English (CSK) は、基本的に2年次にならないと履修できない科目となっていますが、留年し、2度目の1年生になった場合に限り、Freshman English (a) (CSK) またはFreshman English (b) (CSK) どちらかを修得済みの場合、1年生でもSophomore English (CSK) は履修できることとします。また上表のように、同様のケースにおいて、Sophomore English (a) (CSK) またはSophomore English (b)(CSK) どちらかを修得済みの場合、2年生でもAdvanced English (CSK) を履修できることとします。

ト．英語科目が原因で、卒業できないケース

３年次終了までに、最低限、以下の条件を充たさないと、４年次に必要な英語科目の履修ができず、４年間で卒業できなくなるので十分注意して下さい。

◆必要条件◆

３年次終了までにFE (a)・FE (b) 及びSE (a) もしくはSE (b) を修得していること

(2) 選択外国語科目

選択外国語科目は、英米語学科の学生は４単位を修得しなければなりません。英米語学科以外の学生が選択外国語科目を修得した場合は、自由選択科目として計算されます。

英米語学科対象

次ページ表の「中国語Ⅰ」、「スペイン語Ⅰ」、「韓国語Ⅰ」、「フランス語Ⅰ」、「ドイツ語Ⅰ」、「ロシア語Ⅰ」、「イタリア語Ⅰ」、「アラビア語Ⅰ」、「ポルトガル語Ⅰ」、「ベトナム語Ⅰ」、「インドネシア語Ⅰ」、「タイ語Ⅰ」のうちから１つの外国語を選択し、必ず同じ言語で４単位を修得しなければなりません。

卒業必修単位としての選択外国語Ⅰ（４年生対象）

４年次前期で選択外国語Ⅰ(a)が不合格だった学生は、卒業を勘案した特別措置として、後期に選択外国語Ⅰ(b)を履修することができます。該当する学生は、前期と同じクラスを履修してください。

Web履修登録では、選択外国語Ⅰ(a)を修得していないと選択外国語Ⅰ(b)を登録できないので、教務課カウンターに来て登録を希望することを申し出てください。

なお、その場合のⅠ(a)の再試験については、「Ⅶ　試験及び学力評価について　８．選択外国語科目再試験」を参照してください。ただし、すべての科目で再試験が実施されるとは限りません。

全学科共通

イ．選択外国語科目は、同じ外国語をⅠ(a) → Ⅰ(b) の順で履修しなくてはなりません。

① 前期に (a) を修得できなかった場合、後期に (b) を履修することはできません。この場合、次年度にまた (a) から履修します。

② 選択外国語Ⅱは、Ⅰ の続きです。Ⅱ(a)･Ⅱ(b) の履修には同じ言語のⅠ(a) 及びⅠ (b) を履修済みでなければなりません。Ⅱ(a) →Ⅱ(b) の順で履修することが望ましいですが、Ⅱ(a) を履修しなくてもⅡ(b) を履修することができます。Ⅱ(a)、Ⅱ(b) とも２単位（２回）まで履修できます。

ロ．選択外国語Ⅰは、週２回授業があります。クラスは指定されないので、各自クラスを選び、登録してください。登録希望者が多い場合は人数調整を行う場合もあります。

ハ．選択外国語Ⅱは１単位以上、２単位まで、前･後期とも履修することができます。クラスは指定されないので、各自クラスを選び、登録してください。登録希望者が多い場合は人数調整を行う場合もあります。

ニ．同じ外国語の、ⅠとⅡを同時に履修することはできません。

ホ．選択外国語Ⅲは、中国語、スペイン語、韓国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語が開講されています。Ⅰを４単位、Ⅱ(a) を１単位以上、Ⅱ(b) を１単位以上、修得すれば履修可能です。１単位以上８単位まで履修することができます。また、Ⅲ(a)を履修しなくてもⅢ(b)を履修することができます。

授業科目の名称		履修年次	単位数	
			選択必修 (英米語学科のみ対象)	選択
中国語	中国語Ⅰ(a)	1～4	2	
	中国語Ⅰ(b)	1～4	2	
	中国語Ⅱ(a)	2～4		1～2
	中国語Ⅱ(b)	2～4		1～2
	中国語Ⅲ(a)	3～4		1～4
	中国語Ⅲ(b)	3～4		1～4
スペイン語	スペイン語Ⅰ(a)	1～4	2	
	スペイン語Ⅰ(b)	1～4	2	
	スペイン語Ⅱ(a)	2～4		1～2
	スペイン語Ⅱ(b)	2～4		1～2
	スペイン語Ⅲ(a)	3～4		1～4
	スペイン語Ⅲ(b)	3～4		1～4
韓国語	韓国語Ⅰ(a)	1～4	2	
	韓国語Ⅰ(b)	1～4	2	
	韓国語Ⅱ(a)	2～4		1～2
	韓国語Ⅱ(b)	2～4		1～2
	韓国語Ⅲ(a)	3～4		1～4
	韓国語Ⅲ(b)	3～4		1～4
フランス語	フランス語Ⅰ(a)	1～4	2	
	フランス語Ⅰ(b)	1～4	2	
	フランス語Ⅱ(a)	2～4		1～2
	フランス語Ⅱ(b)	2～4		1～2
	フランス語Ⅲ(a)	3～4		1～4
	フランス語Ⅲ(b)	3～4		1～4
ドイツ語	ドイツ語Ⅰ(a)	1～4	2	
	ドイツ語Ⅰ(b)	1～4	2	
	ドイツ語Ⅱ(a)	2～4		1～2
	ドイツ語Ⅱ(b)	2～4		1～2
	ドイツ語Ⅲ(a)	3～4		1～4
	ドイツ語Ⅲ(b)	3～4		1～4
ロシア語	ロシア語Ⅰ(a)	1～4	2	
	ロシア語Ⅰ(b)	1～4	2	
	ロシア語Ⅱ(a)	2～4		1～2
	ロシア語Ⅱ(b)	2～4		1～2
イタリア語	イタリア語Ⅰ(a)	1～4	2	
	イタリア語Ⅰ(b)	1～4	2	
	イタリア語Ⅱ(a)	2～4		1～2
	イタリア語Ⅱ(b)	2～4		1～2
	イタリア語Ⅲ(a)	3～4		1～4
	イタリア語Ⅲ(b)	3～4		1～4
アラビア語	アラビア語Ⅰ(a)	1～4	2	
	アラビア語Ⅰ(b)	1～4	2	
	アラビア語Ⅱ(a)	2～4		1～2
	アラビア語Ⅱ(b)	2～4		1～2
ポルトガル語	ポルトガル語Ⅰ(a)	1～4	2	
	ポルトガル語Ⅰ(b)	1～4	2	
	ポルトガル語Ⅱ(a)	2～4		1～2
	ポルトガル語Ⅱ(b)	2～4		1～2
ベトナム語	ベトナム語Ⅰ(a)	1～4	2	
	ベトナム語Ⅰ(b)	1～4	2	
	ベトナム語Ⅱ(a)	2～4		1～2
	ベトナム語Ⅱ(b)	2～4		1～2
インドネシア語	インドネシア語Ⅰ(a)	1～4	2	
	インドネシア語Ⅰ(b)	1～4	2	
	インドネシア語Ⅱ(a)	2～4		1～2
	インドネシア語Ⅱ(b)	2～4		1～2
タイ語	タイ語Ⅰ(a)	1～4	2	
	タイ語Ⅰ(b)	1～4	2	
	タイ語Ⅱ(a)	2～4		1～2
	タイ語Ⅱ(b)	2～4		1～2

ヘ.「トライ・外国語」

言語と文化の入門的な体験ができる「トライ・外国語」を自由選択科目として開講します。多くの場合集中講義として開講します。12の外国語のうち、毎年いくつかの外国語を開講しますが、「トライ・外国語特別講座」、「トライ・ことばと文化」として上記12の外国語以外の言語も開講することがあります。詳しくは「(9) 自由選択科目」を参照してください。

ト. 短期海外語学研修単位認定制度

① 下記の選択外国語は、海外短期語学研修の単位認定を実施しています。

「中国語」「スペイン語」「韓国語」「ベトナム語」「インドネシア語」「タイ語」

② 下記の選択外国語は、春期及び夏期休暇中の海外短期語学研修（約4週間）について単位認定を行います。原則的に個人で申込みを行います。

「フランス語」「ドイツ語」「イタリア語」

③ 海外研修での単位認定にあたり、次の言語に関しては、下記条件のいずれかを満たしている必要があります。

対象言語:「中国語」「スペイン語」「韓国語」「ベトナム語」「インドネシア語」「フランス語」「ドイツ語」「イタリア語」

条件：

1）当該外国語の選択外国語Ⅰ(a)（2単位）を修得済み

2）当該外国語のトライ・外国語（1単位）を修得済み

3）当該外国語の選択外国語Ⅰ(a), Ⅰ(b) の飛び級基準を充足（ベトナム語を除く）

チ. 選択外国語科目飛び級制度

1）下記の条件を充たしている者は、それぞれの選択外国語のⅠ(a)・Ⅰ(b)、Ⅱ(a)・Ⅱ(b) を飛ばして、Ⅱ(a)・Ⅱ(b)、Ⅲ(a)・Ⅲ(b) に飛び級履修することができます。

Ⅰ(a)・Ⅰ(b)の飛び級	中国語	中国語検定試験4級以上
	スペイン語	スペイン語技能検定6級以上、DELE A1級以上
	韓国語	ハングル能力検定試験4級以上または韓国語能力試験2級以上
	インドネシア語	インドネシア語技能検定D級以上
	ブラジル・ポルトガル語	国際ポルトガル語検定準初級以上　または ブラジル教育省による外国人のためのポルトガル語検定試験中級以上
	フランス語	実用フランス語技能検定4級以上
	ドイツ語	ドイツ語技能検定4級以上
	イタリア語	実用イタリア語検定4級以上
	アラビア語	実用アラビア語検定6級以上

Ⅱ(a)・Ⅱ(b)の飛び級	中国語	中国語検定試験3級以上
	スペイン語	スペイン語技能検定5級以上またはDELE A2級以上
	韓国語	ハングル能力検定試験3級以上または韓国語能力試験3級以上
	フランス語	実用フランス語技能検定3級以上
	ドイツ語	ドイツ語技能検定3級以上
	イタリア語	実用イタリア語検定3級以上

2）学生は選択外国語ⅡまたはⅢの最初の授業でスコアのコピーを持参し、担当教員から履修の許可を得て、履修することになります。

3）履修登録期間と同じ時期に、学生は飛び級の条件を充たしているスコアのコピー、および、飛び級申請書を記入して教務課に提出することが必要です。

【注意】

① 飛び級するⅠまたはⅡの単位認定は行いません。

② 英米語学科の学生は選択外国語の飛び級履修をすることができますが、卒業要件単位（選択必修４単位）は、その他の選択外国語Ⅰを履修する必要があります。

⑶ 特別演習科目（国際コミュニケーション学科のみ）

イ．国際コミュニケーション学科の学生は、下記の科目表の中から決められた単位を修得しなければなりません。

ロ．特別演習科目は、国際コミュニケーション学科の学生しか履修できません。ただし「情報基礎Ⅰ／Ⅱ」は基礎科目として、「英語資格基礎Ⅰ／Ⅱ」は自由選択科目として、他学科・専攻の学生も履修できます。

ハ．「英語資格特別演習」と「英語資格基礎Ⅰ／Ⅱ」は留学生対象の科目ではありません（ただし、一般学生と同一の履修方法であるロ．の場合を選択した留学生にとっては必修科目です。）留学生はこの４単位分を任意の自由選択科目で充当してください。（詳細は「Ⅲ卒業の要件６．国際コミュニケーション学科国際コミュニケーション専攻留学生の卒業要件について」参照）

ニ．「情報リテラシー演習Ⅰ・Ⅱ」については、あらかじめクラスが設定されています。自分がどのクラスに属するかを、学内掲示板で確認してください。

【国際コミュニケーション専攻】

授業科目の名称	履修年次	必修	必要単位数
国際コミュニケーション入門	1	2	12単位全ての修得が必要
情報基礎Ⅰ	1	1	
情報基礎Ⅱ	1	1	
情報リテラシー演習Ⅰ	1	2	
情報リテラシー演習Ⅱ	1	2	
英語資格基礎Ⅰ	1	1	
英語資格基礎Ⅱ	1	1	
英語資格特別演習★	2	2	

【国際ビジネスキャリア専攻】

授業科目の名称	履修年次	必修	必要単位数
情報基礎Ⅰ	1	1	14単位全ての修得が必要
情報基礎Ⅱ	1	1	
英語資格特別演習★	2	2	
企業インターンシップⅠ※１	２年夏期	2	
企業インターンシップⅡ※２	２年春期又は、３年夏期	2	
ビジネスリサーチⅠ	2	2	
ビジネスリサーチⅡ	2	2	
ビジネスリサーチⅢ－１／２／３／４☆	３～４	2	

※１　評価は「Ｐ」

※２　評価は「Ｐ」

学期始めの履修登録期間での履修登録手続きは不要ですが、担当教員の指導のもとに、しっかりと履修計画を立てて授業に臨んでください。

★「英語資格特別演習」について

履修時期：２年次前期に履修します。あらかじめクラスが設定されています。自分がどのクラスに属するかを、学内掲示板で確認してください。

履修対象者：入学時ならび入学後、１年次でTOEIC公開試験またはIP（１年次１月実施のIPのスコアまで認められます）でTOEICスコアが650点に満たない者とします。

履修免除について：TOEIC650点以上を取得した場合は、同科目の履修が免除されます。ただし、この単位は認定されないので、２単位分は卒業までに他の科目の単位で充当してください。（充当する科目は特別演習科目に限らず、どの科目でも構いません。）なお、希望し、かつ所定の手続きを行えば取得した点数に応じて「自由選択科目」の「検定試験」としての単位が認定されます（詳細は「⑼自由選択科目」別表２の「検定試験」を参照）。

評価：評価は「P」となります。

再履修について：TOEIC650点以上を取得できなかった場合には、２年次後期以降も履修を続けてください。TOEIC650点以上を取得しないと卒業要件を満たせませんので注意してください。

☆「ビジネスリサーチⅢ」について

内容の異なる２クラスより１クラス以上を履修（３／４年，２単位以上）

・半年間または１年間の留学をする場合、帰国後の学期初めに登録してください。

・履修登録者が４名に満たない場合は、原則として当該学期の授業を閉講します。

⑷ 基礎科目

どのような分野の学問でも、ある程度学習が進んだ段階で改めて基本を見直すことが必要です。自然とは何か、社会とは何か、人間とは何か。これらの問いは、一見自明と思われるものが少し考えてみるとそれほど明確なものでないことを教えてくれます。基礎科目は、そうした趣旨から、１年から４年までかけてじっくり学ぶために設定されています。したがって、３・４年生になってから履修する方がよい場合もあります。研究科目との関係を意識しながら、履修計画を立てて下さい。ただし、

イ.「基礎演習」は、大学での研究の仕方について学ぶ導入科目であり、そのために１年次前期の必修科目で、２単位を修得しなければなりません。あらかじめクラスが設定されているので、指定されたクラスで履修して下さい。

ロ.「情報基礎Ⅰ・Ⅱ」および「日本語表現力基礎」は、インターネットを通じて自習する科目です。前者はPCを扱うスキルだけでなく情報を扱う際に注意すべきことがら（リテラシー）も含んでいます。また、後者は、レポート作成を主な課題とする「基礎演習」にも役立つはずです。したがってこれらの科目は、早めに履修することが望ましいものです。

ハ.「本を読む」という科目も、他の講義系科目とは性格を異にし、履修方法も異なります。各教員と個別に対応できる機会を利用して本の読み方を学び、大学生の間にできるだけ多くの本に親しんで下さい。

ニ.「体育・スポーツ」は４単位（４種目）まで履修することができますが、４年間をかけて履修できるように、１学期に履修できるのは１単位（１種目）のみとしています。

授業科目の名称		履修年次	単位数		必要単位数	
			必修	選択		
導入科目	基礎演習	1（前期）	2			必修「基礎演習」2単位を含む12単位
	情報基礎Ⅰ	1～4		1※		
	情報基礎Ⅱ	1～4		1※		
	日本語表現力基礎	1～4		1		
	本を読む	1～4		1		
体育・スポーツ		1～4		1～4		
歴史学Ⅰ		1～4		2	左記の講義系科目から少なくとも4科目8単位を修得しなくてはならない	
歴史学Ⅱ		1～4		2		
哲学Ⅰ		1～4		2		
哲学Ⅱ		1～4		2		
倫理学Ⅰ		1～4		2		
倫理学Ⅱ		1～4		2		
宗教学Ⅰ		1～4		2		
宗教学Ⅱ		1～4		2		
文学Ⅰ		1～4		2		
文学Ⅱ		1～4		2		
美術史学Ⅰ		1～4		2		
美術史学Ⅱ		1～4		2		
言語学Ⅰ		1～4		2		
言語学Ⅱ		1～4		2		
社会学Ⅰ		1～4		2		
社会学Ⅱ		1～4		2		
法学Ⅰ		1～4		2		
法学Ⅱ		1～4		2		
政治学Ⅰ		1～4		2		
政治学Ⅱ		1～4		2		
経済学Ⅰ		1～4		2		
経済学Ⅱ		1～4		2		
心理学Ⅰ		1～4		2		
心理学Ⅱ		1～4		2		
教育学		1～4		2		
経営学Ⅰ		1～4		2		
経営学Ⅱ		1～4		2		
統計学Ⅰ		1～4		2		
統計学Ⅱ		1～4		2		
生物学Ⅰ		1～4		2		
生物学Ⅱ		1～4		2		
化学Ⅰ		1～4		2		
化学Ⅱ		1～4		2		
物理学Ⅰ		1～4		2		
物理学Ⅱ		1～4		2		
自然科学概論Ⅰ		1～4		2		
自然科学概論Ⅱ		1～4		2		

※国際コミュニケーション学科の学生が履修した場合は、「特別演習科目」（必修）になります。

体育・スポーツの履修登録について

1．単位について

「体育･スポーツ」は、半期１種目１単位とし、４年間で最大４単位まで履修することができます。半期で１単位を超えて履修することはできません。また、同一種目を１単位を超えて履修することもできません。半期１単位（１種目）より多く履修登録をした場合、「体育･スポーツ」の履修登録が無効になります。

2．種目について

「体育・スポーツ」は、学内施設を利用して次の種目を履修することができます。

テニス、フライングディスク、卓球、フットサル、バドミントン、フィットネス、バスケットボール、ダンス、ダイエットエクササイズ、合気道、バレーボール、タッチラグビー、アドベンチャーコミュニケーションプログラム

※アドベンチャーコミュニケーションプログラムⅡは、同Ⅰを修得済の場合のみ履修可

3．履修登録について

イ．「体育・スポーツ」の履修登録は、他の授業科目と同様に行います。

履修を希望する種目の最初の授業に出席し、受講票を提出してください。授業の形態や、施設の関係から、人数調整を行うことがあるので、履修を希望する種目の初回授業には必ず出席し、履修が許可された種目の科目を登録してください。

ロ．第１回目の授業を実施する場所は、学内掲示板で確認してください。

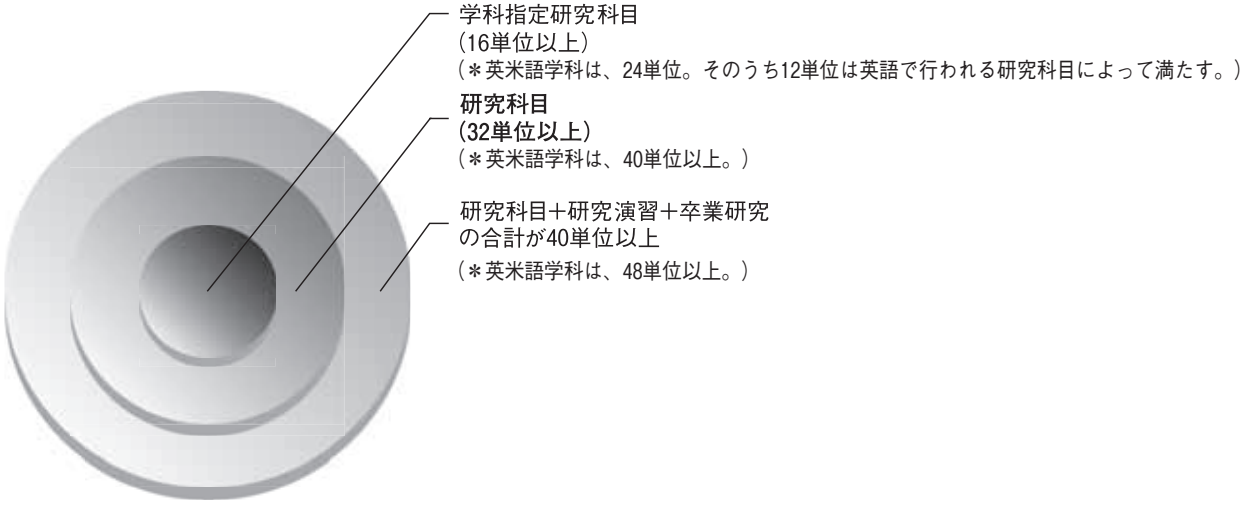
⑸ 研究科目

イ．研究科目は、言語研究／コミュニケーション研究／総合文化研究／地域･国際研究の４つの分野（国際コミュニケーション学科指定研究科目は、コミュニケーション研究／国際研究・日本研究の２つの分野）にわたっています。

ロ．研究科目の卒業要件単位数は、研究演習・卒業研究を含む40単位（英米語学科は48単位）です。研究演習・卒業研究を履修しない場合は、不足分の単位を研究科目で充当して下さい。

ハ．研究科目の卒業要件単位数のうち、16単位（学科専攻によっては24単位または10単位）は学科指定科目からの修得が必要となります。学科指定科目の履修方法については、各学科の科目表に定める要件を充たすように履修してください。

ニ．研究科目・研究演習・卒業研究の履修方法（国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻は除く。）



たとえば、英米語学科の学生が「英語学概論」をとると、前ページの図の中心の円の部分＝学科指定研究科目となります。また、同様に英米語学科の学生が「国際社会が見えてくる」をとると、英米語学科指定ではない研究科目なので、上の図の中心から２番目の円の部分＝研究科目となります。

２年次には研究プログラムの登録を行うため、研究プログラムを修了するための研究科目の履修計画を考える必要があります。詳しくは、「Ⅲ 卒業の要件 2. 1）の研究科目に関する卒業要件と研究演習・卒業研究の履修パターン、２）研究プログラム修了要件」及び「Ⅷ　研究プログラム履修要項　A　研究プログラム制の概要」を参照してください。

研究科目一覧

英米語学科

言語研究

1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件
英語学概論				必修	4	H23年度以前入学者は選択
英語音声学				選択	4	＊1
Outline of English Phonetics				選択	4	C基準、＊1
英語音韻論				選択	4	＊2
英語統語論Ⅰ				選択	4	「英語学概論」
	英語統語論Ⅱ			選択	4	「英語統語論Ⅰ」
	英語意味論			選択	4	「英語統語論Ⅰ」または「現代英文法」
	現代英文法			選択	4	「英語学概論」
	英語語法研究			選択	4	「英語統語論Ⅰ」または「現代英文法」
	英語構文研究			選択	4	「英語統語論Ⅰ」
英語習得法				選択	4	
	第二言語習得研究			選択	4	「英語学概論」
	Issues in Second Language Acquisition			選択	4	「第二言語習得研究」かつC基準
	英語談話分析			選択	4	
	英語史			選択	4	＊3
	古期中期英語			選択	4	「英語史」
	日英語対照研究			選択	4	「英語統語論Ⅰ」または「現代英文法」
認知発達と英語教育				選択	4	
児童英語教育論				選択	4	
	児童英語指導法			選択	4	＊4
	児童英語カリキュラムデザイン			選択	4	＊4
		児童英語教育実習		選択	2	＊5
	児童英語海外実習			選択	2	＊6

英語で行われる研究科目

＊1　「英語音声学」と「Outline of English Phonetics」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可能とする
＊2　「英語学概論」、「英語音声学」または「Outline of English Phonetics」
＊3　「英語学概論」、「英語音声学」または「Outline of English Phonetics」
＊4　H22年度以降入学者：「児童教育論」、「認知発達と英語教育」かつC基準または英検２級以上
H21年度以前入学者（平成22年度２年次編入生を含む）：「児童英語教育論」、および「第二言語習得研究」「児童文化論」「認知発達と英語教育」いずれかから２つ、かつTOEIC550点または英検２級以上
＊5　「児童英語指導法」および「児童英語教育カリキュラムデザイン」
＊6　「児童英語教育論」および「認知発達と英語教育」

コミュニケーション研究

1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件
	日米コミュニケーション論			選択	4	
英語パブリック・スピーキング				選択	4	C基準
英語ディベート				選択	4	B基準
英語スモールグループ・コミュニケーション				選択	4	B基準
	英語オーラルインタープリテーション			選択	4	＊7、C基準
英語説得コミュニケーション論				選択	4	B基準
日英翻訳法Ⅰ				選択	4	B基準
	日英翻訳法Ⅱ			選択	4	＊8
英日翻訳法Ⅰ				選択	4	B基準
	英日翻訳法Ⅱ			選択	4	＊8
英語通訳法Ⅰ				選択	4	
英語通訳法Ⅱ				選択	4	C基準
	英語通訳法Ⅲ			選択	4	B基準
	英語通訳法Ⅳ			選択	4	A基準
	英語映像翻訳法			選択	4	B基準
	コミュニティー英語通訳法			選択	4	「英語通訳法Ⅲ」
	通訳・翻訳理論（英語）			選択	4	B基準

＊7　「英語音声学」または「Outline of English Phonetics」
＊8　B基準かつ「時事英語Ⅱ」「MediaEnglish(a)／(b)(英米)」のいずれか

総合文化研究

1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件
英文学史Ⅰ				選択	2	
英文学史Ⅱ				選択	2	
米文学史Ⅰ				選択	2	
米文学史Ⅱ				選択	2	
英文学講義Ⅰ				選択	2	
英文学講義Ⅱ				選択	2	
米文学講義Ⅰ				選択	2	
米文学講義Ⅱ				選択	2	
	英文学研究Ⅰ			選択	2	C基準
	英文学研究Ⅱ			選択	2	C基準
	米文学研究Ⅰ			選択	2	C基準
	米文学研究Ⅱ			選択	2	C基準
米国文化論Ⅰ				選択	2	
米国文化論Ⅱ				選択	2	
		米国文化原書講読Ⅰ		選択	2	C基準
		米国文化原書講読Ⅱ		選択	2	C基準
日英比較文化論Ⅰ				選択	2	
日英比較文化論Ⅱ				選択	2	
日米比較文化論Ⅰ				選択	2	
日米比較文化論Ⅱ				選択	2	
日本文化研究（英語）Ⅰ				選択	2	C基準
日本文化研究（英語）Ⅱ				選択	2	C基準
日本社会研究（英語）Ⅰ				選択	2	C基準
日本社会研究（英語）Ⅱ				選択	2	C基準
日本史研究（英語）Ⅰ				選択	2	C基準
日本史研究（英語）Ⅱ				選択	2	C基準
The Literatures of Japan				選択	2	C基準
The History of Modern Japan				選択	2	C基準
The History of Premodern Japan				選択	2	C基準
Japanese Popular Cultures				選択	2	C基準
Tourism and Local Culutures of Japan				選択	2	C基準
Japanese Religions				選択	2	C基準

地域・国際研究

1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件
英国研究入門Ⅰ				選択必修	2	H23年度以前入学者は選択
英国研究入門Ⅱ				選択必修	2	
米国研究入門Ⅰ				選択必修	2	
米国研究入門Ⅱ				選択必修	2	
オセアニア研究入門Ⅰ				選択必修	2	
オセアニア研究入門Ⅱ				選択必修	2	
カナダ研究入門Ⅰ				選択必修	2	
カナダ研究入門Ⅱ				選択必修	2	
英国史概論Ⅰ				選択	2	
英国史概論Ⅱ				選択	2	
米国史概論Ⅰ				選択	2	
米国史概論Ⅱ				選択	2	
英米法Ⅰ				選択	2	
英米法Ⅱ				選択	2	
米国政治論Ⅰ				選択	2	
米国政治論Ⅱ				選択	2	
米国外交論Ⅰ				選択	2	
米国外交論Ⅱ				選択	2	
	米国政治・外交研究特論Ⅰ			選択	2	
	米国政治・外交研究特論Ⅱ			選択	2	
米国経済論Ⅰ				選択	2	
米国経済論Ⅱ				選択	2	
米国社会論Ⅰ				選択	2	
米国社会論Ⅱ				選択	2	
	米国社会史研究特論Ⅰ			選択	2	
	米国社会史研究特論Ⅱ			選択	2	
		米国社会原書講読Ⅰ		選択	2	C基準
		米国社会原書講読Ⅱ		選択	2	C基準
日米関係論Ⅰ				選択	2	
日米関係論Ⅱ				選択	2	

分野なし

1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件
		通訳演習(a)		＊9	2	
		通訳演習(b)		＊9	2	
		翻訳演習(a)		＊9	2	
		翻訳演習(b)		＊9	2	

＊9　英米語学科通訳翻訳課程履修者は選択必修
それ以外の学生は履修不可

研究科目一覧

言語研究

		1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件
アジア言語学科	中国語専攻	中国語学概論Ⅰ				選択必修	2	
		中国語学概論Ⅱ				選択必修	2	
			中国語文法論Ⅰ			選択	2	
			中国語文法論Ⅱ			選択	2	
			中国語語彙論Ⅰ			選択	2	
			中国語語彙論Ⅱ			選択	2	
			中国語音韻論Ⅰ			選択	2	
			中国語音韻論Ⅱ			選択	2	
			中国語音声学Ⅰ			選択	2	
			中国語音声学Ⅱ			選択	2	
			中国語史Ⅰ			選択	2	
			中国語史Ⅱ			選択	2	
				日中比較言語Ⅰ		選択	2	
				日中比較言語Ⅱ		選択	2	
				広東語Ⅰ		選択	2	
				広東語Ⅱ		選択	2	
				福建語Ⅰ		選択	2	
				福建語Ⅱ		選択	2	
	韓国語専攻		韓国語学概論Ⅰ			選択必修	2	
			韓国語学概論Ⅱ			選択必修	2	
			韓国語文法論Ⅰ			選択	2	
			韓国語文法論Ⅱ			選択	2	
			日韓対照言語研究Ⅰ			選択	2	
			日韓対照言語研究Ⅱ			選択	2	
			韓国語学特講Ⅰ			選択	2	
			韓国語学特講Ⅱ			選択	2	
			韓国語社会言語学Ⅰ			選択	2	
			韓国語社会言語学Ⅱ			選択	2	
			韓国語文章表現法			選択	2	
			韓国語意味論			選択	2	
			韓国語史Ⅰ			選択	2	
			韓国語史Ⅱ			選択	2	

コミュニケーション研究

		1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件
アジア言語学科	中国語専攻			ビジネス中国語Ⅰ(a)		選択	2	
				ビジネス中国語Ⅰ(b)		選択	2	
				ビジネス中国語Ⅱ(a)		選択	2	
				ビジネス中国語Ⅱ(b)		選択	2	
				中国語通訳法Ⅰ(a)		選択	2	
				中国語通訳法Ⅰ(b)		選択	2	
				中国語通訳法Ⅱ(a)		選択	2	
				中国語通訳法Ⅱ(b)		選択	2	
	韓国語専攻			韓国語映像翻訳法Ⅰ		選択	2	
				韓国語映像翻訳法Ⅱ		選択	2	

総合文化研究

		1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件
アジア言語学科	中国語専攻	中国思想概論Ⅰ				選択必修	2	
		中国思想概論Ⅱ				選択必修	2	
		中国文化概論Ⅰ				選択必修	2	
		中国文化概論Ⅱ				選択必修	2	
		中国文学概論Ⅰ				選択必修	2	
		中国文学概論Ⅱ				選択必修	2	
		中国文学史Ⅰ				選択	2	
		中国文学史Ⅱ				選択	2	
			中国古典講読Ⅰ			選択	2	
			中国古典講読Ⅱ			選択	2	
				中国近世文学研究Ⅰ		選択	2	
				中国近世文学研究Ⅱ		選択	2	
			中国近代文学研究Ⅰ			選択	2	
			中国近代文学研究Ⅱ			選択	2	
			中国現代文学研究Ⅰ			選択	2	
			中国現代文学研究Ⅱ			選択	2	
	韓国語専攻	韓国文化概論Ⅰ				選択必修	2	
		韓国文化概論Ⅱ				選択必修	2	
			韓国文化特定研究Ⅰ			選択	2	
			韓国文化特定研究Ⅱ			選択	2	
			韓国映像文化論Ⅰ			選択	2	
			韓国映像文化論Ⅱ			選択	2	
			韓国の宗教・社会Ⅰ			選択	2	
			韓国の宗教・社会Ⅱ			選択	2	
				韓国現代文学研究Ⅰ		選択	2	
				韓国現代文学研究Ⅱ		選択	2	

地域・国際研究

		1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件
アジア言語学科	中国語専攻	アジア研究入門				必修	2	
		中国史概論Ⅰ				選択必修	2	
		中国史概論Ⅱ				選択必修	2	
		中国現代史Ⅰ				選択	2	
		中国現代史Ⅱ				選択	2	
		中国社会概論Ⅰ				選択必修	2	
		中国社会概論Ⅱ				選択必修	2	
			中国社会特殊研究Ⅰ			選択	2	
			中国社会特殊研究Ⅱ			選択	2	
		中国経済概論Ⅰ				選択必修	2	
		中国経済概論Ⅱ				選択必修	2	
			中国経済特殊研究Ⅰ			選択	2	
			中国経済特殊研究Ⅱ			選択	2	
		中国政治外交概論Ⅰ				選択必修	2	
		中国政治外交概論Ⅱ				選択必修	2	
			中国政治外交特殊研究Ⅰ			選択	2	
			中国政治外交特殊研究Ⅱ			選択	2	
			海外華人論Ⅰ			選択	2	
			海外華人論Ⅱ			選択	2	
		日中関係論Ⅰ				選択	2	
		日中関係論Ⅱ				選択	2	
	韓国語専攻	アジア研究入門				必修	2	
			韓国政治論Ⅰ			選択	2	
			韓国政治論Ⅱ			選択	2	
			韓国経済論Ⅰ			選択	2	
			韓国経済論Ⅱ			選択	2	
		韓国史概論Ⅰ				選択必修	2	
		韓国史概論Ⅱ				選択必修	2	
			韓国近代史Ⅰ			選択	2	
			韓国近代史Ⅱ			選択	2	
			韓国史特講Ⅰ			選択	2	
			韓国史特講Ⅱ			選択	2	
			古代日韓関係史			選択	2	
			中世日韓関係史			選択	2	

分野なし

		1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件
アジア言語学科	中国語専攻							
	韓国語専攻							

研究科目一覧

		言語研究							コミュニケーション研究							総合文化研究							地域・国際研究							分野なし						
		1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件	1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件	1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件	1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件	1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件
アジア言語学科	インドネシア語専攻																													アジア研究入門				必修	2	
																														インドネシア研究入門				必修	2	
																															インドネシアの民族・地理			選択必修	2	
																															インドネシアの歴史			選択必修	2	
																															インドネシアの文化・芸術			選択必修	2	
																															インドネシアの宗教・社会			選択必修	2	
																															インドネシアの政治・経済Ⅰ			選択必修	2	
																															インドネシアの政治・経済Ⅱ			選択必修	2	
	ベトナム語専攻																													アジア研究入門				必修	2	
																														ベトナム研究入門				必修	2	
																															ベトナムの民族・地理			選択必修	2	
																															ベトナムの歴史			選択必修	2	
																															ベトナムの文化・芸術			選択必修	2	
																															ベトナムの宗教・社会			選択必修	2	
																															ベトナムの政治・経済Ⅰ			選択必修	2	
																															ベトナムの政治・経済Ⅱ			選択必修	2	
	タイ語専攻																													アジア研究入門				必修	2	
																														タイ研究入門				必修	2	
																															タイの民族・地理			選択必修	2	
																															タイの歴史			選択必修	2	
																															タイの文化・芸術			選択必修	2	
																															タイの宗教・社会			選択必修	2	
																															タイの政治・経済Ⅰ			選択必修	2	
																															タイの政治・経済Ⅱ			選択必修	2	

研究科目一覧

言語研究

イベロアメリカ言語学科 スペイン語専攻

1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件
	スペイン語学概論Ⅰ			選択必修	2	
	スペイン語学概論Ⅱ			選択必修	2	
	スペイン語音声学Ⅰ			選択	2	
	スペイン語音声学Ⅱ			選択	2	
	スペイン語史Ⅰ			選択	2	
	スペイン語史Ⅱ			選択	2	
		アメリカスペイン語特殊研究Ⅰ		選択	2	
		アメリカスペイン語特殊研究Ⅱ		選択	2	
	日西語対照研究Ⅰ			選択	2	
	日西語対照研究Ⅱ			選択	2	
	商業スペイン語Ⅰ			選択	2	
	商業スペイン語Ⅱ			選択	2	

イベロアメリカ言語学科 ブラジル・ポルトガル語専攻

1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件

コミュニケーション研究

イベロアメリカ言語学科 スペイン語専攻

1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件
		スペイン語圏マス・コミュニケーション論Ⅰ		選択	2	
		スペイン語圏マス・コミュニケーション論Ⅱ		選択	2	
		スペイン語スピーチ・コミュニケーションⅠ		選択	2	
		スペイン語スピーチ・コミュニケーションⅡ		選択	2	
		スペイン語通訳法Ⅰ		選択	2	
	スペイン語翻訳法Ⅰ			選択	2	
	スペイン語翻訳法Ⅱ			選択	2	
		スペイン語映像翻訳法Ⅰ		選択	2	
		スペイン語映像翻訳法Ⅱ		選択	2	

イベロアメリカ言語学科 ブラジル・ポルトガル語専攻

1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件

総合文化研究

イベロアメリカ言語学科 スペイン語専攻

1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件
	スペイン文化研究Ⅰ			選択必修	2	
	スペイン文化研究Ⅱ			選択必修	2	
	スペイン文学史Ⅰ			選択必修	2	
	スペイン文学史Ⅱ			選択必修	2	
	現代スペイン文学Ⅰ			選択	2	
	現代スペイン文学Ⅱ			選択	2	
	現代ラテンアメリカ文学Ⅰ			選択	2	
	現代ラテンアメリカ文学Ⅱ			選択	2	
		ラテンアメリカ文学特殊研究Ⅰ		選択	2	
		ラテンアメリカ文学特殊研究Ⅱ		選択	2	
	スペイン美術史Ⅰ			選択	2	
	スペイン美術史Ⅱ			選択	2	
		ラテンアメリカの文化と文学		選択	2	

イベロアメリカ言語学科 ブラジル・ポルトガル語専攻

1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件

地域・国際研究

イベロアメリカ言語学科 スペイン語専攻

1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件
イベロアメリカ研究入門				必修	2	
イベリア史概論Ⅰ				選択必修	2	
イベリア史概論Ⅱ				選択必修	2	
	スペイン現代史Ⅰ			選択	2	
	スペイン現代史Ⅱ			選択	2	
	スペイン経済論Ⅰ			選択	2	
	スペイン経済論Ⅱ			選択	2	
ラテンアメリカ史概論Ⅰ				選択必修	2	
ラテンアメリカ史概論Ⅱ				選択必修	2	
	ラテンアメリカ現代史Ⅰ			選択	2	
	ラテンアメリカ現代史Ⅱ			選択	2	
	ラテンアメリカ経済論Ⅰ			選択	2	
	ラテンアメリカ経済論Ⅱ			選択	2	
	ラテンアメリカ研究Ⅰ			選択必修	2	
	ラテンアメリカ研究Ⅱ			選択必修	2	
ラテンアメリカ政治論Ⅰ				選択	2	
ラテンアメリカ政治論Ⅱ				選択	2	
	メキシコ特殊研究Ⅰ			選択	2	
	メキシコ特殊研究Ⅱ			選択	2	

イベロアメリカ言語学科 ブラジル・ポルトガル語専攻

1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件

分野なし

イベロアメリカ言語学科 スペイン語専攻

1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件

イベロアメリカ言語学科 ブラジル・ポルトガル語専攻

1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件
イベロアメリカ研究入門				必修	2	
ブラジル研究入門				必修	2	
	ブラジルの民族・地理			選択必修	2	
	ブラジルの歴史			選択必修	2	
	ブラジルの文化・芸術			選択必修	2	
	ブラジルの宗教・社会			選択必修	2	
	ブラジルの政治・経済Ⅰ			選択必修	2	
	ブラジルの政治・経済Ⅱ			選択必修	2	

研究科目一覧

国際コミュニケーション学科

国際コミュニケーション専攻

コミュニケーション研究							国際研究・日本研究							分野なし						
1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件	1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件	1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件
コミュニケーション論Ⅰ				選択	2									国際社会が見えてくる				選択	2	4単位まで履修可						
コミュニケーション論Ⅱ				選択	2									国際関係史Ⅰ				選択	2							
異文化コミュニケーション論Ⅰ				選択	2									国際関係史Ⅱ				選択	2							
組織コミュニケーション論Ⅰ				選択	2									国際関係論Ⅰ				選択	2							
メディア・コミュニケーション論Ⅰ				選択	2									国際関係論Ⅱ				選択	2							
非言語コミュニケーション論Ⅰ				選択	2									国際社会論Ⅰ				選択	2							
対人コミュニケーション論				選択	2									国際社会論Ⅱ				選択	2							
国際ビジネス・コミュニケーション論Ⅰ				選択	2									国際経済論Ⅰ				選択	2							
日本語プレゼンテーション				選択	4									国際経済論Ⅱ				選択	2							
日本語ディベート				選択	4									国際経営論Ⅰ				選択	2							
日本語スモールグループ・コミュニケーション				選択	4									国際経営論Ⅱ				選択	2							
英語パブリック・スピーキング				選択	4	C基準								国際法Ⅰ				選択	2							
英語ディベート				選択	4	B基準								国際法Ⅱ				選択	2							
英語説得コミュニケーション論				選択	4	B基準								比較文明論Ⅰ				選択	2							
日英翻訳法Ⅰ				選択	4	B基準								比較文明論Ⅱ				選択	2							
日英翻訳法Ⅱ				選択	4	＊10								民族と文化Ⅰ(a)				選択	2							
英日翻訳法Ⅰ				選択	4	B基準								民族と文化Ⅰ(b)				選択	2							
英日翻訳法Ⅱ				選択	4	＊10								民族と文化Ⅱ(a)				選択	2							
英語通訳法Ⅰ				選択	4									民族と文化Ⅱ(b)				選択	2							
英語通訳法Ⅱ				選択	4	C基準								日本近代思想史Ⅰ				選択	2							
英語通訳法Ⅲ				選択	4	B基準								日本近代思想史Ⅱ				選択	2							
英語通訳法Ⅳ				選択	4	A基準								日本倫理思想史Ⅰ				選択	2							
日中通訳法Ⅰ				選択	4	＊11								日本倫理思想史Ⅱ				選択	2							
日中通訳法Ⅱ				選択	4	＊11								日本文化研究（英語）Ⅰ				選択	2	C基準						
日韓・韓日通訳法Ⅰ				選択	2	＊12								日本文化研究（英語）Ⅱ				選択	2	C基準						
日韓・韓日通訳法Ⅱ				選択	2	＊12								日本社会研究（英語）Ⅰ				選択	2	C基準						
メディアと社会Ⅰ				選択	2									日本社会研究（英語）Ⅱ				選択	2	C基準						
メディアと社会Ⅱ				選択	2									日本史研究（英語）Ⅰ				選択	2	C基準						
メディアリテラシー				選択	2									日本史研究（英語）Ⅱ				選択	2	C基準						
ビジネスデータマネジメントⅠ				選択	2	＊13								日本文化論Ⅰ				選択	2							
ビジネスデータマネジメントⅡ				選択	2	＊14								日本文化論Ⅱ				選択	2							
ウェブサイトデザインⅠ				選択	2	＊15								日本の宗教Ⅰ				選択	2							
ウェブサイトデザインⅡ				選択	2									日本の宗教Ⅱ				選択	2							
マルチメディアⅠ				選択	2	＊16								日本政治論Ⅰ				選択	2							
マルチメディアⅡ				選択	2									日本政治論Ⅱ				選択	2							
コンピュータグラフィックデザインⅠ				選択	2									日本経済論Ⅰ				選択	2							
コンピュータグラフィックデザインⅡ				選択	2									日本経済論Ⅱ				選択	2							
														日本社会論Ⅰ				選択	2							
														日本社会論Ⅱ				選択	2							
														日本外交史Ⅰ				選択	2							
														日本外交史Ⅱ				選択	2							
														日本近代史				選択	2							
														日本現代史				選択	2							
														The Literatures of Japan				選択	2	C基準						
														The History of Modern Japan				選択	2	C基準						
														The History of Premodern Japan				選択	2	C基準						
														Japanese Popular Cultures				選択	2	C基準						
														Tourism and Local Culutures of Japan				選択	2	C基準						
														Japanese Religions				選択	2	C基準						

＊10　B基準かつ①「時事英語Ⅱ」②「Media EnglishⅡ（IC）」のいずれか
＊11　留学生：「日本語特別演習Ⅰ」履修済、「日本語能力試験(JLPT)N1」を取得済であること
　　一般学生：「中国語検定1級」相当
＊12　留学生：「日本語特別演習Ⅰ」を履修済かつ「日本語能力試験（JLPT）N1」を取得済であること
　　一般学生：「ハングル能力検定1級」相当
＊13　「データベースⅠ」を修得済みの学生は履修不可
＊14　「データベースⅡ」を修得済みの学生は履修不可
＊15　「ウェブサイトデザイン入門」を修得済みの学生は履修不可
＊16　「マルチメディア入門」を修得済みの学生は履修不可

国際ビジネスキャリア専攻

＊他専攻の学生は履修不可

分野なし						
1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件
キャリア研究Ⅰ				必修	2	
キャリア研究Ⅱ				必修	2	
キャリア研究Ⅲ				必修	2	
企業研究Ⅰ				必修	2	
企業研究Ⅱ				必修	2	
企業研究Ⅲ				必修	2	＊17
財務会計Ⅰ				必修	2	
財務会計Ⅱ				必修	2	

＊17　内容の異なる2クラス4単位まで履修可

研究科目一覧

どこの学科の指定もない科目

言語研究

1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件
日本語学概論				選択	4	
日本語学Ⅰ				選択	4	
日本語学Ⅱ				選択	4	
日本語学特論				選択	4	
	日本語教育概論			選択	2	＊18
	日本語教授法			選択	4	＊19
		日本語教育実習		選択	2	＊20
日本語表現法Ⅰ				選択	2	
日本語表現法Ⅱ				選択	2	
	社会言語学Ⅰ			選択	4	＊21
	社会言語学Ⅱ			選択	4	＊22
	心理言語学			選択	4	
	応用言語学			選択	4	
	意味・語用論			選択	4	
言語学特別研究				選択	4	
言語哲学Ⅰ				選択	2	
言語哲学Ⅱ				選択	2	
西洋古典語概論Ⅰ				選択	2	
西洋古典語概論Ⅱ				選択	2	
	教育英文法基礎			選択	2	
The Languages of Japan Ⅰ				選択	2	C基準
The Languages of Japan Ⅱ				選択	2	C基準

＊18 「日本語学概論」「日本語学Ⅰ」「日本語学Ⅱ」3科目履修済みであること
＊19 「日本語教育概論」修得済み、かつ全体のGPAが2.7以上であること
＊20 4単位まで履修可
一般学生：「日本語学概論」「日本語学Ⅰ」「日本語学Ⅱ」「日本語教育概論」「日本語教授法」取得済み、かつ全体のGPAが2.7以上であること
留学生：上記に加え「日本語能力試験（JLPT）N1」に合格していること
＊21 H25年度以前に「言語学特別研究」を修得済みの学生は履修不可
＊22 H25年度以前に「社会言語学」を修得済みの学生は履修不可

コミュニケーション研究

1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件
	異文化コミュニケーション論Ⅱ			選択	2	
	組織コミュニケーション論Ⅱ			選択	2	
メディア・コミュニケーション論Ⅱ				選択	2	
非言語コミュニケーション論Ⅱ				選択	2	
		コミュニケーション論特講		選択	4	
レトリカルコミュニケーション論				選択	2	
	国際ビジネス・コミュニケーション論Ⅱ			選択	2	
多文化社会コミュニケーション論Ⅰ				選択	2	
多文化社会コミュニケーション論Ⅱ				選択	2	
通訳・翻訳への招待				選択	2	
Media and Japanese Society				選択	2	C基準
	プログラミングⅠ			選択	2	
	プログラミングⅡ			選択	2	

総合文化研究

1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件
文化について考える				選択	2	4単位まで履修可
比較思想Ⅰ				選択	2	
比較思想Ⅱ				選択	2	
	比較文学概論Ⅰ			選択	2	
	比較文学概論Ⅱ			選択	2	
民族・宗教問題研究				選択	2	
キリスト教文化論Ⅰ				選択	2	
キリスト教文化論Ⅱ				選択	2	
イスラム文化論Ⅰ				選択	2	
イスラム文化論Ⅱ				選択	2	
	文化心理学Ⅰ			選択	2	
	文化心理学Ⅱ			選択	2	
スポーツ文化論Ⅰ				選択	2	
スポーツ文化論Ⅱ				選択	2	
文化人類学概論Ⅰ				選択	2	
文化人類学概論Ⅱ				選択	2	
文化人類学研究Ⅰ				選択	2	
文化人類学研究Ⅱ				選択	2	
身体運動文化論				選択	2	
健康科学論				選択	2	
人権論				選択	2	
ジェンダー論				選択	2	
日本美術史Ⅰ				選択	2	
日本美術史Ⅱ				選択	2	
日本芸能史Ⅰ				選択	2	
日本芸能史Ⅱ				選択	2	
日本文学論Ⅰ				選択	2	＊23
日本文学論Ⅱ				選択	2	＊24
日本大衆文化論				選択	2	
アート・マネジメント				選択	2	
児童文化論				選択	4	
演劇「実技」Ⅰ				選択	1	
演劇「実技」Ⅱ				選択	1	
日米比較教育論				選択	2	

＊23 「近代日本文学論」より名称変更。H22年度以前に「近代日本文学論」を修得済みの学生は履修不可
＊24 「現代日本文学論」より名称変更。H22年度以前に「現代日本文学論」を修得済みの学生は履修不可

地域・国際研究

1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件
国際機構論Ⅰ				選択	2	
国際機構論Ⅱ				選択	2	
国際取引法Ⅰ				選択	2	
国際取引法Ⅱ				選択	2	
国際マーケティング論				選択	2	
多国籍企業論				選択	2	
国際協力入門				選択	2	
国際平和論Ⅰ				選択	2	
国際平和論Ⅱ				選択	2	
国際開発論Ⅰ				選択	2	
国際開発論Ⅱ				選択	2	
国際ボランティア				選択	2	
東アジア政治経済論Ⅰ				選択	2	
東アジア政治経済論Ⅱ				選択	2	
ヨーロッパ政治経済論Ⅰ				選択	2	
ヨーロッパ政治経済論Ⅱ				選択	2	
アフリカ研究入門Ⅰ				選択	2	
アフリカ研究入門Ⅱ				選択	2	
憲法Ⅰ				選択	2	
憲法Ⅱ				選択	2	
社会思想史Ⅰ				選択	2	
社会思想史Ⅱ				選択	2	
現代国家論Ⅰ				選択	2	
現代国家論Ⅱ				選択	2	
社会調査法Ⅰ				選択	2	
社会調査法Ⅱ				選択	2	
環境科学Ⅰ				選択	2	
環境科学Ⅱ				選択	2	
企業財務Ⅰ				選択	2	
企業財務Ⅱ				選択	2	
民法概論Ⅰ				選択	2	
民法概論Ⅱ				選択	2	
商法概論Ⅰ				選択	2	
商法概論Ⅱ				選択	2	
米国契約法				選択	2	＊25
法と国際ビジネス				選択	2	
International Relations: Japan in the Asian Context				選択	2	C基準
Japanese Politics				選択	2	C基準
英国文化実地研究				選択	4	
米国文化実地研究				選択	4	
オセアニア文化実地研究				選択	4	
カナダ文化実地研究				選択	4	
マレーシア文化実地研究（英語）				選択	4	

＊25 「米国契約法Ⅰ」「米国契約法Ⅱ」を修得済みの学生も履修可

分野なし

1年	2年	3年	4年	区分	単位	履修条件
東南アジア研究入門Ⅰ				選択	2	
東南アジア研究入門Ⅱ				選択	2	
東南アジア史Ⅰ				選択	2	
東南アジア史Ⅱ				選択	2	
東南アジアの宗教と文化Ⅰ				選択	2	
東南アジアの宗教と文化Ⅱ				選択	2	
東南アジア社会論Ⅰ				選択	2	
東南アジア社会論Ⅱ				選択	2	
東南アジア政治経済論Ⅰ				選択	2	
東南アジア政治経済論Ⅱ				選択	2	
	東南アジア言語概論Ⅰ			選択	2	
	東南アジア言語概論Ⅱ			選択	2	
	地域研究			選択	2	

⑹ 研究演習

【国際コミュニケーション学科　国際ビジネスキャリア専攻以外】

イ．研究演習を修得せず、「卒業研究」を履修しない場合、「研究科目」の卒業要件単位は、「研究演習」代替（４単位）および「卒業研究」代替（４単位）を含めて40単位（英米語学科では48単位）となります。（Ⅲ卒業の要件の研究科目と研究演習、卒業研究の加算単位数を参照）

ロ．研究演習は、同一の授業科目を２年連続して履修することができます。

４単位を超えて修得した場合、その単位数（４単位）は自由選択科目に充てられます。

科　目　名	履修年次	単位数		備　　考
		必修	選択	
研究演習	３～４		4	３年次には２科目まで、４年次には１科目のみ履修可

【国際コミュニケーション学科　国際ビジネスキャリア専攻】※

科　　目　　名	履修年次	必修単位数	備　　考
ビジネス研究演習Ⅰ(a) (b)	2	4（前後期各２）	
ビジネス研究演習Ⅱ(a) (b)	3	8（前後期各４）	
ポートフォリオ研究演習(a) (b)	4	4（前後期各２）	不合格の場合卒業再試対象とならない

※　国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻のみ履修可能

⑺ 卒業研究（国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻を除く※）

『時間割』の「卒業研究について」を参照してください。

「卒業研究」を履修しない場合、「研究科目」の卒業要件単位は、「卒業研究」代替（４単位）を含めて36単位となります。

科　目　名	履修年次	単位数		備　　考
		必修	選択	
卒業研究	4		4	履修資格を有する者に限る。

※　国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻の学生は、「ポートフォリオ研究演習」を履修するため「卒業研究」は履修できません。

⑻ 教職科目

イ．教育職員免許状取得に関わる授業科目は、１年次から履修できます。

ロ．教育職員免許状取得については、教務課及び教職用掲示板で指示することがあるので、注意してください。

ハ．教職科目のうち、「教職に関する科目」は、履修した場合自由選択科目として８単位まで卒業要件単位に充てることができます。ただし、「教育事前事後実習」、「教育実践実習Ⅰ」、「教育実践実習Ⅱ」は卒業要件単位に充てることはできません。

ニ．授業科目の一覧および履修年次については、「教職課程履修要項」（XIV）を参照してください。

ホ．「介護等体験実習」はハ．の８単位とは別に自由選択科目として１単位を卒業要件に充てることができます。

⑼ 自由選択科目

自由選択科目は、下記の科目を充てることができます。

イ．各科目群の要件を超えて修得した単位

ロ．４単位を超えて修得した研究演習（⑹研究演習　ロ．参照）

ハ．教職に関する科目８単位まで及び「介護等体験実習」（１単位）（⑻教職科目のハ．及びホ．参照）

ニ．放送大学授業科目（20単位まで）

ホ．千葉県私立大学間単位互換包括協定に基づく他大学の授業科目（20単位まで）

ヘ．千葉大学との単位互換協定に基づく千葉大学の授業科目（20単位まで）

ト．千葉工業大学との包括連携協定に基づく本学の定めた千葉工業大学の授業科目

（ニ～ト．Ⅸ他大学及び他機関で修得した単位の認定等について　１．単位の認定　参照）

チ．国内外留学制度を利用して修得した単位

リ．別表記載の科目

別表１

別表２（語学能力検定試験単位認定制度により修得した単位）

別表３（英語能力試験演習）

別表４（学部生が履修可能な大学院開講科目）

自由選択科目　別表１

授業科目の名称	履修年次	単位数		備　　考
		必修	選択	
キャリアデザイン	１～４		2	
キャリア開発	１～４		1	重複履修可
ビジネス・インターンシップⅠ	２～３		2	※１
ビジネス・インターンシップⅡ	２～４		2	※２
学習支援活動ボランティア	１～４		1	重複履修は不可、評価は「Ｐ」
国際ボランティア体験	１～４		2	４単位まで履修可、評価は「Ｐ」
海外実地研修（英語）	１～４		1～6	重複履修可、評価は「Ｐ」
海外実地研修（中国語）	１～４		1～6	
海外実地研修（韓国語）	１～４		1～6	
海外実地研修（スペイン語）	１～４		1～6	
海外実地研修（ポルトガル語）	１～４		1～6	
海外実地研修（インドネシア語）	１～４		1～2	重複履修可、評価は「A+、Ａ、Ｂ、Ｃ」
海外実地研修（ベトナム語）	１～４		1～2	
海外実地研修（タイ語）	１～４		1～2	
英語資格基礎Ⅰ	１～４		1	国際コミュニケーション学科国際コミュニケーション専攻は特別演習科目（必修） アジア言語学科中国語専攻･韓国語専攻は英語科目（選択必修） イベロアメリカ言語学科スペイン語専攻は外国語科目（選択必修）
英語資格基礎Ⅱ	１～４		1	
日本語総合講座Ⅱ	２～４		2	国際コミュニケーション学科留学生は外国語科目（選択必修） ※３
日本語総合講座Ⅳ	２～４		2	
トライ・中国語	１～４		1	・アジア言語・イベロアメリカ言語学科の学生は、それぞれの専攻地域言語以外の外国語を履修すること。 ・同一言語の履修は１回のみ。 ・異なる言語の履修は制限なし。
トライ・スペイン語	１～４		1	
トライ・韓国語	１～４		1	
トライ・フランス語	１～４		1	
トライ・ドイツ語	１～４		1	
トライ・イタリア語	１～４		1	
トライ・ロシア語	１～４		1	
トライ・アラビア語	１～４		1	
トライ・ベトナム語	１～４		1	
トライ・インドネシア語	１～４		1	
トライ・ポルトガル語	１～４		1	
トライ・タイ語	１～４		1	
トライ・外国語　特別講座	１～４		1	
トライ・ことばと文化	１～４		1	

※１　履修条件…・前年度に実施する選考に合格した者。
・「情報基礎Ⅰ・Ⅱ」を履修済み、あるいは同等の能力を持つ者。
・「ビジネス・インターンシップⅡ」も必ず履修すること。

※２　履修条件…「ビジネス･インターンシップⅠ」を履修した者､あるいは国内外を問わず在学中に35時間以上のインターンシップ体験を終了または実施中の者。

※３　履修希望者が多い場合は人数制限を行う場合もありますので、初回授業に必ず出席してください。

自由選択科目別表２

科　目　名	履修年次	単位数	備　　考
検定試験（英語）	１～４		＜英米語、国際コミュニケーション学科、インドネシア語、ベトナム語、タイ語、ブラジル・ポルトガル語専攻＞
		2	TOEIC 730-855、英検準１級、TOEFL ITP 550、TOEFL iBT 79、IELTS 6.0
		4	TOEIC 860-990、英検１級、TOEFL ITP 600、TOEFL iBT 100、IELTS 7.0
			＜中国語専攻、スペイン語専攻、韓国語専攻＞
		2	TOEIC 650-725、TOEFL ITP 520、TOEFL iBT 68、IELTS 5.5
		4	TOEIC 730-855、英検準１級、TOEFL ITP 550、TOEFL iBT 79、IELTS 6.0
		6	TOEIC 860-990、英検１級、TOEFL ITP 600、TOEFL iBT 100、IELTS 7.0
検定試験（中国語）	１～４		＜中国語専攻＞
		2	中国語検定試験　２級　あるいは　新漢語水平考試（新HSK）５級（210点未満）
		4	中国語検定試験　準１級　あるいは　新漢語水平考試（新HSK）５級（210点以上）
		6	中国語検定試験　１級　あるいは　新漢語水平考試（新HSK）６級＋口試高級※
			＜中国語専攻以外＞
		2	中国語検定試験　３級　あるいは　新漢語水平考試（新HSK）４級
		4	中国語検定試験　２級　あるいは　新漢語水平考試（新HSK）５級（210点未満）
		6	中国語検定試験　準１級　あるいは　新漢語水平考試（新HSK）５級（210点以上）
検定試験(スペイン語)	１～４		＜スペイン語専攻＞
		1	DELE初級A2、スペイン語技能検定４級
		2	DELE中級B1
		3	DELE中上級B2
		4	スペイン語技能検定３級
		5	DELE上級C1、スペイン語技能検定２級
		6	DELE最上級C2、スペイン語技能検定１級
			＜スペイン語専攻以外＞
		1	DELE入門A1、スペイン語技能検定５級
		2	DELE初級A2、スペイン語技能検定４級
		3	DELE中級B1
		4	DELE中上級B2、スペイン語技能検定３級以上
検定試験（韓国語）	１～４		＜韓国語専攻＞
		2	ハングル能力検定試験準２級、韓国語能力試験４級
		4	ハングル能力検定試験２級、韓国語能力試験５級
		6	ハングル能力検定試験１級、韓国語能力試験６級
			＜韓国語専攻以外＞
		2	ハングル能力検定試験４級、もしくは韓国語能力試験２級
		4	ハングル能力検定試験３級、もしくは韓国語能力試験３級
		6	ハングル能力検定試験準２級、もしくは韓国語能力試験４級
検定試験(インドネシア語)	１～４		＜インドネシア語専攻＞
		2	インドネシア語技能検定試験Ｃ級
		3	インドネシア語技能検定試験Ｂ級
		4	インドネシア語技能検定試験Ａ級
			＜インドネシア語専攻以外＞
		2	インドネシア語技能検定試験Ｄ級
		3	インドネシア語技能検定試験Ｃ級

科　目　名	履修年次	単位数	備　　考
検定試験(ポルトガル語)	1 ～ 4		＜ブラジル・ポルトガル語専攻＞
		1	国際ポルトガル語検定　準初級　(CIPLE)
		2	国際ポルトガル語検定　初級　(DEPLE)
		3	国際ポルトガル語検定　中級　(DIPLE)
		4	ブラジル教育省による外国人のためのポルトガル語検定試験　中級
			＜ブラジル・ポルトガル語専攻以外＞
		2	国際ポルトガル語検定　準初級　(CIPLE)
		3	国際ポルトガル語検定　初級　(DEPLE)
		4	国際ポルトガル語検定　中級　(DIPLE)
			ブラジル教育省による外国人のためのポルトガル語検定試験　中級
検定試験(フランス語)	1 ～ 4	1	実用フランス語技能検定 4 級
		2	実用フランス語技能検定 3 級、TCF レベル 1 、DELF A 1
		3	実用フランス語技能検定準 2 級、TCF レベル 2 、DELF A 2
		4	実用フランス語技能検定 2 級以上、TCF レベル 3 以上、DELF B 1 以上
検定試験（ドイツ語）	1 ～ 4	1	ドイツ語技能検定 4 級
		2	ドイツ語技能検定 3 級
		3	ドイツ語技能検定 2 級以上
検定試験(イタリア語)	1 ～ 4	1	実用イタリア語検定 5 級
		2	実用イタリア語検定 4 級
		3	実用イタリア語検定 3 級以上
検定試験(アラビア語)	1 ～ 4	1	実用アラビア語検定 6 級
		2	実用アラビア語検定 5 級以上
検定試験（日本語）	1 ～ 4	2	BJT ビジネス日本語能力テストJ 1　レベル（530～599点）
		4	BJT ビジネス日本語能力テストJ 1 + レベル（600～800点）

※ 「新HSK 6 級」と「口試高級」の取得は、同一学期でなくとも申請を受け付けます。

上記の検定試験（外国語）は、成績評価「P」となり、認定は学期毎に行います。また、2 回目以降の単位認定は、すでに認定された単位を差し引いた単位数だけ認定されます。

検定試験（日本語）については国際コミュニケーション学科の「外国人留学生特別選抜試験」を経て入学した外国人留学生もしくは、在留資格が「留学」となっている外国人留学生のみ認定されます。

認定にあたっては、教務課窓口にて所定の申請手続きが必要です。申請期間は、前・後期の履修登録後に設けます。認定された単位は履修上限には含まれません。詳しい申請期間やスコアの有効期間、手続き方法等は学内掲示板で確認して下さい。

自由選択科目別表３

⑴　英語能力試験演習（TOEIC）

	科　目　名	履修年次	単位数	備　　考
①	英語能力試験基礎演習（TOEIC）	１～４	1	**TOEIC600点を目指すコース** 履修条件:TOEIC600点未満の国際コミュニケーション学科国際コミュニケーション専攻以外の学生
②	英語能力試験演習（TOEIC）Ⅰ	１～４	2	**TOEIC650点を目指すコース（注１）** 履修条件:TOEIC500点以上650点未満または「英語資格基礎Ⅰ・Ⅱ」履修済みで、TOEIC650点未満
③	英語能力試験演習（TOEIC）Ⅱ	１～４	2	**TOEIC730点を目指すコース** 履修条件：TOEIC650点以上730点未満
④	英語能力試験演習（TOEIC）Ⅲ	１～４	2	**TOEIC860点を目指すコース** 履修条件：TOEIC730点以上860点未満

⑵　英語能力試験演習（TOEFL）（注２）

	科　目　名	履修年次	単位数	備　　考
⑤	英語能力試験演習（TOEFL）Ⅰ	１～４	1	**TOEFLＣ基準を目指すコース（ITPコースまたはiBTコース）** 履修条件：TOEFL C基準（ITP480点，iBT54）未満
⑥	英語能力試験演習（TOEFL）Ⅱ	１～４	1	**TOEFLＢ基準を目指すコース（ITPコース）** 履修条件:TOEFLＣ基準（ITP480，iBT54）以上B基準（ITP520，iBT68）未満
⑦	英語能力試験演習（TOEFL）Ⅲ	１～４	1	**TOEFLＡ基準を目指すコース（ITPコース）** 履修条件:TOEFLＢ基準（ITP520，iBT68）以上A基準（ITP550，iBT79）未満
⑧	英語能力試験演習（TOEFL）iBT	１～４	2	**TOEFL iBT80を目指すコース** 履修条件：TOEFL ITP520以上

※「英語能力試験演習（TOEFL）Ⅲ」と「英語能力試験演習（TOEFL）iBT」は、同時履修できます。また、TOEIC とTOEFL の各科目を両方履修することもできます。評価は「P」または「F」となります。

第１回授業に、必ず直近のTOEIC/TOEFLスコア（公開テストおよび学内IP/ITPテストのどちらも可）を持参して下さい。

※　英語能力試験演習（TOEIC）及び英語能力試験演習（TOEFL）の履修者で、自由選択科目別表２の「検定試験（英語)」で定められたスコアを超えた場合は、申請すればさらに単位認定を受けることができます。対象となるスコアと認定される単位数は、学科・専攻により異なるので上記の表を参照してください。

（注１）：国際コミュニケーション学科の学生は、同一レベルの「英語資格特別演習」（特別演習科目p.31）を必修科目として履修するため、履修できません。

（注２）：英米語学科の学生が履修する場合、英米語学科英語科目選択必修科目となります。

自由選択科目別表４

学部生が履修可能な大学院開講科目一覧

＜全科目共通履修条件＞

１．科目担当教員の承認を事前に受けること。

２．学部３・４年次生であること。

（注意）以下の科目の講義概要については、シラバスの大学院科目欄を参照のこと。

科　目　名	単位数	担当教員名	履修条件（学部科目）
言語学概論	4	岩　本　遠　億	特になし
日英対照言語研究	4	遠　藤　喜　雄	英語学概論または日本語学Ⅱを修得済
日本語学研究 （語彙・意味）	4	岩　本　遠　億	日本語学概論または日本語学Ⅱ、もしくは英語学概論を修得済
日本語学研究 （統語）	4	長谷川　信　子	日本語学概論または日本語学Ⅱ、もしくは英語学概論を修得済
日本語学研究 （方言・日本語史）	4	木　川　行　央	日本語学Ⅰを修得済
日中対照言語研究	4	井　上　　優	特になし
日韓対照言語研究 （院）	4	浜之上　　幸	１．韓国語学概論Ⅰ・Ⅱを修得済、かつ２．言語研究プログラムの演習科目を履修し、卒業研究執筆予定の者
日本語教育学研究	4	堀　場　裕紀江	日本語教授法を修得済
日本語教育文法研究	4	青　木　ひろみ	日本語教授法を修得済
日本語教育教材研究	4	広　瀬　和佳子	日本語教授法を修得済
言語文化研究	4	遠　藤　喜　雄	特になし
談話分析研究	4	遠　藤　喜　雄	英語学概論または日本語学概論または日本語学Ⅱを修得済
社会言語学研究	4	Sau Kuen Fan	コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱを修得していることが望ましい

Ⅶ　試験及び学力評価について

1．試　験

1）試験の種類

試験の種類は、次の３種類です。

イ．期末試験

ロ．平常試験

ハ．レポート

上記の他、追試験及び進級再試験、卒業再試験、教職科目再試験、選択外国語科目再試験があります。

2）期末試験

イ．期末試験とは、その試験の結果により当該科目の単位修得の可否及び成績評価を決定づける試験であり、原則として授業期間の最終週授業時に行われるものをさします。

ロ．追試験は、以下の理由で期末試験に欠席し、担当教員に承認された場合、受験することができます。受験を希望する場合、必ず証明書を持参して教務課に申し込んでください。証明書のない場合は、追試験の申し込みは出来ません。ただし、すべての科目で追試験が実施されるとは限らないので注意して下さい。公欠（以下の理由A及びB）によって期末試験を受験できなくなった学生については、所定の手続きを取れば受験できなかった全ての科目で追試もしくはそれに代わる措置を講じるものとします。ただし、その場合でも追試設定日やレポート提出期限は、前期は８月中旬まで、後期は２月上旬を限度とします。

理　　由	証　明　書
A．（公欠）学校感染症	登校許可書
B．（公欠）裁判員制度による欠席	出頭命令書
C．病気（学校感染症を除く）	医師の診断書または病院の支払い証明書等
D．忌引（三親等以内の通夜と葬儀。法事は含まない。）	葬儀の日程などがわかる印刷物
E．就職試験	就職試験受験を証明するもの
F．災害（台風・水害・火災等）	被災証明書
G．交通関係	遅延証明書（遅延）、事故証明書（事故）
H．教育実習	教育実習参加証明書（教職係にて発行）
Ⅰ．体育スポーツセンターが認定する公式戦への出場	体育スポーツセンター長・学生委員長連名の欠席届

ハ．追試験の申し込みについては、次のことに注意してください。

①　追試験の受験を希望する場合、事前に担当教員へ直接連絡してください。ただし教員から追試験についての指示や連絡先が教えられていない場合には、教務課まで連絡してください。急な欠席の場合は当日中（やむを得ない場合は翌日の17時まで）に連絡してください。連絡のない場合には、追試験の受験資格がなくなります。追試験申請手続きは、当該科目の試験日から１週間以内に、教務課に証明書等を持参して追試験願（指定書式）を提出してください。当該科目担当教員から受験が許可された場合、追試験手数料（１つの事由につき１律1,500円）を納入して、手続きをしてください。

②　寝坊や勘違いなどの学生本人の責任に帰する理由は、一切認めません。

3）平常試験

イ．通常授業中に行う平常試験では、教務課手続きによる追試験はありません。欠席等の場合は、直接担当教員に連絡して指示を受けてください。

ロ．公欠の場合は追試験は行われますが教務課での手続きは不要です。実施時期については、担当教員の指示を受けて下さい。

4）レポート

イ．レポートは、提出方法、提出期限、用紙等を十分に担当教員に確認のうえ、必ず学生本人が科目担当教員に提出してください。

ロ．公欠の場合には、レポートの提出期限は延長できるものとします。教務課での手続きは不要です。提出期限については、担当教員の指示を受けて下さい。

5）受験上の注意

イ．試験会場においては、学生証（追試験の場合は追試験手数料領収書を、進級再試験、卒業再試験、教職科目再試験、選択外国語科目再試験の場合は受験票を添える）を、必ず机上に置いてください。学生証を所持しない学生は、受験できません。ただし、学生証を忘れた場合、教務課で「仮学生証」（当日のみ有効）の交付を受けてください。

ロ．試験開始後、15分以上の遅刻者は、受験することができません。また試験開始後20分を過ぎるまでは退場できません。入退室の許可については、担当教員の指示に従ってください。

ハ．試験答案に記名を忘れた場合は、未受験の扱いとなります。

ニ．スマートフォン・携帯電話・ウェアラブル端末・その他の電子機器類は、電源を切ってかばんの中にしまってください。

ホ．その他試験について別途指示することがあるので、注意してください。

6）不正行為厳禁

イ．レポートや論文で、他人が書いたものやインターネットの記述を丸写ししたり、資料や情報の出典を明記せずに使用してはいけません。それは剽窃（盗作）に当たり不正行為であり、著作権を侵害する犯罪です。

ロ．期末試験・平常試験で不正行為をした場合は、①その科目の単位は失格（不合格）となり、かつ、②当該学期の全履修登録科目も失格（不合格）となります。③さらに、譴責（けんせき）や停学等の処分を受けることがあります。

不正行為とは、試験（クイズ、小試験、平常試験、期末試験のすべてを含む）において正当な手段をとらずに自己の解答を作成すること、他人の不正行為を助けたり、監督者の指示に従わないことです。例えば、他の学生の答案を見る、他の学生に自分の答案を見せる、答えを口頭で教える、カンニングペーパーを使用する、などの行為です。

なお、疑われるような不審な行動も不正行為とみなされます。試験場では必ず注意事項を守り、監督者の指示に従うようにしてください。監督者の指示に従わないことも不正行為となります。

2．学力の評価

1）学力の評価

評価は「A+」、「A」、「B」、「C」、「F」、「P」の６種類によって表示します。

その基準は下記によります。

100～90点	A+	合格
89～80点	A	
79～70点	B	
69～60点	C	
認　定	P	
59～０点	F	不合格

ただし、卒業再試験、進級再試験（アジア言語学科、イベロアメリカ言語学科のみ）、教職科目再試

験・選択外国語科目再試験（英米語学科のみ）の評価は、「C」、「F」の２種類によって表示します。

２）成績発表

成績は、成績通知表をもって通知します。成績通知表は再交付しませんので、各自大切に保管してください。成績通知表の交付については、KUIS Campus Webおよび掲示板で連絡します。

３）卒業要件の確認

イ．KUIS Campus WebのMy時間割画面及び成績通知表によって、学期毎に卒業要件、研究プログラムの修了要件を自分がどれだけ充たしているかを確認してください。確認を怠って４年間での卒業が困難とならないよう慎重に学修計画をたててください。

ロ．成績通知表下部の「卒業要件充足状況」の見方について

A）卒業最低単位：

●卒業に必要な単位が、各科目群（外国語科目・地域言語科目・選択外国語科目・特別演習科目・基礎科目・研究科目・自由選択科目）ごとに表示されています。この各科目群ごとの単位を合計すると「合計単位」欄に表記されている数字になります。「総修得単位」欄は、空欄になっています。

◆研究プログラム修了要件である24単位を意味する24が、「研究プログラム」欄に表示されています。研究プログラムは、合計で24単位以上取得することが卒業要件です。また、研究プログラムの予備登録は、２年次に行い、３年次に本登録を行います。従って、１年生の場合、研究プログラムの欄は、表示されません。

B）修得済単位：

上記A）の●各科目群で定められた卒業に必要な単位と◆研究プログラム修了要件単位に対し、現在までの取得済み単位数が表示されています。●各科目群で定められた必要単位に対する、現在までの取得合計単位数を見る場合には、「合計単位」の欄を確認してください。

「総修得単位」欄の数字が、「合計単位」欄の数字より大きい場合は、●や◆の単位としてカウントできない単位を含んでいます。

◆研究プログラム修了要件単位に対する、現在までの取得合計単位数を見る場合には、「研究プログラム」の欄を見てください。

C）不足単位：

上記A）からB）を引き算した数、すなわち、卒業するために不足している単位数が、ここに表記されています。もし、この各欄（但し、「総修得単位」の各欄を除く。これらの欄は、必ず空欄のまま）に０以外の数字が表記されている場合には、卒業するのに必要な単位に対し、その数字分の単位数が不足していることを意味します。

ハ．表示されない科目

成績証明書には付与された「F」は表示されません。

３．GPA

１）GPA とその利用目的

GPA とは、Grade Point Average の略で、高校の評定平均のように学業結果を総合的に判断する指標となるものです。成績評価の国際基準に対応するためだけではなく、自らが学習計画を策定する際の指標としても利用できます。その他、学習指導、進路指導、留学時の授業料免除の基礎資料としても利用されます。

２）GPAの計算式

学期毎に、個々の履修登録科目のGP（Grade Point）にその科目の単位数をかけ、その総和を履修登録科目の総単位数で割ってGPAを算出します。「F」評価（不合格）の科目も、GPA計算時の対象となります。認定科目（「P」or「F」）は、GPAの算出対象外です。

・成績評価基準

判　定	評　点	評　価	GP
合　格	100–90	A+	4.0
	89–80	A	3.0
	79–70	B	2.0
	69–60	C	1.0
	認　定	P	—
不合格	59点以下	F※	0

※認定科目は算出対象外

（例）：以下の６科目を履修登録し、その成績評価が次の通りであった。

【授業科目名】	【単位数】	【成績評価】	【単位数×Grade Point】
歴史学Ⅰ	2	A+	2 × 4 = 8
英語学概論	4	B	4 × 2 = 8
応用言語学	4	A+	4 × 4 =16
日本文化論Ⅰ	2	A	2 × 3 = 6
日本政治論Ⅰ	2	C	2 × 1 = 2
環境科学Ⅰ	2	F	2 × 0 = 0
合　　計	16単位①		40②

GPA：（②÷①）→40÷16＝2.5（小数点第２位で四捨五入）

４．成績確認制度

イ．成績確認制度は、成績評価に対して、自分の勉強成果が正しく反映しているかどうか疑いがある場合、科目担当教員に成績の確認を求める制度です。素点に関する確認や、成績変更の依頼などは認められません。

ロ．「成績確認」は、所定の期間内に教務課にて行ってください。この制度を利用せずに科目担当教員に成績の確認や訂正の依頼をすることはできません。

ハ．「成績確認」は、原則として本人が行ってください。

ニ．「成績確認」は、すべての評価が対象になります。

ホ．成績に関すること以外について「成績確認願」に記入した場合は受理されず「却下」となります。

ヘ．「成績確認願」提出にあたっては、できるかぎり主張を裏づける客観的資料を添付してください。なお、提出された資料は返却しないので、あらかじめコピーをとっておいてください。

５．２年次、３年次への進級再試験（アジア言語学科・イベロアメリカ言語学科）

イ．進級再試験は、以下の条件を充たした者のみ受験することができます。

①各専攻の基準を充たしていること。

＜中国語専攻＞

２年次への進級再試験…１年次地域言語科目のうち、前期の科目（３単位、１単位、２単位）･後期の科目（３単位、１単位、２単位）のいずれかが不合格であること。

３年次への進級再試験…２年次地域言語科目のうち、前期の科目（２単位、１単位、１単位、１単位、１単位）･後期の科目（２単位、１単位、１単位、１単位、１単位）のいずれかが不合格であること。

例１）

前　　期		後　　期		再試験受験資格＊
中国語総合Ⅰ(a)	合　格	中国語総合Ⅰ(b)	不合格	それぞれの不合格科目について受験資格あり
中国語作文Ⅰ(a)	不合格	中国語作文Ⅰ(b)	合　格	
中国語会話Ⅰ(a)	合　格	中国語会話Ⅰ(b)	不合格	

＊いずれもその他の要件を満たしていた場合に認められる。

例２）

前　　期		後　　期		再試験受験資格
中国語総合Ⅰ(a)	不合格	中国語総合Ⅰ(b)	不合格	中国語総合Ⅰが前期、後期ともに不合格のため受験資格なし
中国語作文Ⅰ(a)	不合格	中国語作文Ⅰ(b)	合　格	
中国語会話Ⅰ(a)	合　格	中国語会話Ⅰ(b)	不合格	

＜スペイン語専攻、韓国語専攻＞

２年次への進級再試験…１年次地域言語科目のうち、前期の科目（６単位）･後期の科目（６単位）のいずれかが不合格であること。

３年次への進級再試験…２年次地域言語科目のうち、前期の科目（６単位）･後期の科目（６単位）のいずれかが不合格であること。

＜インドネシア語専攻、ベトナム語専攻、タイ語専攻、ブラジル・ポルトガル語専攻＞

２年次への進級再試験…地域言語「基礎」科目Ⅰ・Ⅱ10単位の内、５単位以上修得していること。

３年次への進級再試験…地域言語「基礎」科目Ⅰ・Ⅱ10単位を修得しており、Ⅲ・Ⅳ８単位の内、４単位以上修得していること。

②定期試験を受験している科目であること。

③担当教員が再試験を許可すること。

ロ．進級再試験の受験を許可された場合は、必ず本人が所定の期日に進級再試験手数料（5,000円）を納入して手続きしてください。代理人による手続きは、一切認められません。

ハ．進級再試験の評価は、「C」、「F」の２種類によって表示します。

その基準は下記によります。

100～60点　C ―― 合　格

59～０点　F ―― 不合格

６．卒業再試験

イ．卒業再試験は、以下の条件を全て充たした４年次生のみ受験することができます。 ただし、すべての科目で卒業再試験が実施されるとは限らないので、注意してください。

①　卒業要件に対しての不足単位数が、８単位以内であること。

②　定期試験を受験している科目であること。

③　担当教員が再試験を許可すること。

④　再試験実施対象科目を合格した場合、卒業要件を充たすこと。

ロ．卒業再試験の受験を許可された場合は、必ず本人が所定の期日に卒業再試験手数料（１科目5,000円）を納入して手続きをしてください。代理人による手続きは、一切認められません。

ハ．卒業再試験の評価は、「C」、「F」の２種類によって表示します。

その基準は下記によります。

100～60点　C ―― 合　格

59～０点　F ―― 不合格

７．教職科目再試験

イ．教職科目再試験は、以下の条件を充たした４年次生のみ受験することができます。ただし、すべての科目で卒業再試験が実施されるとは限りません。

①　卒業要件及び教育職員免許状取得要件に対しての不足単位数の合計が、８単位以内であること。

②　定期試験を受験している科目であること。

③　担当教員が再試験を許可すること。

ロ．教職科目再試験の受験を許可された場合は、必ず本人が所定の期日に教職科目再試験手数料（１科目5,000円）を納入して手続きをしてください。代理人による手続きは、一切認められません。

ハ．教職科目再試験の評価は、「C」、「F」の２種類によって表示します。

その基準は下記によります。

100～60点　C ―― 合　格

59～０点　F ―― 不合格

８．選択外国語科目再試験

イ．選択外国語科目再試験は、以下の条件を充たした４年次生のみ受験することができます。

①Ⅰ(a) またはⅠ(b) の再試験……英米語学科の４年次生でⅠ(a)（前期・２単位）・Ⅰ(b)（後期・２単位）のいずれかが不合格であり、かついずれかが合格であること。

②定期試験を受験していること。

③担当教員が再試験を許可すること。

ロ．選択外国語科目再試験の受験を許可された場合は、必ず本人が所定の期日に選択外国語科目再試験手数料（１科目5,000円）を納入して手続きをしてください。代理人による手続きは、一切認められません。

ハ．選択外国語科目再試験の評価は、「C」、「F」の２種類によって表示します。

その基準は下記によります。

100～60点　C ―― 合　格

59～０点　F ―― 不合格

Ⅷ　研究プログラム履修要項

A　研究プログラム制の概要

1　研究プログラム制の目的

外国語学部の授業は、「言語教育」と「教養教育」とからなります。皆さんは、大学生活の４年間を通して多くの時間と労力を専攻語の学習に傾注することになります。しかしながら、それだけでは皆さんの大学教育が完成すると言うことはできません。なぜなら高度な外国語運用能力を修得するには、言語の背景にある歴史・文化・社会と言語の使い手である人間についての深い理解が不可欠だからです。教養教育は、自己と世界に関して、あるいは人間と社会に関して、今日の学問レベルに即し、幅広く、筋道立った理解を目指します。本学では、教養教育のための授業科目として、「基礎科目」「研究科目」「研究演習」「卒業研究」などが設定されていますが、これらの科目で修得した知識を有機的に外国語学習と連動させることにより、豊かな教養に支えられた言語運用能力を養うことができます。

教養教育の目的は、言語の背後にある歴史・文化・社会について幅広く知識を修得することだけではありません。知識を活用する能力、応用力を養うことが大切です。真の教養人になるためには、単に講義を聴いてその内容の理解を深めるだけではなく、自ら研究テーマを設定し、探求するという経験が必要です。本学では、２年次に下記のいずれかの研究プログラムに予備登録することになりますが、これは研究テーマを模索し、それについて探求するためには、早い段階から系統立った学習が必要と考えるからです。学生諸君には、各研究プログラムの学習内容に沿って専門領域の知識を修得し、さらに「研究演習（ゼミ）」「卒業研究」へと発展させていくことが期待されています。

研究プログラム制は、以下のように13の研究プログラムから成り立っています。

〈言語研究プログラム〉
〈コミュニケーション研究プログラム〉
〈「人間と文化」研究プログラム〉
〈日本研究プログラム〉
〈国際関係研究プログラム〉
〈国際ビジネス研究プログラム〉
〈国際協力研究プログラム〉
〈現代社会研究プログラム〉
〈アメリカ研究プログラム〉
〈中国研究プログラム〉
〈イベロアメリカ研究プログラム〉
〈韓国研究プログラム〉
〈東南アジア研究プログラム〉

本学を卒業するためには、これら13の「研究プログラム」のうちから一つを選択し、必要な単位数を修得して研究プログラムを修了することになります。

2　卒業要件としての研究プログラム

本学を卒業するためには、各学科および各科目群の指定する単位数を修得すると同時に、研究プログラムを修了しなくてはなりません。研究プログラムを修了するには、「プログラム指定研究科目」および「研究演習」「卒業研究」から合計24単位以上を修得する必要があります。Ⅲ　卒業の要件２－２）研究プログラム修了要件を参照してください。

① プログラム指定研究科目

「研究科目」は、〈言語研究〉〈コミュニケーション研究〉〈総合文化研究〉〈地域・国際研究〉の４分野（国際コミュニケーション学科は〈コミュニケーション研究〉と〈国際研究・日本研究〉の２分野）に分かれています。「研究科目」内のほとんどの科目は、学科あるいは専攻の指定する「学科指定研究科目・専攻指定研究科目」と13の研究プログラムの指定する「プログラム指定研究科目」から成ります。

例えば、「英語学概論」は、英米語学科の指定科目であると同時に、「言語研究プログラム」の指定科目でもあります。また、「日本語学概論」は、学科指定研究科目ではありませんが、「言語研究プログラム」の指定科目であり、「国際社会が見えてくる」は研究プログラムの指定研究科目ではありませんが、国際コミュニケーション学科の指定研究科目であるといった具合です。

このように「研究科目」を履修する場合は、どの学科の指定科目なのか、どの研究プログラムの指定科目なのかについて注意する必要があります。研究プログラムを修了するには、自分が選択した研究プログラムの指定研究科目から24単位を修得しなくてはなりません。

② 「研究演習」

研究演習はいわゆる少人数制のゼミナール（ゼミ）であり、自分の研究テーマに取り組む上で欠かせない科目です。**３年次には２科目（８単位）まで履修することができますが、４年次には研究演習は１科目（４単位）しか履修することができません。**

③ 「卒業研究」

４年次に「研究演習」を履修し、なおかつ「卒業研究」の履修を希望する場合、「研究演習」担当教員の指導の下で卒業研究に取り組むことになります。

3　研究プログラム履修上の心構え

・研究プログラムの登録

研究プログラムは、**２年次前期の履修登録で予備登録**をして、**３年次前期に本登録**をします。適切な研究プログラムを選択するためには、１年次から、自分がどのような分野に関心があるのか、関連する科目を履修して考えておく必要があります。２年次になると、大学生活にも慣れて、皆さんの知的世界は急速に広がることでしょう。知的関心の対象が広がることによって、自分がどのような分野を探求したいのか、より明確になるはずです。そこで、３年次前期の履修登録の際に、あらためて研究プログラムの本登録を行いますが、これが最終的な選択になります。２年次に選択したものとは異なる研究プログラムに変更することも可能です。

・研究演習（ゼミ）の履修

「研究演習」には、研究プログラムの指定はありません。例えば、「国際ビジネス研究プログラム」を選択した場合には、国際ビジネスに関する「研究演習」しか履修できないという制限はありません。

・研究科目のとり方

「研究演習」および「卒業研究」の修得単位は、８単位まで研究プログラム指定科目の修得単位に含まれます。このように単位数を設定したのは、皆さんが自分で研究テーマを設定し、それを探求する際に、研究プログラム指定科目に限定することなく、自分のテーマに関連する科目を幅広く履修してほしいという考え方に基づいているからです。

研究プログラム制の趣旨からいえば、１年次から４年次までの学年進行において、どのような科目を履修するのかが大切になります。授業担当教員に相談したり、「ゼミ説明会」等にも積極的に参加してください。

B　各研究プログラムの概要

1　言語研究プログラム

【プログラムの目的と概要】

ここで紹介されている13のプログラムはいずれも、専攻言語の学習とは独立して、大学ならではの学問を追求するプログラムです。その中にあって、〈言語研究プログラム〉は、各言語の習熟を主眼とする専攻語科目と異なり、言語そのものを研究の対象にし、専攻する言語のみならず、人間のことば一般についての深い洞察力を養い、言語の研究を手がかりにして人間や社会に関する理解を深める研究プログラムと言えます。

ことばそのものに関する研究には、それぞれの言語の音声・音韻（言語の中の音と音の組み合わせ方の仕組み）・語彙・文構造（語と語をつなぎ合わせて文を作る仕組み）・意味・語用（状況に応じたことばの用いられ方）・言語の歴史・共通方言と他の方言の関わりなど、さまざまな領域があります。これらの言語現象を観察し分析するのが「音声学」「音韻論」「統語論」「文法論」「意味論」「談話分析」といった科目群です。また、人間はどのようにして言語を習得するのかなどの問題を研究する「心理言語学」、言葉と社会の関わり合いを研究する「社会言語学」、日本語と専攻言語の間にはどのような違いがあるのかを考える比較対照研究、言語類型論の視点から東南アジア言語を考察する「東南アジア言語概論」の科目群があります。言語をめぐるこれらの多種多様な現象の研究の中で、情報を収集・吟味し、問題を把握・分析することを通じて思考力が養われますが、この能力は言語をめぐる考察に限らず、将来、社会の様々な場面で役立つでしょう。

一方、外国語の習得に焦点を当てて研究する科目もあります。効果的な外国語学習法を学ぶ「英語習得法」、外国語としての言語の習得の問題を研究する「第二言語習得研究」、言語学の研究成果を言語教育などに応用する「応用言語学」などは、専攻言語の能力を伸ばすためにも大いに役立つでしょう。また、「現代英文法」とその各論である「英語語法研究」「英語構文研究」は、英文法を様々な観点から研究する科目ですが、英語運用能力を高める上でも有効です。

言語研究プログラムの科目として、母語である日本語の研究、外国人に対する日本語教授法の研究など、「日本語教員養成課程」の科目群の一部が履修できます。また、第二言語習得研究、児童に対する英語指導法の研究など、「児童英語教員養成課程」の科目群の一部も履修できます。

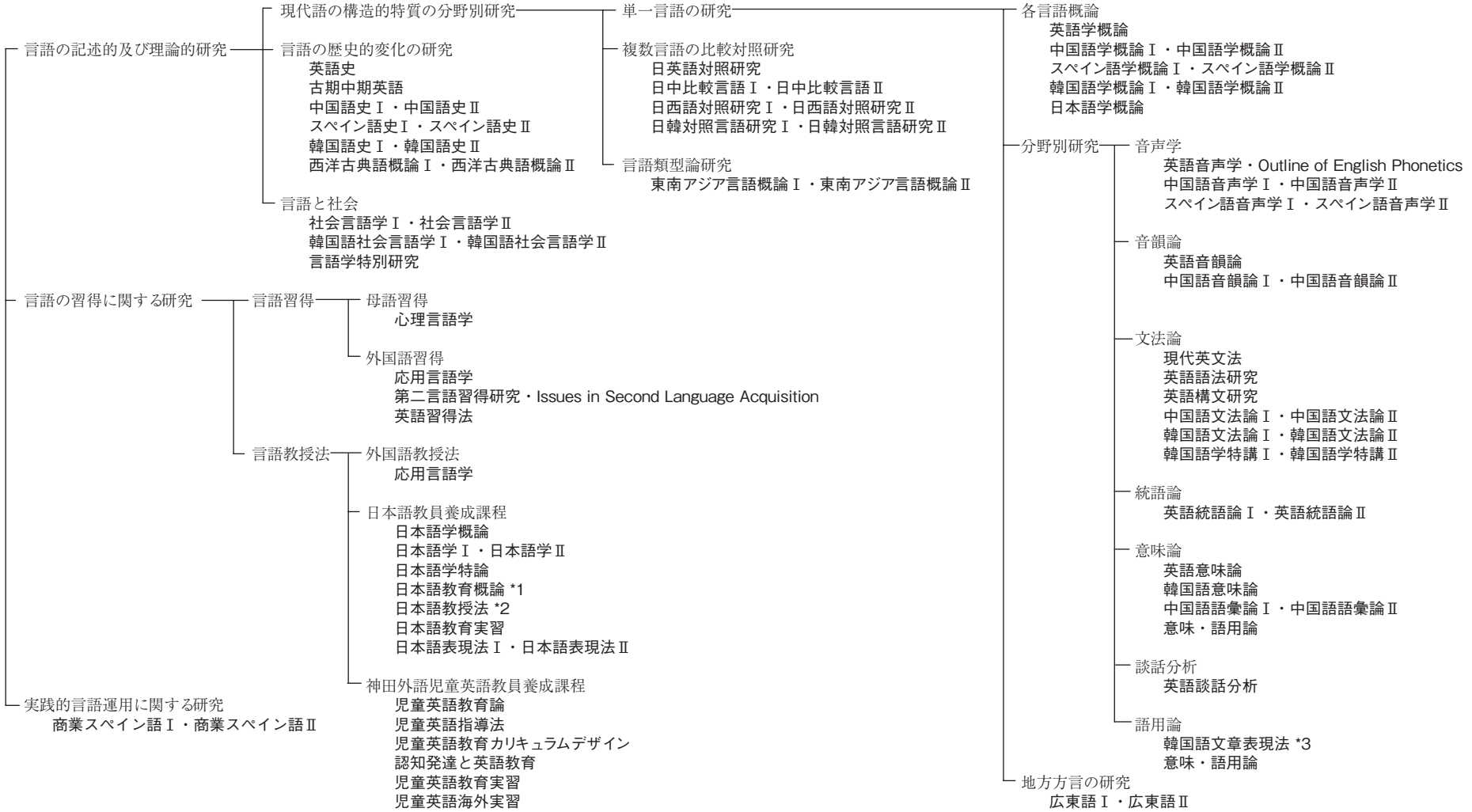
【プログラムを選択する心構えとして】

〈言語研究プログラム〉は「ことば」そのものを研究するプログラムですから、人一倍ことばに関する興味と好奇心を持っていることがなにより大切です。これまで日本語や外国語の文法や語法に関して「どうしてだろう？」という疑問を持ったことがある人、ことばの意味や用法について思考をめぐらすのが好きな人、何ごとにも興味をもつと同時に徹底的にやらないと気がすまないという凝り性の人、そういう人に〈言語研究プログラム〉は向いています。また外国語の学習は、自然に習得されてしまう母語の場合とは大きく異なりますので、〈言語研究プログラム〉に設定された多様な科目の履修を通して、専攻言語の特質に関する幅広い知識とすぐれた知見を得ることは、言語運用能力の向上にも必ず役立つはずです。

言語研究プログラム科目分類表（指定授業科目一覧）

※表中の**太字**が科目名

言語学Ⅰ・言語学Ⅱ（基礎科目：プログラム指定ではないが履修を推奨）
言語哲学Ⅰ・言語哲学Ⅱ



英語史
古期中期英語
中国語史Ⅰ・中国語史Ⅱ
スペイン語史Ⅰ・スペイン語史Ⅱ
韓国語史Ⅰ・韓国語史Ⅱ
西洋古典語概論Ⅰ・西洋古典語概論Ⅱ

日英語対照研究
日中比較言語Ⅰ・日中比較言語Ⅱ
日西語対照研究Ⅰ・日西語対照研究Ⅱ
日韓対照言語研究Ⅰ・日韓対照言語研究Ⅱ

東南アジア言語概論Ⅰ・東南アジア言語概論Ⅱ

社会言語学Ⅰ・社会言語学Ⅱ
韓国語社会言語学Ⅰ・韓国語社会言語学Ⅱ
言語学特別研究

心理言語学

応用言語学
第二言語習得研究・Issues in Second Language Acquisition
英語習得法

応用言語学

日本語学概論
日本語学Ⅰ・日本語学Ⅱ
日本語学特論
日本語教育概論 *1
日本語教授法 *2
日本語教育実習
日本語表現法Ⅰ・日本語表現法Ⅱ

児童英語教育論
児童英語指導法
児童英語教育カリキュラムデザイン
認知発達と英語教育
児童英語教育実習
児童英語海外実習

商業スペイン語Ⅰ・商業スペイン語Ⅱ

英語学概論
中国語学概論Ⅰ・中国語学概論Ⅱ
スペイン語学概論Ⅰ・スペイン語学概論Ⅱ
韓国語学概論Ⅰ・韓国語学概論Ⅱ
日本語学概論

英語音声学・Outline of English Phonetics
中国語音声学Ⅰ・中国語音声学Ⅱ
スペイン語音声学Ⅰ・スペイン語音声学Ⅱ

英語音韻論
中国語音韻論Ⅰ・中国語音韻論Ⅱ

現代英文法
英語語法研究
英語構文研究
中国語文法論Ⅰ・中国語文法論Ⅱ
韓国語文法論Ⅰ・韓国語文法論Ⅱ
韓国語学特講Ⅰ・韓国語学特講Ⅱ

英語統語論Ⅰ・英語統語論Ⅱ

英語意味論
韓国語意味論
中国語語彙論Ⅰ・中国語語彙論Ⅱ
意味・語用論

英語談話分析

韓国語文章表現法 *3
意味・語用論

広東語Ⅰ・広東語Ⅱ
福建語Ⅰ・福建語Ⅱ
アメリカスペイン語特殊研究Ⅰ・アメリカスペイン語特殊研究Ⅱ

*1 平成20年度以前入学者：日本語教育概論Ⅰ・日本語教育概論Ⅱも指定科目
*2 平成20年度以前入学者：日本語教授法Ⅰ・日本語教授法Ⅱも指定科目
*3 平成20年度より「韓国文字論」より科目名変更

2　コミュニケーション研究プログラム

【プログラムの目的と概要】

私たちは日々、コミュニケーションを取りながら生活しています。そして、社会のグローバル化と情報技術の発達とともに、コミュニケーションの範囲も地球規模に拡大しました。このプログラムでは、コミュニケーションとは何かという、単純そうでありながら、実は広がりと奥行きに満ちた問いを考えます。

コミュニケーションの研究範囲は多種多様です。送り手と受け手で考えても、国家間、民族間、社会階層間、世代間などがあります。その形態も、各国の文化と歴史を背景とした言語コミュニケーション、身振り手振りや図表数式などによる非言語コミュニケーションなどさまざまです。

コミュニケーションの場面も多様であり、少人数でのスモールグループ･コミュニケーション、議論によって互いの理解を深めるディベート、みんなの前で発表するプレゼンテーションなどがあります。そして互いに顔を突き合わせての対面のコミュニケーションから、電話や手紙のようなコミュニケーション、ネットワークを活用したＳＮＳなど多彩です。

【プログラムを選択する心構え】

コミュニケーションを学び始めるきっかけと探求していく道筋は人それぞれです。例えば良きコミュニケーターになりたいという漠然とした思いからプログラムを開始するのもよいでしょう。視点を変えることで見えるものがあるでしょう。国内で見つかりにくい答えが外国の文化を考えることで見つかったり、言語にないものが映像の中に含まれていたり、調和にあっては気づかないものが衝突で明らかになったりすることもあります。何気ない日々の中にも多くのヒントが得られるかもしれません。

コミュニケーション研究へのアプローチも多様です。そこで、それぞれの関心や興味に基づいて研究ができるように講義は５つの群に分類されています。特定の分野を深く探求する方法もあれば、幅広く学んで新たな発見を楽しむという方法もあります。コミュニケーションの窓を開くのは皆さん自身です。

コミュニケーション研究プログラム　科目分類表（指定授業科目一覧）

Ⅰ群　コミュニケーションとは何か

コミュニケーションは私たちが意思疎通を図るための行為です。あなたが円滑にコミュニケーションを行うためには、コミュニケーション行為の周囲にある状況・環境を考慮にいれなくてはいけません。この科目群ではコミュニケーション研究の意義、理論を学び、コミュニケーションにまつわるさまざまな事例を考えます。

コミュニケーション論Ⅰ	非言語コミュニケーション論Ⅰ	対人コミュニケーション論Ⅰ
コミュニケーション論Ⅱ	非言語コミュニケーション論Ⅱ	レトリカルコミュニケーション論
		コミュニケーション論特講

Ⅱ群　グローバル・コミュニケーション

地球規模で人と情報の往来が激しくなった現代では、国家や組織といった縦糸での相互理解が今まで以上に重要になるだけでなく、文化や地域を越えた横糸でのつながりの重要性も高まります。この科目群ではグローバル化する世界で必要とされるコミュニケーションを考察します。

異文化コミュニケーション論Ⅰ	日米コミュニケーション論	国際ビジネス・コミュニケーション論Ⅰ
異文化コミュニケーション論Ⅱ	組織コミュニケーション論Ⅰ	国際ビジネス・コミュニケーション論Ⅱ
多文化社会コミュニケーション論Ⅰ	組織コミュニケーション論Ⅱ	ビジネス中国語Ⅰ
多文化社会コミュニケーション論Ⅱ		ビジネス中国語Ⅱ

Ⅲ群　オーラル・コミュニケーション

言葉は私たちにとって一番身近なコミュニケーション・シンボルです。私たちは日常会話のみならず、スピーチ、討論などでも意思決定を行っています。この科目群ではコミュニケーションにおける言葉の役割、その効果的・戦略的な使い方を考え、その批評・分析などを行います。

日本語プレゼンテーション	英語談話分析	スペイン語スピーチコミュニケーションⅠ
日本語ディベート	英語パブリック・スピーキング	スペイン語スピーチコミュニケーションⅡ
日本語スモールグループ・コミュニケーション	英語ディベート	
	英語スモールグループ・コミュニケーション	
	英語オーラルインタープリテーション	
	英語説得コミュニケーション論	

Ⅳ群　情報社会のメディアコミュニケーション

メディアとしての情報技術は大きな可能性を担っています。マスメディアを超える勢いのネットメディアは、企業・政府・研究者には一次情報の役割も持ち、SNSやブログは市民メディアを支えています。この群では情報化が社会やビジネスに与える影響、情報を判断する力、表現力、情報発信力を身につけます。

メディアリテラシー	メディアと社会Ⅰ	コンピュータグラフィックデザインⅠ
メディア・コミュニケーション論Ⅰ	メディアと社会Ⅱ	コンピュータグラフィックデザインⅡ
メディア・コミュニケーション論Ⅱ	ビジネスデータマネジメントⅠ	マルチメディアⅠ（※1）
スペイン語圏マスコミュニケーション論Ⅰ	ビジネスデータマネジメントⅡ	マルチメディアⅡ
スペイン語圏マスコミュニケーション論Ⅱ	プログラミングⅠ	ウェブサイトデザインⅠ（※2）
	プログラミングⅡ	ウェブサイトデザインⅡ

Ⅴ群　通訳翻訳で文化をつなぐコミュニケーション

異なる言葉をつなぐ上では、どのような配慮が必要なのでしょうか。通訳と翻訳とは、単に言葉を訳すことではなく、それぞれの文化に配慮した相互理解の架け橋の役目を果たします。この科目群では、通訳翻訳に必要とされるコミュニケーションの知識およびその技能の養成を目指します。

通訳・翻訳への招待	日英翻訳法Ⅰ	スペイン語通訳法Ⅰ
通訳・翻訳理論（英語）	日英翻訳法Ⅱ	スペイン語翻訳法Ⅰ
	英日翻訳法Ⅰ	スペイン語翻訳法Ⅱ
	英日翻訳法Ⅱ	スペイン語映像翻訳法Ⅰ
	英語通訳法Ⅰ	スペイン語映像翻訳法Ⅱ
	英語通訳法Ⅱ	中国語通訳法Ⅰ
	英語通訳法Ⅲ	中国語通訳法Ⅱ
	英語通訳法Ⅳ	韓国語映像翻訳法Ⅰ
	コミュニティー英語通訳法	韓国語映像翻訳法Ⅱ
	英語映像翻訳法	

（※1）マルチメディア入門を履修済みの場合はマルチメディアⅠを履修できない。
（※2）ウェブサイトデザイン入門を履修済みの場合はウェブサイトデザインⅠを履修できない。

3 「人間と文化」研究プログラム

【プログラムの目的と概要】

「文化」という言葉はひじょうに多くの内容をもっています。というのも、人間を含めて与えられたものである「自然」に対し、人間の作り出したもの、作り出すものすべてが「文化」だといえるからです。人間は文化を作り出すことで、自然から抜け出し、自分たちの歴史を作ってきました。自然としての人間は、そのような文化的な存在としてしかありえないのです。そう考えてみれば、文化への問いとは、人間自体への問いでもあるといってもよいでしょう。

文化について関心をもつようになる動機にはいろいろあるでしょう。ある外国語を学んでいくうちに、その言語を話している人たちの背景にある文化に関心をもつようになることはきわめて自然な流れです。逆に、ある文化に興味を抱き、そこからその言語を学ぼうと決意した人もいるはずです。「文化とはなにか」「人間とはなにか」という根源的・哲学的な問題に興味の向かう人もいるでしょう。外国語の書物をたくさん読み込んで、文化や人間についてさまざまな知識を得たいと思う人もいるに違いありません。

〈「人間と文化」研究プログラム〉は、このような文化と人間そのものに関心をもち、それを学習の中心に据えていこうとする学生向けの研究プログラムです。文化研究をおこなう場合には、どのような場合でも自らの所属している文化（われわれ日本人の場合であれば日本文化）を無視することはできません。というよりむしろ、自文化を深く理解することこそ、国際化した時代においてしっかりしたアイデンティティーをもつために、もっとも重要なのです。そのためには自文化を絶対化せず、他文化（他者）の存在を認め、たがいに協調していくことが必要です。したがって世界に存在する、多くの異なったものの見方や感じ方を知るように努めていきたいものです。文化は、宗教や文学、思想、芸術、教育など多くの分野で、いろいろなかたちをとって表現されています。そうした多方面の学問領域にふれることで、文化をとおして人間はどう共存しうるのかを学んでいけるでしょう。

したがって本プログラムは、そうした学問領域のかなりの部分をカバーするように組まれています。その際、個別的なものと一般的なものとを合せて学ぶことが望まれます。たとえば、各国文学のありようを学ぶ授業と、各国文学の影響関係等を学ぶ「比較文学概論」のような科目もあれば、個々の宗教や民族に関する科目に対して、複数の宗教と民族にまたがった問題を扱う「民族・宗教問題研究」といった科目などがそれです。さらに演劇をとおして自己表現の仕方を学ぶユニークな科目もこのプログラムの特色です。身についた文化を表現するのは、なにも文字をとおしてのみなされるのではなく、身体そのものをとおしてなされることが多々あるからです。そうした意味で、文化と表現は身体性と切り離すことはできないものです。また人間同士を尊重し合う根拠としての文化的背景を、男女差や人権意識のありようの違いを学んでいく必要もあるかもしれません。

【プログラムを選択する心構えとして】

〈「人間と文化」研究プログラム〉の内容が、このようなものであってみれば、おのずと必要とされる心構えといったものも決まってくるはずです。つまり、広く開かれた好奇心と、偏見のないものの見方です。ともに学問研究の基礎といっていいでしょう。そのためにも、日ごろから自らの拠って立つ自文化に対する知的関心を育てていくことが肝要です。日々起きている、身の回りの文化現象を見過ごすことなく、その根源を他との比較を通して学んでいく態度を涵養していくように努めてください。というのも、研究する対象を設定する前に一番求められるのは、なぜだろう、どうしてこうなるのか、あの国ではどうだろう、といった純粋な知的好奇心だからです。そうした内なる声に耳を傾けることが一番大切なことです。人間とは、文化とは、いくら探求しても、し尽くすことのできない永遠の謎なのですから。

〈「人間と文化」研究プログラム〉が提供する科目群は下記のように実に多様です。自分自身の知的好奇心を育むために、指定科目ではありませんが、毎週異なる教員が授業を受け持つ「文化について考える」を履修することをお勧めします。

「人間と文化」研究プログラム　科目分類表（指定授業科目一覧）

地域と文化		
英文学史Ⅰ	英文学講義Ⅰ	英文学研究Ⅰ
英文学史Ⅱ	英文学講義Ⅱ	英文学研究Ⅱ
米文学史Ⅰ	米国文化論Ⅰ	
米文学史Ⅱ	米国文化論Ⅱ	
中国文化概論Ⅰ	中国思想概論Ⅰ	中国文学概論Ⅰ
中国文化概論Ⅱ	中国思想概論Ⅱ	中国文学概論Ⅱ
韓国文化概論Ⅰ	韓国文化特定研究Ⅰ	東南アジアの宗教と文化Ⅰ
韓国文化概論Ⅱ	韓国文化特定研究Ⅱ	東南アジアの宗教と文化Ⅱ
スペイン文学史Ⅰ	スペイン文化研究Ⅰ	ラテンアメリカの文化と文学
スペイン文学史Ⅱ	スペイン文化研究Ⅱ	
民族と文化Ⅰ（a）	民族と文化Ⅱ（a）	
民族と文化Ⅰ（b）	民族と文化Ⅱ（b）	
比 較 文 化		
比較文明論Ⅰ	比較思想Ⅰ	比較文学概論Ⅰ
比較文明論Ⅱ	比較思想Ⅱ	比較文学概論Ⅱ
日英比較文化論Ⅰ	日米比較文化論Ⅰ	日米比較教育論
日英比較文化論Ⅱ	日米比較文化論Ⅱ	
人間の探求		
文化人類学概論Ⅰ	文化人類学研究Ⅰ	民族・宗教問題研究
文化人類学概論Ⅱ	文化人類学研究Ⅱ	文化心理学Ⅰ
キリスト教文化論Ⅰ	イスラム文化論Ⅰ	文化心理学Ⅱ
キリスト教文化論Ⅱ	イスラム文化論Ⅱ	スポーツ文化論Ⅰ
人権論	児童文化論	スポーツ文化論Ⅱ
ジェンダー論	アート・マネジメント	演劇「実技」Ⅰ
身体運動文化論		演劇「実技」Ⅱ
健康科学論		

※「文化について考える」：指定科目ではないが１～２年次での履修を推奨する。

4　日本研究プログラム

【プログラムの概要】

〈日本研究プログラム〉は、その名称からもわかるように日本の文化、思想、歴史、社会などについて学ぶための研究プログラムです。また、外国語学部という性格上、他の国や地域と日本との比較をとおして理解を進めるという設定の科目や、英語で学ぶ科目も用意されています。日本という限定は、一つの地域を指しているだけですから、研究する人の関心によって、学習の内容は多様なものとなるでしょう。プログラム内に設定された科目だけでなく、いろいろな領域の科目の中から、自分の関心にあった科目を体系的に選択し、まとまりのある学習を実現できるように配慮してください。

【プログラムの目的】

このプログラムを学ぶ目的が、学生それぞれによって異なるのは当然ですが、ここではそれを大きく三つのケースに分けて説明することにします。

まず、知識の追求です。これは、簡単にいえば、「日本について外国の人にうまく説明できるようになりたい」といった種類のものです。外国の言語や文化を学んでいるうちに、外国の人々と話をする機会が生まれてきます。そのような場面では、日本の社会や歴史、文化について質問されることが多いはずです。なぜ日本人は生の魚を食べるのか、神社は寺とどう違うのか、こうした日本に特有の現象は、好奇心の的です。また、時には日本の第二次世界大戦中の行動について意見を求められるといったこともあるでしょう。アジアの多くの人々が、日本の近代化に強い関心を持っていますから、明治維新や戦後の高度経済成長などについて質問されることもあるかもしれません。

日本は急速な発展を遂げて先進国入りを果たしました。しかし、その途上で深刻な公害を経験し、その後においてもバブル経済の発生と崩壊、超高齢化、財政危機、大地震、原発事故といった様々な問題に直面しています。こうした失敗の経験や難問への対処の仕方について、将来同じような経験をするかもしれない世界の人びとに伝えていくことも大切です。

つぎに、自己理解としての日本研究が考えられます。これは、日本を研究することをとおして、自己の文化的な背景を理解するということです。自分の文化や歴史を学ぶことにより、自分という存在を様々な視点から考え、理解することは、固定的な自己像を打破することにもつながるはずです。このような自己への理解は、単なる知識の量ではなく、自分自身の精神を豊かにするでしょう。日本人であれ、外国人であれ、個人と個人とが会話をし、意思の疎通をはかり、友人になるといった過程において、言語の運用能力は重要な部分ですが、それだけで問題が解決されるわけではありません。魅力的な個性、豊かな教養、柔軟な発想などは、国籍に関係なく、人間として望まれる基本的な特性なのです。

最後に、日本に関連したテーマを取り上げ、それを学問的に探求するという本格的な研究も想定できます。学問的な方法論を用いて、論理的で体系的な探求を行う学問を目指して、自分の学習を構成することは、簡単ではありませんが、やりがいのある挑戦だといえます。こうした高度な知的関心にも対応していきたいと考えています。

【留学生へ】

留学生にとって、日本研究は関心の高い分野だと思います。本学では、留学生だけのためのプログラムを用意してはいません。留学生も日本人の学生も、同じ授業を受け、刺激と情報を共有することが有益であると考えているからです。授業の中で、お互いに考えを交換することをとおして、よりよい日本研究の学習と教育のあり方を生み出していこうと思っています。

【プログラムを履修する心構えについて】

日本研究を行う際、注意してほしいことを二つあげておきます。まず、日本への評価をあらかじめ決めておいてから、学習を行うのは避けてほしいということです。もちろん、研究をはじめるにあたって、日本への愛着や不満、場合によっては不快さなどの感情があるはずです。しかし、それを正当化するために研究するというのは、よい学習の姿勢だとは思えません。知的探求は閉ざされたものであってはいけないからです。

もう一つは、日本というものを固定したもの、実体として存在するものと決めつけて研究すべきではないということです。日本という言葉一つにしても、その意味は時代によって異なります。また、日本や国家という概念自体を重視しない時代もあったのです。さらに、日本は今後も大きく変化していくはずです。未来に開かれた態度をもっていてほしいと思います。

日本研究プログラム　科目分類表（指定授業科目一覧）

日本の歴史と文化	
日本文化論Ⅰ	日本倫理思想史Ⅰ
日本文化論Ⅱ	日本倫理思想史Ⅱ
日本近代思想史Ⅰ	日本の宗教Ⅰ
日本近代思想史Ⅱ	日本の宗教Ⅱ
日本文学論Ⅰ	日本美術史Ⅰ
日本文学論Ⅱ	日本美術史Ⅱ
日本芸能史Ⅰ	古代日韓関係史
日本芸能史Ⅱ	中世日韓関係史
世界の中の日本	
日本近代史	日本社会論Ⅰ
日本現代史	日本社会論Ⅱ
日本政治論Ⅰ	日本経済論Ⅰ
日本政治論Ⅱ	日本経済論Ⅱ
日英比較文化論Ⅰ	日米比較文化論Ⅰ
日英比較文化論Ⅱ	日米比較文化論Ⅱ
日中関係論Ⅰ	日本大衆文化論
日中関係論Ⅱ	
英語で学ぶ日本	
日本史研究（英語）Ⅰ	日本文化研究（英語）Ⅰ
日本史研究（英語）Ⅱ	日本文化研究（英語）Ⅱ
日本社会研究（英語）Ⅰ	The Literatures of Japan
日本社会研究（英語）Ⅱ	The History of Modern Japan
Japanese Popular Cultures	The History of Premodern Japan
The Languages of Japan Ⅰ	The Languages of Japan Ⅱ
Tourism and Local Cultures of Japan	Japanese Religions
International Relations: Japan in the Asian Context	Japanese Politics
	Media and Japanese Society

5　国際関係研究プログラム

【プログラムの目的と概要】

〈国際関係研究プログラム〉は、21世紀のグローバルな時代の国際関係について総合的に理解を深めるための研究プログラムです。国際関係（international relations）とは文字通り「国家」と「国家」の関係ですが、17世紀に近代世界システムが誕生して以来、それは時代とともに変容してきました。特に21世紀国際社会の特徴といえる情報通信革命とグローバリゼーションにより、従来の国際関係は加速度的に変化しつつあります。グローバリゼーションとは、一般的に、モノ・カネ・ヒト・情報の流れが国境を越え、地球大に広がり、地球の一体化が進むことをいいます。インターネットなどにより情報の伝達と共有化はますます高速化しています。このような動きの激しい時代になると、いかなる国・地域も互いに孤立して存立することは不可能になり、ある地域で発生したインパクトは地球レベルで波及していきます。このようなグローバルな時代には、もはや「国家」だけではなく、ビジネス、NGO（非政府組織）など、国家以外の様々なアクターが活動し、社会・文化、政治、経済、法律、外交など、様々な分野で重層的に関係が展開されていきます。もっとも、グローバリゼーションといっても、国や地域によって様々な側面がありますから、国際関係を勉強する場合、国や地域の事情とセットで理解する必要があります。

したがって、この研究プログラムでは国際関係の基本的なしくみと、それを動かしている国や地域について学ぶことになります。例えば、「国際関係史」、「国際関係論」、「国際経済論」、「国際法」、「国際機構論」では、国際関係の歴史、政治、経済、外交、法律や組織についての基本的な枠組みを把握します。「米国外交論」、「中国政治外交概論」、「日本外交史」、「韓国政治論」では、アメリカ、中国、日本、韓国という「国」について、「ヨーロッパ政治経済論」、「東アジア政治経済論」、「東南アジア政治経済論」、「ラテンアメリカ政治論」、「アフリカ研究入門」では、ヨーロッパ、東アジア、東南アジア、ラテンアメリカ、アフリカという「地域」の国際関係について、「日米関係論」、「日中関係論」では二国間関係の視点から国際関係について学ぶことができます。

【プログラムを選択する心構えとして】

様々な科目が設定されていますが、まずは基本的枠組みのなかでもコア科目となる「国際関係史」と「国際関係論」を１～２年生のうちに履修しておくことを勧めます。そのうえで、その他の基本的枠組みの科目と多様な国や地域の科目を組み合わせて学んでください。

そうすれば自分流の「国際関係研究プログラム」ができます。それを土台に、３～４年生の研究演習（ゼミ）でより専門的に研究を深めて、研究課題、つまり「マイ・テーマ」を模索し、さらに意欲的な人は卒業研究に取り組んでみてください。

また、指定科目ではないのですが、国際関係について勉強するために、「国際社会が見えてくる」も１～２年生のうちに履修することを勧めます。国際関係の基本枠組みと国や地域の事情とがいかに交錯し、現実の世界で問題となっているかについて総合的に考えられる入門講座です。いろいろな講師のお話が聞けるオムニバス形式の講座です。ぜひ試してみてください。

国際関係研究プログラム　科目分類表（指定授業科目一覧）

国際関係の枠組みを把握する		
		国際経済論Ⅰ
●コア科目（1～2年次の履修を推奨する）		国際経済論Ⅱ
国際関係史Ⅰ	国際関係論Ⅰ	国際法Ⅰ
国際関係史Ⅱ	国際関係論Ⅱ	国際法Ⅱ
		国際機構論Ⅰ
		国際機構論Ⅱ
「国」・「地域」の国際関係について学ぶ		
日本外交史Ⅰ	東アジア政治経済論Ⅰ	ラテンアメリカ政治論Ⅰ
日本外交史Ⅱ	東アジア政治経済論Ⅱ	ラテンアメリカ政治論Ⅱ
米国外交論Ⅰ	東南アジア政治経済論Ⅰ	アフリカ研究入門Ⅰ
米国外交論Ⅱ	東南アジア政治経済論Ⅱ	アフリカ研究入門Ⅱ
中国政治外交概論Ⅰ	ヨーロッパ政治経済論Ⅰ	
中国政治外交概論Ⅱ	ヨーロッパ政治経済論Ⅱ	
韓国政治論Ⅰ		
韓国政治論Ⅱ		
二国間関係の視点から国際関係を学ぶ		
日米関係論Ⅰ	日中関係論Ⅰ	
日米関係論Ⅱ	日中関係論Ⅱ	

※「国際社会が見えてくる」：指定科目ではないが1－2年次での履修を推奨する。

6　国際ビジネス研究プログラム

【プログラムの目的と概要】

今日、人・モノ・カネ・情報等の経営資源のボーダーレスな移動や、ICTの進化に伴う新たなビジネスモデルの誕生が企業の経営環境を大きく変化させています。端的に言えば、ビジネスのグローバリゼーションやICTは、企業のビジネス・フロンティアを拡大する一方で、新たなビジネス・リスクを生み出しています。したがって、現代のビジネスパースンにはビジネスの仕組みや行動原理に関する体系的な知識に加えて、ビジネス環境の変化を読み解く深い洞察力が求められています。

以上の目標を達成するための〈国際ビジネス研究プログラム〉は、次の３つの領域に大別できます。

〈研究テーマ１：国際ビジネスの仕組みに関する研究〉

国際ビジネスとは、グローバル経営資源の効率的な調達・運用活動にほかなりません。したがって、国際ビジネス研究では、国際ビジネスの戦略論と組織論の研究が不可欠です。本プログラムでは、「国際経営論」「国際マーケティング論」「多国籍企業論」等において戦略論と組織論を研究するとともに、ビジネスのパフォーマンス測定の基本的スキルである会計や財務分析を「企業財務」として研究します。

〈研究テーマ２：国際ビジネスと法〉

ビジネスは、一定のルールに基づいて遂行されています。ビジネスを行う上で習得すべきルールは多岐にわたりますが、大別すれば法的ルールとビジネス慣行から生まれたルールがあります。前者には会社法や契約法等、後者には国際金融取引や貿易条件に関するルールなどが含まれますが、ビジネスにおけるリスク回避のためにも、国際ビジネスに関するこれらの基本的なルールの習得が求められます。本プログラムでは、「民法概論」「商法概論」において商取引に関する基本的ルールを研究するとともに、国際取引に関する法的理解を深めるため、「国際取引法」「米国契約法」「法と国際ビジネス」を研究します。

〈研究テーマ３：国際ビジネスのためのグローバル・ビジョン〉

国際ビジネスに対する理解を深め、グローバルなビジョンに立って経営環境を分析し、ビジネス活動を展開するためには、主要国の経済政策やマクロ経済の動向に関する基礎知識が不可欠です。企業の経営計画も、主要国の経済動向の分析を踏まえて策定されています。経済学で用いられる基礎的概念や分析のフレームワークは、ビジネスを分析するうえでも有用です。本プログラムでは、日本経済とのかかわりが深い米国や中国経済に加え、今後一層の関係深化が予想されるラテンアメリカ経済等についても研究します。

プログラムの指定科目ではありませんが、「国際社会が見えてくる」（水曜日５時限、前期開講）を１・２年生のうちに履修することを推奨します。国際ビジネス研究の骨格となる多様な「知」を、各分野の教員がわかりやすく解説する授業です。

国際ビジネス研究プログラム　科目分類表（指定授業科目一覧）

国際ビジネス研究

国際ビジネスの仕組みに関する研究	国際経営論Ⅰ	企業財務Ⅰ
	国際経営論Ⅱ	企業財務Ⅱ
	国際マーケティング論	国際ビジネス・コミュニケーション論Ⅰ
	多国籍企業論	国際ビジネス・コミュニケーション論Ⅱ
国際ビジネスと法	民法概論Ⅰ	国際取引法Ⅰ
	民法概論Ⅱ	国際取引法Ⅱ
	商法概論Ⅰ	米国契約法
	商法概論Ⅱ	法と国際ビジネス
国際ビジネスのためのグローバル・ビジョン	日本経済論Ⅰ	韓国経済論Ⅰ
	日本経済論Ⅱ	韓国経済論Ⅱ
	米国経済論Ⅰ	スペイン経済論Ⅰ
	米国経済論Ⅱ	スペイン経済論Ⅱ
	中国経済概論Ⅰ	ラテンアメリカ経済論Ⅰ
	中国経済概論Ⅱ	ラテンアメリカ経済論Ⅱ
	中国経済特殊研究Ⅰ	
	中国経済特殊研究Ⅱ	

※「国際社会が見えてくる」：指定科目ではないが１～２年次での履修を推奨する。

7　国際協力研究プログラム

【プログラムの目的と概要】

2014年、日本は「国際協力60周年」を迎えました。この60年間の国際情勢を振り返ってみると、民族間・宗教間・国家間の紛争は後を絶たず、貧困と飢餓の問題は解決の糸口さえ見い出せず、難民は増加の一途をたどり、地球温暖化現象はますます深刻化しています。グローバル化が進行し、国と国、人と人との繋がりが緊密になってきた21世紀において、地球上で生じているいかなる現象も、国際社会の一員としては無関心ではいられません。

こうした状況下で、日本は2003年と2014年に政府開発援助（ODA）の指針をそれぞれ国際情勢の変化に合わせる形で改定、援助実施機関を再組織化、さらには非政府組織（NGO）や民間企業、大学との協働路線を強化するなどの姿勢を明らかにしています。これらの対応の変化は、国際協力の形態を時代のニーズに合わせて変えていく必要性があることを意味しています。

またその一方で日本政府は、国連平和維持活動（PKO）やイラク戦争への自衛隊派遣などを通じて「国際貢献」をアピール、国連安全保障理事会常任理事国入りを強く主張しています。世界で唯一の被爆国であり、「平和憲法」を持つ日本の言動は、もはや世界中から注目と期待とを集めているということを自覚しなければなりません。

今日の国際情勢を考慮したうえで、日本は今後どのような「海外援助」を展開していくべきなのでしょうか。これは国民の一人である私たちに投げかけられた課題でもあります。

【プログラムを選択する心構えとして】

本学のカリキュラム内容は、医療や土木工学、バイオテクノロジーなどの技術専門家を育成するようには設定されていません。しかしながら、本学の学生が将来目指すことのできる国際協力の形態には、「NGO、ボランティア活動」、「コンサルティング業」、「国際機関／政府系援助機関職員」、「国際公務員」、「研究者」といったものが考えられます。また、国際協力というと、とかく海外に目を転じやすいですが、在日外国人に対するサポートや、日本語教育といった分野でも活躍が期待されています。そこで、プログラムの中から学生本人の目指す職業に必要な科目を履修するのも良いし、あるいは学生の興味ある科目から将来的にどのような職に就く可能性があるかを知るのも良いでしょう。

もちろん、プログラムの中に設定されている科目のすべてを履修すれば国際協力の分野での活躍を保証されるものではありません。国際協力が外国人を相手に（あるいは外国人とともに）活動することが大前提であるとするならば、外国語を使ったコミュニケーション・スキルは自ら進んで磨くことが望まれます。また、教養としての「基礎科目」の履修が大切であることも言うまでもありません。「プログラム指定科目」に沿って、ラテンアメリカや東南アジア、アフリカといった地域について集中的に学んだり、国際協調の理念について学んだり、文化や宗教、歴史観の違いなどについて学ぶのもいいでしょう。その一方で、片寄った知識を持つのではなく、バランスよく学習することが理想とも言えます。その意味合いにおいて、「プログラム指定科目」には選定されていませんが、オムニバス形式の講座「国際社会が見えてくる」は本学の複数の教員がいろいろな角度の視点から国際社会について解説してくださいますので、早いうちに履修しておくといいかもしれません。いずれにしても、「待ち受ける国際協力」はあり得ません。己の可能性を信じて積極果敢に飛び出すのみです。

国際協力研究プログラム　科目分類表（指定授業科目一覧）

発展途上国事情		
ラテンアメリカ経済論Ⅰ	東南アジア政治経済論Ⅰ	アフリカ研究入門Ⅰ
ラテンアメリカ経済論Ⅱ	東南アジア政治経済論Ⅱ	アフリカ研究入門Ⅱ
ラテンアメリカ政治論Ⅰ	東南アジア社会論Ⅰ	
ラテンアメリカ政治論Ⅱ	東南アジア社会論Ⅱ	
国際機関の活動関連		
国際機構論Ⅰ	国際平和論Ⅰ	国際協力入門
国際機構論Ⅱ	国際平和論Ⅱ	国際ボランティア
国際社会論Ⅰ	国際開発論Ⅰ	
国際社会論Ⅱ	国際開発論Ⅱ	
そのほか世界の「ヒト」「文化」「宗教」「環境」等		
民族と文化Ⅰ（a）	日本文化論Ⅰ	民族・宗教問題研究
民族と文化Ⅰ（b）	日本文化論Ⅱ	人権論
民族と文化Ⅱ（a）	海外華人論Ⅰ	環境科学Ⅰ
民族と文化Ⅱ（b）	海外華人論Ⅱ	環境科学Ⅱ

※「国際社会が見えてくる」：指定科目ではないが１～２年次での履修を推奨する。

8　現代社会研究プログラム

【プログラムの目的と概要】

「現代社会」は、政治・経済・家族といった主要領域のいずれにおいても、また「近代国家」の枠を超え出る世界化（グローバリゼーション）と地域化（ローカリゼーション）が同時に進行しているという点でも、大きな変動期を迎えています。多国籍企業や非政府組織（NGO）の役割の増大、「国際テロ」の活動などを見れば、国家と国家の関係（Inter-National）としてのみ世界を捉えることができないことが分かるでしょう。また、国内秩序についても、国家（政府）が担ってきた役割の民営化や地方分権の動き、政府や国境を飛び越えて行われている地域どうしの交流などは、「国家と国民」という従来の枠組みでは理解できないものです。つまり、構造の面でも地域的なつながりにおいても、「現代社会」は大きく変化しつつあり、複雑化の度を増していると言えるでしょう。

本研究プログラムでは、日本および日本と関連の深い「地域社会」の研究と一般的かつ世界的なテーマを扱う科目がほぼ半数ずつ指定されています。大きく二つに分かれるこうした分野のうち、どちらに重点をおいた学習も可能です。例えば、各「地域社会」の比較研究や特定地域における「社会構造の変化」に関する研究などが考えられます。あるいはまた、グローバリゼーションと言われる現象について主に経済的な視点で考える、「新しい中世」とか「新帝国」の出現などと言われる世界の政治状況を分析する、といったことも重要な研究テーマです。さらには、英語圏の広がりやピジン、クレオールといった混成言語について政治的、歴史的に考えることもできるでしょう。

今世紀に入ると、フランスやドイツ、そしてイギリスでも、従来の結婚制度にとらわれない契約婚（同性どうしも含めた市民連帯契約）が制度化されました。アメリカでは州によって違いがあるものの、一般になお男女の「結婚」にこだわる傾向があり、離婚、再婚がくり返されることから、血のつながらない子どもたちをも巻き込んだ「拡大家族」（Step Family）が増えています。日本では今なお、「入籍」などといった法的には無意味なことばが生きています。こうした違いがどこからくるのかを考えてみれば、「社会」は、政治や経済だけでなく「文化」とも深く関わっていることが分かるでしょう。

このように、「現代社会」とは、特定の観点から見た表層のみでは決して理解できないほど、さまざまな要素がからまりあった複雑なものなのです。したがって、各「地域社会」を研究するにしても、世界大に拡大した「外部社会」との関係にも目配りする必要があります。また、「ポストモダン」とか「ポストコロニアル」などとも呼ばれる「現代社会」の構造変化を理解するためには、「近代社会」との関係を捉えるための歴史的視点も不可欠です。そうした意味で、できるだけ広い視野から「現代社会」の基本的な問題を適確に捉える目を養うこと、これが本プログラムの目的です。

【プログラムを選択する心構えとして】

研究プログラムは、決してそれぞれで完結した研究領域にそって区別されているわけではありません。各研究プログラム指定科目が他のプログラムと重複しているのはそのためです。特に本プログラムは、多くの他の研究プログラムと少しずつ指定科目が重複しています。本プログラムで指定していない科目のなかにも、本プログラムと関係の深いものは少なくありません。学生各自の関心にそって、各プログラムの指定科目の枠を超えた科目選択をすることが望まれます。その意味で、プログラムの指定外ではありますが、「国際社会が見えてくる」は、複数の教員が行うオムニバス形式の入門講座であり、本プログラムに関心をもつ学生には特に勧めたいものです。

本プログラムでは特に、できるだけ広いグローバルな視野から「現代社会」の基本問題をより深く学ぶ姿勢が期待されます。その意味で、やはり一つの研究演習を選択し、それを軸に問題関心を広げ、深めていくこと、言い換えれば、ローカルな足場からグローバルに考える「グローカリズムの精神」を是非念頭において下さい。

現代社会研究プログラム　科目分類表（指定授業科目一覧）

現代の「地域社会」を研究する		
日本社会論Ⅰ	英国研究入門Ⅰ	米国社会論Ⅰ
日本社会論Ⅱ	英国研究入門Ⅱ	米国社会論Ⅱ
中国社会概論Ⅰ	英国史概論Ⅰ	カナダ研究入門Ⅰ
中国社会概論Ⅱ	英国史概論Ⅱ	カナダ研究入門Ⅱ
東アジア政治経済論Ⅰ	ヨーロッパ政治経済論Ⅰ	オセアニア研究入門Ⅰ
東アジア政治経済論Ⅱ	ヨーロッパ政治経済論Ⅱ	オセアニア研究入門Ⅱ
「現代社会」を研究する		
人権論	憲法Ⅰ	環境科学Ⅰ
ジェンダー論	憲法Ⅱ	環境科学Ⅱ
社会思想史Ⅰ	国際法Ⅰ	社会調査法Ⅰ
社会思想史Ⅱ	国際法Ⅱ	社会調査法Ⅱ
現代国家論Ⅰ	国際社会論Ⅰ	メディアと社会Ⅰ
現代国家論Ⅱ	国際社会論Ⅱ	メディアと社会Ⅱ

※「国際社会が見えてくる」：指定科目ではないが履修を推奨する。

9　アメリカ研究プログラム

【プログラムの目的と概要】

現在、アメリカ合衆国の人口は約３億人、面積は日本の25倍、経済規模は一国で世界経済の約32％をしめ，国防費も他国の追随を許さない超大国です。アメリカは18世紀末の建国以来、多くの移民が世界中から押し寄せ、人種、言語、宗教、文化などの面で他に例を見ないほど多様な社会を構成しています。多民族多文化国家であるアメリカは国家としての統一をはかるため、建国の理念である自由、平等、民主主義、人権等々の理念の下に「多様性の中の統一」をはかろうとしています。

国際関係に目を向けると、アメリカは、第一次、第二次世界大戦の戦勝国であり、第二次大戦後まもなく始まった冷戦の当事者としてヨーロッパ、朝鮮半島、ベトナムなどに深く関与し、国際政治で大きな役割を果たしてきました。アメリカは良きにつけ悪しきにつけ超大国であり、世界の警察官、自由主義経済の旗手、科学技術のパイオニア、大量消費社会のモデルとしてその存在を誇示してきました。またポスト冷戦の時代にあっては、湾岸戦争や「９・11同時多発テロ」の際、あるいはイラク戦争の際のアメリカ外交政策に見られるように、アメリカは自国の信じる価値観を高々と掲げ、他の国にそれを押しつける単独行動主義国家としての側面も露わにしています。

アメリカは軍事や政治・外交、経済、金融分野におけるリーダーという「顔」を持つだけでなく、思想、文化、科学技術などの分野でも際だった影響力をもっています。キング牧師の非暴力運動、女性解放運動など思想の分野、映画、文学作品、音楽、スポーツなどの文化的な分野、飛行機、自動車、コンピューター、スペースシャトルなどの人類の歴史を大きく変えた偉大な科学技術の分野、そしてコカコーラやマクドナルドのハンバーガー等々…、挙げたらきりがないほど多くのものが、メイド・イン・USAであり、それは世界の人々の日常生活に大きな影響を与えています。

ところが、テレビ、雑誌、新聞、メディアを通じて私たちの周りに氾濫するアメリカに関する膨大な情報は、刹那的、断片的なものが多く、必ずしもアメリカの「本当の姿」を伝えているとは限りません。私たちは、そうした情報がどのようなルートを通じて発信され、それらはどのような意図の下に発信されているのか、アメリカに関する断片的な情報を取捨選択しながら、アメリカという国そして社会についてのより本質で正確な情報を集め、歴史、政治･外交、経済、法律、社会問題、文学等々の分野から、「等身大のアメリカ」を体系的に理解する必要があるのです。そうした「アメリカ理解」を基礎に英語力を高め、それを手段にして国際的に活動できる人を育ててゆく。それがこのプログラムの目的です。

【プログラムを選択する心構えとして】

この〈アメリカ研究プログラム〉の第一の目的は、このように広い分野で多大な影響力を持つアメリカに関心を深め、その等身大の姿を理解できるようにすることにあります。そのために、「米国研究入門」と「米国史概論」を「入り口」にして、そこからより専門性の高い「…論」、「…研究特論」「原書講読」へとステップ・バイ・ステップで研究を進めてゆきます。第二に、このプログラムでは、アメリカの歴史、社会、文化、政治外交、経済、法律等々について理解を深めつつ、英語力の総合的な向上を目指してゆきます。そこでは、たんにスキルとしての英語力の向上を目的とするのではなく、アメリカに関する広い知識や考えを習得し、思考してゆくプロセスで英文資料を読み、それを通じて、自分の考えをまとめ、英語でそれを他に伝えてゆく力、すなわち英語による情報収集能力、分析能力、批判能力、英語プレゼンテーション能力を鍛えあげてゆきます。したがって、第三に、２年次あるいは３年次でアメリカあるいは英語圏への留学を考えている学生諸君には、留学前にこのプログラムに設置されている科目（とくに「米国社会史研究特論Ⅰ・Ⅱ」、「米国政治・外交研究特論Ⅰ・Ⅱ」「米国社会原書講読Ⅰ・Ⅱ」、「米国文化原書講読Ⅰ・Ⅱ」など）の履修を強く勧めます。これらのクラスでは、英文資料や文献を多用して英語運用能力も高めてゆきます。アメリカ留学か

ら帰国後に、これらのクラスを履修することによって、海外で習得した英語力のさらなる向上を目指し、TOEICやTOEFL等の英語資格試験にチャレンジする上で有益な場を提供します。また卒業後に英語圏の大学院に進学・留学を希望する学生にもこのプログラムは刺激的なものとなるでしょう。

またこのプログラムの指定科目ではありませんが、「国際社会が見えてくる」（水曜日５時限、前期開講）と「文化について考える」（水曜日５時限、後期開講）を１・２年生のうちに履修するよう強く奨めます。国際関係の基本的しくみや文化のとらえ方、アメリカが世界の中でどのような役割を果たしているかなど、現在の国際関係で問題となっているテーマを広い視点から考える入門講座です。各研究プログラムに所属する教員が「共通のテーマ」について熱弁をふるうオムニバス形式の授業です。

アメリカ研究プログラム　科目分類表（指定授業科目一覧）

社会・文化・歴史		
※導入科目 米国研究入門Ⅰ 米国研究入門Ⅱ 米国史概論Ⅰ 米国史概論Ⅱ	米国社会論Ⅰ 米国社会論Ⅱ 米国社会史研究特論Ⅰ 米国社会史研究特論Ⅱ	米国文化論Ⅰ 米国文化論Ⅱ 日米比較文化論Ⅰ 日米比較文化論Ⅱ
政治・外交		
米国政治論Ⅰ 米国政治論Ⅱ 日米関係論Ⅰ 日米関係論Ⅱ	米国外交論Ⅰ 米国外交論Ⅱ 米国政治・外交研究特論Ⅰ 米国政治・外交研究特論Ⅱ	米国社会原書講読Ⅰ 米国社会原書講読Ⅱ 米国経済論Ⅰ 米国経済論Ⅱ
法　　律		
英米法Ⅰ 英米法Ⅱ	米国契約法	法と国際ビジネス
文　　学		
米文学史Ⅰ 米文学史Ⅱ 米国文化原書講読Ⅰ 米国文化原書講読Ⅱ	米文学講義Ⅰ 米文学講義Ⅱ	米文学研究Ⅰ 米文学研究Ⅱ

※以下はプログラム指定科目ではないが、１～２年次での履修を推奨する。
「国際社会が見えてくる」、「文化について考える」

10　中国研究プログラム

【プログラムの目的と概要】

このプログラムでは、中国の政治、経済、社会、文化、外交、歴史など各分野に関する幅広い知識を身につけ、これからの日中関係を担っていく人材を育てることを目的としています。

中国は悠久の歴史を誇る文化大国であり、過去数千年にわたって蓄積された文化遺産は、漢字文化圏に属する東アジア諸国をはじめ、周辺の国々に多大な影響を与えてきました。

また、近年は改革・開放政策の下で、目覚ましい経済発展を遂げ、国際社会における存在感をさらに強めています。北京オリンピック（2008年）、上海万博（2010年）を経て、国内総生産も世界第２位となりました。

日中関係で見るならば、中国は、日本にとって１、２の貿易相手国として経済関係も深まるばかりであり、人的交流も著しく進んでいます。しかし、一方で、歴史問題や尖閣諸島問題など、政治外交面では様々な問題が噴出し、日中関係は必ずしも良好とは言えませんし、双方の国民感情も改善の見通しが立っていません。深まる経済関係とは裏腹に、政治的摩擦や文化的摩擦がむしろ大きくなっているのはなぜでしょうか。どのようにしたら良好な関係が保てるのでしょうか。

目覚ましい経済発展の陰で、中国社会は格差や腐敗など数々の不安定要因を抱えています。それらは、多くの生産拠点を中国に持つ日本にとっても無関係とは言えず、越境汚染問題も起きています。中国政府はどのようにしてこうした社会問題を克服しようとしているのでしょうか。

現代中国を理解するには、今日を知るだけではなく、歴史的アプローチも必要ですし、政治、経済、社会、文化、外交といった各分野にまたがる幅広い知識を持つことが大切だと言えます。

このプログラムを通じて、是非中国を複合的に見る目を養ってほしいと思います。

プログラムの指定科目は、以下の通りです。

① 中国政治研究（中国政治外交概論、日中関係論、中国政治外交特殊研究、海外華人論）
② 中国経済研究（中国経済概論、中国経済特殊研究）
③ 中国社会研究（中国社会概論、中国社会特殊研究）
④ 中国史研究（中国史概論、中国現代史）
⑤ 中国文化研究（中国文化概論、中国思想概論、中国文学概論、中国文学史
中国古典講読、中国近世文学研究、中国近代文学研究、中国現代文学研究）

【プログラム選択の心構え】

いずれの科目でも、中国語の基礎能力は必須条件となります。したがって、１年次より中国語学習に励んで欲しいと思います。その基礎の上に、専門科目で中国に関する広範な知識を得ることにより、さらに語学の運用能力を高めることもできます。

プログラム指定科目の中で、概論的な講義は、１年次に履修するのがよいでしょう。これらは、全体を俯瞰（ふかん）するものであり、受講者はこうした科目を履修し、各領域の基礎知識を身につけ、そこから自分が興味を持つ分野やテーマを見つけて下さい。

２年次以降は、特殊研究など、概論に比べてやや専門的な講義を履修することができます。これらの多くは中国語で書かれた資料などを読み解き、一定のテーマに沿って研究を進めていくというものです。

履修に際しては、政治、外交、経済、社会、歴史、文化など、興味のある領域に身を置いて、概論科目から専門科目へと系統的に進むのも良いのですが、各領域は「たこつぼ」的に分立している訳ではなく、相互に関連しています。

したがって、いずれかの領域に軸足を置くにしても、なるべく各領域を横断的に履修してゆくことが好ましいでしょう。中国においては、政治と経済、社会は密接に関わっていますし、文化を語る上では古典の知

識は必須です。また、現代史を知らずして現代文学を語ることもできません。

いずれにせよ、「将来どういった分野に進むのか」、また「そのためにはどのような知識を身につけるべきか」など、目的意識を持ち、自分に合った履修計画を立てるのがベストです。

中国研究プログラム　科目分類表（指定授業科目一覧）

履修年次	1年～	2年～	3年～
		政　　治	
	中国政治外交概論Ⅰ	中国政治外交特殊研究Ⅰ	
	中国政治外交概論Ⅱ	中国政治外交特殊研究Ⅱ	
	日中関係論Ⅰ	海外華人論Ⅰ	
	日中関係論Ⅱ	海外華人論Ⅱ	
		経　　済	
	中国経済概論Ⅰ	中国経済特殊研究Ⅰ	
	中国経済概論Ⅱ	中国経済特殊研究Ⅱ	
		社　　会	
	中国社会概論Ⅰ	中国社会特殊研究Ⅰ	
	中国社会概論Ⅱ	中国社会特殊研究Ⅱ	
		歴　　史	
	中国史概論Ⅰ		
	中国史概論Ⅱ		
	中国現代史Ⅰ		
	中国現代史Ⅱ		
		文　　化	
	中国文化概論Ⅰ	中国古典講読Ⅰ	中国近世文学研究Ⅰ
	中国文化概論Ⅱ	中国古典講読Ⅱ	中国近世文学研究Ⅱ
	中国思想概論Ⅰ	中国近代文学研究Ⅰ	
	中国思想概論Ⅱ	中国近代文学研究Ⅱ	
	中国文学概論Ⅰ	中国現代文学研究Ⅰ	
	中国文学概論Ⅱ	中国現代文学研究Ⅱ	
	中国文学史Ⅰ		
	中国文学史Ⅱ		

11　イベロアメリカ研究プログラム

【プログラムの目的と概要】

ヨーロッパ南端のイベリア半島に位置するスペインおよびポルトガルと、コロンブスの新大陸到達（1492年）ののちにスペインの植民地となったメキシコ、ベネズエラ、ペルー、チリやアルゼンチン、そしてペドロ・アルヴァレス・カブラルの「発見」（1500年）によってポルトガルの植民地となったブラジルなどのラテンアメリカ諸国を総称して、「イベリア（半島）」＋「アメリカ（大陸）」から「イベロアメリカ」と称されます。イベロアメリカは、スペイン語圏20ヶ国とポルトガル語圏2ヶ国の計22ヶ国、人口にしておよそ5億近い人々が生活する、きわめて広大な文化圏です。イベリア語（スペイン語とポルトガル語）のなかでもスペイン語はスペインやラテンアメリカの国々において、さらに大統領選挙を左右するほど大きな影響力をもつ米国在住のヒスパニックの人々を含め4億人を超える人々によって広く話されている言語で、英語・ロシア語・フランス語・中国語・アラビア語とならんで国連の公用語のひとつであり、イベリア語はまさに「21世紀の国際語」と言えるでしょう。

「戦争の世紀」から「共生の時代」といわれる21世紀に入って、加速度的に進展するグローバル化という新しい潮流の中で、歴史の変遷、国家のありよう、民族や環境、富める国（地域）と貧困を余儀なくされる国（地域）との社会的経済的格差、人口問題、国際移住、社会構造といった政治・経済・社会的な問題を直視し、分析する「地域国際研究」が重要になってきています。同時に、特定の国（地域）の「人間と文化」について、すなわち言語、宗教、価値観など文化の多様性についての研究も不可欠となっています。国際協力には、相手国（地域）の文化を理解しようとする姿勢に裏づけられた、相互理解に立脚した関係が必須です。そこにこそ、国際問題の根本的な解決策が見出せるからです。

21世紀の世界において、イスラム文化を背景とした悠久の歴史と文化を誇る現代スペインはヨーロッパ連合（EU）のリーダー国として重要な地位を占め、経済発展のみならず政治的にもアラブ世界との太いパイプを利用して中東紛争の仲介役を果たすなど、積極的に世界政治に関与しています。北米自由貿易協定（NAFTA）や日墨（メキシコ）経済連携協定（EPA）さらに日墨友好400周年を迎えた経済成長著しい資源大国メキシコ、経済連携協定によってさらなる貿易拡大と人的交流が期待されるチリやペルー、そして日本人移住100周年を経て150万人を超える日系人社会が形成され、ワールドカップ（2014年）および夏季オリンピック（2016年）が開催され、BRIICSの一翼を担う経済大国ブラジルなど、イベロアメリカ世界の動向から目を離すことはできないといっても過言ではありません。

この「イベロアメリカ研究プログラム」は、歴史、民族、文化、宗教、社会、政治、経済などさまざまな観点からイベロアメリカ世界にアプローチし、イベリア的なるもの、とりわけスペインの本質を学び、同時にラテン文化を共有する「ラテン民族のアメリカ」すなわちラテンアメリカの真髄を総合的かつ体系的に研究するプログラムです。

【プログラムを選択する心構えとして】

イベロアメリカ研究プログラムを選択するにあたり重要なことは、イベロアメリカ世界の共通語であるスペイン語とポルトガル語をしっかり学ぶことです。スペイン語は母音が5つで日本語と共通しているので、発音は他の言語とくらべてさほど困難ではありません。ブラジルのポルトガル語は母音が7つですが、アクセントの位置に気をつければスペルをローマ字読みするだけで通じる場合が多いです。スペイン語もブラジル・ポルトガル語も文法を習得し、語彙力を身につけることが求められます。語学研修や留学などにも積極的に参加して最大限の努力を払うことが大切です。そして、3～4年次の「原書講読」を通して、またスペイン、メキシコ、ベネズエラ、アルゼンチン、ブラジルの学術協定校への留学、さらには日墨政府交換留学などによってより高度な運用能力を養うことです。

そのために１年次においては、「イベロアメリカ研究入門」（イベロアメリカ言語学科の前期・必修科目）と並行して、①文学・芸術に関する科目（スペイン文学史Ⅰ・Ⅱ）、②歴史・社会に関する科目（イベリア史概論Ⅰ・Ⅱ、ラテンアメリカ史概論Ⅰ・Ⅱ、ブラジル研究入門）、③政治・経済に関する科目（ラテンアメリカ政治論Ⅰ・Ⅱ）を通してイベロアメリカの基礎を学び、２年次以降は、①スペイン文化研究Ⅰ・Ⅱ、現代スペイン文学Ⅰ・Ⅱ、現代ラテンアメリカ文学Ⅰ・Ⅱ、スペイン美術史Ⅰ・Ⅱ、ブラジルの文化・芸術、②スペイン現代史Ⅰ・Ⅱ、ラテンアメリカ現代史Ⅰ・Ⅱ、ラテンアメリカ研究入門Ⅰ・Ⅱ、メキシコ特殊研究Ⅰ・Ⅱ、ブラジルの歴史Ⅰ・Ⅱなど、③スペイン経済論Ⅰ・Ⅱ、ラテンアメリカ経済論Ⅰ・Ⅱ、ブラジルの政治・経済Ⅰ・Ⅱなど、より専門性の高い科目を履修することでイベロアメリカに関する理解をさらに深めていきます。

さらに重要な点は、特定の国（地域）の問題や事象を、ただ表層的に理解するだけで終わってしまうのではなく、問題をいかに分析するかです。そのためには、特定の国（地域）に関連した科目のみを履修するだけではなく、総合的かつ学際的に研究することが重要です。そうすることによって研究課題や対象とする国（地域）を相対的にとらえることができるからです。その意味で、各教員が専門的な観点から解説するオムニバス形式の授業「国際社会が見えてくる」（水曜日、５時限、前期開講）および「文化について考える」（水曜日、５時限、後期開講）を１～２年次に履修するよう強く勧めます。

３～４年次においては、「研究演習（ゼミ）」を履修することによってより学問的かつ専門的な知識を深め、４年次には、大学で学んだ４年間の集大成として「卒業研究」にたどりつきます。各自が関心のある研究テーマを模索し、独自の研究方法を駆使し検証していく作業を通して、的確な問題意識と分析力を養っていくことは、就職するにせよ、大学院に進学するにせよ、将来の進路において必ず役に立つことであり、多くの学生諸君に是非、経験してもらいたいと願っています。こうしたプロセスを経て、「言葉は世界をつなぐ平和の礎」をモットーに、グローバルな視点で国内外の現代社会を包括的にとらえられる目を養い、真の国際人として世界に羽ばたいていってもらいたいと切望しています。

イベロアメリカ研究プログラム　科目分類表（指定授業科目一覧）

履修年次	１年次～	２年次以降～	
		文学・芸術	
	スペイン文学史Ⅰ	スペイン文化研究Ⅰ	ラテンアメリカの文化と文学
	スペイン文学史Ⅱ	スペイン文化研究Ⅱ	現代ラテンアメリカ文学Ⅰ
		現代スペイン文学Ⅰ	現代ラテンアメリカ文学Ⅱ
		現代スペイン文学Ⅱ	ラテンアメリカ文学特殊研究Ⅰ
		スペイン美術史Ⅰ	ラテンアメリカ文学特殊研究Ⅱ
		スペイン美術史Ⅱ	ブラジルの文化・芸術
		歴史・社会	
	イベリア史概論Ⅰ	スペイン現代史Ⅰ	メキシコ特殊研究Ⅰ
	イベリア史概論Ⅱ	スペイン現代史Ⅱ	メキシコ特殊研究Ⅱ
	ラテンアメリカ史概論Ⅰ	ラテンアメリカ現代史Ⅰ	ブラジルの歴史
	ラテンアメリカ史概論Ⅱ	ラテンアメリカ現代史Ⅱ	ブラジルの民族・地理
	ブラジル研究入門	ラテンアメリカ研究Ⅰ	ブラジルの宗教・社会
		ラテンアメリカ研究Ⅱ	
		政治・経済	
	ラテンアメリカ政治論Ⅰ	スペイン経済論Ⅰ	ラテンアメリカ経済論Ⅰ
	ラテンアメリカ政治論Ⅱ	スペイン経済論Ⅱ	ラテンアメリカ経済論Ⅱ
			ブラジルの政治・経済Ⅰ
			ブラジルの政治・経済Ⅱ

※以下はプログラム指定科目ではないが、１～２年次での履修を推奨する。
「国際社会が見えてくる」、「文化について考える」

12　韓国研究プログラム

【プログラムの目的と概要】

かつて韓国・朝鮮というと、一種の「身構え」を必要としましたが、今日、韓国といえば「韓流」というイメージがすっかりと定着し、とても身近なものとなっています。それにともない、ドラマ、映画、音楽といった大衆文化が瞬く間に日本に流れ込み、日本のメディアは我さきにそれらを消費しようとしています。

そのような状況の中、皆さんが「韓国研究」に本格的にアプローチしようとするとき、表層的なブームの背後にある韓国・朝鮮そのものを、いかに学問として学んでいくかが必要となってくるでしょう。それでこそ、一過性のブームに流されない根本的な知識と視点が獲得されるからです。

「韓国研究」といっても、さまざまな切り口が考えられ、何をどう学べば「韓国研究」といえるのか漠然としています。そこで、本学では、その切り口として、基本的には「地域研究（Area Studies）」の考え方を参考とします。

「地域研究」とは、一般に「ある地域の地理、歴史、言語、文化などの総合的研究」とされています。ここで、「ある地域」とは、大韓民国あるいは朝鮮民主主義人民共和国を含む朝鮮半島となります。また、「地理、歴史、言語、文化などの総合的研究」といった場合、これは１つの学問分野（discipline）ではなく、いくつかの学問を横断した学際的（interdisciplinary）な研究を意味しています。

本学における〈韓国研究プログラム〉では、朝鮮半島に関する学際的な研究のうち、とくに、文化、社会、文学、政治、経済、歴史といった幅広い学問分野の科目が学べます。さらに映像に関する科目を開設し、同時代的な韓国理解に力を入れているのも、本学ならではの特徴といえます。

具体的には、①文化に関する科目（韓国文化概論Ⅰ・Ⅱ、韓国文化特定研究Ⅰ・Ⅱ、韓国映像文化論Ⅰ・Ⅱ）、②社会に関する科目（韓国の宗教・社会Ⅰ・Ⅱ）、③文学に関する科目（韓国現代文学研究Ⅰ・Ⅱ）、④政治に関する科目（韓国政治論Ⅰ・Ⅱ）、⑤経済に関する科目（韓国経済論Ⅰ・Ⅱ）、⑥歴史に関する科目（韓国史概論Ⅰ・Ⅱ、韓国近代史Ⅰ・Ⅱ、韓国史特講Ⅰ・Ⅱ、古代日韓関係史、中世日韓関係史）の６つの学問分野に関する科目を開設しています。

さらに、３、４年次においては研究演習（ゼミ）を履修することで一層の学問的理解を深め、４年次においては卒業研究に取り組むことで〈韓国研究プログラム〉を履修した具体的な成果を上げることを期待しています。

【プログラムを選択する心構えとして】

〈韓国研究プログラム〉を選択するかどうかを判断する前に、まず、このプログラムの「概論」の科目を１年次に受講することを勧めます。つまり、「韓国文化概論Ⅰ・Ⅱ」と「韓国史概論Ⅰ・Ⅱ」です。この２つの科目は、朝鮮半島に関する文化と歴史の基本的な知識の習得を目指しており、その後の研究プログラム履修においても出発点となるものなので、是非とも１年次に受講してください。

そして、２年次以降、上にあげた６つの学問分野に関する科目を順次履修することを勧めます。その際、自分が卒業後にどのような進路を目指すのかという問題意識が必要でしょう。つまり、大学院に進学するのか、就職をするのかという判断から始まって、大学院進学ならばどの系統の大学院にするのか（その際、卒業論文は必須となります）、就職ならば韓国系の企業がよいのか、どのような職種にするのかといったことです。そのことによって、履修科目の重点が各自で違ってくることになります。

このように、皆さんが理想とする将来像と、本学で学ぶ科目（この場合は〈韓国研究プログラム〉という科目群）との間に、想像力を働かせつつ、皆さんなりの架け橋をつくっていくことを期待するものです。

このプログラムの履修者の多くは韓国語専攻の学生になると思われますが、他専攻の学生でも積極的に履修し、主専攻地域に副専攻地域を設定するなど、よりグローバルな視野で社会の状況をみる目を養ってもら

いたいと思っています。日韓間のパートナーシップはますます強まりをみせています。隣国に目を向けることで世界をより包括的にとらえられる人材になってもらいたいと考えています。

韓国研究プログラム　科目分類表（指定授業科目一覧）

履修年次：1年次

基礎科目
- 韓国文化概論Ⅰ
- 韓国文化概論Ⅱ
- 韓国史概論Ⅰ
- 韓国史概論Ⅱ

履修年次：2年次～

分野別研究科目

社会領域
- 韓国の宗教・社会Ⅰ
- 韓国の宗教・社会Ⅱ

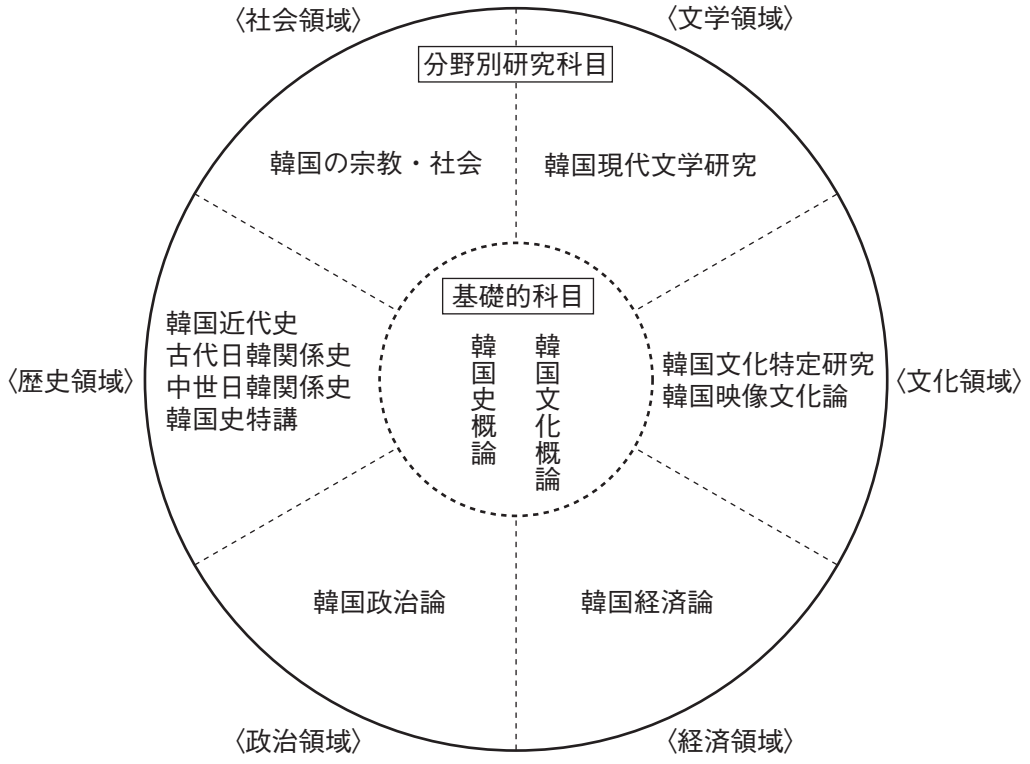
文学領域
- 韓国現代文学研究Ⅰ
- 韓国現代文学研究Ⅱ

歴史領域
- 韓国近代史Ⅰ
- 韓国近代史Ⅱ
- 古代日韓関係史
- 中世日韓関係史
- 韓国史特講Ⅰ
- 韓国史特講Ⅱ

文化領域
- 韓国文化特定研究Ⅰ
- 韓国文化特定研究Ⅱ
- 韓国映像文化論Ⅰ
- 韓国映像文化論Ⅱ

政治領域
- 韓国政治論Ⅰ
- 韓国政治論Ⅱ

経済領域
- 韓国経済論Ⅰ
- 韓国経済論Ⅱ



13　東南アジア研究プログラム

【プログラムの目的と概要】

東南アジアは古くから、私達が暮らしている日本と文化、社会、政治、経済などさまざまな面で密接なつながりを持ってきました。東南アジア諸国連合（ASEAN）域内の人口は６億人を超え、近年では急速に経済発展を遂げています。日本はもとより、アメリカやEU、中国などの経済パートナーとしての重要性も著しく高まっています。文化、民族、宗教的にもきわめて多様で、タイやミャンマーは仏教が人々の日々の暮らしに大きな役割を果たす社会ですし、インドネシアは世界最大のイスラム人口を抱える国です。ベトナムのように、社会主義体制の下で市場経済化を目指し、近年著しい経済発展を遂げている国もあります。日本とのつながりははじめに述べましたが、東南アジア地域はわが国にとって重要な貿易、資本パートナーであるとともに、日本の経済援助の最大の受け入れ地域でもあります。また、東南アジアの多くの国が第２次世界大戦中に日本の軍事侵略を受けたという歴史もあります。地理的に中国、韓国などの北東アジア地域とともに、私達にとってもっとも近い外国でもあります。

これほど身近な存在であり、政治、経済、ビジネスの面で日本にとってきわめて重要な地域であるにもかかわらず、西欧的教養偏重の日本の教育システムのなかで東南アジア地域に関する学習はややもすれば軽んじられてきました。マスメディアの情報も体系的ではないという傾向があります。学生の皆さんも漠然とした興味はあっても東南アジア地域に関する十分な理解、知識を有する人は多くはないでしょう。

〈東南アジア研究プログラム〉は、東南アジアについて歴史、民族、文化、宗教、社会、地理、政治、経済などさまざまな側面から総合的かつ体系的に学ぶ研究プログラムです。東南アジア諸言語を専攻語として学ぶ学生の皆さんはもとより、英語その他の言語を専攻する学生の皆さんにも是非、東南アジアに目を向けてほしいと思います。この地域がいかに文化的な実りの豊かな地域であるか、また、私達にとってどれほど身近で、重要な存在であるかに驚き、目が開かれる思いがすることでしょう。

【プログラムを選択する心構えとして】

東南アジアは多様で重層的な地域です。「東南アジア」とは、というステレオタイプに陥ることなく、複眼的で柔軟な視点を学び取る姿勢が大切です。

国際社会における東南アジアの位置づけを学ぶという目的で科目を選んでもよいですし、地域内の特定の国・地域について深く学ぶのもよいと思います。文化、社会、政治、経済などの特定の分野に絞って研究をするのも良いでしょう。学生の皆さんの選択次第です。

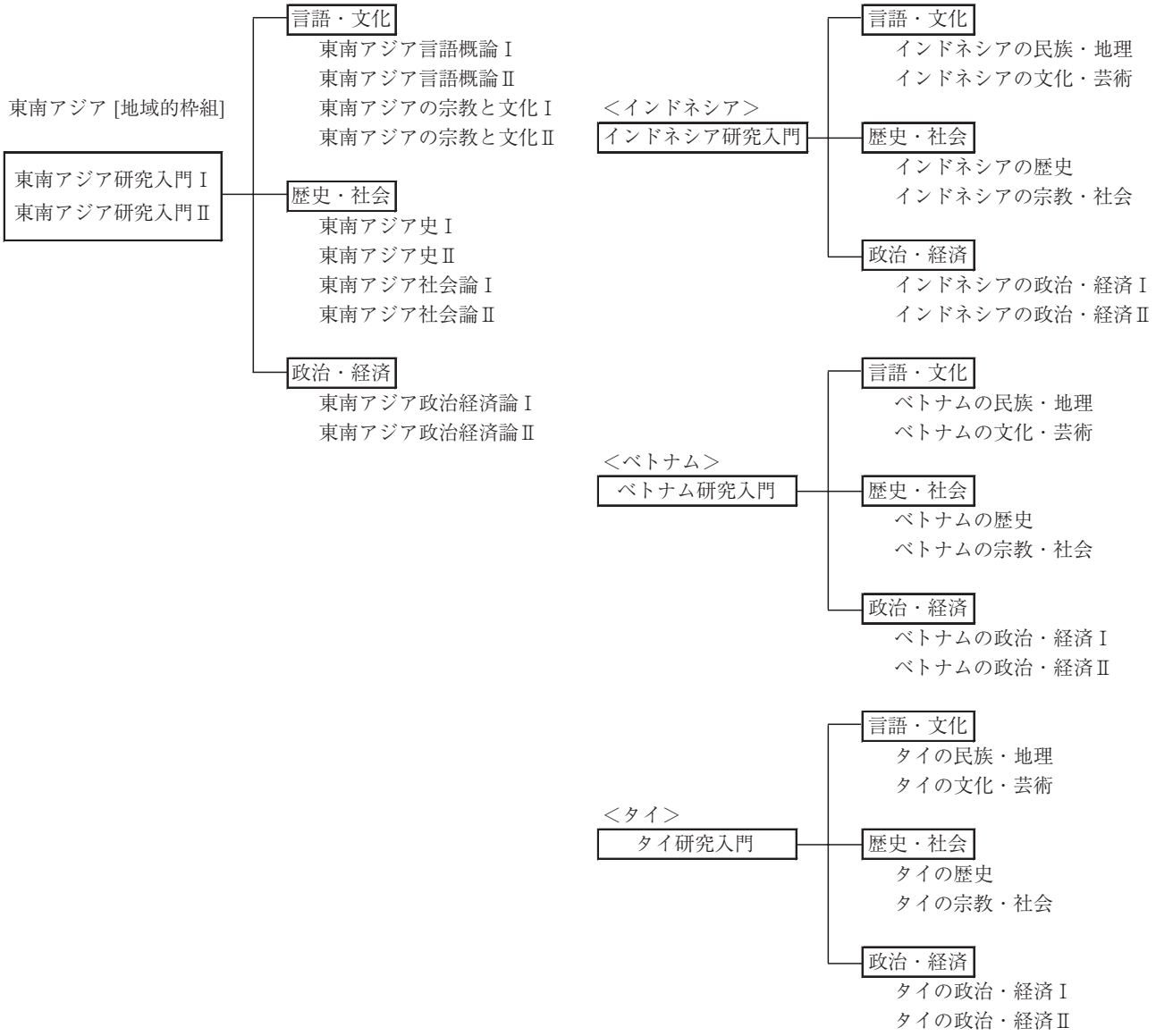
注意しなければいけないことは、国の広がりと、文化や民族、人々の生活などの広がりとが異なる場合が多々あることです。東南アジアの多くの国々がかつて西欧宗主国の植民地であった歴史を持っています。そのような国々の国境は植民地時代に宗主国の都合で人工的に画定されたという性格もあり、それにとらわれ過ぎると理解の妨げになることもあります。反対に、インドネシアのようにオランダの植民地であったという共通の歴史によって、多様な民族、文化を包含する国民意識が形成されてきた例もあります。

また、東南アジアの多くの国々は多様な文化を持つ複数の民族が共生する多民族国家です。国を単位とする理解にとらわれず、こういう点に目を向けることが必要です。東南アジア諸国の大半は発展途上国であり、一般に国内の貧富の格差がきわめて大きいので、農村から都市への出稼ぎ問題や、少数民族の問題などにも関心を向けてほしいと思います。

東南アジア研究だからといって視野を東南アジアだけに限定せず、世界の中での東南アジアの位置付けを考えながら勉強することが必要です。特に、日本・中国・韓国など北東アジア地域やアメリカとの関係は現代東南アジア理解に欠かせません。反対に、東南アジアの貧困問題などを研究するためにはラテンアメリカやアフリカとの比較なども必要になるかもしれません。

研究テーマに応じて他のプログラムの科目や基礎科目などから関連の深い科目を選んで学習することも必要です。

東南アジア研究プログラム　科目分類表（指定授業科目一覧）



Ⅸ　他大学及び他機関で修得した単位の認定等について

1．単位の認定

卒業要件単位として、あわせて60単位まで認定可能

	種　　類	上限
①	海外の大学で修得した単位　（「Ⅹ　海外留学について」参照）	
②	大学院授業科目のうち学部生が履修可能と指定された科目	
③	放送大学の授業科目	20単位
④	千葉県私立大学・短期大学間単位互換包括協定に基づく他大学開講科目	20単位
⑤	千葉大学、敬愛大学、城西国際大学および本学から成る千葉圏域コンソーシアムの単位互換協定に基づく開講科目	20単位
⑥	千葉工業大学との包括連携協定に基づく本学が定めた千葉工業大学の授業科目	
⑦	入学前に他の大学・短大で修得した単位（外国語科目としては認定できません）	30単位
⑧	その他、大学が認めた教育機関で修得した単位	

注）編入学生については、編入学時に認定された単位数によって、他大学等で履修し認定される単位数に制限がかかることがあるので、教務課に相談して下さい。

2．必修単位の履修免除制度

当該外国語学力の極めて優秀な学生に対して、卒業要件の一部を履修免除します。

対象専攻・学科＼対象学年	1年	2年	免除科目の成績評価
中国語専攻	中国語総合Ⅰ（a） 中国語総合Ⅰ（b） 中国語作文Ⅰ（a） 中国語作文Ⅰ（b） 中国語会話Ⅰ（a） 中国語会話Ⅰ（b） 1～12単位	中国語総合Ⅱ－1（a） 中国語総合Ⅱ－1（b） 中国語作文Ⅱ（a） 中国語作文Ⅱ（b） 中国語会話Ⅱ（a） 中国語会話Ⅱ（b） LL中国語（a） LL中国語（b） 1～10単位	A+
韓国語専攻	韓国語基礎Ⅰ、Ⅱのうち会話に相当する各2単位	韓国語基礎Ⅲ、Ⅳのうち会話に相当する各2単位	全600満点のうちの200点
インドネシア語専攻 ベトナム語専攻 タイ語専攻	地域言語科目	地域言語科目	単位発行を伴わない免除
スペイン語専攻	スペイン語基礎Ⅰ（a） スペイン語基礎Ⅰ（b）	スペイン語基礎Ⅱ（a） スペイン語基礎Ⅱ（b）	A+
国際コミュニケーション学科		英語資格特別演習	単位発行を伴わない免除

3．千葉県内の他大学の授業科目の認定について

千葉県内の他大学の授業科目は、以下のように履修が可能です。

方　　法	1．教務課窓口で、各大学の募集要項を閲覧し、受講希望科目を決定 2．神田外語大学教務課に受講希望の申し込み 3．先方の大学が受講の可否を決定
受 講 料	千葉大学・敬愛大学・城西国際大学・千葉工業大学の場合：無料 上記以外の大学：受講する大学によって異なります

4．入学前修得単位の認定について

大学に入学する前に他大学・短大で修得した単位は30単位を上限に本人の申請に基づき、教授会の審議を経て、外国語科目（英語・日本語・地域言語）、特別演習科目以外の分野に於いて本学で修得した単位として認めることができます。海外の大学等の教育機関で修得した単位も同様の扱いとなります。

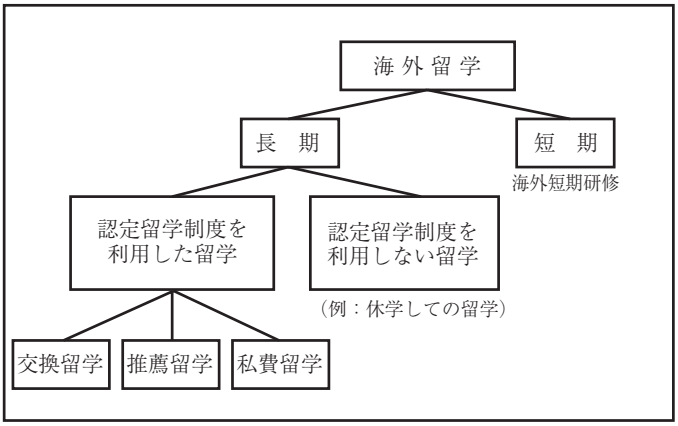
対　　象	新入生のみ
方　　法	入学年度4月の指定された日までに申請（掲示参照）
成績評価	P（包括認定）

X　海外留学について

1．認定留学制度について

1）認定留学について

認定留学とは、本学が海外留学として認めるものです。期間は１学期間（６ヶ月間）／２学期間（１年間）となり、留学先で修得した単位は、一定条件のもと、本学の卒業要件単位に60単位を上限として振替ができるため、４年間で卒業が可能となります。



認定留学には3つの留学種別（交換留学･推薦留学･私費留学）があります。（上図参照）

なお、留学先のカリキュラムや履修時間数などにより、日本で１年間に修得できる単位数より留学先で修得する単位数の方が少なくなることもあります。留学を考えている学生は事前に標準履修案より多めに単位を取ることが望まれます。

但し、休学して留学する場合は、認定留学制度は利用出来ません。よって、留学中に修得した単位を本学の単位に振替えることはできません。また休学中は在籍期間に含まれないため、卒業までには最低５年間かかります。詳しくは、「Ⅰ　学籍について」および「Ⅲ　卒業の要件」を確認してください。

	認定留学制度を利用した留学		
	交換留学	推薦留学	私費留学
基本資格	・成績基準　GPA（全体）　2.3以上（出願時および出発時） ・単位の修得基準　２年生：30単位／３年生：60単位／４年生：100単位（出願時見込み修得数含む） ※１年生は認定留学不可だが、後期には出願が可能 ・誓約書に記載されている事項に同意し、保証人の了解を得た者		
出願資格	国・地域および国際協定校により出願資格（成績基準および語学基準）は異なるため、必ずKUIS Campus Webにて確認すること。		出願する高等教育機関により異なるため、必ず事前に確認すること。
特　徴	・大学が窓口となり、国際協定校へ＜交換留学＞する制度 ・留学先の授業料は全額免除 ・学内選考あり ・本学を通して出願	・大学が窓口となり、国際協定校へ＜推薦留学＞する制度 ・留学先の授業料は基本的に自己負担 ・学内選考あり ・本学を通して出願	・海外大学および、本学で認める高等教育機関（大学付属の語学コース含む）へ留学する制度 ・留学先の授業料は基本的に自己負担 ・学内選考なし ・学生自身またはエージェントを通して出願
留学先	KUIS Campus Webを参照		認定留学実績校、および本学で認める高等教育機関 （大学付属の語学コース含む） ※留学を希望する場合は、本学へ留学先機関事前調査表を提出し承認を得る必要がある
期　間	１学期間（６ヶ月間）～ ２学期間（１年間）		
留学先決定後手続き	①【入学許可書】を留学先機関から取得 ②【認定留学申請書類】を指定期日までに本学へ提出　※留学申請書類については、必ずKUIS Campus Webにて確認すること。 ③【認定留学許可書】が学内承認後に本学より送付される ④【本学指定の海外留学保険への加入】本学指定の海外留学保険に必ず加入すること		
留学中の学費納入と授業料減免	以下の条件を満たしている場合、留学期間に応じて本学授業料が減免される（施設設備費および諸会費は減免対象外） １学期間（６ヶ月間）：授業料25％減免 ２学期間（１年間）　：授業料50％減免 ≪条件≫ ①学費を納入期限までに全額納入済であること ②認定留学申請時に【授業料減免申請書】を提出済であること ③【留学に伴う単位認定願兼留学終了届】を提出済であること 上記を満たした場合、銀行振込により減免額が返金される ≪返金時期の目安≫ 前期に留学を終了し、後期（９月）から履修登録をする場合…翌年の３月末までに入金 後期に留学を終了し、前期（４月）から履修登録をする場合…同年の８月末までに入金 ※４年生は卒業後の同時期の入金		

2）通年科目の履修に関する特別措置について

当該年度に登録した通年科目について、その年度の後期より留学する場合に限り、次年度後期より同一科目の履修を認め、後期終了時点で後期の成績と前年度前期の成績により、通年科目として成績処理をします。

（この措置は、認定留学制度による留学だけでなく、休学して留学する場合にも適用されます。）

ただし、原則として、同一担当教員の同一科目を履修することとします。

※通年科目の履修に関する特別措置を希望する者は、以下の書類を、国際交流課に提出してください。

・「長期留学者の通年科目（研究演習・卒業研究）継続履修届」

※休学して留学する場合は、上記に加えて以下の書類も後期履修修正・中止期間までに教務課に提出してください。詳しくは教務課に問い合わせてください。

・「海外渡航計画表」

・「留学先のシラバス」

・「留学先の入学許可証もしくは在学証明書」

2．海外短期研修について

春期・夏期休暇を利用し、３～６週間で実施される海外短期研修です。研修参加費用（研修先の授業料、滞在費、渡航費など）は自己負担となりますが、所定の成績を修めれば、単位認定（１～８単位）が可能となります。

3．国外留学に関する情報について

国際交流課では、窓口における日々の個別相談に加えて、留学全般、ならびに認定留学や海外短期研修に関する説明会を随時実施しています。また、留学に関するイベントを開催し、情報を提供しています。

なお、各種説明会・イベントなどの実施については、４号館掲示板、１号館１階の国際交流課掲示板、およびKUIS Campus Webに掲示しますので、日頃からよく確認をしてください。

Ⅺ　国内留学について

【留学形態】

国内交換留学は、本学と国内交換留学協定を締結している京都外国語大学へ学内選考の上、学生を派遣する制度です。この制度で留学する場合、京都外国語大学の学費は免除します。

国内交換留学生として留学するためには、掲示する出願資格を満たした上、学内選考に合格しなければなりません。

1．派遣期間

原則１年間　　留学期間は本学の修業年限および在学年数に算入します。

2．募集期間

11月～12月中（予定）　　第１次（書類選考）および第２次（面接）選考を実施します。

3．単位の振替・認定

京都外国語大学で修得した単位は履修科目に応じて、海外研修・放送大学等で修得した単位を含め、最大60単位まで本学で修得した単位として振替・認定します。

4．履修できる授業科目および修得単位数

京都外国語大学の履修ルールに従って、正規生が受講できる範囲とします。但し、進級および卒業要件の充足に問題を生じないような履修科目の選択方法について、必ず事前に本学教務課でガイダンスを受けることとします。なお、教職課程科目の履修は認められますが、教育実習への参加は認められません。

5．留学中の学費

京都外国語大学の学費は免除しますが、留学期間中の本学の学費（授業料・施設費・学友会費等）は全額納入してください。

6．宿舎の紹介

学生が宿舎を希望する場合は、次の条件で宿舎を紹介し、費用は学生負担とします。

⑴　家賃（共益費及び光熱水費含む）は、月額６万円（予定）を上限とします。ただし、敷金・礼金等の初期に関わる経費は、大学負担とします。

⑵　交通費等その他の経費は学生負担とします。

7．施設利用等

学生は、京都外国語大学において学生生活に必要な施設および制度を利用することができます。

8．海外研修への参加

学生は、京都外国語大学において長期休暇中に実施される海外研修、授業期間中に行われる長期の研修及び留学については、参加することができません。

9．保険

学生は、京都外国語大学の正規学生と同等の学生傷害保険を付与されるものとします。

XII　転籍（転科・転専攻）について

本学には１・２年次を対象とした転籍（転科・転専攻）制度があります。選考に際しては、転籍を志望する明確な理由と優秀な成績が求められます。従って、転籍は容易にできるものではないと認識した上で、以下を熟読してください。

英米語学科から国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻への転科および国際コミュニケーション学科内での転専攻においては、１年次から２年次に転籍後、転籍先の２年次生とほぼ同じように必修科目を履修します。

しかし、それ以外の転籍の場合（例えばアジア言語学科中国語専攻から英米語学科へ）は、転籍先の必修科目を１年次指定の科目から履修しなければなりません。この場合、１年次生が転籍した後は、残りの３年間で非常に厳しい学修が要求され、２年次生が転籍した後は通算で最低５年間在学することが必要となります。

以上の点を熟慮の上、転科を希望する方は、早めに教務課に相談してください。

１．転籍（転科・転専攻）について

１）出願

イ．出願資格

次の条件を満たすこと。

①　２年次生、あるいは２年次生への進級が見込まれる１年次生であること。
ただし、国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻へは２年次生への進級が見込まれる１年次生に限る。

②　在学の年数が２年を超えていないこと。
ただし、国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻へは在学年数が１年を超えていない者に限る。

《注意》国際コミュニケーション学科国際コミュニケーション専攻に所属する学部留学生には、転籍（転科・転専攻）制度は適用されない。

③　出願時に休学中の場合は、転籍をする年度の４月に復学する学生であること。

ロ．出願時期：１月中（予定）

ハ．出願受付窓口：教務課

２．転籍（転科・転専攻）に伴う特例措置

１）転籍（転科・転専攻）後の在籍年次等について

転科先の在籍年次は２年次とするが、専攻語科目は１年次指定のものを履修する。ただし、英米語学科から国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻間の転科および国際コミュニケーション学科内での転専攻においては１年次の必須科目が単位認定されることがあるので、３）を参照のこと。

2）転籍（転科・転専攻）試験とその時期

<table>
<tr><th rowspan="2">転籍先（学科／専攻）</th><th rowspan="2">転籍元（学科／専攻）</th><th colspan="2">対象学年</th><th rowspan="2">1次試験（審査）内容</th><th rowspan="2">1次試験日程</th><th rowspan="2">2次試験内容</th><th rowspan="2">2次試験日程</th><th rowspan="2">手続期間</th></tr>
<tr><th>1年</th><th>2年</th></tr>
<tr><td rowspan="2">英米語学科</td><td>国際コミュニケーション学科</td><td colspan="7">受験資格なし</td></tr>
<tr><td>国際コミュニケーション学科以外</td><td>○</td><td>○</td><td>1）TOEIC又はTOEFL
2）一般入試I期の英語</td><td>1月下旬・
2月上旬</td><td>面接</td><td>2月下旬～
3月上旬</td><td>3月上旬</td></tr>
<tr><td>中国語専攻</td><td rowspan="2">全学科/専攻</td><td>○</td><td>○</td><td>1）小論文
2）面接</td><td rowspan="2">2月下旬～
3月上旬</td><td></td><td></td><td rowspan="2">3月上旬</td></tr>
<tr><td>韓国語専攻
スペイン語専攻
インドネシア語専攻
ベトナム語専攻
タイ語専攻
ブラジル・ポルトガル語専攻</td><td>○</td><td>○</td><td>面接</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">国際コミュニケーション学科
国際コミュニケーション専攻</td><td>英米語学科</td><td colspan="7">受験資格なし</td></tr>
<tr><td>国際コミュニケーション学科
国際ビジネスキャリア専攻</td><td>○</td><td>×</td><td>1）出願年度の前期までにGPA2.8以上
2）1年次必修科目全てを単位修得見込みであること</td><td rowspan="5">2月中旬</td><td rowspan="5">面接</td><td rowspan="5">2月下旬～
3月上旬</td><td rowspan="5">3月上旬</td></tr>
<tr><td>上記以外の学科
および専攻</td><td>○</td><td>○</td><td>1）出願時にTOEIC（IP可）650点以上取得済
2）出願する年度の前期までの成績において必修となっている英語科目全てにA以上の成績がついていること</td></tr>
<tr><td rowspan="2">国際コミュニケーション学科
国際ビジネスキャリア専攻</td><td>英米語学科</td><td>○</td><td>×</td><td>1）C基準（出願時）
2）出願年度の前期までにGPA2.8以上
3）1年次必修科目全てを単位修得見込みであること</td></tr>
<tr><td>国際コミュニケーション学科
国際コミュニケーション専攻</td><td>○</td><td>×</td><td>1）出願年度の前期までにGPA2.8以上
2）1年次必修科目全てを単位修得見込みであること</td></tr>
</table>

3）転籍後の単位認定

<table>
<tr><th>転籍先（学科／専攻）</th><th>転籍元（学科／専攻）</th><th>受験時の学年</th><th>旧所属の単位</th><th>新所属の単位</th></tr>
<tr><td>英米語学科</td><td>国際コミュニケーション学科以外</td><td>1／2</td><td>専攻語科目のうち８単位。</td><td>選択外国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲとして認定。選択外国語Ⅲのない言語の場合は、自由選択科目としてⅡ単位を認定。</td></tr>
<tr><td>中国語専攻</td><td rowspan="2">全学科/専攻</td><td rowspan="2">1／2</td><td colspan="2" rowspan="2">教務課で要相談。</td></tr>
<tr><td>韓国語専攻
スペイン語専攻
インドネシア語専攻
ベトナム語専攻
タイ語専攻
ブラジル・ポルトガル語専攻</td></tr>
<tr><td rowspan="4">国際コミュニケーション学科
国際コミュニケーション専攻</td><td>国際コミュニケーション学科
国際ビジネスキャリア専攻</td><td>1</td><td>その他</td><td>キャリア研究Ⅰ・Ⅱは研究科目（他）とする。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">中国語専攻
韓国語専攻
スペイン語専攻</td><td>1</td><td>外国語必修科目12単位を修得したとみなす。</td><td>英語科目12単位として認定。不足分の４単位は転科後に合わせて履修すること。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>外国語必修科目16単位分を修得したとみなす。</td><td>１年次英語科目16単位として認定。２年次の英語科目から履修する。</td></tr>
<tr><td>インドネシア語専攻
ベトナム語専攻
タイ語専攻
ブラジル・ポルトガル語専攻</td><td>1／2</td><td>修得した英語科目の単位。</td><td>英語科目に包括単位認定する。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">国際コミュニケーション学科
国際ビジネスキャリア専攻</td><td rowspan="2">英米語学科</td><td rowspan="2">1</td><td>英語必修14単位。</td><td>英語科目に包括単位認定する。残り２単位は、単位発行を伴わない履修免除とする。※</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>「情報リテラシー演習Ⅰ・Ⅱ（各２単位）」を、単位発行を伴わない履修免除とする。※
「情報基礎Ⅰ・Ⅱ（各Ⅰ単位）」を転科前に修得した場合は、「特別演習科目」として単位を振り返る。
転科時にはTOEIC650点を取得済みの場合は、「英語資格特別演習（２単位）」を弾力認定する。
１年次必修の「キャリア研究Ⅰ・Ⅱ（各２単位）」は転科後に１年生のクラスで履修する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">国際コミュニケーション学科
国際コミュニケーション専攻</td><td rowspan="2">1</td><td>「国際コミュニケーション入門（２単位）」、「英語資格基礎Ⅰ・Ⅱ（各１単位）」の３科目</td><td rowspan="2">「包括認定自由選択科目（４単位）」として認定。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>１年次必修の「キャリア研究Ⅰ・Ⅱ（各２単位）」は、転専攻後に１年生のクラスで履修する。</td></tr>
</table>

※：単位発行を伴わない履修免除のため、その他の分野で不足分の単位を卒業までに修得すること。
《注意》単位認定された科目の評価は「P」とする。

Ⅻ　学内ネットワーク、コンピュータの利用について

詳細については、学生用Webサイト（KUIS Campus Web）の下記項目を参照ください。

●「キャビネット」⇒　02. 各部署情報　⇒　09. メディアプラザ ●「リンク」　　⇒　学内コンピュータ情報　⇒　メディアプラザガイド ⇒　KUISオンラインマニュアル

1．学内IT設備について

⑴　Media Plaza

6号館1階にMedia Plazaがあります。開館時間内であれば自由にコンピュータを使用する事ができます。また混雑時などはノートパソコンの貸出を行っています。

※開館時間

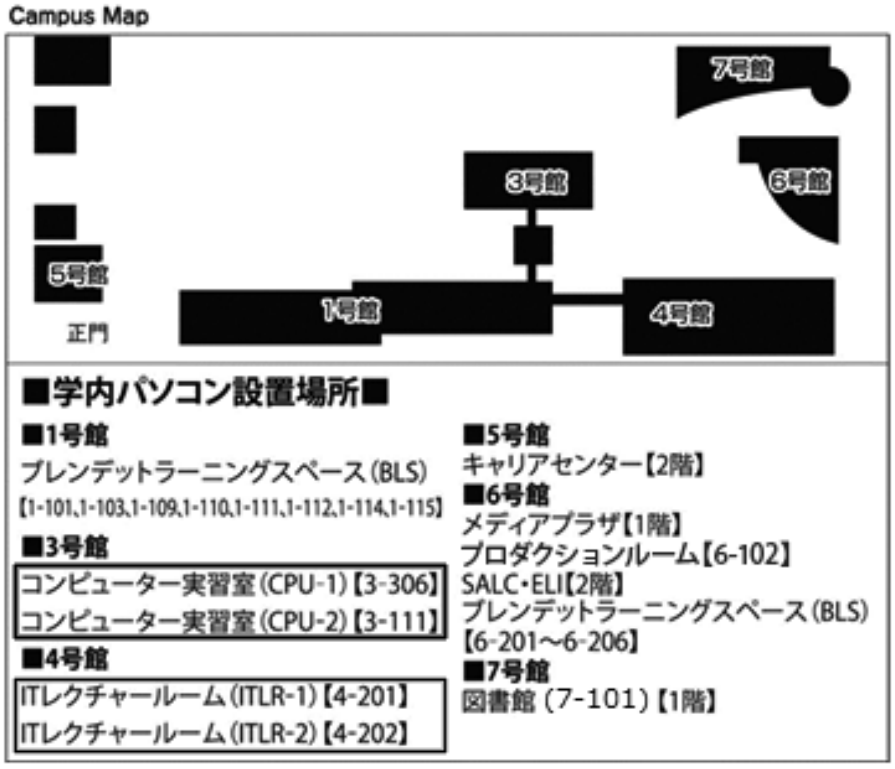
月～金	8：45～19：00
土	9：00～17：00
短　縮	10：00～17：00

※長期休暇期間、祭日を除く。また、臨時にメンテナンスなどで閉室する際には掲示板で事前にお知らせします。

⑵　コンピュータ実習室、ITレクチャールーム

開室時間内で授業のない時間帯を学生に開放しています。（下記Mapの3号館、4号館の各室）

開室時間はKUIS Campus Web、学内掲示版でご確認ください。



⑶ 学内Wi-Fi

学内全域に自由に使える無線LAN環境が揃っています。各自持参のiPadやノートPCなどで接続してインターネットを利用できます。

詳しくは、KUIS Campus Webもしくは６号館メディアプラザ１階サポートデスクにお問い合わせください。

＜使用上のルール＞

無線LANにPCを接続する場合、必ずウイルス対策ソフトがインストールされていること。また、パターンファイルは常に最新の状態に更新してください。

＜おすすめ！＞

学内でiPadがWi-Fiに繋がりにくい時は、Wi-Fi設定をOFF→ONしてください。

⑷ プロダクションルーム（教室）

６号館１階にプロダクションルームがあります。Macintoshが25台あり、ウェブサイトやグラフィックデザイン、映像編集など様々な創作活動が可能です。

※Macintoshのデスクトップなどに保存したファイルは再起動すると消えてしまうので、サーバー上のホームドライブかUSBメモリーをご使用ください。

⑸ マルチパーパスルーム

６号館１階２階にマルチパーパスルーム（４～５人用）があります。１階では映像編集、２階ではプレゼンテーションの練習やグループディスカッション等に使うことができます。

⑹ 印刷について

学内のパソコンから印刷ができます。（iPadからは印刷ができません。）モノクロ印刷については前・後期で各550枚分印刷可能です。（サイズはＡ４のみ）期間中に550枚に達してしまった場合やカラー印刷を希望する場合には有料にて枚数を追加することができます。追加の場合はメディアプラザ受付にて申請が必要です。（料金は下記表参照）

※期間中に使い切らなかった枚数は繰り越されません。印刷枚数の残数はKUIS Campus Webの「学内コンピュータ情報」から確認できます。

カ ラ ー	５枚／150円
モノクロ	10枚／100円

⑺ データの保存について

デスクトップやマイドキュメントに保存したファイルはPCが再起動すると消えてしまうので、下記の方法あるいはUSBメモリーで保存できます。適材適所で使い分けてください。

① 学内ネットワーク

マイコンピュータのＺドライブは学生個人が使えるサーバ領域です。容量は１人あたり50Mbytesまでとなっています。

② クラウド

本学では、学生一人一人が、Google Driveを利用する事ができます。Google Driveは、iPadからのデータ保存にも対応しています。

※利用に際しては

「３．大学ネットワーク利用にあたっての注意点」を参照してください。

2．学内システムの利用

⑴　学生用Webサイト（KUIS Campus Web）

大学から学生への様々な情報提供の場になります。大事な情報も掲載されますので頻繁にチェックするようにしてください。

https://camjweb.kuis.ac.jp/portal/top.do

KUIS Campus Webからは主に下記の項目が確認できます。

お知らせ・休講・補講情報	大学からのお知らせ、休講情報、補講情報の他、アルバイト情報やさまざまな説明会情報が掲載されます。頻繁に確認するようにしてください。
履修登録	授業科目の履修については、このサイトから専用サイトにリンクし、Web画面から登録します。
成績照会	成績内容については、このサイトから専用サイトにリンクし、閲覧することができます。
シラバス	授業内容については、このサイトから専用サイトにリンクし、閲覧することができます。
留学WEB	留学申請、留学中の授業生活報告、帰国後の単位認定および留学終了報告ができます。また、留学した学生の留学生活等の情報を閲覧することができます。
メール（KUIS Mail）	メールの送受信ができます。学外からも見ることができます。
図書館情報	図書館が提供する情報です。図書館情報は学外からも見ることができます。
就職情報	進路・就職支援情報は、このサイトから専用サイトにリンクし、求人情報の閲覧あるいは、進路希望、内定情報の報告がWebサイト上で行えます。
KUISゼミナール委員会	ゼミの情報を見ることができます。
e-Learning	情報基礎、英語資格基礎、日本語表現基礎の受講ができます。
KUIS Moodle	インターネットを利用したWeb上の授業ページです。

キャビネット一覧	学生を対象に大学からの情報を整理したライブラリーです。詳細な説明も掲載されておりますのでご確認ください。（コンピュータ利用の詳細も掲載されています）
学内コンピュータ情報	Media Plazaに関する情報（Media Plaza Guide）や学内でコンピュータを利用するための情報（KUIS Online Manual）を掲載しています。

※iPadやスマートフォンからもアクセスすることができます。

⑵　メールの利用

学生全員にメールアドレスを発行しており、それを用いてメールのやり取りを行う事ができます。インターネットに接続できる環境で、KUIS Mailに接続するとメールの送受信が学内外から利用できます。

3．大学ネットワーク利用にあたっての注意点

⑴　パスワードの管理

学内ネットワークやメール及び学生用Webサイトを利用するためにはパスワードが必要になります。パスワードが他人に盗まれ、悪用される可能性がありますので、パスワードの管理には十分注意してください。パスワードを設定する場合、他人が想像しにくいものにし、頻繁に変えるようにしてください。

〈主なパスワードの種類〉

Windowsログオン	学内のPCを使用する際に使用。パスワードの変更可能。メディアオリエンテーションⅡで各自設定。パスワードを忘れてしまった場合はMedia Plaza受付に申請。
KUIS Campus Web/ KUIS Mail	学生証と合わせて交付。KUIS Campus WebとKUIS Mailで使用。パスワードを忘れてしまった場合はMedia Plaza受付、学生課に申請。
e-Learning	KUIS Campus Web伝言機能で各自に配布。パスワードを忘れてしまった場合はMedia Plaza受付に申請。

※パスワードの再発行は翌日となります。（土曜日の場合は週明け）即日の発効はできかねますのでご了承ください。

⑵ 利用ルール

学内ネットワークを利用する際には、以下の注意点を守って利用してください。ルールに違反した際は、アカウントを停止します。

●コンピュータ実習室、Media Plaza利用のマナー

1．飲食物を持ち込まない。（Media Plazaではペットボトル・マイボトルなどの密閉された容器に入った飲み物は飲むことができます。）
2．私語はしない。
3．長時間の占有はしない。
4．使用後は、周りを必ず整理整頓する。
5．コンピュータへソフトウェアのインストールはしない。
6．印刷用紙は、無駄にしない。
7．コンピュータの操作の途中で退席しない。
8．使用後は、USBメモリを必ず持ち帰る。

●ネットワーク利用に際しての注意点

1．法律に抵触、または公序良俗に反する行為をしない。
2．他人のプライバシーに触れる行為をしない。
3．著作権の侵害をしない。
4．不用意なインターネット上のプログラムのダウンロードはしない。
5．公共の秩序に反する情報への接続はしない。
6．ネットワーク上で、ショッピングはしない。
7．その他、一般にネットワーク上でやってはいけないとされている行為をしない。

●クラウド利用に際しての注意点

1．オンラインストレージ（Google Drive等）は、アクセス権の設定を間違えると、世界中にデータを公開してしまいますので十分にご注意ください。なお、学内アカウントを利用して学内外の不特定多数への公開・共有はしないでください。（何人かで共有するといった限定公開のアクセス権限を設定する事も可能ですが、こちらの限定公開については問題ありません。）
2．必ずログアウトボタンを押して、自分のデータが他人に見られないように気を付けましょう。

●電子メール利用に際しての注意点

1．他利用者の電子メールを許可なく読み、削除、変造または公開することをしてはいけない。
2．チェーンメール（例えば幸福の手紙など）の発信はしてはならない。

3．知らない人から送られてきた添付ファイルは、開かずに、削除すること。

4．大学の授業と関係ないアンケートなどをメールで不特定多数の学生に発信することはしてはいけない。

5．シグネチャ（署名）まで含めた無意味な全文引用はしないこと。

※違反行為があった場合

ネットワーク利用についての違反行為あるいはその疑いがあった場合、大学で処罰等の措置を講じるかどうか審議し、決定します。

4．その他

● ICT試験対策講座の開講

夏休みには、米国Microsoft社が正式に認定するMos Excel試験対策講座を実施しています。大学でのレポート作成に役立ったり、就活の際にエントリーシートや履歴書の資格取得欄にも記入できます。毎年6月に、IT資格の説明会を開催していますので、ぜひ聞きに来てください。

● その他の詳細情報については、Campus Web内に掲載されておりますので必ず目を通すようにしてください。

XV　教職課程履修要項

A　教育職員免許状について

1．教育職員免許状とは

日本の中学校・高等学校で教壇に立つためには、教員免許が必要です。本学では、中学校と高校の英語の免許などが取得できます（学科･専攻により取得できる免許状が異なります)。また、３年生から千葉経済大学短期大学部の科目を履修することにより、卒業時に小学校免許を同時に取得する制度もあります。

2．本学の求める教員像

高い英語力と国際的な視野を身につけ、使命感を持って生徒の指導にあたると共に同僚と協調できる人間性豊かな教師

「言葉は世界をつなぐ平和の礎」という本学の理念に基づき教員を養成します。具体的には、英語指導を通して言葉の持つ魅力や他言語への憧れを喚起し、英語と将来において関わることに関心を持つ生徒を育成できる教員となる必要があると本学では考えています。そのため、まずは高い英語力を養うとともに、使命感を持って教育に職を求める姿勢を求めるほか、コミュニケーションのとれる人間性を陶冶します。

3．本学で取得できる教育職員免許状の種類及び免許教科

本学が文部科学大臣から教職課程の認定を受け、本学で取得できる教育職員免許状の種類と教科は次のとおりです。

	中学校教諭一種免許状（英語)･高等学校教諭一種免許状（英語）	高等学校教諭一種免許状（中国語）	高等学校教諭一種免許状（韓国語）	高等学校教諭一種免許状（スペイン語）
英米語学科	○			
アジア言語学科中国語専攻	※	○		
韓国語専攻	※		○	
インドネシア語専攻	○			
ベトナム語専攻	○			
タイ語専攻	○			
イベロアメリカ言語学科スペイン語専攻	※			○
ブラジル･ポルトガル語専攻	○			
国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーション専攻	○			

備考　※中国語、韓国語、スペイン語各専攻においては、自分の専攻する言語と英語の中学校一種･高等学校一種の免許状（副免）を合わせて取得することを原則とします。
○英語の免許を取得する学生は中学校１種・高等学校１種の両方を取得することを原則とします。
国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻の学生は、教員免許状を取得することはできません。

4．教育職員免許状取得に必要な科目・単位数

教育職員免許状を取得するためには、卒業に必要な単位の他に次に示す免許状に必要な４つの科目区分から、それぞれ定められた単位を修得することが必要です。

詳細は、B　教職課程の履修についてを参照して下さい。

免許状取得に必要な科目		教育職員免許法での最低修得単位数		本学における科目	備　考
		中一種	高一種		
(1)　教職に関する科目		31	23	(1)　教職に関する科目の項を参照	注１
(2)　教科に関する科目		20	20	自分の所属する学科・専攻の　(2)　教科に関する科目の項を参照	注２
(3)　教科又は教職に関する科目		8	16	自分の所属する学科・専攻の　(3)　教科又は教職に関する科目の項を参照	注３
第66条の6に定める科目 (4) 教育職員免許法施行規則	日本国憲法に関する科目	2	2	「憲法Ⅰ」又は「憲法Ⅱ」	
	体育に関する科目	2	2	「体育・スポーツ」を２種目	
	外国語コミュニケーションに関する科目	2	2	自分の所属する学科・専攻の１年次必修英語科目・地域言語科目	
	情報機器の操作に関する科目	2	2	「情報基礎Ⅰ」及び「情報基礎Ⅱ」	

免許状に必要な単位の注意事項

中学と高校の免許を同時に取得するため、上表のそれぞれの最低修得単位数のうち、多い方の単位数を修得する必要があります。また、本学が定めた最低修得単位数が上表を上回る場合には、本学基準の単位数を取得して下さい。

注１	教職に関する科目は、自由選択科目として８単位まで卒業要件単位に充てることができます。
注２	自分の所属する学科・専攻の定める最低必要単位数を修得する必要があります。
注３	自分の所属する学科・専攻の定める最低必要単位数を修得する必要があります。

B 教職課程の履修について

⑴ 教職に関する科目

各分野での必修科目、選択必修科目を含めて必要単位数を修得します。

〈各学科共通〉

教育職員免許法施行規則所定			本学基準				注
分野	各科目に含める必要事項	最低修得単位数	科目名	単位数	履修に適した年次	備考	
教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） 進路選択に資する各種機会の提供等	2	□教師論	2	1～4		
教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	□教育原理	2	1～2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		□教育心理学	2	2～3		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		○教育社会学 ○教育行政学	2 2	2～4 2～4	○印1科目2単位以上必修	
教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	中12 高6	□教育課程論	2	2～4		
	・各教科の指導法		□英語科教育法Ⅰ	2	3	免許状の教科ごとに定められた教科教育法Ⅰ、Ⅱについて必修 なお、副免希望者は専攻語及び英語科教育法Ⅰ、Ⅱについて必修	注1
			□英語科教育法Ⅱ	2	3		
			英語科教育法Ⅲ	2	3		
			英語科教育法Ⅳ	2	3		
			□中国語科教育法Ⅰ	2	3		
			□中国語科教育法Ⅱ	2	3		
			□スペイン語科教育法Ⅰ	2	3		
			□スペイン語科教育法Ⅱ	2	3		
			□韓国語科教育法Ⅰ	2	3		
			□韓国語科教育法Ⅱ	2	3		
	・道徳の指導法		□道徳教育の指導法	2	2～3	中学校1種免許状取得希望者は必修	注2
	・特別活動の指導法		□特別活動論	2	2～4		
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		□教育方法の理論と実践	2	2～4	□印1科目2単位必修	

生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法 進路指導の理論及び方法	4	□生徒指導論 （進路指導を含む）	2	2～4		
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		□教育相談	2	2～4		
教育実習		中5 高3	□教育事前事後実習	2	3		注3
			□教育実践実習Ⅰ	2	4		注4
			教育実践実習Ⅱ	2	4	Ⅱについては、中学校1種免許状取得希望者は必修	
教職実践演習		2	□教職実践演習（中・高）	2	4		
計		中31 高23	中学校32単位以上／高等学校28単位以上必修				

□印は教職必修科目
○印は教職選択必修科目

注1	どの学科の学生もB基準（Ⅵ2）履修上の注意の表参照）が履修条件となります。
注2	「道徳教育の指導法」を高等学校1種免許状の申請に使用する場合は、その単位は、「教科又は教職に関する科目」の単位に充てることができる。
注3	次年度教育実習に行く学生が対象です。（3年次であっても次年度教育実習を行わない者は履修できません。）
注4	英語で実習を行う場合、どの学科の学生もA基準（Ⅵ2履修上の注意の表参照）が履修条件となります。 原則として、3週間以上の実習を行い「教育実践実習Ⅰ・Ⅱ」の両科目として認定します。 なお、高等学校1種免許状のみの場合は2週間以上の実習で「教育実践実習Ⅰ」として認定します。

＜英米語学科＞

(2) 教科に関する科目

教育職員免許法施行規則所定		本学基準			
分野	最低修得単位数	科目名	単位数	履修年次	備考
英語学	1	◎英語学概論	4	1～4	◎印及び○印1科目を含む8単位以上必修
		○英語音声学	4	1～4	
		○Outline of English Phonetics	4	1～4	
		英語音韻論	4	1～4	
		○英語統語論Ⅰ	4	1～4	
		○英語統語論Ⅱ	4	2～4	
		英語意味論	4	2～4	
		○現代英文法	4	1～4	
		○英語習得法	4	1～4	
		第二言語習得研究	4	2～4	
		英語談話分析	4	2～4	
		英語史	4	2～4	
		古期中期英語	4	2～4	
		教育英文法基礎	2	2～4	
英米文学	1	○英文学史Ⅰ	2	1～4	○印4科目を含む8単位以上必修
		○英文学史Ⅱ	2	1～4	
		○米文学史Ⅰ	2	1～4	
		○米文学史Ⅱ	2	1～4	
		○英文学講義Ⅰ	2	1～4	
		○英文学講義Ⅱ	2	1～4	
		○米文学講義Ⅰ	2	1～4	
		○米文学講義Ⅱ	2	1～4	
		英文学研究Ⅰ	2	2～4	
		英文学研究Ⅱ	2	2～4	
		米文学研究Ⅰ	2	2～4	
		米文学研究Ⅱ	2	2～4	
英語コミュニケーション	1	〈英語総合講座Ⅱ〉			◎印を含む12単位以上必修
		◎Media English (a) (英米)	2	2	
		◎Media English (b) (英米)	2	2	
		◎Academic Literacies : Reading (a)	2	2	
		◎Academic Literacies : Reading (b)	2	2	
		◎Academic Literacies : Writing (a)	2	2	
		◎Academic Literacies : Writing (b)	2	2	
		※時事英語Ⅰ	2	1～4	
		※時事英語Ⅱ	2	1～4	
		※Business English Ⅰ	2	1～4	
		※Business English Ⅱ	2	1～4	
		※商業英語Ⅰ	2	1～4	
		※商業英語Ⅱ	2	1～4	
		英語パブリック・スピーキング	4	1～4	
		英語ディベート	4	1～4	
		英語スモールグループ・コミュニケーション	4	1～4	
		英語オーラルインタープリテーション	4	2～4	
		日米コミュニケーション論	4	2～4	
		日英翻訳法Ⅱ	4	2～4	
		英日翻訳法Ⅱ	4	2～4	
		英語通訳法Ⅰ	4	1～4	
		英語通訳法Ⅱ	4	1～4	
		英語通訳法Ⅲ	4	2～4	
		英語通訳法Ⅳ	4	2～4	
異文化理解	1	日英比較文化論Ⅰ	2	1～4	○印2科目を含む4単位以上必修
		日英比較文化論Ⅱ	2	1～4	
		日米比較文化論Ⅰ	2	1～4	
		日米比較文化論Ⅱ	2	1～4	
		※○英国研究入門Ⅰ	2	1～4	
		※○英国研究入門Ⅱ	2	1～4	
		※○米国研究入門Ⅰ	2	1～4	
		※○米国研究入門Ⅱ	2	1～4	
		※○オセアニア研究入門Ⅰ	2	1～4	
		※○オセアニア研究入門Ⅱ	2	1～4	
		※○カナダ研究入門Ⅰ	2	1～4	
		※○カナダ研究入門Ⅱ	2	1～4	

		英国史概論Ⅰ	2	1～4	
		英国史概論Ⅱ	2	1～4	
		米国史概論Ⅰ	2	1～4	
		米国史概論Ⅱ	2	1～4	
		英米法Ⅰ	2	1～4	
		英米法Ⅱ	2	1～4	
		米国政治論Ⅰ	2	1～4	
		米国政治論Ⅱ	2	1～4	
		米国経済論Ⅰ	2	1～4	
		米国経済論Ⅱ	2	1～4	
		米国社会論Ⅰ	2	1～4	
		米国社会論Ⅱ	2	1～4	
		米国外交論Ⅰ	2	1～4	
		米国外交論Ⅱ	2	1～4	
		日米関係論Ⅰ	2	1～4	
		日米関係論Ⅱ	2	1～4	
		英国文化実地研究	4	1～4	
		米国文化実地研究	4	1～4	
		オセアニア文化実地研究	4	1～4	
		カナダ文化実地研究	4	1～4	
計	4	中学校32単位以上必修			
所定最低単位数	20	高等学校32単位以上必修			

◎印は卒業必修科目
※印は卒業選択必修科目
□印は教職必修科目
○印は教職選択必修科目

(3) 教科又は教職に関する科目

教育職員免許法施行規則所定最低修得単位数	本学基準			
	科目名	単位数	履修に適した年次	備考
中8 高16	◎英語総合講座Ⅲ	16	3～4	
	介護等体験実習※	1	2～4	中学校1種免許状取得希望者は必修 3年次に履修することが望ましい
	道徳教育の指導法	2	2～3	高校1種免許状のみ取得希望者が履修した場合
計	中学校17単位／高等学校16単位以上必修			

◎印は卒業必修科目
※ p.116 C－2.「介護等体験実習について」も参照すること。

(4) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

教育職員免許法施行規則所定		本学基準			
分野	最低修得単位数	科目名	単位数	履修年次	備考
日本国憲法	2	○憲法Ⅰ	2	1～4	○印1科目2単位以上必修
		○憲法Ⅱ	2	1～4	
体育	2	□体育・スポーツ	1	1～4	2種目2単位必修
		□体育・スポーツⅡ	1	1～4	
外国語コミュニケーション	2	〈英語総合講座Ⅰ〉			◎印12単位必修
		◎Freshman English (a)	4	1	
		◎Freshman English (b)	4	1	
		◎Foundational Literacies : Reading & Writing (a)	2	1	
		◎Foundational Literacies : Reading & Writing (b)	2	1	
情報機器の操作	2	□情報基礎Ⅰ	1	1～4	2科目2単位必修
		□情報基礎Ⅱ	1	1～4	

＜アジア言語学科　中国語専攻＞

⑵　教科に関する科目

教育職員免許法施行規則所定		本　学　基　準			
分　野	最低修得単位数	科　目　名	単位数	履修年次	備　考
中国語学	1	□中国語学概論Ⅰ	2	1～4	□印を含む4単位以上必修
		□中国語学概論Ⅱ	2	1～4	
		中国語文法論Ⅰ	2	2～4	
		中国語文法論Ⅱ	2	2～4	
		中国語音韻論Ⅰ	2	2～4	
		中国語音韻論Ⅱ	2	2～4	
		中国語音声学Ⅰ	2	2～4	
		中国語音声学Ⅱ	2	2～4	
		中国語史Ⅰ	2	2～4	
		中国語史Ⅱ	2	2～4	
		中国語通訳法Ⅰ(a)	2	3～4	
		中国語通訳法Ⅰ(b)	2	3～4	
		中国語通訳法Ⅱ(a)	2	3～4	
		中国語通訳法Ⅱ(b)	2	3～4	
		ビジネス中国語Ⅰ(a)	2	3～4	
		ビジネス中国語Ⅰ(b)	2	3～4	
		日中比較言語Ⅰ	2	3～4	
		日中比較言語Ⅱ	2	3～4	
		広東語Ⅰ	2	3～4	
		広東語Ⅱ	2	3～4	
		福建語Ⅰ	2	3～4	
		福建語Ⅱ	2	3～4	
		時事中国語Ⅰ(a)	2	3～4	
		時事中国語Ⅰ(b)	2	3～4	
		時事中国語Ⅱ(a)	2	3～4	
		時事中国語Ⅱ(b)	2	3～4	
中国文学	1	※中国文学講読Ⅰ(a)	2	3～4	□印を含む2単位以上必修 ※印については「Ⅵ授業科目について」中国語専攻カリキュラム表参照
		※中国文学講読Ⅰ(b)	2	3～4	
		※中国文学講読Ⅱ(a)	2	3～4	
		※中国文学講読Ⅱ(b)	2	3～4	
		□中国文学概論Ⅰ	2	1～4	
		中国文学概論Ⅱ	2	1～4	
		中国文学史Ⅰ	2	1～4	
		中国文学史Ⅱ	2	1～4	
		中国古典講読Ⅰ	2	2～4	
		中国古典講読Ⅱ	2	2～4	
		中国近世文学研究Ⅰ	2	3～4	
		中国近世文学研究Ⅱ	2	3～4	
		中国近代文学研究Ⅰ	2	2～4	
		中国近代文学研究Ⅱ	2	2～4	
		中国現代文学研究Ⅰ	2	2～4	
		中国現代文学研究Ⅱ	2	2～4	
中国語コミュニケーション	1	◎中国語総合Ⅱ－1(a)	2	2	
		◎中国語総合Ⅱ－1(b)	2	2	
		◎中国語総合Ⅱ－2(a)	1	2	
		◎中国語総合Ⅱ－2(b)	1	2	
		◎中国語作文Ⅱ(a)	1	2	
		◎中国語作文Ⅱ(b)	1	2	
		◎中国語会話Ⅱ(a)	1	2	
		◎中国語会話Ⅱ(b)	1	2	
		◎LL中国語(a)	1	2	
		◎LL中国語(b)	1	2	
		中国語翻訳法Ⅰ(a)	2	3～4	
		中国語翻訳法Ⅰ(b)	2	3～4	
		中国語翻訳法Ⅱ(a)	2	3～4	
		中国語翻訳法Ⅱ(b)	2	3～4	
		中国語討論・スピーチⅠ(a)	2	3～4	
		中国語討論・スピーチⅠ(b)	2	3～4	
		中国語討論・スピーチⅡ(a)	2	3～4	
		中国語討論・スピーチⅡ(b)	2	3～4	
		中国語表現法Ⅰ(a)	2	3～4	
		中国語表現法Ⅰ(b)	2	3～4	
		中国語表現法Ⅱ(a)	2	3～4	
		中国語表現法Ⅱ(b)	2	3～4	

異文化理解	1	中国思想概論Ⅰ	2	1～4	□印1科目を含む2単位以上必修
		中国思想概論Ⅱ	2	1～4	
		□中国文化概論Ⅰ	2	1～4	
		中国文化概論Ⅱ	2	1～4	
		中国史概論Ⅰ	2	1～4	
		中国史概論Ⅱ	2	1～4	
		中国社会概論Ⅰ	2	1～4	
		中国社会概論Ⅱ	2	1～4	
		中国社会特殊研究Ⅰ	2	2～4	
		中国社会特殊研究Ⅱ	2	2～4	
		中国経済概論Ⅰ	2	1～4	
		中国経済概論Ⅱ	2	1～4	
		中国経済特殊研究Ⅰ	2	2～4	
		中国経済特殊研究Ⅱ	2	2～4	
		中国政治外交概論Ⅰ	2	1～4	
		中国政治外交概論Ⅱ	2	1～4	
		中国政治外交特殊研究Ⅰ	2	2～4	
		中国政治外交特殊研究Ⅱ	2	2～4	
計	4	中学校20単位以上必修 高等学校20単位以上必修	20単位以上修得した余剰分の単位数を、(3)「教科又は教職に関する科目」として充てるために、必ず20単位を超えて16単位以上余分に修得すること。		
所定最低単位数	20				

◎印は卒業必修科目
※印は卒業選択必修科目
□印は教職必修科目
○印は教職選択必修科目

(3) 教科又は教職に関する科目

教育職員免許法施行規則所定最低修得単位数	本学基準			
	科目名	単位数	履修に適した年次	備考
中8 高16	介護等体験実習※	1	2～4	中学校1種免許状取得希望者は必修 3年次に履修することが望ましい
	道徳教育の指導法	2	2～3	高校1種免許状のみ取得希望者が履修した場合
	教科に関する科目			20単位を超えて取得した単位
計	高等学校16単位以上必修			

※ p.116 C－2.「介護等体験実習について」も参照すること。

(4) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

教育職員免許法施行規則所定		本学基準			
分野	最低修得単位数	科目名	単位数	履修年次	備考
日本国憲法	2	○憲法Ⅰ	2	1～4	○印1科目2単位以上必修
		○憲法Ⅱ	2	1～4	
体育	2	□体育・スポーツ	1	1～4	2種目2単位必修
		□体育・スポーツⅡ	1	1～4	
外国語コミュニケーション	2	◎中国語総合Ⅰ(a)	3	1	◎印12単位必修
		◎中国語総合Ⅰ(b)	3	1	
		◎中国語作文Ⅰ(a)	1	1	
		◎中国語作文Ⅰ(b)	1	1	
		◎中国語会話Ⅰ(a)	2	1	
		◎中国語会話Ⅰ(b)	2	1	
情報機器の操作	2	□情報基礎Ⅰ	1	1～4	2科目2単位必修
		□情報基礎Ⅱ	1	1～4	

＜アジア言語学科　韓国語専攻＞

⑵　教科に関する科目

教育職員免許法施行規則所定		本　学　基　準			
分　野	最低修得単位数	科　目　名	単位数	履修年次	備　考
韓国語学	1	□韓国語学概論Ⅰ	2	2～4	□印2科目を含む4単位以上必修
		□韓国語学概論Ⅱ	2	2～4	
		韓国語文法論Ⅰ	2	2～4	
		韓国語文法論Ⅱ	2	2～4	
		日韓対照言語研究Ⅰ	2	2～4	
		日韓対照言語研究Ⅱ	2	2～4	
		韓国語学特講Ⅰ	2	2～4	
		韓国語学特講Ⅱ	2	2～4	
		韓国語社会言語学Ⅰ	2	2～4	
		韓国語社会言語学Ⅱ	2	2～4	
		韓国語文章表現法	2	2～4	
		韓国語意味論	2	2～4	
		時事韓国語Ⅰ	2	3～4	
		時事韓国語Ⅱ	2	3～4	
		韓国語対話文Ⅰ	2	3～4	
		韓国語対話文Ⅱ	2	3～4	
		韓国語講読Ⅰ	2	3～4	
		韓国語講読Ⅱ	2	3～4	
韓国文学	1	□韓国現代文学研究Ⅰ	2	3～4	□印1科目を含む2単位以上必修
		韓国現代文学研究Ⅱ	2	3～4	
韓国語コミュニケーション	1	◎韓国語基礎Ⅲ	6	2	
		◎韓国語基礎Ⅳ	6	2	
		韓国語口頭表現Ⅰ	2	3～4	
		韓国語口頭表現Ⅱ	2	3～4	
		韓日通訳法	2	3～4	
		日韓通訳法	2	3～4	
		韓日翻訳法	2	3～4	
		日韓翻訳法	2	3～4	
異文化理解	1	□韓国文化概論Ⅰ	2	1～4	□印1科目を含む2単位以上必修
		韓国文化概論Ⅱ	2	1～4	
		韓国文化特定研究Ⅰ	2	2～4	
		韓国文化特定研究Ⅱ	2	2～4	
		韓国映像文化論Ⅰ	2	2～4	
		韓国映像文化論Ⅱ	2	2～4	
		韓国政治論Ⅰ	2	2～4	
		韓国政治論Ⅱ	2	2～4	
		韓国経済論Ⅰ	2	2～4	
		韓国経済論Ⅱ	2	2～4	
		韓国史概論Ⅰ	2	1～4	
		韓国史概論Ⅱ	2	1～4	
		韓国近代史Ⅰ	2	2～4	
		韓国近代史Ⅱ	2	2～4	
		韓国史特講Ⅰ	2	2～4	
		韓国史特講Ⅱ	2	2～4	
		古代日韓関係史	2	2～4	
		中世日韓関係史	2	2～4	
計	4	中学校20単位以上必修 高等学校20単位以上必修	20単位以上修得した余剰分の単位数を、⑶「教科又は教職に関する科目」として充てるために、必ず20単位を超えて16単位以上余分に修得すること。		
所定最低単位数	20				

◎印は卒業必修科目
□印は教職必修科目
○印は教職選択必修科目

⑶　教科又は教職に関する科目

教育職員免許法施行規則所定最低修得単位数	本学基準			
	科目名	単位数	履修に適した年次	備考
中８ 高16	介護等体験実習※	1	２～４	中学校１種免許状取得希望者は必修 ３年次に履修することが望ましい
	道徳教育の指導法	2	２～３	高校１種免許状のみ取得希望者が履修した場合
	教科に関する科目			20単位を超えて取得した単位
計	高等学校16単位以上必修			

※　p.116　Ｃ－２.「介護等体験実習について」も参照すること。

⑷　教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

教育職員免許法施行規則所定		本学基準			
分野	最低修得単位数	科目名	単位数	履修年次	備考
日本国憲法	2	○憲法Ⅰ	2	１～４	○印１科目２単位以上必修
		○憲法Ⅱ	2	１～４	
体育	2	□体育・スポーツ	1	１～４	２種目２単位必修
		□体育・スポーツⅡ	1	１～４	
外国語コミュニケーション	2	◎韓国語基礎Ⅰ	6	1	◎印12単位必修
		◎韓国語基礎Ⅱ	6	1	
情報機器の操作	2	□情報基礎Ⅰ	1	１～４	２科目２単位必修
		□情報基礎Ⅱ	1	１～４	

〈英語「副免」〉〈アジア言語学科〉中国語・韓国語専攻

⑵　教科に関する科目

教育職員免許法施行規則所定		本　学　基　準			
分　野	最低修得単位数	科　目　名	単位数	履修年次	備　考
英　語　学	1	○英語学概論	4	1～4	○印２科目を含む８単位以上必修
		○英語統語論Ⅰ	4	1～4	
		○英語統語論Ⅱ	4	2～4	
		○現代英文法	4	1～4	
英　米　文　学	1	○英文学史Ⅰ	2	1～4	○印１科目及び●印１科目を含む４単位以上必修
		○英文学史Ⅱ	2	1～4	
		●米文学史Ⅰ	2	1～4	
		●米文学史Ⅱ	2	1～4	
		○英文学講義Ⅰ	2	1～4	
		○英文学講義Ⅱ	2	1～4	
		●米文学講義Ⅰ	2	1～4	
		●米文学講義Ⅱ	2	1～4	
		英文学研究Ⅰ	2	2～4	
		英文学研究Ⅱ	2	2～4	
		米文学研究Ⅰ	2	2～4	
		米文学研究Ⅱ	2	2～4	
英語コミュニケーション※	1	〈英語科目〉			◎印を含む８単位以上必修
		◎Freshman English (a) (CSK)	2	1	
		◎Freshman English (b) (CSK)	2	1	
		◎Sophomore English (a) (CSK)	2	2	
		◎Sophomore English (b) (CSK)	2	2	
		◎Advanced English (a) (CSK)	2	3	
		◎Advanced English (b) (CSK)	2	3	
異文化理解	1	○米国研究入門Ⅰ	2	1～4	○印１科目を含む２単位以上必修
		○米国研究入門Ⅱ	2	1～4	
		○オセアニア研究入門Ⅰ	2	1～4	
		○オセアニア研究入門Ⅱ	2	1～4	
計	4	中学校22単位以上必修 高等学校22単位以上必修	※20単位以上修得した余剰分の単位数を、⑶「教科又は教職に関する科目」として充てるために、必ず20単位を超えて16単位以上を余分に修得すること。		
所定最低単位数	20				

◎印は卒業必修科目
○、●印は教職選択必修科目
※Freshman English (a)(CSK),(b)(CSK),Sophomore English (a)(CSK),(b)(CSK),
Advanced English (a)(CSK),(b)(CSK)合計12単位の履修をもって、
Sophomore English Ⅰ (ML),Ⅱ (ML),Media English Ⅰ (ML),Ⅱ (ML),英語総合講座(ML)合計12単位を履修したものとみなす。

⑶　教科又は教職に関する科目

教育職員免許法施行規則所定最低修得単位数	本　学　基　準			
	科　目　名	単位数	履修に適した年次	備　考
中８ 高16	教科に関する科目で必要最低単位（20単位）を超えて修得した単位	16		
	介護等体験実習※	1	2～4	中学校１種免許状取得希望者は必修 ３年次に履修することが望ましい
	道徳教育の指導法	2	2～3	高校１種免許状のみ取得希望者が履修した場合
計	中学校17単位／高等学校16単位以上必修			

※　p.116　C－2.「介護等体験実習について」も参照すること。

⑷　教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

中国語専攻：P. 105、韓国語専攻：P. 107の⑷の表と同じ。

＜アジア言語学科　インドネシア語専攻・ベトナム語専攻・タイ語専攻＞

⑵　教科に関する科目

教育職員免許法施行規則所定		本　学　基　準			
分　野	最低修得単位数	科　目　名	単位数	履修年次	備　考
英　語　学	1	○英語学概論 ○英語統語論Ⅰ ○英語統語論Ⅱ ○現代英文法	4 4 4 4	1～4 1～4 2～4 1～4	○印２科目を含む８単位以上必修
英　米　文　学	1	○英文学史Ⅰ ○英文学史Ⅱ ●米文学史Ⅰ ●米文学史Ⅱ ○英文学講義Ⅰ ○英文学講義Ⅱ ●米文学講義Ⅰ ●米文学講義Ⅱ 英文学研究Ⅰ 英文学研究Ⅱ 米文学研究Ⅰ 米文学研究Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1～4 1～4 1～4 1～4 1～4 1～4 1～4 1～4 2～4 2～4 2～4 2～4	○印１科目及び●印１科目を含む４単位以上必修
英語コミュニケーション	1	＜英語科目＞ ◎Sophomore English Ⅰ (ML) ◎Sophomore English Ⅱ (ML) ◎Media English Ⅰ (ML) ◎Media English Ⅱ (ML) ◎英語総合講座 (ML)	 2 2 2 2 4	 2 2 2 2 3～4	◎印を含む８単位以上必修
異　文　化　理　解	1	○米国研究入門Ⅰ ○米国研究入門Ⅱ ○オセアニア研究入門Ⅰ ○オセアニア研究入門Ⅱ	2 2 2 2	1～4 1～4 1～4 1～4	○印１科目を含む２単位以上必修
計	4	中学校22単位以上必修 高等学校22単位以上必修		20単位以上修得した余剰分の単位数を、⑶「教科又は教職に関する科目」として充てるために、必ず20単位を超えて16単位以上を余分に修得すること。	
所定最低単位数	20				

◎印は卒業必修科目
○・●印は教職選択必修科目

⑶　教科又は教職に関する科目

教育職員免許法施行規則所定最低修得単位数	本　学　基　準			
	科　目　名	単位数	履修に適した年次	備　考
中８ 高16	介護等体験実習※	1	2～4	中学校１種免許状取得希望者は必修 ３年次に履修することが望ましい
	道徳教育の指導法	2	2～3	高校１種免許状のみ取得希望者が履修した場合
	教科に関する科目			20単位を超えて取得した単位
計	中学校17単位／高等学校16単位以上必修			

※　p.116　C－2.「介護等体験実習について」も参照すること。

⑷　教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

教育職員免許法施行規則所定		本　学　基　準			
分　野	最低修得単位数	科　目　名	単位数	履修年次	備　考
日本国憲法	2	○憲法Ⅰ ○憲法Ⅱ	2 2	1～4 1～4	○印１科目２単位以上必修
体　育	2	□体育・スポーツ □体育・スポーツⅡ	1 1	1～4 1～4	２種目２単位必修
外国語コミュニケーション	2	◎Freshman English Ⅰ (ML) ◎Freshman English Ⅱ (ML)	4 4	1 1	◎印８単位必修
情報機器の操作	2	□情報基礎Ⅰ □情報基礎Ⅱ	1 1	1～4 1～4	２科目２単位必修

＜イベロアメリカ言語学科　スペイン語専攻＞

⑵　教科に関する科目

教育職員免許法施行規則所定		本学基準			
分野	最低修得単位数	科目名	単位数	履修年次	備考
スペイン語学	1	○スペイン語音声学Ⅰ	2	2～4	○印2科目を含む4単位以上必修
		○スペイン語音声学Ⅱ	2	2～4	
		○スペイン語学概論Ⅰ	2	2～4	
		○スペイン語学概論Ⅱ	2	2～4	
		日西語対照研究Ⅰ	2	2～4	
		日西語対照研究Ⅱ	2	2～4	
		アメリカスペイン語特殊研究Ⅰ	2	3～4	
		アメリカスペイン語特殊研究Ⅱ	2	3～4	
		スペイン語史Ⅰ	2	2～4	
		スペイン語史Ⅱ	2	2～4	
		商業スペイン語Ⅰ	2	2～4	
		商業スペイン語Ⅱ	2	2～4	
		スペイン語翻訳法Ⅰ	2	2～4	
		スペイン語翻訳法Ⅱ	2	2～4	
		スペイン語圏マス･コミュニケーション論Ⅰ	2	3～4	
		スペイン語圏マス･コミュニケーション論Ⅱ	2	3～4	
		スペイン語研究Ⅰ	4	3～4	
スペイン文学	1	○スペイン文学史Ⅰ	2	1～4	○印1科目を含む2単位以上必修
		○スペイン文学史Ⅱ	2	1～4	
		現代スペイン文学Ⅰ	2	2～4	
		現代スペイン文学Ⅱ	2	2～4	
		○現代ラテンアメリカ文学Ⅰ	2	2～4	
		○現代ラテンアメリカ文学Ⅱ	2	2～4	
		ラテンアメリカ文学特殊研究Ⅰ	2	3～4	
		ラテンアメリカ文学特殊研究Ⅱ	2	3～4	
		スペイン語研究Ⅱ	4	3～4	
スペイン語コミュニケーション	1	◎スペイン語基礎Ⅱ(a)	6	2	
		◎スペイン語基礎Ⅱ(b)	6	2	
		スペイン語スピーチ･コミュニケーションⅠ	2	3～4	
		スペイン語スピーチ･コミュニケーションⅡ	2	3～4	
		スペイン語研究Ⅲ	4	3～4	
異文化理解	1	○スペイン文化研究Ⅰ	2	2～4	○印1科目を含む2単位以上必修
		○スペイン文化研究Ⅱ	2	2～4	
		スペイン美術史Ⅰ	2	2～4	
		スペイン美術史Ⅱ	2	2～4	
		イベリア史概論Ⅰ	2	1～4	
		イベリア史概論Ⅱ	2	1～4	
		スペイン現代史Ⅰ	2	2～4	
		スペイン現代史Ⅱ	2	2～4	
		スペイン経済論Ⅰ	2	2～4	
		スペイン経済論Ⅱ	2	2～4	
		ラテンアメリカ史概論Ⅰ	2	1～4	
		ラテンアメリカ史概論Ⅱ	2	1～4	
		ラテンアメリカ現代史Ⅰ	2	2～4	
		ラテンアメリカ現代史Ⅱ	2	2～4	
		ラテンアメリカ経済論Ⅰ	2	2～4	
		ラテンアメリカ経済論Ⅱ	2	2～4	
		ラテンアメリカ研究Ⅰ	2	2～4	
		ラテンアメリカ研究Ⅱ	2	2～4	
		メキシコ特殊研究Ⅰ	2	2～4	
		メキシコ特殊研究Ⅱ	2	2～4	
		スペイン語研究Ⅳ	4	3～4	
		スペイン語研究Ⅴ	4	3～4	
計	4	中学校20単位以上必修 高等学校20単位以上必修		20単位以上修得した余剰分の単位数を、⑶「教科又は教職に関する科目」として充てるために、必ず20単位を超えて16単位以上余分に修得すること。	
所定最低単位数	20				

◎印は卒業必修科目
○印は教職選択必修科目

⑶　教科又は教職に関する科目

教育職員免許法施行規則所定最低修得単位数	本学基準			
	科目名	単位数	履修に適した年次	備考
中８ 高16	介護等体験実習※	1	２～４	中学校１種免許状取得希望者は必修 ３年次に履修することが望ましい
	道徳教育の指導法	2	２～３	高校１種免許状のみ取得希望者が履修した場合
	教科に関する科目			20単位を超えて取得した単位
計	高等学校16単位以上必修			

※　p.116　C－２.「介護等体験実習について」も参照すること。

⑷　教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

教育職員免許法施行規則所定		本学基準			
分野	最低修得単位数	科目名	単位数	履修年次	備考
日本国憲法	2	○憲法Ⅰ	2	１～４	○印１科目２単位以上必修
		○憲法Ⅱ	2	１～４	
体育	2	□体育・スポーツ	1	１～４	２種目２単位必修
		□体育・スポーツⅡ	1	１～４	
外国語コミュニケーション	2	◎スペイン語基礎Ⅰ(a)	6	1	◎印12単位必修
		◎スペイン語基礎Ⅰ(b)	6	1	
情報機器の操作	2	□情報基礎Ⅰ	1	１～４	２科目２単位必修
		□情報基礎Ⅱ	1	１～４	

〈英語「副免」〉〈イベロアメリカ言語学科〉スペイン語専攻

⑵　教科に関する科目

教育職員免許法施行規則所定		本　学　基　準			
分　野	最低修得単位数	科　目　名	単位数	履修年次	備　考
英　語　学	1	○英語学概論	4	1～4	○印2科目を含む8単位以上必修
		英語音韻論	4	1～4	
		○英語統語論Ⅰ	4	1～4	
		○英語統語論Ⅱ	4	2～4	
		○現代英文法	4	1～4	
英　米　文　学	1	○英文学史Ⅰ	2	1～4	○印1科目及び●印1科目を含む4単位以上必修
		○英文学史Ⅱ	2	1～4	
		●米文学史Ⅰ	2	1～4	
		●米文学史Ⅱ	2	1～4	
		○英文学講義Ⅰ	2	1～4	
		○英文学講義Ⅱ	2	1～4	
		●米文学講義Ⅰ	2	1～4	
		●米文学講義Ⅱ	2	1～4	
		英文学研究Ⅰ	2	2～4	
		英文学研究Ⅱ	2	2～4	
		米文学研究Ⅰ	2	2～4	
		米文学研究Ⅱ	2	2～4	
英語コミュニケーション	1	〈英語科目〉			◎印を含む8単位以上必修
		◎Freshman English (a) (CSK)	2	1	
		◎Freshman English (b) (CSK)	2	1	
		◎Sophomore English (a) (CSK)	2	2	
		◎Sophomore English (b) (CSK)	2	2	
		◎Advanced English (a) (CSK)	2	3	
		◎Advanced English (b) (CSK)	2	3	
		Language Lab (ML)	1	1～4	
		Business English Ⅰ (ML)	2	1～4	
		Business English Ⅱ (ML)	2	1～4	
異文化理解	1	○米国研究入門Ⅰ	2	1～4	○印1科目を含む2単位以上必修
		○米国研究入門Ⅱ	2	1～4	
		○オセアニア研究入門Ⅰ	2	1～4	
		○オセアニア研究入門Ⅱ	2	1～4	
計	4	中学校22単位以上必修 高等学校22単位以上必修	※20単位以上修得した余剰分の単位数を⑶「教科又は教職に関する科目」として充てるために、必ず20単位を超えて16単位以上余分に修得すること。		
所定最低単位数	20				

◎印は卒業必修科目
○、●印は教職選択必修科目
※Freshman English (a)(CSK),(b)(CSK),Sophomore English (a)(CSK),(b)(CSK),
Advanced English (a)(CSK),(b)(CSK)合計12単位の履修をもって、
Sophomore English Ⅰ (ML),Ⅱ (ML),Media English Ⅰ (ML),Ⅱ (ML),英語総合講座(ML)合計12単位を履修したものとみなす。

⑶　教科又は教職に関する科目

教育職員免許法施行規則所定最低修得単位数	本　学　基　準			
	科　目　名	単位数	履修に適した年次	備　考
中8 高16	教科に関する科目で必要最低単位（20単位）を超えて修得した単位	16		
	介護等体験実習※	1	2～4	中学校1種免許状取得希望者は必修 3年次に履修することが望ましい
	道徳教育の指導法	2	2～3	高校1種免許状のみ取得希望者が履修した場合
計	中学校17単位／高等学校16単位以上必修			

※　p.116　C－2.「介護等体験実習について」も参照すること。

⑷　教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

P. 111の⑷の表と同じ。

＜イベロアメリカ言語学科　ブラジル・ポルトガル語専攻＞

⑵　教科に関する科目

教育職員免許法施行規則所定		本学基準			
分野	最低修得単位数	科目名	単位数	履修年次	備考
英語学	1	○英語学概論	4	1～4	○印２科目を含む８単位以上必修
		英語音韻論	4	1～4	
		○英語統語論Ⅰ	4	1～4	
		○英語統語論Ⅱ	4	2～4	
		○現代英文法	4	1～4	
英米文学	1	○英文学史Ⅰ	2	1～4	○印１科目及び●印１科目を含む４単位以上必修
		○英文学史Ⅱ	2	1～4	
		●米文学史Ⅰ	2	1～4	
		●米文学史Ⅱ	2	1～4	
		○英文学講義Ⅰ	2	1～4	
		○英文学講義Ⅱ	2	1～4	
		●米文学講義Ⅰ	2	1～4	
		●米文学講義Ⅱ	2	1～4	
		英文学研究Ⅰ	2	2～4	
		英文学研究Ⅱ	2	2～4	
		米文学研究Ⅰ	2	2～4	
		米文学研究Ⅱ	2	2～4	
英語コミュニケーション	1	＜英語科目＞			◎印を含む８単位以上必修
		◎Sophomore English Ⅰ(ML)	2	2	
		◎Sophomore EnglishⅡ(ML)	2	2	
		◎Media English Ⅰ(ML)	2	2	
		◎Media EnglishⅡ(ML)	2	2	
		◎英語総合講座(ML)	4	3～4	
		Language Lab(ML)	1	1～4	
		Business English Ⅰ(ML)	2	1～4	
		Business EnglishⅡ(ML)	2	1～4	
異文化理解	1	○米国研究入門Ⅰ	2	1～4	○印１科目を含む２単位以上必修
		○米国研究入門Ⅱ	2	1～4	
		○オセアニア研究入門Ⅰ	2	1～4	
		○オセアニア研究入門Ⅱ	2	1～4	
計	4	中学校22単位以上必修 高等学校22単位以上必修	20単位以上修得した余剰分の単位数を、⑶「教科又は教職に関する科目」として充てるために、必ず20単位を超えて16単位以上余分に修得すること。		
所定最低単位数	20				

◎印は卒業必修科目
○・●印は教職選択必修科目

⑶　教科又は教職に関する科目

教育職員免許法施行規則所定最低修得単位数	本学基準			
	科目名	単位数	履修に適した年次	備考
中８ 高16	介護等体験実習※	1	2～4	中学校１種免許状取得希望者は必修 ３年次に履修することが望ましい
	道徳教育の指導法	2	2～3	高校１種免許状のみ取得希望者が履修した場合
	教科に関する科目	備考を参照		20単位を超えて取得した単位
計	中学校17単位／高等学校16単位以上必修			

※　p.116　C－2.「介護等体験実習について」も参照すること。

⑷　教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

教育職員免許法施行規則所定		本学基準			
分野	最低修得単位数	科目名	単位数	履修年次	備考
日本国憲法	2	○憲法Ⅰ	2	1～4	○印１科目２単位以上必修
		○憲法Ⅱ	2	1～4	
体育	2	□体育・スポーツ	1	1～4	２種目２単位必修
		□体育・スポーツⅡ	1	1～4	
外国語コミュニケーション	2	◎Freshman English Ⅰ(ML)	4	1	◎印８単位必修
		◎Freshman EnglishⅡ(ML)	4	1	
情報機器の操作	2	□情報基礎Ⅰ	1	1～4	２科目２単位必修
		□情報基礎Ⅱ	1	1～4	

＜国際コミュニケーション学科　国際コミュニケーション専攻＞

⑵　教科に関する科目

教育職員免許法施行規則所定		本　学　基　準			
分　野	最低修得単位数	科　目　名	単位数	履修年次	備　考
英語学	1	○英語学概論	4	1～4	○印2科目を含む8単位以上必修
		○英語音声学	4	1～4	
		○Outline of English Phonetics	4	1～4	
		○英語統語論Ⅰ	4	1～4	
		○英語統語論Ⅱ	4	2～4	
		○現代英文法	4	1～4	
		○英語習得法	4	1～4	
		英語談話分析	4	2～4	
		英語史	4	2～4	
		古期中期英語	4	2～4	
英米文学	1	○英文学史Ⅰ	2	1～4	○印1科目及び●印1科目を含む4単位以上必修
		○英文学史Ⅱ	2	1～4	
		●米文学史Ⅰ	2	1～4	
		●米文学史Ⅱ	2	1～4	
		○英文学講義Ⅰ	2	1～4	
		○英文学講義Ⅱ	2	1～4	
		●米文学講義Ⅰ	2	1～4	
		●米文学講義Ⅱ	2	1～4	
		英文学研究Ⅰ	2	2～4	
		英文学研究Ⅱ	2	2～4	
		米文学研究Ⅰ	2	2～4	
		米文学研究Ⅱ	2	2～4	
英語コミュニケーション	1	〈英語科目〉			◎印を含む8単位以上必修
		◎English for International Communication Ⅱ(a)	2	2	
		◎English for International Communication Ⅱ(b)	2	2	
		◎Media English Ⅰ	2	2	
		◎Media English Ⅱ	2	2	
		◎English for International Communication Ⅲ	12	3～4	
		時事英語Ⅰ	2	1～4	
		時事英語Ⅱ	2	1～4	
		Business English Ⅰ	2	1～4	
		Business English Ⅱ	2	1～4	
		商業英語Ⅰ	2	1～4	
		商業英語Ⅱ	2	1～4	
異文化理解	1	○英国研究入門Ⅰ	2	1～4	○印1科目を含む2単位以上必修
		○英国研究入門Ⅱ	2	1～4	
		○米国研究入門Ⅰ	2	1～4	
		○米国研究入門Ⅱ	2	1～4	
		○カナダ研究入門Ⅰ	2	1～4	
		○カナダ研究入門Ⅱ	2	1～4	
		英国史概論Ⅰ	2	1～4	
		英国史概論Ⅱ	2	1～4	
		英米法Ⅰ	2	1～4	
		英米法Ⅱ	2	1～4	
		米国経済論Ⅰ	2	1～4	
		米国経済論Ⅱ	2	1～4	
		米国文化実地研究	4	1～4	
計	4	中学校20単位以上必修 高等学校20単位以上必修	※20単位以上修得した余剰分の単位数を、⑶「教科又は教職に関する科目」として充てるために、必ず20単位を超えて16単位以上を余分に修得すること。		
所定最低単位数	20				

◎印は卒業必修科目
○・●印は教職選択必修科目

(3) 教科又は教職に関する科目

教育職員免許法施行規則所定最低修得単位数	本学基準			
	科目名	単位数	履修に適した年次	備考
中8 高16	介護等体験実習※	1	2～4	中学校1種免許状取得希望者は必修 3年次に履修することが望ましい
	道徳教育の指導法	2	2～3	高校1種免許状のみ取得希望者が履修した場合
	教科に関する科目	備考を参照		「教科に関する科目」から20単位を超えて取得した単位
計	中学校17単位／高等学校16単位以上必修			

※ p.116 C－2.「介護等体験実習について」も参照すること。

(4) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

教育職員免許法施行規則所定		本学基準			
分野	最低修得単位数	科目名	単位数	履修年次	備考
日本国憲法	2	○憲法Ⅰ	2	1～4	○印1科目2単位以上必修
		○憲法Ⅱ	2	1～4	
体育	2	□体育・スポーツ	1	1～4	2種目2単位必修
		□体育・スポーツⅡ	1	1～4	
外国語コミュニケーション	2	〈英語科目〉			
		◎English for International Communication Ⅰ (a)	4	1	
		◎English for International Communication Ⅰ (b)	4	1	◎印16単位必修
		◎Reading Ⅰ	2	1	
		◎Reading Ⅱ	2	1	
		◎Writing Ⅰ	2	1	
		◎Writing Ⅱ	2	1	
情報機器の操作	2	◎□情報基礎Ⅰ	1	1～4	2科目2単位必修
		◎□情報基礎Ⅱ	1	1～4	

◎印は卒業必修科目　□印は教職必修科目　○印は教職選択必修科目

C　教職課程履修の流れ

下記のスケジュールに基づいて、ガイダンスに出席し、諸々の手続きを行って下さい。

○ガイダンス　　★授業　　□提出物　　▼手続き

	1　　年	2　　年	3　　年	4　　年
4月	○ガイダンス	○ガイダンス	○ガイダンス	○ガイダンス
			▼介護等体験申し込み	
		▼教職課程のWebでの資格登録	▼教職課程のWebでの資格登録の確認	▼教職課程のWebでの資格登録の確認
			▼教職課程履修費納入	○教員採用試験ガイダンス
			□実習予定校調査	
5月	○教職ポートフォリオガイダンス	○教職ポートフォリオガイダンス	教育実習校への依頼状提出	★教育実践実習Ⅰ・Ⅱ
	教職ポートフォリオ受取			
			○介護等体験事前指導	
6月			★介護等体験	
7月				教員採用試験（1次）
8月				○2次試験対策講座
				教員採用試験（2次）
			▼教育事前事後実習の登録	
9月			★教育事前事後実習（後期）	★教職実践演習（中・高）
10月			教職ポートフォリオ面談	
11月		□教職ポートフォリオ提出		○免許状一括申請説明会
12月			対策講座	▼手続書類記入・確認申し込み費用支払
1月		○実習校開拓のガイダンス		□戸籍抄本の提出
			□教育実践実習日誌の提出	
			□介護等体験実習日誌の提出	
3月				卒業式（免許状の授与）

※教職関係の「呼び出し」「連絡」はCampus Web及び掲示板に掲示するのでよく注意して下さい。

1．教職課程履修の費用

教職課程履修希望者は、「教職課程履修費」25,000円を3年次4月に納入します。（介護等体験実習を2年次に行う学生は2年次に納入します。）

2．介護等体験実習について

1）介護等体験の目的

教職を志す学生に「障害者、高齢者等に対する介護、介助、交流等の体験」を義務づけ、ここでの体験を、将来の教育活動に生かすことを願って行われるものです。原則として3年次で行いますが、小学校教諭免許取得支援課程を履修する場合には、2年次が望まれます。

2）介護等体験実習の流れ

1．申し込み書類を教務課に提出（4月初め）

↓

2．履修登録をする

履修登録で「介護等体験実習」を登録

↓

3．介護等体験実習事前指導　1回目に出席
（介護施設の先生方の講話）

↓

4．受入施設・日程の決定
日程表を教務課で受取

↓

5．介護等体験実習事前指導　2回目に参加
（オリエンテーション）

↓

6．福祉施設（5日間）、特別支援学校（2日間）の計7日間の実習に参加
※　授業を欠席する場合は「欠席届」をコピーして使用します。欠席する授業の事前に、一人の先生につき一枚記入し、教務課で「教職課程」の印をもらってから、各授業担当の先生に提出して下さい。

↓

7．介護等体験実習日誌・報告書と福祉施設実習修了証明書の提出

↓

8．介護等体験の成績が出る（後期成績表に成績がつく）

3．教育実習（教育実践実習Ⅰ・Ⅱ）について

1）教育実習の目的

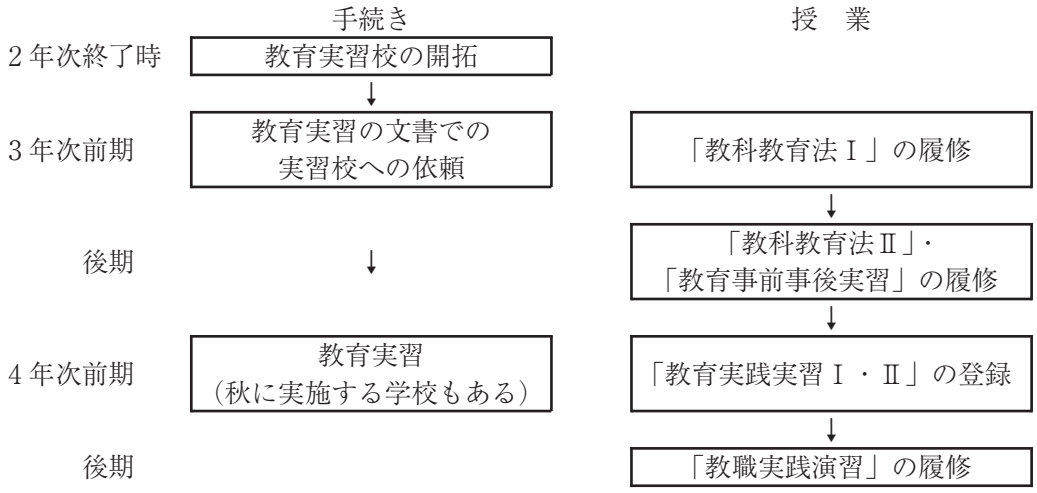
教育実習は、教育職員免許法施行規則に基づき、中学校・高等学校の現実の教育の場において、大学で学んだ理論や知識を基に、実習を通して教育の実践的な知識・技能・態度等の基礎を修得し、教員としての自覚を高めることを目的とします。

2）教育実習の履修条件

1	教育実習を行う年度中に卒業できる見込みのある者。※
2	教職に関する科目のうち、原則として「教育原理」「教育心理学」、及び「道徳教育の指導法」（中学校免許希望者）を修得している者。
3	「教科教育法Ⅰ」「教科教育法Ⅱ」を前年度までに修得している者。
4	「教育事前事後実習」を教育実習を行う前年度に修得している者。
5	「教育実践実習Ⅰ」、及び「教育実践実習Ⅱ」（中学校免許希望者）の履修登録をしている者。
6	英語で実習する場合、教育実習を行う学年（4年）までに、A基準（TOEIC730点，TOEFL550点，IELTS6.0，英検準1級1次合格）のスコアを取得している者。

※本学卒業後に、科目等履修生として教育実習などの不足単位を修得して、教員免許状を取得することも可能です。

3）教育実習の手続きの流れ



XV　小学校教諭免許取得支援課程履修要項

1．課程の趣旨

卒業年度の春に、3枚の教員免許状〈小学校教諭二種免許状、中学校教諭一種免許状（英語)、高等学校教諭一種免許状（英語)〉を取得することで、小学校の教諭として仕事ができるようにするものです。(小学校教諭用に取得する免許は二種ですが、中学校一種を取得しているため、小学校一種免許を取得して教諭になる先生との待遇に差はありません)

2．課程の概要

この課程では、本学の教職課程を履修するとともに、千葉経済大学短期大学部の科目等履修生として学ぶことによって、小学校教諭二種免許取得に必要な単位を修得することを支援するものです。千葉経済大学短期大学部では下記の合計31単位が必要です。小学校は全教科を担任が指導するケースが多いので、国語科指導法、音楽科指導法、体育科指導法など教科指導法の単位が多いのが特徴です。

1）必修科目

「教育原理Ⅱ」（2単位)「道徳教育」（2単位)「特別活動」（2単位)「教育方法」（2単位)「教育実習」（4年次)（5単位)（9月に小学校で4週間行います)

2）選択必修科目

①「音楽科指導法」「図画工作科指導法」「体育科指導法」から4単位以上

②上記1）に他の教科の「教科指導法」を加えた中から12単位以上

③「教育相談」「生徒指導論」から2単位以上

④「国語学概説」「社会科概説」「数学概説」「自然科学概説」「生活概説」「基礎音楽Ⅰ」「基礎音楽Ⅱ」「基礎造形（人数制限あり)」「基礎体育」から4単位以上

3．出願の条件

英米語学科・国際コミュニケーション学科国際コミュニケーション専攻の学生は時間割を組めれば2年間でこの課程を修了することが可能です。ただし、その他の学科・専攻の場合は、3年次に本学での必修科目がありますので、2年間でこの課程を修了することはできません。

1）神田外語大学在籍の2年次生で3年次から課程を受講できる在学生
2）中学校（英語）教諭の教職課程を履修していて、将来教員採用試験の受験を予定していること。
3）3年次から週に2～3回千葉経済大学短期大学部に通学できること
4）留学制度留学を行わないこと
5）出願時までにB基準(TOEIC650点、TOEFL520点など)の英語力を証明するスコアを提出できること

4．課程に関わる費用

下記の金額は、2年間で課程に必要な単位を修得できた場合の金額であり、前年度の千葉経済大学短期大学部の要項に基づいて算出した金額です。従って、個々人の履修状況や千葉経済大学短期大学部の学則改定等により多少金額が変動しますので、ご了承下さい。また、納入は、年度毎に行うことになります。

項　目	金　額	備　　考
登　録　料	20,000円	年度を続けて履修する場合は免除
履　修　費	310,000円	10,000円＊31単位 一部の科目については教材費が必要な場合があります。また、電算科目においては別に実習費20,000円がかかります。
教育実習費	40,000円	
合　　計	370,000円	

教科書代ほか、履修される科目により異なります。教科書は指定された販売日に購入して下さい。

XVI　日本語教員養成課程履修要項

はじめに　日本語教員養成課程を履修する皆さんへ

日本語を母語としない学習者を対象とする日本語教育のための教員には、専門的な知識能力が求められる。本学の「日本語教員養成課程」では、日本語教員に求められる専門的な領域（社会・文化・地域、教育、言語）から５区分⑴社会・文化・地域、⑵言語と社会、⑶言語と心理、⑷言語と教育、⑸言語をあげ、それぞれに必要な知識を体系的に得ていくように計画されている。特に、日本語を一つの外国語として見る能力を養い、教員としての実践的な教育能力を習得することを目的としている。履修する学生は、単に必要な単位を修得するというのではなく、自らが問題意識を持って授業に臨み、「教える」ために必要とされる全ての課題に積極的に取り組む姿勢が求められる。履修条件に従い、所定の単位を修得することで卒業時に修了証書が授与されるが、４年間で全課程を修了するためには、入学時より計画的に各科目を履修することが必要である。

32単位（必修20単位／選択12単位）

区　　分	履修単位数	科　目　名	履修年次	単位数	備　考
社会・文化・地域	2	文化について考える	１～４	選２	
		日本近代史	１～４	選２	
		日本現代史	１～４	選２	
		日本文化論Ⅰ	１～４	選２	
		日本文化論Ⅱ	１～４	選２	
		文化心理学Ⅰ	２～４	選２	
		文化心理学Ⅱ	２～４	選２	
		国際社会が見えてくる	１～４	選２	
		国際関係論Ⅰ	１～４	選２	
		国際関係論Ⅱ	１～４	選２	
言語と社会	2	社会言語学Ⅰ	２～４	選４	
		社会言語学Ⅱ	２～４	選４	
		コミュニケーション論Ⅰ	１～４	選２	
		コミュニケーション論Ⅱ	１～４	選２	
		異文化コミュニケーション論Ⅰ	２～４	選２	
		異文化コミュニケーション論Ⅱ	２～４	選２	
		日本語プレゼンテーション	１～４	選４	
		対人コミュニケーション論	１～４	選２	
		レトリカル・コミュニケーション論	１～４	選２	
言語と心理	4	心理学Ⅰ	１～４	選２	
		心理学Ⅱ	１～４	選２	
		第二言語習得研究	２～４	選４	
		英語談話分析	２～４	選４	
		英語習得法	１～４	選４	
		心理言語学	２～４	選４	
		応用言語学	２～４	選４	
言語と教育	8（必修） 2（選択）	日本語教育概論	２～４	必２	
		日本語教授法	２～４	必４	
		日本語教育実習	３～４	必２	（注１）
		教師論	１～４	選２	
		教育心理学	２～３	選２	
		教育方法の理論と実践	２～４	選２	
		情報基礎Ⅰ	１～４	選１	
		情報基礎Ⅱ	１～４	選１	

区　　分	履修単位数	科　目　名	履修年次	単位数	備　考
言語	12（必修） 2（選択）	日本語学概論	1～2	必4	
		日本語学Ⅰ	1～4	必4	
		日本語学Ⅱ	1～4	必4	
		言語学Ⅰ	1～4	選2	
		言語学Ⅱ	1～4	選2	
		日英語対照研究	2～4	選4	
		日中比較言語Ⅰ	3～4	選2	
		日中比較言語Ⅱ	3～4	選2	
		日西語対照研究Ⅰ	2～4	選2	
		日西語対照研究Ⅱ	2～4	選2	
		日韓対照言語研究Ⅰ	2～4	選2	
		日韓対照言語研究Ⅱ	2～4	選2	
		日本語表現法Ⅰ	1～4	選2	
		日本語表現法Ⅱ	1～4	選2	
		意味・語用論	2～4	選4	

（注1）4単位まで履修可

「日本語教員養成課程」必修科目と履修条件

科　目　名	履修に適した年次	単位	履　修　条　件
日本語学概論 （前期／後期）	1～2年次	4	
日本語学Ⅰ （前期／後期）	1～2年次	4	
日本語学Ⅱ （前期／後期）	1～2年次	4	
日本語教育概論 （前期／後期）	2～3年次	2	「日本語学概論」「日本語学Ⅰ」「日本語学Ⅱ」の3科目が修得済みであること。
日本語教授法 （前期／後期）	2～4年次 （4年次では前期）	4	「日本語教育概論」が修得済みであり、かつ全体のGPAが2.7以上であること。
日本語教育実習 （前期／後期）	3～4年次	2	「日本語教授法」が修得済みであり、かつ全体のGPAが2.7以上であること。かつ留学生は、「日本語能力試験（JLPT）N1」に合格していること。

「日本語教員養成課程」を修了するには、下記の履修モデルに示した通り原則として4年間必要とする。

履修モデル

1～2年　「日本語学概論」
↓
1～2年　「日本語学Ⅰ」「日本語学Ⅱ」
↓
2～4年　「日本語教育概論」「日本語教授法」
↓
3～4年　「日本語教育実習」

【課程の登録について】

2年次の前期に履修登録Web画面の「資格申請」ボタンから登録する。

【日本語教育実習について】

・在学中（3年次）に留学を予定している学生は、1年次に「日本語学概論」及び「日本語学Ⅰ」「日本語学Ⅱ」、2年生から4年生の前期終了時までに「日本語教育概論」、「日本語教授法」を履修済みでなければ、留学後（4年次）に「日本語教育実習」を履修登録することができない。
・3年次編入生は、入学年度に「日本語学概論」「日本語学Ⅰ」「日本語学Ⅱ」「日本語教育概論」「日本語教授法」の同時履修を認める。全ての履修条件を充たせば、4年次に「日本語教育実習」の履修登録ができる。
・2年次編入生は、「日本語教育概論」、「日本語教授法」と「日本語学概論」ないし「日本語学Ⅰ」「日本語学Ⅱ」との同時履修は認めない。2年次に「日本語学概論」及び「日本語学Ⅰ」「日本語学Ⅱ」、3年次に「日本語教育概論」、「日本語教授法」を履修して、一定の条件を充たせば4年次に「日本語教育実習」を履修できるからである。
・実習を履修するためには仮登録をする必要がある。仮登録は履修を希望する年度の前年度1月中に説明会を行い、実施する。
　説明会の期日については12月中の学内掲示及びKUIS Campus Webを確認のこと。
　例：27年度に実習の履修を希望する場合、仮登録は26年度に行う。
・履修人数が多い場合、4年生を優先する。
・実習は実費がかかる。

【選択科目について】

・それぞれの学科の指定に従い、4年次終了までに履修修得すること。
・履修条件等については「Ⅵ　授業科目について」も参照のこと。

ⅩⅦ　児童英語教員養成課程履修要項

1．課程の趣旨

国が定めた資格や免許は、今のところありません。ですから、本学の児童英語教員養成課程を修了することで、児童英語の先生になれるというのでもなければ、修了しないから先生になれないというわけではありません。ただ、将来、児童英語の教員を目指すのであれば、しっかりした児童英語教育に対する知識をもっていることをアピールできます。

2．課程の修了要件

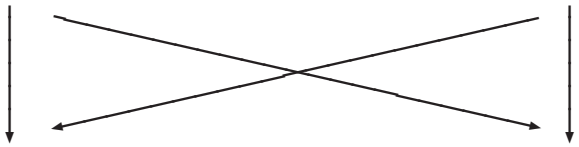
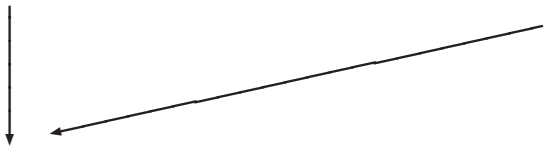
1．本課程を履修し所定の単位を修得し、本過程の定める修了要件を満たせば、卒業と同時に「神田外語大学児童英語教員養成課程」修了証が授与されます。

2．本課程を修了するのに必要な要件と科目およびその単位数は以下の通りです。

修了要件１：TOEIC® 730点以上、TOEFL® 550点以上、英検準１級以上のいずれかを取得していること。（卒業後１年間以内であれば、スコアの提出をもって要件をみたすことができます。３月卒業の場合は翌年の３月31日まで、９月卒業の場合には翌年の９月15日までの証明書の提出が必要です。）

修了要件２：以下に示す７科目（①～⑦）26単位をすべて修得すること。

平成22年度以降入学者用履修科目及び履修モデル（括弧の中は履修条件）

<table>
<tr><td>1年次から</td><td>①児童英語教育論</td><td>②認知発達と英語教育</td><td rowspan="4">⑥英語学概論
⑦英語音声学または
Outline of English Phonetics</td></tr>
<tr><td colspan="2">  </td></tr>
<tr><td>2年次から</td><td>③児童英語指導法（児童英語教育論、認知発達と英語教育かつC基準又は英検２級以上）</td><td>④児童英語教育カリキュラムデザイン（児童英語教育論、認知発達と英語教育かつC基準又は英検２級以上）</td></tr>
<tr><td colspan="2">  </td></tr>
<tr><td>4年次</td><td colspan="2">⑤児童英語教育実習（児童英語指導法、児童英語教育カリキュラムデザイン）※</td></tr>
</table>

※「児童英語教育実習」にかえて「児童英語海外実習」を修得することで課程を修了することもできます。その場合、「児童英語海外実習」は、「児童英語教育論」「認知発達と英語教育」を修得している２年生以上が履修可能です。
また、「児童英語教育実習」として沖縄で実習を行うことも可能です。その場合は「児童英語教育論」「認知発達と英語教育」を修得している２年次以上で、TOEFLの得点を500点程度取得していることが履修条件となります。
さらに、千葉経済大学短期大学部で科目等履修生として小学校課程用の「教育実習」を修得した場合、「児童英語教育実習」に振替を行うことができます。

履修条件が決まっている科目は、矢印の順番にとる必要があります。（「児童英語指導法」「児童英語教育カリキュラムデザイン」は、遅くとも４年次前期までに修得していないと、児童英語教育実習は履修できません）留学を考えている場合は、履修条件が決まっている科目を順番通りにとれるように留学を計画する必要があります。

XVIII　英米語学科通訳・翻訳課程履修要項

1．本課程を履修し所定の単位を修得し、本課程の定める修了要件を満たせば、卒業と同時に「神田外語大学通訳・翻訳課程」修了証が授与されます。

2．本課程を修了するのに必要な要件と科目およびその単位数は以下の通りです。

修了要件１：以下に示す必修科目、選択科目の合計36単位をすべて修得すること。

修了要件２：TOEFL600点以上、TOEFL iBT100点以上、TOEIC900点以上、英検１級、IELTS7.0以上のいずれかを取得していること。

修了要件３：半年から１年の英語圏への学部留学（語学留学は不可。休学留学を含める。）

履修開始前に「通訳・翻訳への招待」を受講していることが望ましい。

分野	科目名	履修年次	単位数			履修条件	必要単位数
			必修	選択必修			
通訳・翻訳関連科目	日英翻訳法Ⅰ	1～4	4			B基準	36単位
	日英翻訳法Ⅱ	2～4	4			B基準かつ(1)「時事英語　Ⅱ」(2)「Media English(a)/(b)（英米）」のいずれか	
	英日翻訳法Ⅰ	1～4	4			B基準	
	英日翻訳法Ⅱ	2～4	4			B基準かつ(1)「時事英語　Ⅱ」(2)「Media English(a)/(b)（英米）」のいずれか	
	英語通訳法Ⅰ	1～4	4				
	英語通訳法Ⅱ	1～4	4			C基準	
	英語通訳法Ⅲ	2～4	4			B基準	
	英語通訳法Ⅳ	2～4	4			A基準	
	通訳演習 (a)※	3～4		2	「通訳演習(a),(b)」もしくは「翻訳演習(a),(b)」を選択し、4単位履修。	通訳・翻訳課程履修者のみ履修可	
	通訳演習 (b)※	3～4		2			
	翻訳演習 (a)	3～4		2			
	翻訳演習 (b)	3～4		2			
合計			32	4			合計36単位

※通訳演習(a)と(b)の履修順序は、(a)からでも(b)からでも構いません

ⅩⅨ　Certificate Program in Japan Studies　履修要項

現代のグローバル社会における日本研究は従来のような「日本文化」の独自性を主張するものであってはならず、学際的かつ多角的な視野に立ち、日本文化の多様性について学ぶことが肝要です。日本を常に世界的コンテクストの中に位置づけ、たえまない外部との相互連動性を自覚する必要があります。そうすることによって深い文化観を育成し、世界の多くの人々と率直で真摯な対話ができる確かなコミュニケーション能力の獲得をめざします。

1．本プログラムを履修し所定の単位を修得し、本プログラムの定める修了要件を満たせば、卒業と同時に修了証が授与されます。

2．本プログラムを修了するのに必要な要件と科目、およびその単位数は以下の通り。

履修要件：TOEIC 600以上、TOEFL 480以上、IELTS 4.5以上（C基準）
修了要件：2011年度以降入学１年次生から適用し、以下に示す科目から20単位を修得する。

分　野	科　目　名	履修年次	単位数	履修条件
総合文化研究	The Literatures of Japan	1～4	2	C基準
	The History of Modern Japan	1～4	2	
	The History of Premodern Japan	1～4	2	
	Japanese Popular Cultures	1～4	2	
	Tourism and Local Cultures of Japan	1～4	2	
	Japanese Religions	1～4	2	
言語研究	The Languages of Japan Ⅰ	1～4	2	
	The Languages of Japan Ⅱ	1～4	2	
地域・国際研究	International Relations: Japan in the Asian Context	1～4	2	
	Japanese Politics	1～4	2	
コミュニケーション研究	Media and Japanese Society	1～4	2	

＊上記の科目は本プログラムを履修しない学生も履修することができます。
＊全ての科目の授業は「英語」で行われます。

XX　大学院言語科学研究科の概要

1．設置の目的

大学院言語科学研究科は、博士前期課程と博士後期課程とから成ります。博士前期課程には、英語学専攻（東京キャンパスのみで開講）と日本語学専攻を設置しています。日本語学専攻では、総合的、科学的な言語研究の基礎訓練を重視しつつ、一般言語理論に基づいて言語の普遍性の観点から、日本語を研究する能力を養うことを目標としています。同時に言語間の比較対照研究と社会言語学、方言学の実証的方法論を身につけ、比較文化、異文化コミュニケーションをも視野に入れることによって、言語教育その他への応用研究を実効あるものとするようカリキュラムが組まれています。

2．学内入学試験制度

博士前期課程（日本語学専攻）で、本学外国語学部において、優秀な成績をあげている学生に対して、提出された小論文と書類に対する審査及び口述試験のみで入学試験を行う制度があります。

3．英語学専攻の特色

現職英語教員及び社会人を対象とし、東京キャンパスで、TESOL プログラムを2013年 9 月開講しました。講義はすべて英語で行い、TESOL（英語教授法）を実践的に学べます。

4．日本語学専攻の特色

日本語学の理論的実証的研究を充実させ、研究の方法として現地調査法（フィールドワーク）と対照言語学の研究法を取り入れています。さらに日本語学研究の基礎として日本文化に関する幅広い理解と知識が得られるよう、関連の授業科目を用意して充実を図っています。また、日本語教育のプロを養成するカリキュラムも充実しています。

日本語学コース、日本語教育学コースの 2 コースがあります。

5．授業時間割

⑴　英語学専攻TESOLプログラム

土・日および長期休暇期間に集中で講義を行います。

⑵　日本語学専攻

月～土曜日、午前10時40分から午後 6 時の間に 4 コマの授業時間を設けています。

2 時限	10：40～12：10
3 時限	13：10～14：40
4 時限	14：50～16：20
5 時限	16：30～18：00

6．修了の要件

英語学専攻（TESOLプログラム）は必修、選択必修、選択科目の中から37単位以上を修得し、MA Research Projectに合格することが求められます。

日本語学専攻は各コースの定める科目から32単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格することが求められます。なお、各コースの定める科目から40単位以上を修得したものについては、修士研究報告の審査をもって修士論文の審査に代えることもできます。

学部で英語以外の外国語を 4 単位以上取得していない場合、入学後単位を取得する必要があります。

7．学位

博士前期課程を修了した者には、本学の規定の定めるところにより、修士（文学）の学位を授与します。

8．修了証取得

大学院が定める授業科目を履修することによって、日本語教育教員養成プログラム修了証を取得できます。

9．募集人員

言語科学研究科博士前期課程

英語学専攻（TESOLプログラム） 8 名

日本語学専攻（日本語学・日本語教育学） 8 名

10. 博士後期課程

博士後期課程は、言語科学専攻として、総合的な言語研究を行い、それぞれの専門分野で研究者として自立していくために必要な、高度な研究能力を培います。

11. 授業科目

下記のサイトで開講科目について参照することができます。

http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/grad/language/tesol/　英語学専攻（TESOLプログラム）

http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/grad/language/japanese/　日本語学専攻

XXI　学生生活案内

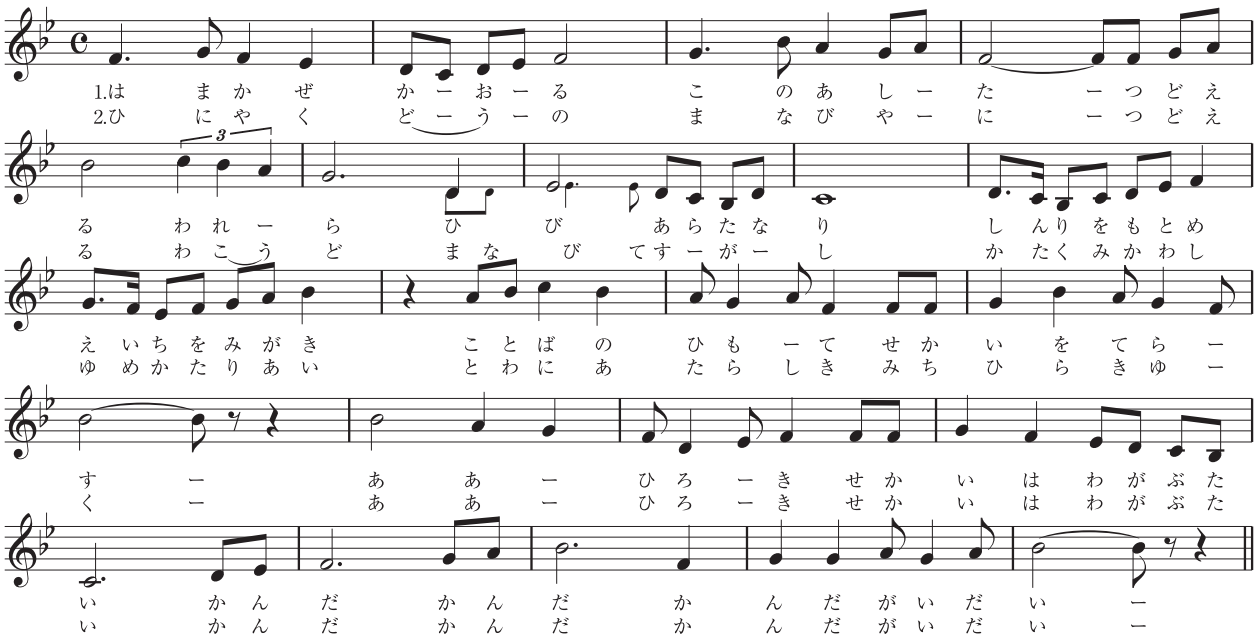
白紙

目　　次

神田外大の歌 ……131
学校法人佐野学園 ……132
神田外語大学の組織 ……133
学生に関係の深い部課 ……134
学生生活 ……136
一．はじめに ……136
　1．事務局開室時間
　2．学生への連絡
　3．通学
　4．アルバイト
　5．喫煙・飲酒
　6．挨拶とマナー
　7．学内の美化
二．学生証・諸届 ……138
　1．学生証（身分証明書）
　2．諸届
三．各種証明書・申請書の発行 ……139
　1．発行・申込方法
　2．証明書一覧
　3．主な申請書一覧
　4．学割について
四．奨学金 ……141
　1．独立行政法人日本学生支援機構（旧：日本育英会）奨学金
　2．各種奨学金一覧
五．学校行事・課外活動 ……145
　1．学校行事
　2．課外活動
六．施設・備品使用等 ……146
　1．図書館
　2．学食・売店・コピーサービス
　3．施設や備品の使用
　4．拾得物・紛失物・貴重品
　5．ブリティッシュヒルズ
七．快適な学生生活のために ……149
　1．健康管理
　2．健康診断証明書の購入方法
　3．学生相談・カウンセリング・ハラスメント相談
　4．教職員との交流
　5．生活上の注意事項

体育施設利用方法について ……154
７号館クリスタルホール使用について ……156
神田外語大学学友会規約 ……157
部・同好会・愛好会に関する基本規則（内規） ……162
神田外語大学ミレニアムハウス・ホール及び和室使用規則 ……165
課外活動室管理に関する内規 ……167
スタジオの使用及び管理に関する内規 ……169
学生団体一覧 ……171

神田外大の歌



神田外大の歌

作詞 重友 純
作曲 渡辺岳夫

一、浜風薫る この朝(あした)
集える我等 日々新たなり
真理を求め 叡智を磨き
言葉の灯(ひ)もて 世界を照らす
あゝ広き世界は 我が舞台
神田 神田 神田外大

二、日に躍動の 学舎に
集える若人 学びて清(すが)し
肩くみかわし 夢かたりあい
永遠(とわ)に新しき 道拓きゆく
あゝ広き世界は 我が舞台
神田 神田 神田外大

学校法人 佐野学園

学校法人　佐野学園

理事長　佐　野　元　泰

所在地：東京都千代田区内神田２－13－13　〒101－8525

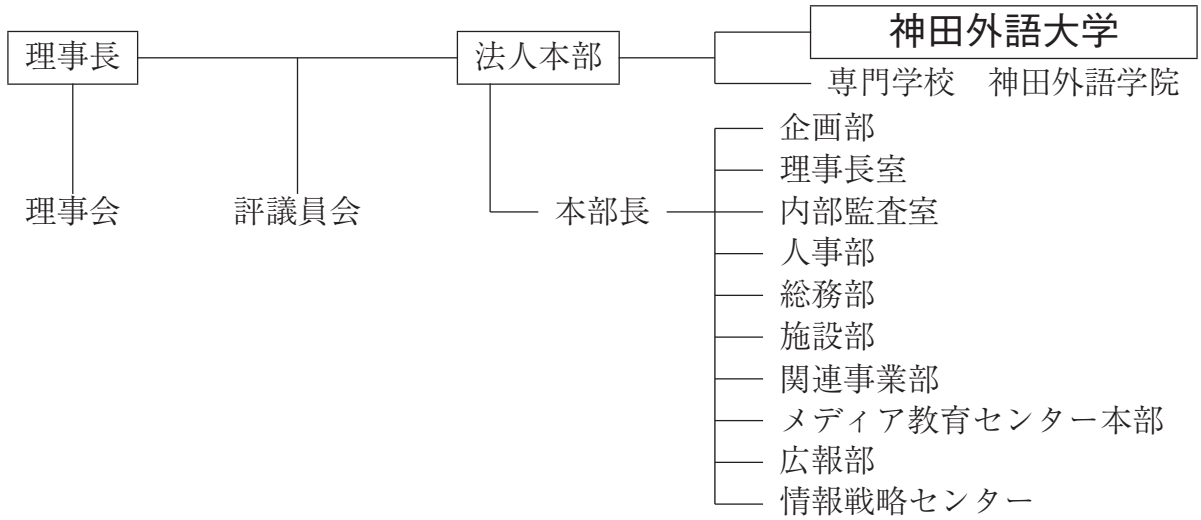
電　話：03（3258）5830

設 置 校

(1)　神田外語大学

(2)　専門学校　神田外語学院

組 織 図



沿　　革

昭和38年10月　神田外語学院の前身であるセントラル米英語学院設立

昭和39年１月　神田外語学院に改称

昭和44年12月　学校法人佐野学園として認可

昭和51年６月　専修学校法により専門学校神田外語学院として認可

昭和58年４月　佐野学園研究機関として異文化コミュニケーション研究所設置

昭和59年９月　神田外語大学設立準備委員会設置

昭和61年12月　神田外語大学設置認可

昭和62年４月　神田外語大学開学

異文化コミュニケーション研究所を神田外語大学に移籍

言語教育研究所設置

平成４年４月　神田外語大学大学院（言語科学研究科博士前期課程）設置

日本研究所設置

平成６年４月　神田外語大学大学院（言語科学研究科博士後期課程）設置

平成12年９月　〃　留学生別科設置

平成13年４月　〃　国際コミュニケーション学科、国際言語文化学科設置

平成24年４月　〃　アジア言語学科、イベロアメリカ言語学科設置

神田外語大学の組織

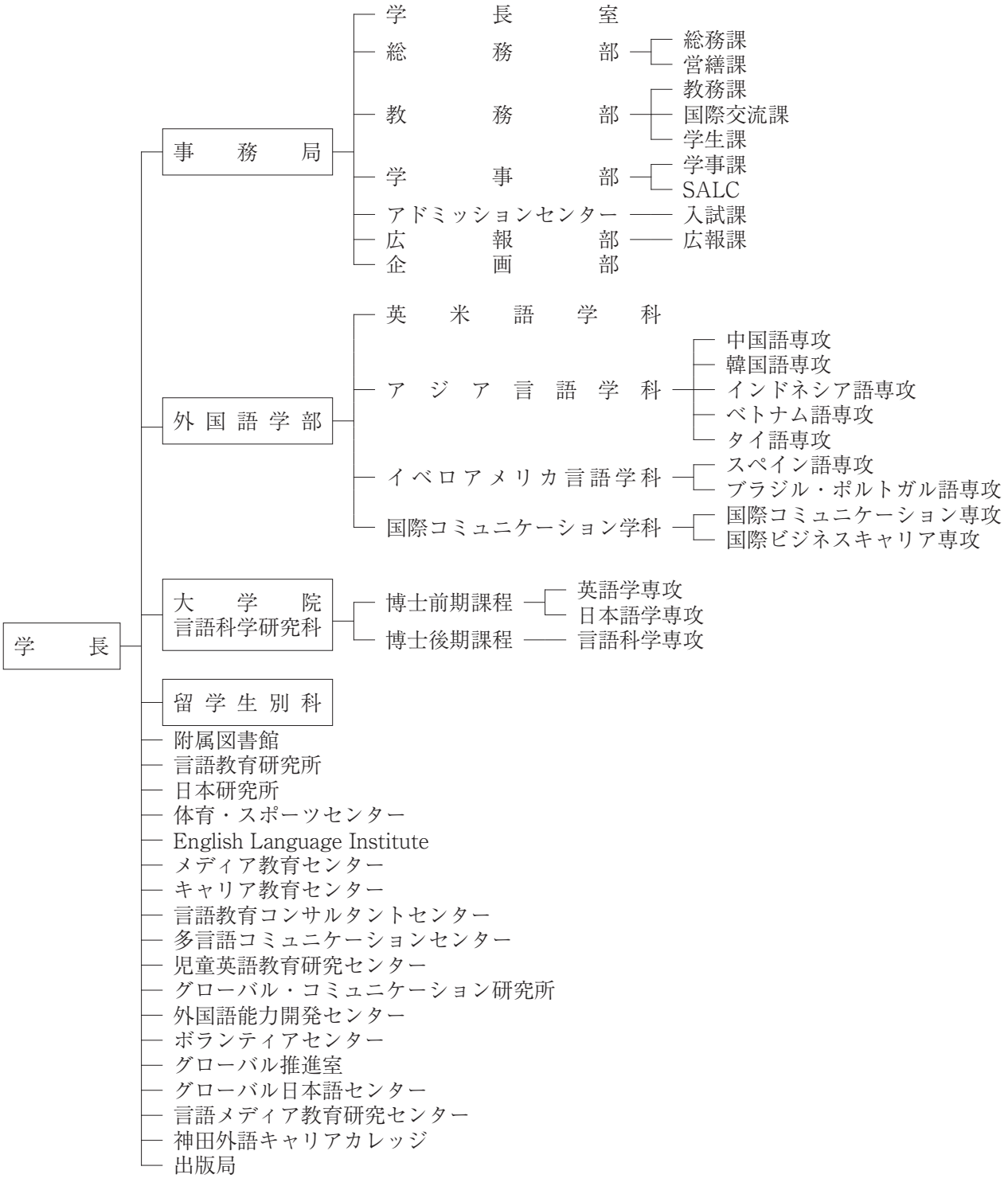
学　長：酒　井　邦　弥

所在地：千葉市美浜区若葉１丁目４番１号　〒261－0014

建学の目的

本大学は広く一般知識を授け、深く専門の学術を教授研究するとともに、我が国の伝統と文化を究明し、諸外国の文化を理解し、国際社会の一員として世界に貢献し得る人材を育成することを目的とする。

運営組織図



学生に関係の深い部課

大学事務局は大学の運営を担当している組織です。その中で学生に関係の深い部課について述べておきます。

教務部

教務課（１号館１階）（Tel. 043－273－1320）

科目履修や授業に関し、次のような仕事をしています。

⑴ 学生の履修指導
⑵ 教育課程の編成及び授業
⑶ 学生の学業成績の整理及び保管
⑷ 科目等履修生
⑸ その他教務関係業務

国際交流課（１号館１階）（Tel. 043－273－1615）

海外留学や留学生の受入に関し、次のような仕事をしています。

⑴ 海外留学に関する相談、交換留学生の派遣
⑵ 外国人留学生の生活全般にわたる相談・支援

学生課（１号館１階）（Tel. 043－273－2948）

学籍や学生生活全般にわたり、次のような仕事をしています。

⑴ 学籍（休退復学の相談）
⑵ 学生証・各種証明書に関する問い合せ
⑶ 奨学金
⑷ 保険（日本国際教育支援協会）
⑸ 旅客運賃割引証（学割）に関する問い合せ
⑹ 学友会・課外活動
⑺ 学生生活全般にわたる相談・支援
⑻ その他学生関係業務

メディカルセンター（ミレニアムハウス１階）（Tel. 043－273－1495）

健康面全般にわたり、次のような仕事をしています。

⑴ 傷病者の応急処置・健康相談
⑵ 健康診断
⑶ 健康診断証明書関係業務
⑷ 学校感染症と診断された場合の手続き
⑸ 学生相談・カウンセリング・ハラスメント防止委員会相談窓口

ボランティアセンター（１号館１階　ガラス張り教室（BLS）スペース）（Tel. 043－273－1337）

国内外のボランティア派遣全般にわたり、次のような仕事をしています。

⑴ ボランティア情報の発信及びボランティアの紹介
⑵ ボランティア団体の支援

⑶　ボランティアに関する相談

全国外大連合通訳ボランティア支援事務局

（１号館１階　ガラス張りの教室（BLS）スペース）（Tel. 043－273－1534）

全国外大連合に関する業務全般にわたり、次のような仕事をしています。

⑴　通訳ボランティアの育成と学生支援

⑵　通訳ボランティア人材バンクの管理

ミレニアムハウス館長室（ミレニアムハウス１階）（Tel. 043－273－2742）

学生の課外活動と日本文化教育に関し、次のような仕事をしています。

⑴　ミレニアムホール・和室・食神ステージの貸出

⑵　音楽・ダンス系団体の活動支援

⑶　日本文化系を主とした講座・公演の開催

キャリア教育センター（ミレニアムハウス２階）（Tel. 043－273－1598）

卒業後の進路全体についての指導及びアドバイスを主たる仕事としています。

また、就職を希望する学生に求人の情報提供・紹介を行っています。

⑴　キャリア指導

⑵　進路相談

⑶　就職相談及び斡旋

⑷　卒業生の就労状況及び動静の把握

⑸　その他進路関係業務

総務部（１号館２階）（Tel. 043－273－1322）

教員及び職員人事・経理・施設の管理など、大学運営における総括・調整を行います。学生に直接関係のある仕事は、次のようなものです。

⑴　授業料の納入

⑵　学内アルバイト賃金の支払

アドミッションセンター（１号館２階）（Tel. 043－273－2476）

入学試験の実施に関する仕事をしています。

⑴　入学試験の実施

⑵　入学試験要項や入学願書の作成

広報部（１号館１階）（Tel. 043－273－2826）

大学の広報に関し、次のような仕事をしています。

⑴　オープンキャンパスの実施

⑵　大学案内書、大学報の発行

⑶　大学HPの管理

⑷　その他広報関係業務

学　生　生　活

一．はじめに

1．事務局開室時間

各部署の事務取り扱い時間・開室時間は表紙裏を参照してください。

夏季休業／冬季休業期間中の一部および入試・学校行事の日は、受付を行いません。受付を行わない日については、Campus Webでお知らせします。

受付時間外は事務取扱いに一切応じませんので、注意してください。

届出・証明書の発行などについては、それぞれ「（二２）諸届」、「（三２）証明書一覧」などの項目を適宜参照してください。

2．学生への連絡

⑴　掲示

大学からの公示、連絡、呼び出し等は基本的に掲示を以て行います。４号館１階の掲示板並びにCampus Webに掲示します。掲示事項は、全て学生に周知されたものとして取り扱います。掲示、Campus Webを見なかったことによる不都合・不利益は、当該学生本人の責任とみなされますから、必ず掲示板、Campus Webを見る習慣をつけ、見落としのないようにしてください。

⑵　学内放送

災害発生等の緊急連絡時に放送します。

⑶　学外からの問い合わせ、呼び出し、伝言

大学では電話による休講・教室変更・施設の開室等の問い合わせには応じていません（休講情報はHPや携帯サイトにより確認することができます）。また、外部からの学生に関する問い合わせ（在籍・住所・成績等）や呼び出し・伝言にも個人情報保護のため一切応じていません。家族や友人も同様ですので、その旨を知らせておいてください。また、学生生活を送る上で、自分や友人の情報は、他人にむやみに教えないように十分注意してください。

※個人宛郵便物も取り扱いしません。

3．通　　学

⑴　通学定期乗車券

通学定期乗車券は、駅備え付けの申込用紙に記入の上、「学生証」と「副学生証」を提示し、購入してください。

通学区間は、大学と居住地最寄駅との間の乗車区間を記入してください。

従って、アルバイト等の場合には利用できません。転居等で乗車区間が変更となった場合は学生課へ申し出てください。

⑵　自転車（第１種原動機付自転車50cc以下を含む）

自転車・原動機付自転車それぞれの構内駐輪場に駐輪してください。構内の移動は禁止です。

⑶　自動車・自動二輪車による通学の禁止（第２種原動機付自転車）

学生の自動車・自動二輪による通学と構内乗り入れは禁止です。不定期に学内で違反バイク駐輪の取り締りを行います。大学の許可なく自動車、自動二輪（50cc以上）を構内に乗り入れた場合は処分の対象となります。ただし、怪我・病気などやむを得ない事情がある場合は、許可されることもありますので、学生課に申し出てください。

通学以外で運転する際も、交通事故に伴う社会的責任を十分に認識し、慎重を期してください。

4．アルバイト

本学では、学生のアルバイトについて「学生アルバイト情報ネットワーク」に加入しています。神田外語大学のアルバイト情報システムhttp://www.aines.net/kanda/にアクセスすると、いつでもインターネットで（パソコン・携帯電話）神田外語大学に届いているアルバイト情報を閲覧することが可能です。

【ログイン方法】

■大学内のパソコンからアクセスする場合

学内専用オートログインをクリックすれば、ID、パスワードの入力は不要です。

■携帯電話・学外のパソコンからアクセスする場合

① 大学発行のメールアドレス（学籍番号@kuis.ac.jp）を入力する。

② 数分後に、そのメールアドレス宛にIDとパスワードが届きます。（取得したID、パスワードは在学期間中有効）

③ 希望のアルバイトが見つかったら、直接求人先に連絡してください。

（注意）

＊アルバイト先と学生との間に生じたトラブルについては、大学としては責任を負いませんが、万が一トラブルが発生した場合は、サイトの運営事務局の㈱ナジック・アイ・サポート学生アルバイト情報ネットワーク事務局に相談してください。なお、大学構内におけるアルバイトの勧誘活動、ビラ配りなどは一切認めていません。

☆その他、大学から学生に有益と判断したアルバイト情報をCampus Webに載せることもあります。

5．喫煙・飲酒

本学では、受動喫煙を防ぐために分煙を行っています。喫煙する場合は、指定された喫煙所を利用してください。また、構内での飲酒は禁止しています。

また、未成年者の喫煙・飲酒は法律で禁止されています。成年者は未成年者に対して喫煙・飲酒をすすめるような言動は避けてください。特に、「一気飲み」等を無理強いされ、急性アルコール中毒で死亡した例も多々あります。絶対にやめましょう。

本学生が社会的ルールから外れた行為をしたと判明した場合、本学では学則に基づいて厳正な処分を行います。また、あたかもその行為を行ったような疑いがある場合や、大学の名誉を傷つけた場合についても処分の対象とします。（SNSなど書き込みについても同様です。）学生としてのモラルを遵守し、軽率な行為を行わないよう十分注意してください。

6．挨拶とマナー

学友との間でも教職員に対しても、いつも感じの良い挨拶をしましょう。

また、日々の言葉づかいや行動が、品位を感じさせるものであるよう努めてください。

7．学内の美化

教室をはじめ、建物内・グランド等、大学構内を整理・整頓し、美化に気を配ることは、快適な学習・生活環境を維持するために是非とも必要なことです。指定された場所以外での喫煙や、ゴミの投げ捨て、校舎内での落書などをしないようにしてください。もちろん構内の施設や備品を傷つけたり破損させることは禁止です。

二．学生証・諸届

1．学生証（身分証明書）

⑴ 「学生証」

本学の学生としての身分を証明するものです。

「副学生証」と共に常時携帯し、本学教職員・その他しかるべきものから請求があった場合はいつでも提示しなければなりません。

（注意事項）

※　他人に貸与または譲渡しない。

※　字句・写真等を修正・記入・貼り付けしない。

※　磁気をおびているものに近づけない。

※　卒業・退学等で学籍を失った場合、直ちに学生課に返却しなければならない。その際、電子マネーは使い切ること。

①　有効期間

4年間

4年をこえて在籍する学生は、学生課の指示に従い、期限が切れる前に学生証の発行（発行手数料2,000円）をしてください。詳細は学生課へお問い合わせください。

②　破損・紛失時

学生課で再発行手続きをします。（発行手数料2,000円）

⑵ 「副学生証」

「学生証」と共に常時携帯してください。「通学定期乗車券」等の発行時に提示が必要です。また、現住所を証明します。

①　有効期間

1年間

毎年4月に更新すること（学費未納の場合は渡せません）

②　更新に必要なもの

学生証

③　住所変更時

学生課で手続きのこと

⑶ 学籍番号（2012年度以降入学者）

3	1	6	1	1	2	3
	入学年度		学科	個人番号		

（英米語1、アジア言語2、イベロアメリカ言語3、
国際コミュニケーション5）

2．諸　届

諸届の用紙は、学生課で受け取り、提出してください。

⑴ 変更届

	種　　類	摘要その他	必要なもの
1	保証人変更届	保証人変更の場合	誓約書
2	改姓（名）変更届	改姓（名）の場合	誓約書 戸籍謄本（コピー可） 学生証 新学生証発行手数料（三３）
3	住所変更届	本人または保証人住所変更	学生証・副学生証

⑵ 授業の欠席

① 欠席届（３週間以内の欠席）

ありません。

直接、担当教員に申し出て、指示に従ってください。

② 忌引届

ありません。

直接、担当教員に申し出て、指示に従ってください。

③ ３週間以上の長期療養欠席届

「３週間以上の長期療養欠席届」と診断書（原本）を、学生課へ提出してください。（ただし、その扱いについては担当教員の判断によりますので、成績や単位を確約するものではありません。）

④ 教育実習・就職活動による欠席

教育実習については教務部教務課、就職活動についてはキャリア教育センターの指示に従ってください。

⑤ 登校許可書（Ⅱ　７．１）「公欠」学校感染症に罹患した場合を参照）

⑶ その他

① 海外旅行届

休暇中、個人的な海外旅行・研修等に行く場合は、海外旅行届を学生課へ提出してください。なお、複数の地域を旅行するときは、旅行日程表も添付してください。万が一、事件事故等に巻き込まれた場合、直ちに学生課へ連絡してください。海外旅行届はCampus Webから入手できます。

② 施設・設備・備品等の破損届

施設･設備･備品等を破損した場合は、事後直ちに学生課へ届を提出してください。

③ Campus Webのログインパスワードを紛失した場合は、学生課にてパスワード再発行の申請をしてください。申請した翌日以降のお渡しになります。

三．各種証明書・申請書の発行

1．発行・申込方法

⑴ 証明書…自動証明書発行機による即日発行

⑵ 申請書…自動証明書発行機出力後、各担当部署にて受付

※　全ての証明書・申請書発行は、自動証明書発行機で行います。発行には「学生証」が必要です。

予め学生証に電子マネー「WAON」をチャージしてください。チャージは証明書発行機横にあるイオン銀行ATMでも可能です。

※　発行後の返金は、一切できません。内容・金額等確認の上、購入してください。

※　詳細は、各問い合わせ先部署へ事前に確認してください。電話・郵便での受付はいたしません。

※　学費未納者・健康診断を受けていない学生に対しては、証明書の発行ができない場合があります。

⑶　自動証明書発行機稼働時間

8：30～20：00（1号館事務局横：2台）

2．証明書一覧

名　　称	金　額	問い合せ先	備　　考
在学証明書（和文）	200	学生課	
在学証明書（英文）	200	学生課	
成績証明書（和文）	200	学生課	
成績証明書（英文）	200	学生課	
卒業見込証明書（和文）	200	学生課	
卒業見込証明書（英文）	200	学生課	
学割証	0	学生課	三４「学割について」参照のこと
健康診断証明書（和文）	300	メディカルセンター	結果Ａ判定且つ他覚所見異常なしの場合

3．主な申請書一覧（受付期間のみ画面表示されるものもあります。担当部署・掲示等で確認のこと）

名　　称	金　額	問い合わせ先・提出先部署名	備　　考
学生証再発行・期間延長	2,000	学生課	
TOEIC IP テスト（受験料）	3,500	教務課	
TOEFL ITP（受験料）	3,500	教務課	
教職課程履修費	25,000	教務課	
教職免許状申請書証紙代	3,300	教務課	
教育実践実習費	20,000	教務課	
教員免許取得見込	200	教務課	
教職用卒業及び単位修得証明書	200	教務課	
教職関連（その他証明書）	200	教務課	
追試験	1,500	教務課	
卒業・進級・教職再試験	5,000	教務課	
メディカル Ａ１～C	300/1,200	メディカルセンター	購入前にメディカルセンターへ来室のこと

＊　メディカルＡ１～C は、必ず購入前にメディカルセンターへ申し出てください。

＊　上記以外にも必要に応じて申請書の発行を行います。掲示を確認してください。

4．学割について

⑴　使用目的の範囲について

学割は、割当枚数の範囲内で、学生個人の自由な権利として使用することを前提としたものではなく、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与する事を目的として実施されている制度です。よって、その発行は原則として次の目的をもって旅行をする必要があると認められる場合に限られます。

①　休暇、所用による帰省

②　実験実習などの正課の教育活動

③　学校が認めた特別教育活動又は体育・文化に関する正課外の教育活動

④　就職又は進学のための受験等

⑤　学校が修学上適当と認めた見学又は行事への参加

⑥　傷病の治療その他修学上支障となる問題の処理

⑦　保護者の旅行への随行

（文部科学省学校学生生徒旅客運賃割引証取扱要領より）

⑵ 学割の交付

交付枚数年間	10枚
1回の交付枚数	4枚以内
有効期間	発行日より3ヶ月間
対象区間	片道101km以上
割引率	運賃の2割引

学割は本人に限って使用でき、使用の際は「学生証」を必ず携帯してください。学割を不正使用した場合、使用者は3 倍の運賃を追徴され、学割の交付は停止します。さらに大学が割引制度の特典を失い、全学生に迷惑をかけることになるので絶対に不正使用してはいけません。（文部科学省高等教育局の定めるところによる）

10枚以上必要となった場合は、学生課に相談してください。

⑶ 学生団体旅行割引証明書

合宿、遠征などの課外活動や、クラス・ゼミなどの旅行で8名以上まとまって同じ発着駅経路で旅行する場合には、遠近にかかわらず鉄道・航路について5割引、自動車線区は2割引の運賃割引が適用されます。なお、この割引を受けるには、必ず1名以上の教職員の同行が必要です。

・申し込み方法

JR各駅又は各旅行代理店から所定の「団体旅行申込書」用紙を受け、学生課に提出し、証明を受けてください。なお、手続きの際に「学外活動届」を提出してください。

四. 奨学金

1．独立行政法人日本学生支援機構（旧：日本育英会）奨学金

本学では、日本学生支援機構（http://www.jasso.go.jp）（旧：日本育英会）の奨学金を取り扱っています。

⑴ 日本学生支援機構（旧：日本育英会）

日本学生支援機構法に基づいて設立され、日本育英会の業務を引き継ぐ形で国の育英奨学事業を行っている機関です。

学生等に対する適切な修学環境を整備し、もって次代の社会を担う豊かな人間性を備えた創造的な人材の育成に資するとともに、国際相互理解の増進に寄与することを目的としています。

⑵ 奨学生の種類と内容

日本学生支援機構奨学金事業には、第一種奨学金と第二種奨学金があり選考基準が異なります。

① 種　類

<table>
<tr><td>種　類</td><td colspan="2">第一種奨学生</td><td>第二種奨学生</td></tr>
<tr><td>返還時の利息</td><td colspan="2">無　利　息</td><td>有利息
卒業後上限年利3％の利息つき</td></tr>
<tr><td rowspan="2">貸与月額</td><td>自　宅</td><td>自宅外</td><td rowspan="2">30,000円、50,000円、80,000円、100,000円、120,000円の5種類から選択。必要に応じて貸与金額を変更することもできます。</td></tr>
<tr><td>30,000円もしくは
54,000円</td><td>30,000円もしくは
64,000円</td></tr>
</table>

② 返　　還

貸与終了６ヶ月経過した後、定められた期間内に、銀行口座振替（リレー口座）によって返還することになります。割賦方法は、計画的に確実な返還をするために、１回当たりの負担が少なくて返還し易い月賦を勧めています。

第一種

月賦返還の例：平成27年度大学入学者、48ヶ月貸与（貸与始期４月）

	貸与月額	返還総額	返還月額	返還期間
自　　宅	54,000円	2,592,000円	14,400円	180回（15年）
自宅外	64,000円	3,072,000円	14,222円	216回（18年）

第二種

月賦返還の例：平成27年度大学入学者、48ヶ月貸与（貸与始期４月）

貸与月額	3　万　円	5　万　円	8　万　円	10　万　円	12　万　円
貸与総額	1,440,000円	2,400,000円	3,840,000円	4,800,000円	5,760,000円
返還予定総額	1,761,917円	3,018,568円	5,167,586円	6,459,510円	7,751,445円
返還回数	156回（13年）	180回（15年）	240回（20年）	240回（20年）	240回（20年）
月賦金額	11,293円	16,769円	21,531円	26,914円	32,297円

（注）年利３％で貸与されたものとして計算しています。

なお、返還開始までの間に付加される利息（卒業後６ヶ月経過してから返還開始）の関係で単純に返還回数に月賦金額を乗じても返還予定総額にはなりません。

⑶ 募集と採用決定

① 募集の時期

４月上旬／全学生対象

※主たる家計支持者の失職・病気・死亡又は災害等により家計状況が急変した場合には、奨学金の貸与が特別になされることがあります。（緊急・応急採用）
遠慮せずに学生課まで相談に来てください。

② 応募資格

第一種

１年次	２年次以上
・高校２～３年の成績の平均が3.5以上の者 ・高等学校卒業程度認定試験に合格し、上記に準ずると認められる者	・年次における標準単位数を修得した者 ・成績が本人の属する学科の上位1/3以内の者

第二種

・家計支持者からの経済的援助を受けることによっても尚、その修学の維持に困難があると認められる者 ・その他、経済的理由により修学が困難であると特に認められる者

併用貸与の応募資格は第一種と同じです。

※　４月上旬に行われる募集説明会に、必ず出席してください。

※　返還に際し、連帯保証人のほかに、別生計をもつ４親等以内の親族で申込日の時点で65歳未満

である保証人をたてなくてはなりません。総額数百万円（４年間貸与の場合）もの保証人になってくれる人を探すのは容易なことではありません。応募する前に保証人について確認する必要があります。連帯保証人、保証人が立てられない場合は、一定の保証料を支払う、機関保証制度を利用する事も可能です。(2004年４月以降、奨学金採用者)

③　出願書類

・奨学金申請書類（説明会時に指示）
・収入に関する証明書（源泉徴収票や確定申告書など）
・２年生以上は、成績通知表のコピー

※　書類が期限までに学生課へ提出されないと、応募資格を失いますので、注意してください。

④　選　　考

(a)　選考基準は、家計状況と学業成績の両方になります。
(b)　家計の収入基準額は、所得の種類、家族構成、通学形態などの諸事情によって異なります。

⑤　採用者決定

(a)　決定時期は、出願書類を提出後、約１～２ヶ月後です。
(b)　４号館１階の掲示板並びにCampus Webに掲示します。
(c)　採用者を対象に説明会を実施し、奨学生証・返還誓約書などの重要書類を配布します。
(d)　奨学金の交付は、全て本人名義の銀行振込によって行われます。

(4)　奨学生の義務

①　**「奨学金継続願」**の提出

毎年１月～２月頃に「奨学金継続願」の提出が必要です。提出が無い場合、奨学金が廃止されます。経済面・生活面・学修面の３点より適格認定を行います。毎年12月～１月頃に継続説明会を行います。必ず出席してください。

また、経済面で余裕があると判断された学生は、指導対象となり、奨学金の減額を勧められる場合もあります。対象者は掲示し、説明会を開きますので、掲示板並びにCampus Webを確認してください。（６月頃）

②　学生課にて、所定の手続きをしなければならない場合

・学籍異動（退学・休学・留学など）
・連帯保証人・保証人の変更
・住所変更届（自宅⇔自宅外へ変更した場合）※第一種のみ。
・貸与月額変更

③「在学届」の提出

(a)　対象者　大学入学前に奨学金の貸与を受けていた者
(b)　提　出　入学後直ちに、日本学生支援機構（旧：日本育英会）から送付された「在学届」に必要事項を記入して学生課へ提出してください。
(c)　提出が遅れると、返還猶予の措置がとられないので注意してください。
(d)　入学後に奨学生として採用された後、卒業前に途中で辞退した者も「在学届」を提出することで返還猶予の措置がとられます。

④「進学届」の提出

(a)　対象者　予約進学者（大学入学の前年度において奨学生採用候補者に決定している者）
(b)　提　出　所定の期限までに、日本学生支援機構（旧：日本育英会）から送付された採用候補者決定通知を学生課へ提出し、必要な手続きをしてください。

※　所定の期限までに提出がない場合は、採用候補者としての資格を失うことになるので注意して

ください。

⑤ 「返還誓約書」の提出

採用時に本人住民票の写し、連帯保証人・保証人（4 親等以内親族・連帯保証人と別生計・申込時点65歳未満）の署名した「返還誓約書」の提出が必要です。また、それぞれの印鑑登録証明書、連帯保証人については、所得に関する証明書の提出も必要となります。機関保証制度の場合は、本人住民票の写しと保証依頼書と返還誓約書を提出します。

⑸ 学業成績不振者に対する措置

毎年１回、奨学生の**学業成績**を日本学生支援機構（旧：日本育英会）に報告します。

学業成績が不振な奨学生は、奨学金の交付が**停止**又は**廃止**されることがあります。

掲示板並びにCampus Webに説明会等のお知らせを出すので確認してください。（５、６月頃）

２．各種奨学金一覧

地方公共団体奨学金及び民間団体奨学金一覧

	奨学金名称	貸与金額　月額	問い合わせ先
1	足立区育英資金	45,000円 入学準備金　30万円	03－3880－5977
2	石川県育英資金	44,000円	076－225－1816
3	茨城県奨学資金	自　宅　36,000円 自宅外　40,000円	029－301－5245
4	大田区奨学金貸与制度	44,000円	03－5206－7929
5	沖縄県県大学貸与	55,000円	098－941－6744
6	鹿児島県育英財団	64,000円	099－286－5244
7	川崎市大学奨学金	38,000円	044－200－3267
8	岐阜県奨学金	32,000円	058－272－1111
9	熊本県育英資金	35,000円	096－333－2682
10	島根県育英会	３・４・５・６・７万円から選択	0852－28－1981
11	徳島県奨学金	52,000円	088－621－3132
12	長崎県育英会	47,000円	095－824－7501
13	新潟県奨学金	51,000円	025－280－5609
14	福島県奨学資金	40,000円	024－521－7775
15	船橋市奨学金	30,000円	047－436－2852
16	あしながき育英会	１年　40,000円	03－3221－0888
17	交通遺児育英会	４・５・６万円から選択 入学一時金（一年生入学後希望者に貸与。無利子） 40万円、60万円、80万円から選択	0120－521－286
18	本多静六博士（埼玉県）	30,000円	048－830－4310

平成27年11月現在

※　地方公共団体奨学金希望者は、出身地域の都道府県、市区町村の教育委員会に直接問い合わせをし、募集対象、条件等を確認してください。

※　各団体から募集があり次第、KUIS Campus Webに掲載します。

五. 学校行事・課外活動

1．学校行事

学校行事は大別して、大学が主催する入学式・卒業式等と、学生が自主的に企画・運営する浜風祭・スポーツ大会・卒業パーティー等があります。

2．課外活動

⑴ 学生団体（サークル）

① 部・同好会・愛好会の３種類があります。

② 82団体（「学生団体一覧」を参照）が活動しています。

③ 「部・同好会・愛好会に関する基本規則（内規）」を参照してください。

④ 新たにサークルを結成したいときは、学生課で相談してください。

⑵ 課外活動に関する手続き、諸届・願

① 課外活動に関する諸届・願の用紙は、学生課（８・９・14はミレニアムハウス館長室）で受け取り、申請・許可を受けてください。

	種　　類	提　出　期　限	備　　考
1	愛好会結成許可願	学生委員会開催の10日前まで	設立趣意書 構成員名簿 愛好会規約
2	学生団体活動継続願	年度初め	
3	顧問・役員等登録変更届	変更有り次第・学生課の指示のあるとき	代表者・顧問・役員等の捺印 ※KUIS Campus Webのキャビネットからダウンロードできます。
4	学外活動届	１週間前まで	代表者・顧問の捺印 代表者または顧問（いずれも教職員）の許可を得ること ※KUIS Campus Webのキャビネットからダウンロードできます。
5	印刷物配付許可願	３日前まで	代表者・顧問の捺印 原本・コピー各１部
6	催し開催許可願	10日前まで	学内でイベントを行う際に必要 実施後１週間以内に「催し開催報告書」提出
7	教室使用許可願	３日前まで（１ヶ月分の予約ができます）	
8	ミレニアムハウス使用許可願	ミレニアムハウス・食神利用団体会議実施週の金曜まで	和室・ホール・スタジオ
9	食神ステージ使用許可願		
10	施設使用許可願	１週間前まで	
11	備品借用許可願		
12	展示許可願（渡り廊下）		４号館渡り廊下に展示する場合
13	備品借用願		
14	ミレニアムハウス備品借用申請書		ミレニアムホール・和室の備品を借用する場合
15	大学ｗｗｗへのホームページ掲載依頼書	適宜	
16	ホームページへのリンク依頼書	〃	

※ 大学内でイベント等の催し物を行う場合は、催し開催許可願と一緒に企画書を提出してください。
※ 募金活動や物品販売をする場合、大学の内外を問わず催し開催許可願を提出してください。趣旨・責任者名・団体名・期日・場所・募金・署名または物品販売の対象などを明記したものを一緒に提出してください。
※ 開催許可がおりてから告知等できるようになります。

② 掲示物・ポスターの許可　※事前に催し開催許可願で申請しておく必要があります。

申込方法	1. 学生課で現物を見せ、許可（許可印）を得ること。 2.「黄色のファイル」に記入。
掲示場所	学生用掲示板（２号館１階、３号館１・２階等）以外への掲示は認めません。公認団体は専用掲示板（２号館２階）を利用してください。窓ガラスや壁への掲示は禁止です。
掲示期間	原則として２週間 期限が過ぎたら速やかにはがしてください。
大きさ 枚数	42cm×60cm（Ａ２）を限度とします。 10枚まで
注意事項	大学の非公認団体による掲示は認めません。 メンディングテープを使用し、折り返しをしてください。

③ その他学内及び学外活動に関することは、手続きが必要となりますので学生課まで事前に相談してください。

※ 上記ルールが守られない場合は、団体の活動を認めない等厳しく対処します。

※ 著しく著作権および肖像権を無視しているようなものは許可しません。

六. 施設・備品使用等

１．図書館

図書館の利用については、図書館利用細則（「神田外語大学学則」参照）及び「図書館利用案内」に従ってください。

２．学食・売店・コピーサービス

⑴ 食　堂

① 「食神」（アジアン食堂）：タイ・ベトナム・インドネシア等、本場のアジアンフードが楽しめます。

営業時間
- 平日　11:00～14:00
- 土曜・日曜　一般開放のため別料金・別メニュー

② 「ラパス」（４号館１階）：カフェテリア方式で、各種料理取り揃えています。

営業時間　平日・土曜ともに　11:00～14:00

③ 「バルコーネ」（４号館２階）:菓子パン（ベーカリー約80種類）とソフトドリンクで軽い食事ができます。歓送迎会やサークルによるミニパーティーなどにも利用できます。（許可制）

営業時間
- 平日　9:00～17:00
- 土曜　営業なし

④ 「KUISカフェ」（７号館３階）：菓子パンやパスタ、サラダ、スープなど揃っており、食事ができます。

営業時間
- 平日　10:00～17:00（ドリンク販売）
- 　　11:00～14:00（ランチ・軽食販売）
- 土曜　営業なし

⑵ 売　店

「丸善」（３号館１階）：書籍・文房具・日用品を販売しています。

店頭にはない本も注文で取り寄せることができます。

営業時間
- 平日　9:30～17:00
- 土曜　9:30～14:00

⑶ コピーサービス

コピー機利用の為にコピーカードを１号館２階印刷室にて販売しています。

営業時間 { 平日　8:30～11:00／12:00～17:00
　　土曜　8:30～11:00

（種類） 50枚…… 520円　　300枚…… 2,770円
　　100枚…… 970円　　500枚…… 4,570円

※　カード交換の場合は上記金額より70円安くなります。

⑴、⑵、⑶は時期により営業時間を変更することがあります。

３．施設や備品の使用

⑴ 施設・設備の使用、借用の手続き

課外活動等で学内施設の使用を希望する場合は、学生課へ必ず届け出て、許可を得てください。許可のない場合は、施設・設備の使用はできません。

なお、使用できる施設は下記の通りです。

◎１号館１、３階教室（1－108～1－115を除く）
◎２号館１～３階教室
◎３号館
◎４号館１～３階教室（4－101・107・201・202・209・210 を除く）
◎ミレニアムハウス：届出先はミレニアムハウス館長室
◎学生活動ブース（１号館１階、３号館３階）
◎課外活動室の一部
◎４号館中庭
◎食堂ラパス・バルコーネ・食神（アジアン食堂）・KUISカフェ：食神のステージ使用の場合はミレニアムハウス館長室へ届出
◎ダンススクエア
◎テニスコート
◎グラウンド
◎体育館
　} 体育施設利用方法について参照
◎６号館プレゼンテーションルーム
◎６号館バーチャルスタジオ
◎SALC
◎７号館クリスタルホール
◎７号館教室・図書館内グループ室
　} 各受付にて確認し、学生課へも届出を行ってください。

※大学の非公認団体による施設・設備の使用、借用は制限される場合があります。

＊教室使用の注意事項

使用可能時間帯	月～金　12：10～13：10 月～金　16：30～19：00　授業に支障をきたさない範囲内 土　　12：10～17：00　　〃 月～土　9：00～17：00（休暇中） ＊日、祝日は使用できません。 ＊教室によって使用可能時間が違うので注意してください。
申込方法	1．使用日の3日前までに学生課で申し込み、許可を得ること。 2．時間割表で空き教室を探す。 3．「教室使用願」と「ブルーのファイル」に記入。
使用禁止期間	1．大学閉鎖期間中 2．定期試験期間中・入学試験期間中 3．大学の都合による

※学生活動ブース使用の注意事項

対象者	授業、ゼミ、学友会に所属している団体（2名以上）
利用可能時間帯	平日）9:00～19:30 土）9:00～17:00 ※日、祝日は使用できません。
使用禁止期間	1．大学閉鎖期間中 2．定期試験期間中・入学試験期間中 3．その他大学の都合による

・希望があれば、常時使用する団体のみ収納キャビネットの使用もできる。（鍵の管理は学生課にて行なう）

・12月と6月に学生活動ブース利用調整会議を行うので、使用希望の場合は必ず学生課に問い合せの上、会議に参加してください。（会議の日時はCampus Webにおいて告知する）

※収納キャビネット使用の注意事項

対象者	上記学生活動ブースを、常時使用する団体の学生
使用上の注意	1．貴重品、私物、飲食物は収納不可。 2．共有して使用するため、整理整頓清潔を常に心掛ける。

⑵ 機器・用具の借用

機器･用具の借用には、管理者の許可が必要です。「備品借用願」に必要事項を記入のうえ、学生課へ提出してください。ただし、ラジカセ、ビデオカメラ等、メディア機器・用具の借用は、メディア教育センターにて手続きを行ってください。

4．拾得物・紛失物・貴重品

学内で忘れものをしたり、紛失したり、あるいは拾得した場合は学生課へ届け出てください。拾得物は、事務局内の「拾得物ケース」に陳列しますので心当たりの学生は申し出てください。貴重品の場合は、陳列棚に鍵をかけて陳列しています。

また紛失届の出ているものは、電話連絡します。

拾得物は、届いた日から3 カ月間保管し、その後は処分します。

自己の持ち物は自己管理を原則とし、大学は管理責任を負いません。ただし盗難にあった場合や不審

行為を発見した場合は、直ちに学生課に届け出てください。特に、正課の体育・スポーツやクラブ課外活動においては、貴重品の保管・管理に十分留意してください。

5．ブリティッシュヒルズ（http://www.british-hills.co.jp/）

福島県白河にある国際研修施設です。

所在地：〒962－0622　福島県岩瀬郡天栄村大字田良尾字芝草１－８

電話番号：0120－13－1386　FAX 番号：0248－85－1300

（受付時間：９：30～19：30）

メールアドレス：hills@british-hills.co.jp

⑴ 利用料金

1,000円

本学在学生は、年間（４月～翌３月）合計３泊まで個人目的で利用できる。

・食事の有無に拘わらず、料金は上述の通り

・昼食希望者は別途個人負担でパブまたはアスコット（ティールーム）で取ることができます。（営業時間は季節により異なります。）

・電話及び食事時の飲み物等個人的費用は別途

・バス・トイレ付タイプに宿泊希望の場合は差額料金一人あたり2,500円が必要

・シングル利用は1,000円増

・４泊目以降及び同伴の家族・学外友人には優待料金が適用される。

・大学認可団体（部・同好会・愛好会）での、団体利用（５名以上）の場合は、年間10泊を上限として利用できる。（個人目的の宿泊数に含めない）

※大学が主催する催し物及び教員が引率する場合の料金は別途定める。（個人目的の宿泊数に含めない）

⑵ 利用申込み方法

① ブリティッシュヒルズに直接電話で申し込む（利用日の１ヶ月前同日より利用日１週間前まで受け付ける）

・キャンセル料金は一人あたり、宿泊日の２週間前から当日まで1,000円

② 電話予約後、本学在学生は本人確認の為学生証のコピーをFAX する。代表者宅には利用日の３日前までに「予約確認書」が送られる

③ チェックイン時､「学生証」を提示する

⑶ その他

新白河駅高原口より無料定期送迎バスあり（要予約）

七．快適な学生生活のために

1．健康管理

メディカルセンター（ミレニアムハウス１階　Tel. 043-273-1495）

⑴ 傷病者の応急処置・健康相談

ケガや病気の応急処置、気分が悪い時等のベッドでの休養、健康相談、病院案内等を行なっています。お薬はお渡しできません。

（メディカルセンター不在時は学生課（１号館１階）へ申し出てください。）

＊　健康保険証は、常に携帯してください。扶養者と別居している学生で保険証が個別にない場合は、必ず、「遠隔地被保険者証」の交付を受けてください。

＊　体温計、絆創膏、マスク、感冒薬、解熱鎮痛薬、胃腸薬、持病の薬等を入れた救急箱を自宅に備えておいてください。

⑵　健康診断

健康診断は年１回必ず受診してください。

定期健康診断…４月初旬　学部、大学院、留学生別科４月生

９月中旬　留学生別科９月生

留学や休学で４月に受けられなかった学生（予約した者のみ）

検査項目…胸部レントゲン・内科診察・身長・体重・視力・血圧・尿

血液検査（新入生のうち希望者のみ）

＊　定期健康診断の詳細･学内で受けられない場合の受診方法は、KUIS Campus Webでお知らせします。

⑶　学校感染症と診断された場合（Ⅱ　７．１）「公欠」学校感染症に罹患した場合を参照）

２．健康診断証明書の購入方法

⑴　自動証明書発行機から購入できる健康診断証明書

・健康診断証明書和文…１通300円

但し、学内健康診断の結果がすべてA判定且つ、他覚所見も異常がない場合のみ

⑵　自動証明書発行機から購入できない健康診断証明書

・学内健康診断の結果がA判定以外か、他覚所見に異常がある場合

・所定の書式

・追加の項目がある

・英文

注１；毎年３月下旬～５月初旬はデータ更新期間のため発行機からは購入できません。

注２；⑵の場合は他院に依頼することになります。時間に余裕を持ってメディカルセンターへ相談してください。

３．学生相談・カウンセリング・ハラスメント相談

⑴　学生相談　　学生課／メディカルセンター

学生生活の中で生じる様々な悩みや不安の相談を受け付けています。ひとりで悩まずに、勇気を出して声をかけてください。少しでも解決の糸口が見つかるように共に考えましょう。内容は、自分の性格、学業、対人関係、将来、家庭、サークル活動等何でも受け付けています。

学生課･メディカルセンターに来る気持ちになれないときは、電話･E-mail･手紙を使っても構いませんが、相談の日時を決める為に連絡をとることが必要となる場合もありますので、必ず学籍番号と氏名を教えてください。相談の内容はすべて厳重な秘密扱いとなります。相談員は任期中も退任後も、相談員として知り得た情報を他に漏らすことは決してありませんので、安心して相談してください。

＊学生相談員は、毎年、年度始めに教職員から選任されます。学生相談員一覧、連絡先は、下記をご覧ください。

KUIS Campus Web→キャビネット一覧→学生用フォルダー→各部署情報→メディカルセンター→学生相談・カウンセリング

⑵ カウンセリング　　メディカルセンター

臨床心理士によるカウンセリングを予約制で行っています。内容は心や身体に関すること等何でも受け付けています。申し込み・問い合わせはメディカルセンターまでご連絡ください。相談の内容はすべて厳重な秘密扱いとなりますので安心してご相談ください。

⑶ ハラスメント相談　　メディカルセンター

本学では、勉学・課外活動・研究・就業上の関係を利用してなされる次のような行為は、すべてハラスメントとみなされます。

①利益または不利益をほのめかしながら、相手方の望まない行為を要求したり、誘いかけたりすること。

②相手方に不快な思いや精神的・肉体的・社会的苦痛を感じさせたり、利益または不利益を与えること。

メディカルセンターはハラスメント防止委員会相談窓口です。ハラスメントの被害を受けた（または受けている）と思った場合は、メディカルセンターやハラスメント相談員へ、電話またはE-mailで相談することができます。ひとりで悩まずに、勇気をもって速やかに相談してください。

＊ハラスメント相談員は、毎年、年度始めに教職員から選出されます。ハラスメント相談員一覧、連絡先は下記をご覧ください。

KUIS Campus Web→キャビネット一覧→学生用フォルダー→各部署情報→メディカルセンター→ハラスメント相談

学生相談・カウンセリング・ハラスメント相談受付
場所：メディカルセンター（ミレニアムハウス１階）
時間：平日　９：00～11：10／12：10～17：15
　　土　　９：00～11：30（緊急時は午後も17：15まで受け付けます）
Tel.：（043）273-1495
E-mail：mc@ml.kuis.ac.jp
　　soudan-kuis@ml.kuis.ac.jp（ハラスメント相談）

4．教職員との交流

大学生活は、学問研究の場であるだけでなく、学友・教職員との交流を通じて自己を磨き、豊かな人間性を育む場でもあります。さいわい本学は小規模な単科大学ですので、教職員と接するには他大学に比べるとかなり恵まれた環境であるといえます。教職員は学生からの積極的な働きかけを待っています。遠慮せずにいつでも教職員に声をかけ、大学生活を一層実り多いものにしてください。

5．生活上の注意事項

大学生活を快適に過ごすために以下の点に十分注意してください。

⑴ 個人情報の管理

大学内外を問わず、アンケート・アルバイト・署名活動等において、自分の個人情報（住所、氏名、電話番号、携帯電話・PHS 番号、Eメールアドレス等）を安易に知らせてはいけません。

実際に、アルバイトの仮登録用紙に電話番号を記入した翌日からいたずら電話に悩まされた事件が発生しました。それ以外にも、架空請求・振り込め詐欺・無言電話・不審なメール等の被害が相次いでいます。とくに女子学生はこれらの被害のターゲットになる可能性が高いです。個人情報を安易に

流出しないよう十分注意してください。

⑵ 悪徳商法の被害防止

路上でのキャッチセールス、電話やダイレクトメールによるアポイントメントセールス、「○○セミナー」と称する詐欺まがいのセールス、ねずみ算式に会員を増やすマルチ商法等には細心の注意を払ってください。

昨今の就職難に悩む学生をターゲットに「○○セミナー」なるものを開き、数十万円の受講料を請求する悪質な業者による被害が多発しています。残念ながら本学の学生にも被害者がでています。これらは、安易な契約がトラブルの原因です。おかしいと思ったらはっきりと断り、契約（サイン・押印）に際してはその内容を確認し、十分に検討したうえで判断してください。

なお、店舗以外で契約した場合は、契約日を含めて８日間以内なら無条件で解約できる「クーリングオフ制度」があることも知っておいてください。

「クーリングオフ制度」について詳しい情報は、下記に問い合わせてください。

千葉県消費者センター …… Tel.047－434－0999
千葉市消費生活センター …… Tel.043－207－3000
我孫子市消費生活センター …… Tel.04－7185－0999
市川市消費生活センター …… Tel.047－334－0999
市原市消費生活センター …… Tel.0436－21－0999
浦安市消費生活センター …… Tel.047－390－0030
柏市消費生活センター …… Tel.04－7164－4100
木更津市消費生活センター …… Tel.0438－20－2234
佐倉市消費生活センター …… Tel.043－483－4999
銚子市消費生活センター …… Tel.0479－24－8194
流山市消費生活センター …… Tel.04－7158－0999
習志野市消費生活センター …… Tel.047－451－6999
成田市消費生活センター …… Tel.0476－23－1161
野田市消費生活センター …… Tel.04－7123－1084
船橋市消費生活センター …… Tel.047－423－3006
松戸市消費生活センター …… Tel.047－365－6565
八千代市消費生活センター …… Tel.047－485－0559
四街道市消費生活センター …… Tel.043－422－2155

⑶ 部外者による学内での勧誘行為について

最近、部外者が学内で学生を勧誘する行為の報告が急増しています。

本学では許可のない部外者による学内への立ち入り、学生への勧誘活動は禁止しています。

部外者による以下のような行動には特に注意してください。

・部外者であることを自ら伝え、気軽に声をかけてくる。
・最初は何気ない会話から始め、次第に宗教勧誘の話をしてくる。
・就活の悩みを話すと、良い自己啓発セミナーがあると勧誘してくる。

このような人物に声をかけられても絶対に自分の連絡先を教えてはいけません。

連絡先を教えることで後から大きなトラブルとなることもあります。

なお、学内で部外者から勧誘を受けたり、目撃をした場合は必ず学生課へ報告をしてください。

神田外語大学では、全学生のために学生相談室、カウンセリング室を設けています。上記のようなトラブルに巻き込まれた場合や、なにか悩み事がある場合は、ひとりで悩まず、相談に来てください。個人の秘密は厳守します。(3. (1)学生相談参照)

体育施設利用方法について

体育施設とは…

【屋内施設】

体育館…アリーナ・フィットネススイート・柔道場・剣道場・更衣室・シャワー室

多目的スペース…卓球、ダンス他

【屋外施設】

テニスコート…オールウェザーコート５面

人工芝グラウンド…サッカー、ラグビー他多目的、天然芝グラウンド…ラクロス、サッカー他多目的

ダンススクエア…フラメンコ、ダンス他多目的

体育施設の利用について

利用資格　本学学生（在校生）、本学教職員、大学から許可を受けた学外者

体育・スポーツセンター開館時間

学部の講義時間中

	月～金	土	日
利用時間	9：00～20：00　※1	9：00～17：00　※2	9：00～17：00　※3
窓口受付	9：00～17：15	取扱いなし	取扱いなし
用具貸出	9：00～16：40	9：00～16：40　※2	貸し出しなし

学部の定期試験期間及び春・夏の長期休業期間

	月～金	土	日
利用時間	9：00～17：00	9：00～17：00　※2	9：00～17：00　※3
窓口受付	9：00～17：00	取扱いなし	取扱いなし
用具貸出	貸し出しなし	貸し出しなし	貸し出しなし

※1　16：40以降は課外活動団体の利用が無く、用具の貸し出しを必要としていない場合のみ利用可能
※2　課外活動団体の利用が優先です。
※3　体育・スポーツセンターから許可を受けた団体に限り利用可能です。

休館日

冬季休業期間・入学試験日・入学式・卒業式・ガイダンス期間・その他・大学で指定された期間

体育施設の予約について

体育施設での授業・課外活動・行事がない場合に限り、体育施設の予約が出来ます。

１．体育・スポーツセンター窓口に予約する日時を申し出て下さい。

２．施設の利用状況を確認します。

３．指定の用紙に記入し、許可を受けて下さい。

予約上の注意

・お昼休みの時間帯の全面予約はお断りします。

・予約のキャンセルは体育・スポーツセンターまで必ず連絡してください。

体育用具の貸し出しについて

体育施設での授業が無い場合に限り、下記の通り体育用具の貸し出しを行います。
体育用具の貸し出しは授業期間だけです。試験期間・春・夏・冬の長期休業期間には行いません。

貸し出し用具

【室内】バレーボール・バスケットボール・フットサルボール・バドミントン（ラケット・シャトル）
　　卓球（ラケット・ボール）
【屋外】サッカーボール・グローブ・ソフトボール・バット・フライングディスク
　　テニス（ラケット・ボール）

体育用具の借用方法

学生証を窓口に提示し（グループの場合は代表者のみ提出）使用する施設の使用名簿に必要事項と借用用具数を記入してください。

体育用具利用上の注意

・用具は無断で使用せず所定の手続きを行ってください。
・貸し出し用具には限りがあり、実技授業使用の用具は貸し出し出来ません。
・用具の使用場所を厳守し、用具は破損のないように大切に扱ってください。
・用具数は返却時に確認します。紛失の無いよう気をつけて下さい。

体育施設利用上の注意

体育施設全般

・施設内での喫煙・飲食（水分補給の為のものは除く）は厳禁です。
・全ての体育施設及び用具の使用には手続きが必要です。

体育館

・体育館内は土足厳禁です。
・所持品及び貴重品は各自で責任を持って管理してください。
・貴重品ロッカーは施設利用時のみ使用可能です。
・更衣室及び貴重品ロッカーに私物を放置しないでください。放置物は処分します。
・館内設備・器具・備品などは大切に扱ってください。
・アリーナ照明及びシャワースイッチなどは受付に申し出て下さい。

フィットネススイート

フィットネススイートではトレーニング器具及びフロアを共用で使用できます。
・使用の際には、入口にある施設の使用名簿に必要事項を記入して下さい。
・１団体の活動での貸し切り利用はお断りします。
・トレーニング器具は使用説明会を受講後、利用証明書を受け取り使用可とします。

テニスコート

・テニスコートへの立ち入りはテニスシューズもしくは底の平らな運動靴の利用を厳守してください。
　革靴及びサンダル等での立ち入りは禁止です。

ダンススクエア

・ダンススクエアは楽器演奏や楽器の練習場としての開放はしておりません。
・大学周辺の高校や住宅に配慮する為に楽器演奏や楽器の練習は認められません。
　（CDなどの音源をラジカセ等で流すことは可能です。音量に配慮してください。）
・土曜日・日曜日・祝日・祭日に本学を試験会場等で使用することがあります。
・試験日には音源の使用は出来ません。試験日については後日お知らせします。
・ダンススクエアは土足厳禁です。

７号館クリスタルホール使用について

利用可能時間

授業期間中　月－金　９：00～19：00

　　土　　９：00～17：00

定期試験期間中、入学試験期間中概ね図書館開館時間に準ずる

申し込み方法

学生課に「施設使用・備品借用許可願」を提出してください。

＊書類は学生課で受け取り、使用予定日の１週間前までに提出してください。

備品借用について

設置機材：プロジェクター、スクリーン、CD、DVD、VHR機器、マイク

＊上記以外のものが必要な場合は、認可された許可願を持って視聴覚教育研究室（スタジオ）にて借用手続きを行ってください。パソコン等の機器によっては、メディア教育センターにて借用手続きが必要になるものもあります。

注意事項

・設備は大切に使用してください。
・１階図書館の開館時間中に、大きな音が出る（演奏など）場合には、利用は認められません。判断が難しい場合は、事前に学生課に相談してください。
・私物を放置しないでください。
・７号館内での飲酒、喫煙は厳禁です。
・使用目的以外の使用は認めません。
・火気、その他危険物の持ち込みは禁止します。
・クリスタルホール内は飲食可能ですが、機器・備品にこぼさないよう、注意してください。
・クリスタルホール内のプロジェクターは絶対に移動させないでください。故障の原因となります。
・学生のみでの使用はできません。必ず顧問の先生同席の上で使用してください。

神田外語大学学友会規約

昭和62年７月17日　施　　行
昭和63年６月29日　第１次改正
平成２年５月25日　第２次改正
平成４年４月23日　第３次改正
平成７年４月１日　第４次改正
平成21年11月16日　第５次改正
平成22年６月22日　第６次改正

前　文

私たち神田外語大学学友会は、会員の自治活動を通じて、会員相互の研鑽、協力、敬愛を目指し、同時に次世代を担う国際社会の一員としての人格形成に努め、また会員相互の親睦を深めながら、人間としての生き方を追求し、あわせて神田外語大学の発展に寄与することを目的として、以下の学友会規約を定めるものとする。

第１章　総　則

第１条　本会は、神田外語大学学友会と称する。

第２条　本会は、神田外語大学（以下「本学」という）内に本部を置く。

第３条　本会は、本学の教育精神を旨とし、学生生活の向上および充実を目標とし、学生の自治により運営する。

第４条　本会は特定の政治、宗教、その他の団体に干渉されず、中立の立場をとる。

第２章　組　織

第５条　本会は、本学の全学年をもって組織する。

２　本会は、本学の全教職員および全卒業生を会友とする。

第６条　本会には、次の機関を置く。

総会、執行部、監査委員会、選挙管理委員会、代表者委員会、浜風祭委員会、部会委員会と同好会小委員会および特別委員会。

第７条　本会は、本学学長および学生委員会を顧問とする。

第８条　本会は、次の会議を設ける。

⑴　総会
⑵　執行部会議
⑶　代表者委員会会議
⑷　浜風祭委員会会議
⑸　卒業パーティー委員会会議
⑹　部会委員会会議
⑺　同好会小委員会会議
⑻　特別委員会会議
⑼　選挙管理委員会会議
⑽　監査委員会会議

第３章　総　会

第９条　総会は、全会員をもって組織される、本会の最高決議機関であり、会長がこれを招集する。

第10条　総会は、全会員の10分の１ の出席をもって成立し、議決は出席者の過半数の賛成をもって決議される。

２　総会を開催するにあたっては、その旨の公示を開催の１週間前までに行なうものとする。

第11条　定例総会は年１回開かれ、必要と認められた場合は臨時総会を開くことができる。

２　臨時総会は、執行部および各委員会の発議ならびに会員の10分の１以上の要求のあった場合に限る。

第12条　総会の議長、副議長は、代表者委員会会議の議長、副議長が兼任する。

第13条　総会は、下記の事項を行なう。

⑴　執行部役員、監査委員および各委員会役員の承認。

⑵　規約の改正

⑶　予算、決算に関わる事項の審議および承認。

⑷　その他重要事項の決議および承認。

第14条　総会は、その機能の一部を各委員会に委嘱することができる。

第４章　執行部

第15条　執行部役員の構成および定員は、次の通りである。

⑴　会　長　１名

⑵　副会長　２名

⑶　書　記　２名

⑷　会　計　２名

第16条　執行部役員の任務は、次の通りとする。

⑴　会長は、本会を代表し、一切の業務を統括する。

⑵　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その任務を代行する。

⑶　書記は、本会の諸記録、資料保管および備品管理を行なう。

⑷　会計は、本会の会計事務を行なう。

第17条　執行部は、その年度の活動計画、予算、特別委員会の設置、およびその他の重要事項を討議し、代表者委員会にこれを発議し、承認を得て実施する。また、役員の新旧交代時には、引き継ぎのための研修を新役員に対して行なう。

２　執行部は、全ての学生団体に対して、活動の円滑と向上のための情報を提供する義務を有する。

３　執行部は、全学友会員を代表して、教務部と定期的に協議を行なう。

第18条　執行部役員は、本会内の各委員会の委員長、副委員長および会計を兼任することはできない。

第５章　代表者委員会

第19条　代表者委員会は、執行部役員、各部の代表者、各同好会の代表者、及び浜風委員会の代表者により構成する。

第20条　代表者委員会会議は、本会の運営および学生間の自治、風紀その他会員の生活の向上のために諸問題を討議する。

第21条　代表者委員会は、総会に次ぐ議決機関であり、規約に基づき討議事項を審議し、執行部の合意のもとに諸事項を施行する。

第22条　代表者委員会会議は、委員の３分の２の出席をもって成立し、議事は出席者過半数をもって決議する。

第23条　代表者委員会会議は、執行部及び各委員会の発議があった場合、会長がこれを召集する。

第24条　代表者委員会は、代表者委員会会議での決議事項を掲示板にて公にし、学友会委員の意見を要約統合する義務を有すると同時に、本会の活性化に務めなければならない。

第 6 章　浜風祭委員会

第25条　浜風祭委員会は、本会会員の有志により構成する。

2　前項の規定に関わらず、委員長は、必要と認めた場合は、委員会の承認を経て、補佐するものを指名できる。

第26条　浜風祭委員会は、浜風祭の企画、運営を通して、学生、教職員および一般来学者相互の親睦を深め、本会および本学の向上、発展を図る。

第27条　浜風祭委員会は、執行部および各委員会と協力し、浜風祭の企画、運営に当たる。

第28条　浜風祭委員会は、規約に基づき必要事項を討議し、執行部の合意のもとに諸事項を施行する。

2　浜風祭の実行計画、予算計画は、学生課、学生委員会および関係機関との協議を経て、合意により決定する。

第29条　浜風祭委員会については、別に細則を定める。

第 7 章　卒業パーティー委員会

第30条　卒業パーティー委員会は本学会員の有志により構成する。

2　前項の規定に関わらず、委員長は必要と認めた場合は、委員会の承認を経て、補佐するものを指名できる。

第31条　卒業パーティー委員会は、卒業パーティーの企画・運営を通して、卒業生、教職員相互の親睦を深め、本会および本学の向上、発展を図る。

第32条　卒業パーティー委員会は、各部、委員会と協力し、卒業パーティーの企画・運営に当たる。

第33条　卒業パーティーの実行企画、予算計画は、学生課、関係機関との協議を経て、合意により決定する。

第34条　卒業パーティー委員会については、別に細則を定める。

第 8 章　部会委員会

第35条　部会委員会は、各部の代表者により構成する。

第36条　部会委員会は各部の活動を円滑にするために執行部と連絡をとり、併せて部間および部と同好会相互の諸問題の調整を行なう。

第37条　部会委員会は各部の予算配分の立案および決算の報告、部の昇格ならびに活動制限、廃止の提案を執行部に対して行なうことができる。

2　部の昇格および活動制限、廃止にあたっては、執行部、部会委員会および学生課、学生委員会、体育･スポーツセンター（体育系団体について）によって構成する部昇格審査会議にて協議し、学長の承認を得た後、総会において決定する。

3　部の昇格および活動制限、廃止の審査基準は、別に示す部昇格審査会議の定める基準による。

第38条　部会委員会については、別に細則を定める。

第 9 章　同好会小委員会

第39条　同好会小委員会は、各同好会の代表者により構成する。

第40条　同好会小委員会は、各同好会の活動を円滑にするために執行部および部会委員会との連絡をとり、併せて同好会間および部と同好会相互の諸問題の調整を行なう。

第41条　同好会の昇降格および廃止にあたっては、執行部、同好会小委員会および部会委員会によって構成する同好会昇降格審査会議にて協議し、学長承認を得た後、総会において決定する。

2　同好会の昇降格及び廃止の基準は、別に示す同好会昇降格審査会議の定める基準による。

第42条　同好会小委員会については、別に細則を定める。

第10章　特別委員会

第43条　特別委員会は、本会の運営を円滑に行なうために必要な場合、執行部の発議と代表者委員会の承認によって設置される。

第44条　特別委員の組織、委員の任期、委員会の招集、解散などについては、代表者委員会の決定による。

第45条　特別委員会は、執行部および代表者委員会より委嘱された特別行事などについての運営および決議機関となる。

第11章　選挙管理委員会

第46条　選挙管理委員会は、代表者委員会から選出された選挙管理委員により構成する。

第47条　選挙管理委員は、本会執行部役員および監査委員の選挙に関する全ての運営を委任され、別に定める細則に基づき活動する。

第12章　監査委員会

第48条　監査委員は、２名とする。

第49条　監査委員の任務は、次の通りとする。

⑴　執行部および各委員会の会計の監査

⑵　執行部および各委員会の活動の監査

⑶　⑴および⑵の監査の結果、その合計および活動が適性を欠いていると認めた場合の改善勧告

2　前項の監査および改善勧告は、本会会長を通じて、各組織に行なうこととする。

第50条　監査委員は、必要に応じて執行部会議及び各委員会会議に出席して発言することができる。但し、一切の決議権を持たない。

第51条　監査委員会については、別に細則を定める。

第13章　委員および役員の選出

第52条　執行部役員および監査委員は、毎年11月に、立候補した会員の中から全会員の選挙により選出される。この選挙は、本規約第47条に基づく細則に基づいて実施される。

第53条　執行部役員および監査委員の任期は、毎年12月１日から翌年11月30日までの１年とし、再任を妨げない。尚、任務中の執行部役員および監査委員が何らかの事情で辞任した場合に行なわれる欠員の補充によって選ばれた後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

第54条　代表者委員会委員長は、代表者委員会において委員の互選によって選出される。

第55条　浜風祭委員会委員は、毎年12月に本会会員から召集する。任期は１年とし、再任を妨げない。但し、１年生の委員は、４月に本会会員から選出する（任期は８カ月）。

第56条　浜風祭委員会委員長は、浜風祭委員会において委員の互選により選出される。

第57条　部会委員会委員は、毎年12月に各部から選出する。任期は１年とし、再任を妨げない。

第58条　部会委員会委員長は、部会委員会において委員の互選により選出される。

第59条　同好会代表者は、毎年12月に各同好会から選出する。任期は１年とし、再任を妨げない。

第60条　同好会小委員会会長は、同好会小委員会において委員の互選により選出される。

第61条　選挙管理委員会委員は、代表者委員会から選出する。任期は１年とし再任を妨げない。

第62条　選挙管理委員会委員長は、選挙管理委員会において委員の互選により選出される。

第63条　本会全会員は、本会の執行部役員および各委員会委員の職務遂行に疑問を持った場合、当該役員および委員の罷免を請求する権利をもつ。

２　罷免請求は、全会員の３分の１以上の要求があった場合に、全会員による投票によって決定する。この際、罷免票が得票数の過半数をこえた時は、当該役員および委員は罷免され、代わりの役員および委員が選出される。

３　前項の規定に関わらず、執行部役員および監査委員に対する罷免請求は、代表者委員会会議の決議によって、また各委員会委員および委員長に対する罷免請求は、執行部会議の決議によっても行なうことができる。

第14章　会　計

第64条　本会の経費は、会費および有志の寄付、その他をもってこれに充てる。

第65条　本会の会費は、年額5,000円とし、毎年本学前期授業料納入時に併せて納入する。

２　本会は、会費の納入受け入れ事務を本学に委託する。

第66条　本会の会計年度は、毎年４月１日から翌年３月31日までとする。

第67条　本会の予算は、執行部で立案され、代表者委員会に提出し、その審議を経て、学長の承認を得た後、総会において決定する。

第68条　本会の会計については、別に細則を定める。

第15章　規約の改正

第69条　規約の改正および補足は、執行部、各委員会または全会員の６分の１以上の要求がある場合、代表者委員会において発議される。その審議により、出席者の３分の２以上の支持を得てこの要求が認められた場合、執行部において改正案および補足案が作成され、総会に提出することができる。

２　前項の総会の審議は、本規約第10条の規定に関わらず、出席者の３分の２ 以上の承認をもって成立する。

付　則

１　本規約は、昭和62年７月17日から、その効力を発揮する。

２　本規約の改正および補足内容は、総会において改正および補足が承認された日から、その効力を発揮する。

以　上

部・同好会・愛好会に関する基本規則（内規）

（部・同好会・愛好会の目的）

第１条　大学における課外活動として「部」・「同好会」及び「愛好会」活動は、正課における人間形成の効果を高め、これを補充するものであり、教養の向上、自立性、社会性の涵養を図るためのものである。

（部・同好会・愛好会の定義）

第２条　「部」は、各専門分野において、対外的に本学を代表して課外活動を行なう団体をいう。その活動内容、大学への貢献度などに応じて、学友会予算の一部を活動費用として使用できる。

２　「部」は、「部昇格審査会議」の審査を経て「同好会」からの昇格が認められた団体である。

３　「部」は、「部昇格審査会議」において、その組織及び活動が「部」基準を満たしていないと認められた場合、活動制限、廃止に移行される。

第３条　「同好会」は、各専門分野において「部」に準ずる課外活動を行なう団体であり、「部」への昇格を希望する団体である。

２　「同好会」は、「同好会昇降格審査会議」の審査を経て「愛好会」からの昇格（移行）が認められた団体である。

３　「同好会」は、「同好会昇降格審査会議」において、その組織及び活動が「同好会」基準を満たしていないと認められた場合、「愛好会」に降格（移行）される。

第４条　「愛好会」は、第１条から外れることのない目的によって組織される団体である。

２　何れの団体も「愛好会」として設立される。

３　宗教の勧誘や破壊活動などを目的としてはならない。

第５条　「部」・「同好会」は、次の役員を選出する。

⑴　体育部門…主将、副主将、会計各１名

⑵　文化部門…幹事長、副幹事長、会計各１名

２　「愛好会」は、主将または幹事長を１名役員として選出する。

第６条　「部」・「同好会」・「愛好会」の構成員の総数は、活動に必要な人数を越えなければならない。

但し、「部」は、10名を越えることが望ましい。

第７条　「部」・「同好会」・「愛好会」の構成員は、２学年以上に亘らなければならない。

第８条　「部」・「同好会」・「愛好会」は、部長・顧問を１名以上置かなければならず、部長・顧問は、本学の専任の教員または常勤の職員でなければならない。

（愛好会設立の届出）

第９条　「愛好会」を設立しようとするときは、５名以上の発起人による設立趣意書、構成員名簿及び規約を学生委員会の開催される10日前までに学生課へ提出しなければならない。また関係外部団体がある場合はその団体に関する資料も提出しなければならない。学生課が提出された書類等を審査し、学生委員会での審議を経て、学長の承認を得なければならない。

（部・同好会・愛好会の活動継続願）

第10条　「部」・「同好会」・「愛好会」は毎年４月末日までに新年度の活動継続願を学生課まで提出しなければならない。継続願には、次の書類を添付すること。

⑴　前年度の活動報告書

⑵　前年度の収支決算書

⑶　新年度の活動計画書

⑷　新年度の構成員名簿

このうち新年度の構成員名簿は、５月末日までに提出すること。継続願の手続きが行なわれない団体については、すでに解散したものとみなされ、学内における公認団体として、一切の権利を失う。

（主将・幹事長の役割）

第11条 「部」・「同好会」・「愛好会」の主将または幹事長は、その団体の活動について積極的に部長・顧問の指導助言を求め、所定の事項について部長・顧問の承認を得なければならない。

２ 「部」・「同好会」・「愛好会」の主将または幹事長は、次の事項についての規則および学生課の指示に基づき、必要な手続きをそれぞれについて行なわなければならない。

⑴ 役員・構成員の登録

⑵ 集会・催し物の実施及び学内施設使用の届出

⑶ ポスター等の掲示

⑷ 印刷物の発行・配付

⑸ 合宿・遠征

⑹ 活動報告書・諸記録の整備

（構成員の登録）

第12条 「部」・「同好会」・「愛好会」への加入希望者に対しては、規約・構成員名簿などでその団体の内容を熟知させ、入部費、年会費などの金額を明示し、加入希望者の了解を得る。

２ 「部」・「同好会」・「愛好会」は、毎年５月に構成員の登録を行ない、「部」・「同好会」・「愛好会」構成員名簿に部長・顧問の承認を受けたうえで学生課へ提出する。

３ 「部」・「同好会」・「愛好会」の構成員名簿に登録のないものは、構成員として認めない。

４ 「部」の構成員は、複数の「部」にまたがって正式な構成員となることはできない。

５ 「部」・「同好会」・「愛好会」の役員及び構成員に変動がある場合、学生課へその旨届け出を行なう。

６ 外部者を構成員とすることはできない。

（大学施設の使用）

第13条 大学施設の使用については、原則として「部」・「同好会」・「愛好会」は、同等の権利をもつ。

２ 「部」・「同好会」・「愛好会」の活動のために大学施設を使用しようとする場合は、あらかじめ大学の使用許可を受けなければならない。

３ 「部」・「同好会」・「愛好会」などによる日常の大学施設の使用については、それらが教育施設として、全学生のためになるものであることをわきまえて、特定の「部」・「同好会」・「愛好会」などの活動のために独占することのないように心がけねばならない。

また大学は、使用時間、場所などについて制限することがある。

４ 大学施設の使用に際しては、当該施設の主管者の指示を守り、施設及び設備器具等を汚損もしくは紛失のないように十分に注意すること。

備品等を破損した場合は、その使用団体の責任において弁償すること。

また火災予防には特に注意しなければならない。

（合宿・遠征・団体旅行）

第14条 合宿・遠征・団体旅行を行なう場合、「学外活動届」を学生課へ提出する。その際、宿泊先を移動する場合は、そのコースを明記した「計画書」を添付すること。

２ 学外で合宿・遠征・団体旅行を行なう場合には、不時の連絡に備えて連絡先および連絡方法を「学外活動届」に記入すること。

３ 「学外活動届」には、参加者名簿および責任者を明記し、部長・顧問の承認を必要とする。

（活動報告書・諸記録）

第15条 「部」・「同好会」は、次に上げる活動報告書、帳簿類を備えて、責任を以て記入しなければならない。

2　活動報告書は、課外活動の記録作成のため重要書類となるものであるから、以下の事項を責任を以て記入すること。

⑴　月日

⑵　時間

⑶　場所

⑷　記入者

⑸　参加状況

⑹　活動テーマ

⑺　活動状況

⑻　反省

⑼　その他

3　「部」は、指定の方式で予算の収支についての管理を行なわなくてはならない。

4　学生課からの通達、各種届出控、許可書等の書類は、まとめて整理保存し、必要に応じて直ちに取り出せるようにすること。

5　活動報告書および会計簿、その他の保存書類は、責任者交代の場合は必ず後任者へ引き継ぐこと。

6　活動報告書および会計簿は、学生課、学友会監査委員会が適宜閲覧する。

7　「部」・「同好会」は活動報告書を毎年学生課へ提出しなければならない。

（その他）

第16条　各部は、毎会計年度終了後、3月末までに決算書を作成し、学友会執行部監査委員会の監査を受け、学生課へ提出すること。

第17条　本基本規則（内規）の改正は、部会委員会および同好会小委員会で発議された改正案を学生課が学生委員会にはかり、その審議を経て、学長の承認を得るものとする。

第18条　本基本規則（内規）は、学長に承認された日を期して施行される。

平成2年10月3日　施　　行
平成5年1月13日　第1次改正
平成20年12月10日　第2次改正
平成21年11月16日　第3次改正

神田外語大学ミレニアムハウス・ホール及び和室使用規則

（目　的）

第１条　この規則は、神田外語大学ミレニアムハウス規則（以下「規則」という）第４条⑶に基づき、規則の実施について必要な事項を定める。

（使用範囲）

第２条　ホール及び和室の使用範囲は、次の各号の一に該当する場合とする。

⑴　本学の学生、教職員の諸活動

⑵　本学が主催する式典、講演会等の行事

⑶　本学以外の団体が主催する教育･研究に関わる学会、講演会等、「利用調整会議」が使用を認めた場合

⑷　地域住民の諸活動で、「利用調整会議」が使用を認めた場合

⑸　その他、「利用調整会議」が使用を認めた場合

（使用時間）

第３条　ホール及び和室の使用時間は、原則として午前９時30分から午後７時30分とする。

（休館日）

第４条　会館の休館日は、大学の休業日とする。但し、「利用調整会議」が必要と認めた場合はこの限りではない。

⑴　日曜日

⑵　国民の祝日に関する法律に規定する休日

⑶　創立記念日（10月18日）

⑷　夏季休業日

⑸　冬季休業日

⑹　春季休業日

（使用手続等）

第５条　ホール及び和室の使用を希望する者は、所定の使用願を「ミレニアムハウス利用者会議」の前日までに提出する。使用の許可は、「利用調整会議」にて調整のうえ決定される。

２　年間使用計画に基づき催し物を優先する。

３　第２条⑶、⑷及び⑸により使用する場合は、原則として使用料と維持費を収めるものとする。

４　前項の使用料と維持費の額ならびに使用手続きについては、別に定める。

（鍵の保管）

第６条　ホール及び和室の鍵は、学生課が保管する。

２　ホール及び和室の鍵は、無断で複製することを禁止する。

（使用上の遵守事項）

第７条　ホール及び和室の使用者は、次の事項を遵守しなければならない。

⑴　ホール及び和室を使用目的以外に使用しないこと。

⑵　ホール及び和室で飲酒、喫煙をしないこと。

⑶　ホール及び和室へ火気、その他を持ち込まないこと。

⑷　ホール及び和室を使用しない時は、必ず施錠すること。

⑸　掲示物及び貼り紙等は、所定の場所に掲示すること。

⑹　盗難、その他事故が発生した場合、使用責任者は、直ちに学生課へ報告すること。尚、盗難等の事故によって生じた損害について大学は、その責めを負わない。

⑺　ホール及び和室の施設、設備が破損した場合、使用責任者は、直ちに所定の破損届を学生課へ提出すること。使用者の責任によるものは、使用者が修理を行うこと。

⑻　ホール及び和室の使用責任者は、常に整理、美化に努めること。

⑼　ホール及び和室に什器・備品等を持ち込む場合、「利用調整会議」の許可を要する。ホール及び和室にふさわしくないと判断される場合、持ち込みを禁止することがある。

（火元責任者）

第８条　ホール及び和室の火元責任者は、ミレニアムハウス館長とする。火元責任者は、火災報知器その他大学が実施する施設、設備の保守点検に立ち会わなければならない。

（電気器具等の使用）

第９条　ホール及び和室内における電気、その他特殊器具を使用する場合は、所定の使用願を学生課に提出し、「利用調整会議」の許可を得なければならない。

２　電気使用は、指定された電源を使用するものとし、節電に心がけること。

（使用許可の取消等）

第10条　ホール及び和室の使用者が内規に違反した場合は、館長は、「利用調整会議」と協議のうえ、使用許可を取消し、またはホール及び和室の使用を制限することがある。

（備品の破損等）

第11条　ホール及び和室を使用する者が、故意または過失により施設、設備、備品等を破損または滅失した場合は、直ちに所定の破損届を学生課へ提出し、その損害を弁償しなければならない。

附　　則

この規則は、平成12年４月１日から施行する。

附　　則

この規則は、平成23年４月１日から施行する。

課外活動室管理に関する内規

（目　的）

第１条　大学側が学生に対して課外活動の場として貸与した課外活動室の管理及び使用について必要な事項は、この内規の定めるところによる。従来の課外活動室を「旧部室」、ミレニアムハウスに設置される課外活動室を「新部室」と称する。

（使用資格）

第２条　部室として通年にわたって使用できる学生団体は、本学の公認団体として承認された「部」または共有倉庫として使用申請が認められた「同好会」「愛好会」に限る。

（使用手続）

第３条　部室として通年にわたって使用する部は、所定の使用願により学生課へ申請し、許可を得なければならない。

（使用期間及び更新）

第４条　部室の通年の使用期間は、原則として５月１日から翌年の４月30日までの１年間とし、引き続き使用したい場合は、毎年４月末日までに所定の使用更新願を学生課へ提出して、学生委員会の審議を経て、その許可を得なければならない。

（誓約書の提出）

第５条　通年の使用が許可された場合は、所定の誓約書を学生課へ提出しなければならない。尚、更新の場合にもその都度、提出することとする。

（課外活動室の管理）

第６条　部室は、部の自主的責任で管理し、管理責任者には、部の主将または幹事長を任命する。

２　部室の使用指導は、学生課、学生委員会及び、体育・スポーツセンターが行う。

（火気及び危険物について）

第７条　部室における石油コンロ、プロパンガス、その他火気の持ち込みは禁止する。また学生課の判断による危険物は、持ち込みを禁止する。

（鍵の保管）

第８条　部室の鍵は、学生課と体育・スポーツセンターが保管する。

２　部室の鍵は、無断で複製することを禁止する。

（火元責任者）

第９条　「新･旧部室」の火元責任者は、学生課長とする。火元責任者は、火災報知器その他大学が実施する施設、設備の保守点検に立ち会わなければならない。

（課外活動室の使用時間）

第10条　部室の使用は、午前９時から午後７時30分までとし、午後８時までには退室する。但し、大学の休業日、改装、改築その他、大学が特に使用を制限した日は使用できない。

（課外活動室使用上の遵守事項）

第11条　部室の使用者は、次の事項を遵守しなければならない。

⑴　部室を使用目的以外に使用しないこと。

⑵　部室で飲酒、喫煙をしないこと。

⑶　部室へ火気、その他を持ち込まないこと。

⑷　部室を使用しないときは、必ず施錠すること。

⑸　掲示物及び貼り紙等は、所定の場所に掲示すること。

⑹　盗難、その他事故が発生した場合、部室管理責任者は、直ちに学生課へ報告すること。尚、盗難等の事故によって生じた損害について大学は、その責めを負わない。

⑺　部室の施設、設備が破損した場合、部室管理責任者は、直ちに所定の破損届を学生課へ提出すること。各部の責任によるものは、各部が修理を行うこと。

部室管理責任者は、部室に清掃用具を備え付け、常に部室の整理、美化に努めること。

⑻　部室に什器・備品等を持ち込む場合、学生課の許可を要する。部室にふさわしくないと判断される場合、持ち込みを禁止することがある。

（電気器具等の使用）

第12条　部室内における電気、その他特殊器具を使用する場合は、所定の使用願に明記し、学生課の許可を得なければならない。

2　電気使用は、指定された電源を使用するものとし、節電に心がけること。

（立入点検）

第13条　火災及び盗難の防止、その他この内規の遵守状況を点検するため、学生課、学生委員会及び、体育・スポーツセンターの教職員は、何時でも部室に立ち入ることができる。

（使用禁止と制限）

第14条　本内規、または課外活動に関する規定に違反した場合、学生課、学生委員会及び、体育・スポーツセンター、学友会部会委員会と協議のうえ、部室の明け渡しを命じ、または、その使用を制限することがある。部室の使用許可が取り消された場合、当該部は、部室を速やかに明け渡さねばならない。

附　　則

この内規は、平成12年４月１日から施行する。

附　　則

この内規は、平成21年４月１日から施行する。

スタジオの使用及び管理に関する内規

（目　的）

第１条　大学側が学生に対して課外活動の場として貸与したスタジオの使用及び管理について必要な事項は、この内規の定めるところによる。

（使用資格）

第２条　スタジオを使用できる学生団体は、本学の公認団体に限る。

（使用手続）

第３条　スタジオを使用する場合、所定の使用願をミレニアムハウス館長室へ提出し、許可を得なければならない。

（スタジオの管理）

第４条　スタジオの管理、使用指導は、学生課・ミレニアムハウス館長室及び学生委員会が行う。

（火気及び危険物について）

第５条　スタジオにおける石油コンロ、プロパンガス、その他火気の持ち込みは禁止する。また学生課・ミレニアムハウス館長室の判断による危険物は、持ち込みを禁止する。

（鍵の保管）

第６条　スタジオの鍵は、学生課が保管する。

２　スタジオの鍵は、無断で複製することを禁止する。

（火元責任者）

第７条　スタジオの火元責任者は、学生課長とする。火元責任者は、火災報知器その他大学が実施する施設、設備の保守点検に立ち会わなければならない。

（スタジオの使用時間）

第８条　スタジオの使用は、授業期間の平日は午前９時00分から午後７時30分までとし、午後８時までには退室する。土曜日と授業期間外の平日は午前９時00分から午後５時00分までとする。但し、大学の休業日、改装、改築その他、大学が特に使用を制限した日は使用できない。

（スタジオ使用上の遵守事項）

第９条　スタジオの使用者は、次の事項を遵守しなければならない。

⑴　スタジオを使用目的以外に使用しないこと。

⑵　スタジオで飲酒、喫煙をしないこと。

⑶　スタジオへ火気、その他を持ち込まないこと。

⑷　スタジオを使用しないときは、必ず施錠すること。

⑸　盗難、その他事故が発生した場合、使用責任者は、直ちに学生課・ミレニアムハウス館長室へ報告すること。尚、盗難等の事故によって生じた損害について大学は、その責めを負わない。

⑹　使用者は、常にスタジオの整理、美化に努めること。

⑺　スタジオに什器・備品等を持ち込む場合、学生課・ミレニアムハウス館長室の許可を要する。スタジオにふさわしくないと判断される場合、持ち込みを禁止することがある。

（電気・器具等の使用）

第10条　スタジオ内での電気使用は、指定された電源を使用するものとし、節電に心がけること。

２　特殊器具を使用する場合は、学生課・ミレニアムハウス館長室の許可を得なければならない。

（使用禁止と制限）

第11条　スタジオの使用者が本内規に違反した場合、学生課・ミレニアムハウス館長室及び学生委員会は協

議のうえ、使用許可を取消し、またはスタジオの使用を制限することがある。

（備品の破損等）

第12条　スタジオを使用する者が、故意または過失により施設、設備、備品等を破損また滅失した場合は、直ちにミレニアムハウス館長室へ報告、所定の破損届を学生課へ提出し、その損害を弁償しなければならない。

附　　則

この内規は、平成12年４月１日から施行する。

附　　則

この内規は、平成28年４月１日から施行する。

学生団体一覧

《文化系》

【部】

1．茶道部
2．E.S.S部
3．SWING GANG JAZZ研究会

【同好会】

1．ラテンアメリカ研究会
2．耕音曾（中国古典楽器）
3．吹奏楽団
4．ラムタイ同好会（タイ舞踊）
5．Habitat For Humanity KUIS（ボランティア）
6．音響・演奏技術青年会（バンド演奏）
7．Rock Tribe研究会（ロックバンド活動）
8．DAWN KUIS（DAWN Japan・学生支部）
9．劇団輪座（ミュージカル、演劇）
10．Hello Time（小学校英語教育）
11．Amazin Glee（合唱、音楽知識の学習）

【愛好会】

1．創（アニメ研究）
2．ウルトラセブン研究会
3．ムルデカ（ガムラン演奏）
4．アトリエ（絵画）
5．写道（写真撮影・展示）
6．陶芸愛好会
7．MHC（黒人音楽の歴史の研究）
8．旅漫趣（ろまんす）（旅行・街散策による地域の文化自然体験）
9．ドントリータイ（タイ音楽）
10．星空の会（天体観測）
11．Team Kuis 26（千葉ロッテマリーンズ応援活動）
12．Seleqao kandarinho（ブラジル音楽）
13．KIFLish（編入生の交流、支援活動）
14．無楽不作―ウルブス―（中国語学習・文化研究）
15．CLAP! CLAP!!（アカペラサークル）
16．ミステリー研究会（世の中の不思議・都市伝説研究）
17．くいすにほんごくらぶ（日本語学習支援）
18．演劇チームA
19．TED×KUIS（NPO）
20．Resonancia（打楽器研究）
21．Business athletes circle（企業研究）
22．Calyx（留学生支援）
23．ヴエント・ヂ・サンバ（サンバ楽器演奏）
24．Re：JAPAN（東北地方の被災地支援）
25．KUISNAP（フリーペーパー）
26．Hoa Sua（食べ歩き）
27．留学生会
28．KUIS TRAVELER'S NET WORK（旅情報）
29．ちばくりん神田外語支部（ゴミ削減活動）
30．将棋愛好会
31．MAKE SMILE
32．幕張新都心賑わいづくり研究会学生部

《体育系》

【部】

1．サッカー部
2．男子バレーボール部（活動休止中）
3．バレーボール部
4．ラグビー部
5．アメリカンフットボール部
6．男子バスケットボール部
7．女子バスケットボール部
8．弓道部
9．女子ラクロス部
10．軟式野球部
11．チアリーディング部
12．フラメンコ舞踊部

【同好会】

1．バドミントン同好会
2．ダンス同好会Step In
3．Hoa Aloha（フラダンス）
4．YOSAKOI 心－shin－（よさこいソーラン踊り）
5．カルブ・アル・アクラブ（ベリーダンス）
6．テコンドー同好会（活動休止中）

【愛好会】

1．Friends（バレーボール）
2．KUIS.S.S.（シーズンスポーツ）
3．Three Point（バスケットボール）
4．OFF-SIDE（サッカー）
5．ビギナー（ソフトテニス）
6．剣道愛好会
7．Balompie（フットサル）
8．ANYONE（サッカー）
9．KUIS Union（フットサル）
10．陸上競技愛好会
11．GRAMPUS（バスケットボール）
12．送球@HANDs（ハンドボール）
13．CALL UP SOUL（コピーダンス）
14．チキータ（卓球）
15．自転車競技愛好会
16．鬼ラン（スポーツ鬼ごっこ）
17．バモス（フリースタイルサッカー）
18．合気道愛好会

白紙

平成28年度　学生便覧

平成28年４月１日発行

編集・発行　神田外語大学　教務課

〒261-0014　千葉市美浜区若葉1-4-1
電話番号　043-273-1320

KANDA UNIVERSITY OF INTERNATIONAL STUDIES

神田外語大学

千葉県千葉市美浜区若葉1-4-1

学籍番号

氏　　名